Fujitsu Printer

B5WY-1721-04

FMPR シリーズ

ハードウェアガイド

ドットインパクトプリンタFMPR5630/FMPR5430/FMPR5130

FUJITSU

製品を安全に使用していただくために

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、このマニュアル冒頭の「安全上のご注意」（→ P.11）をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

本製品およびオプション品のハイセイフティ用途での使用について

本製品およびオプション品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。
お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。
ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

必ずアース接続を行ってください。アース接続しないで使用すると、動作不良の原因となったり、万一漏電した場合に火災や感電の原因となったりします。

水、湿気、湯気、ほこり、油煙などの多い場所に設置しないでください。火災、故障、感電などの原因になることがあります。
表示された正しい電源・電圧でお使いください。

本製品は、突入電流がありますので、UPS に接続しないでください。

矩形波が出力される機器に接続すると、故障する場合があります。

この装置は、クラス B 機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的にしていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
VCCI-B

本製品は、日本工業規格（JIS C 6950）の漏えい電流基準に適合しております。

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

地球環境への配慮から本製品には一部リサイクル部品を使用しています。

第 1 章 お使いになる前に 1

プリンタの主な特長や梱包物の確認、使用上の注意事項、各部の名称と働きについて説明します。

第 2 章 プリンタを設置、接続する 2

設置のしかた、リボンカセットの取り付け、電源の入れ方、切り方について説明します。

第 3 章 オプションを取り付ける 3

プリンタのオプションについて説明します。

第 4 章 日常の操作 4

本製品を使って印刷するときに必要となる、日常的な操作について説明します。

第 5 章 オペレータパネルの操作 5

オペレータパネルの機能やその使い方について説明します。

第 6 章 こんなときには 6

用紙づまりのとき、故障が発生したと思われるとき、各種メッセージが表示されたときの対処方法について説明します。

第 7 章 付録 7

本製品を使用するときに補助的に必要となることがらについて説明します。

目次

このマニュアルの表記について 6
このマニュアル以外の情報は添付 CD-ROM 内のマニュアルをご覧ください . 9
製品に関する注意事項 10
安全上のご注意 11

第 1 章　お使いになる前に

1 主な特長 18
2 梱包物を確認する 20
3 使用上のご注意 22
設置場所について 22
電源について 23
使用方法について 23
4 各部の名称と働き 24
正面（FMPR5630/FMPR5430 の場合） 24
正面（FMPR5130 の場合） 26
背面 28

第 2 章　プリンタを設置、接続する

1 プリンタを設置する 30
設置手順 30
単票テーブルを使う 31
輸送用固定材の取り外し 33
リアスタッカの取り付け 34
トラクタユニットの取り付け、取り外し 35
電源コードの接続 40
リボンカセットを取り付ける 41
パソコンとの接続 46
2 電源の入れ方と切り方 48
電源を入れる 48
電源を切る 49

第 3 章　オプションを取り付ける

1 オプション品のご紹介 52
カットシートフィーダ 52
トラクタユニット（FMPR5130 の場合） 52
プリンタ LAN カード 53
プリンタケーブル 53
2 カットシートフィーダの取り付け、取り外し 54
プリンタ前部に取り付ける 54
プリンタ後部に取り付ける 58
取り外す 61
3 プリンタ LAN カードの取り付け 62
ご使用方法 62
取り付ける 62
取り外す 63

第 4 章　日常の操作

1 プリンタドライバの設定 66
2 用紙をセットする 71
連続帳票用紙をセットする（前トラクタ給紙の場合） 71
連続帳票用紙をセットする（後トラクタ給紙の場合） 77
連帳用紙をセットする（連帳セットフリーオン時） 82
単票用紙をセットする（単票セットフリーオン時） 83
単票用紙をセットする（単票セットフリーオフ時） 87
単票用紙をセットする（カットシートフィーダを取り付けた場合） 90
単票用紙をセットする（CSF セットフリーオン時） 93
3 用紙厚を設定する（**FMPR5630/FMPR5430** の場合） 96
紙厚調整の動作タイミングについて 99
4 用紙厚を設定する（**FMPR5130** の場合） 100
紙厚調整の動作タイミングについて 102
5 用紙について 103
連続帳票用紙 103
手差しで使用する単票用紙 115
カットシートフィーダ（オプション）で使用する単票用紙 121
6 用紙使用上のご注意 125
連続帳票普通紙 125
連続帳票特殊紙 126
単票普通紙 128
単票特殊紙 129
7 とじ穴の開け方 131
8 プレプリント用紙を使用するとき 132
9 用紙の形状について 135
10 用紙の取り扱い上のご注意 136
11 リボンカセットを交換する 138
リボンカセットの種類 138
交換のしかた（FMPR5630/FMPR5430 の場合） 139
交換のしかた（FMPR5130 の場合） 141
サブカセットの交換のしかた 143

第 5 章　オペレータパネルの操作

1 オペレータパネルの機能（**FMPR5630/FMPR5430** の場合） 148
液晶ディスプレイ 148
ランプ 149
スイッチ 149
2 オペレータパネルの機能（**FMPR5130** の場合） 150
ランプ 150
スイッチ 151
3 オペレータパネルを操作する 152
オンライン状態とオフライン状態を切り替える 152
4 オンライン状態で行う操作 153
用紙をカットする 153
単票用紙の排出方向を切り替える（手前排出） 153
印字モードを切り替える 154
高複写モードに切り替える 154
漢字の書体を切り替える（FMPR5630/FMPR5430 の場合） 154

5 オフライン状態で行う操作 155
用紙の吸入や排出を行う 155
改行する 155
改ページを行う 156
給紙口を切り替える 156
紙厚調整モードを切り替える 157
6 単票手差しの使用方法を切り替える 158
7 プリンタをリセットする 159
8 操作方法 160
機能設定を変える（FMPR5630/FMPR5430 の場合）. 160
機能設定を変える（FMPR5130 の場合） 163
機能設定の種類 168
9 用紙の吸入量を調整する（**FMPR5630/FMPR5430** の場合）. 187
10 用紙の吸入量を調整する（**FMPR5130** の場合） 190
11 連続帳票用紙をカット位置に送る 192
カット位置に送る 192
カット位置の補正方法 193
12 自動検出機能 194
13 用紙外印字防止機能について 195

第 **6** 章　こんなときには

1 用紙づまりと印字中に電源断をしたとき 198
連続帳票用紙がつまったとき 198
単票用紙がつまったとき 202
リアスタッカ部に用紙がつまったとき
または用紙が排出しきれずにローラ部に残ったとき 204
カットシートフィーダから吸入した用紙がつまったとき 205
2 リボン寿命が表示されたら 209
3 プリンタがうまく動かないとき 211
電源を入れたときの不具合 211
単票用紙吸入時の不具合 212
単票用紙排出時の不具合 212
連続帳票用紙吸入時の不具合 213
印字中の問題点 213
印字結果の問題点 214
印字位置の問題点 216
印字位置がページによってずれる 217
カットシートフィーダ使用時の不具合 218
4 テスト印字をする 220
5 **HEX** ダンプ印字をする 223
6 プリンタを清掃する 225
7 プリンタを輸送するとき 226
8 メッセージ一覧 227
Windows およびプリンタのオペレータパネルに表示されるメッセージ一覧 . . 227

第 7 章　付録

1 仕様 246
本体仕様 246
外形寸法 249
2 テスト印字サンプル 251
FM モード 251
ESC/P モード 252
3 インターフェース仕様 253
パラレルインターフェース 253
USB インターフェース仕様 256
4 ESC/P モードの制限事項 257
サポートコマンド 257
プリンタの動作モードの切り替え 257
5 初期状態 258
FM モード 258
ESC/P モード 259
6 有寿命部品／消耗品／定期交換部品／ **24** 時間運用について 260
有寿命部品について 260
消耗品について 260
定期交換部品について 261
24 時間運用について 261
7 推奨用紙 262
8 消耗品の廃却について 263
9 アフターサービスについて 264
本製品の廃棄について 265
本マニュアルで紹介している URL について 265
10 安全データシート 266
リボンカセット SDM-14 266
サブカセット SDM-14 271
リボンカセット SDM-15 276
サブカセット SDM-15 281

このマニュアルの表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使用しています。これは本製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

記号	内容
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の表示と同時に次のような記号を使っています。

記号	内容
	△で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

画面例、 イラストについて

- このマニュアルに掲載されている画面例の IP アドレスやホスト名などは一例であり、実際の入力内容を表すものではありません。
- 画面例でプリンタ名を「FMPRXXXX」と表示している箇所があります。このときは、お使いのプリンタ名で読み替えてください。
- 機種、ソフトウェアのバージョン、OS によっては、画面例とは表示内容が一部異なることがあります。
- このマニュアルに掲載されているプリンタのイラストは、説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	内容
重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照先を記述しています。

記号	内容
	印刷されたマニュアル（紙のマニュアル）を表しています。
	CD-ROM を表しています。

製品などの呼び方について

このマニュアルでは製品名称などを、次のように略して表記しています。

製品名称	本文中の表記		
Windows 11 Home	Windows 11		Windows
Windows 11 Pro			
Windows 11 Pro for Workstations			
Windows 11 Enterprise			
Windows 11 Education			
Microsoft® Windows Server® 2022 Datacenter	Windows Server 2022		
Microsoft® Windows Server® 2022 Standard			
Microsoft® Windows Server® 2022 Essentials			
Microsoft® Windows Server® 2019 Datacenter	Windows Server 2019		
Microsoft® Windows Server® 2019 Standard			
Microsoft® Windows Server® 2019 Essentials			
Microsoft® Windows Server® 2016 Datacenter	Windows Server 2016		
Microsoft® Windows Server® 2016 Standard			
Microsoft® Windows Server® 2016 Essentials			
Windows 10 Home	Windows 10		
Windows 10 Pro			
Windows 10 Pro for Workstations			
Windows 10 Enterprise			
Windows 10 Education			
Windows 10 Enterprise LTSC 2021			
Windows 10 Enterprise LTSC 2019			
Windows 10 Enterprise LTSB 2016			
Windows 10 Enterprise LTSB 2015			
Windows 8.1	Windows 8.1		
Windows 8.1 Pro			
Windows 8.1 Enterprise			
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Datacenter	Windows Server 2012 R2	Windows Server 2012	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard			
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Essentials			
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Foundation			
Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter	Windows Server 2012 （R2 以外）		
Microsoft® Windows Server® 2012 Standard			
Microsoft® Windows Server® 2012 Essentials			
Microsoft® Windows Server® 2012 Foundation			

連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

コントロールパネルでプリンタアイコンを表示する方法

OS によって操作手順が異なります。次の手順でプリンタアイコンを表示させてください。

・Windows 11 の場合

1 **「スタート」ボタン→「すべてのアプリ」→「Windows ツール」の順にクリックし、「コントロールパネル」をダブルクリックします。**

2 **「デバイスとプリンターの表示」をクリックします。**

「デバイスとプリンター」ウィンドウが表示されます。

・Windows Server 2022/Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows 10 の場合

1 **「スタート」ボタン→「Windows システム ツール」→「コントロールパネル」の順にクリックします。**

2 **「デバイスとプリンターの表示」をクリックします。**

「デバイスとプリンター」ウィンドウが表示されます。

・Windows 8.1/Windows Server 2012 R2 の場合

1 **画面左下隅の  を右クリックし、「コントロールパネル」をクリックします。**

2 **「デバイスとプリンターの表示」をクリックします。**

「デバイスとプリンター」ウィンドウが表示されます。

・Windows Server 2012（R2 以外）の場合

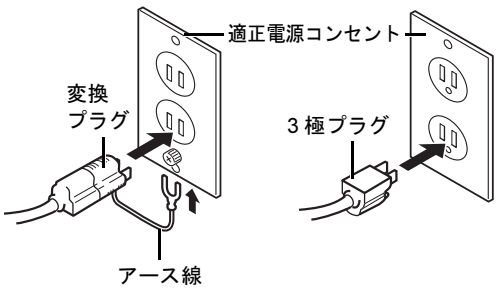
1 **スタート画面の何もないところを右クリックし、画面右下の「すべてのアプリ」をクリックします。**

2 **「Windows システム ツール」の「コントロールパネル」をクリックします。**

3 **「デバイスとプリンターの表示」をクリックします。**

「デバイスとプリンター」ウィンドウが表示されます。

電源プラグとコンセント形状の表記について



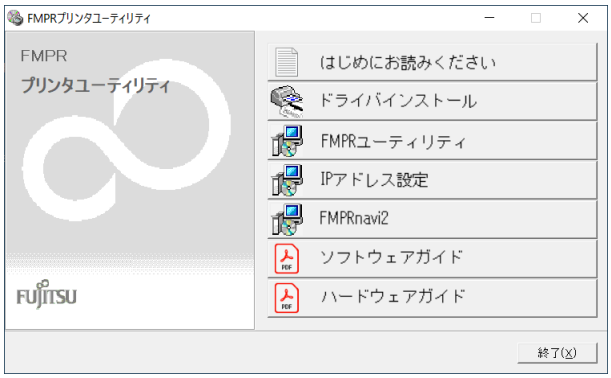
本製品に添付されている電源コードの電源プラグは「3 極プラグ」です。このマニュアルでは「電源プラグ」と表記しています。
平行 2 極接地極付プラグへの変換プラグも添付されていますので、コンセント形状に合わせて使用してください。
なお、標準添付の変換プラグ以外は使用しないでください。また、電源コードや変換プラグは、他の製品に使用しないでください。
必ずアース接続を行ってください。アース接続しないで使用すると、動作不良の原因となったり、万一漏電した場合に、火災や感電の原因となったりします。

URL ／お問い合わせ先について

本文中に記載されている URL、お問い合わせ先は 2024 年 12 月現在のものです。変更されている場合は、「お問い合わせ窓口」（→ P.264）をご覧になり、お問い合わせください。

このマニュアル以外の情報は添付 CD-ROM 内のマニュアルをご覧ください

プリンタドライバのインストール方法など、このマニュアル以外の情報については、添付の「FMPR プリンタユーティリティ」内にあるその他のマニュアルをご覧ください。
添付の「FMPR プリンタユーティリティ」をパソコンにセットすると表示される「FMPR プリンタユーティリティ」画面で、ご覧になりたいマニュアル名をクリックすると、マニュアルが表示されます。



製品に関する注意事項

ここでは、お客様に特に見ていただきたいことや、注意していただきたい項目について概要を説明します。詳しくは、本文をよくお読みになったうえで本製品を正しくお使いください。

製品寿命 （耐用期間） について

本製品の耐用期間（寿命）は、次のいずれか早いほうです。

- FMPR5630/FMPR5430 の場合
  - 750 万改行
  - 5 年（8 時間／日）
- FMPR5130 の場合
  - 500 万改行
  - 5 年（8 時間／日）

サプライ品 （消耗品） について

インクリボン、リボンカセットや用紙などは、本製品専用の純正サプライ品のご使用をお奨めします。
富士通プリンタは、純正のインクリボン、リボンカセットのご使用時に最適な印字品質が得られるよう設計されています。
非純正のものをご使用になりますと、プリンタ本体の故障の原因になったり、印刷品質が低下するなど、本来の性能が発揮できない場合があります。
なお、すべての非純正品で、必ず不具合が発生するわけではありません。
非純正の消耗品のご使用に起因する装置故障への対応につきましては、保守契約または保証期間内であっても有償となりますので、ご留意ください。

定期交換部品について

定期交換部品の交換時期の目安は次になります。

- FMPR5630/FMPR5430 の場合

定期交換部品	交換時期の目安
印字ヘッド	6 億打
CSF ローラキット	10 万枚

- FMPR5130 の場合

定期交換部品	交換時期の目安
印字ヘッド	4 億打
CSF ローラキット	10 万枚

プリンタドライバのバージョンを確認する方法

本製品に関するお問い合わせをするときに、お問い合わせの内容によってプリンタドライバのバージョンをお聞きする場合があります。
プリンタドライバのバージョンをご確認のうえ、お問い合わせください。
プリンタドライバのバージョンの確認方法については、『ソフトウェアガイド』の「プリンタドライバのバージョンを確認する」をご覧ください。

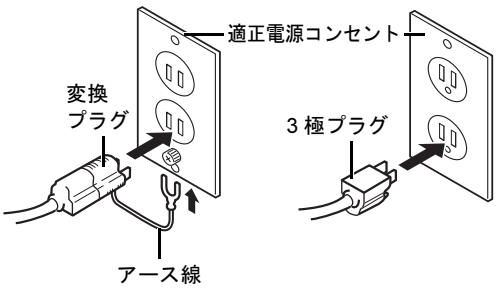
安全上のご注意

プリンタ設置および移動時のご注意

⚠警告

・プリンタの上にまたは近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水の入った容器、金属物を置かないでください。
感電・火災の原因となります。
・湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。
感電・火災の原因となります。
・電源プラグは、交流 100V、10A 未満の専用コンセントには差し込まないでください。また、タコ足配線をしないでください。
感電・火災の原因となります。
・本プリンタには、添付されている電源コード以外は使用しないでください。
また、添付の電源コードは、他の製品に使用しないでください。
火災や感電の原因となります。

・電源を接続する前に必ず次のいずれかにアース接続してください。
- 電源コンセントのアース線
- 銅片などを 650mm 以上地中に埋めたもの
- D 種（旧：第 3 種）接地工事を行っている接地端子
・アース接続は必ず、電源プラグを電源に差し込む前に行ってください。またアース接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から抜いてから行ってください。
アース接続しないで使用すると、万一漏電した場合に火災や感電の原因になります。またプリンタの誤作動の原因になります。



・風呂場、シャワー室など、水のかかる場所で使用しないでください。
火災や感電の原因となります。

・周辺機器の取り付けや取り外しを行う場合は、プリンタ本体およびパソコン本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
感電の原因となります。
・オプション機器を接続する場合には、当社推奨品以外の機器は接続しないでください。
感電・火災または故障の原因となります。

⚠注意

・プリンタの開口部（排気口など）をふさがないでください。
排気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
・プリンタの上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。
バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。
・振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
・直射日光の当たる場所や炎天下の車内など、高温になる場所に長時間放置しないでください。
高温によってカバーなどが加熱・変形・溶解する原因となったり、プリンタ内部が高温になり、火災の原因となったりすることがあります。
・設置は、「設置場所について」（→ P.22）をご覧いただき、用紙の吸入排出スペースを充分に確保してください。
・本製品を設置する場所付近に、次亜塩素酸ナトリウムや二酸化塩素成分を含む空間除菌薬の設置はお控えください。また、本製品や設置するエリアを消毒する場合には、次亜塩素酸ナトリウムや二酸化塩素成分を含む消毒薬は使用しないでください。
塩素が製品の内部に混入し、接続端子部の腐食による感電、火災、故障の原因になります。

・プリンタを移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。接続ケーブルなども外してください。作業は足元に充分注意して行ってください。
電源コードが傷つき、感電・火災の原因となったり、本プリンタが落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
・プリンタケーブルの抜き差しは、必ずパソコンとプリンタの電源を切ってから行ってください。
電源を切らずに行うと、パソコンやプリンタが故障する原因となることがあります。

プリンタ使用時のご注意

⚠警告

・異常音がするなどの故障状態で使用しないでください。故障の修理はご購入元または「富士通ハードウェア修理相談センター」（→ P.264）にご依頼ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
・表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。
火災・感電の原因となります。
・プリンタに水をかけたり、濡らしたりしないでください。
感電・火災の原因となります。
・電源コードを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源コードを傷め、感電・火災の原因となります。
・電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
・カバーを外した状態でコンセントを差したり、電源を入れたりしないでください
感電・火災の原因となります。

・開口部（排気口など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
感電・火災の原因となります。
・清掃するときに、塩化ベンザルコニウムを含む消毒薬を使用しないでください。また、製品を取り扱う前の手指消毒は、エタノール系の消毒薬を用いるものとし、塩化ベンザルコニウム成分を含む消毒薬は使用しないでください。手指消毒の後は、手指を充分に乾かしてください。消毒薬が手指に付着した状態では製品に触らないでください。
塩素が製品の内部に混入し、接続端子部の腐食による感電、火災、故障の原因になります。



・プリンタ本体のカバーや差し込み口に付いているカバーは、必要な場合を除いて取り外さないでください。内部の点検、修理はご購入元または「富士通ハードウェア修理相談センター」（→ P.264）にご依頼ください。
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。
・プリンタをお客様自身で改造しないでください。
感電・火災の原因となります。



・濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。



・万一、プリンタから発熱や煙、異臭や音がするなどの異常が発生した場合は、ただちにプリンタ本体の電源スイッチを切り、その後、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が消えるのを確認してご購入元または「富士通ハードウェア修理相談センター」（→ P.264）にご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。
異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。
・異物（水・金属片・液体など）がプリンタの内部に入った場合は、ただちにプリンタ本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、ご購入元または「富士通ハードウェア修理相談センター」（→ P.264）にご連絡ください。
そのまま使用すると感電・火災の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
・プリンタを落としたり、カバーなどを破損したりした場合は、プリンタ本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、ご購入元または「富士通ハードウェア修理相談センター」（→ P.264）にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。



・電源プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、電源プラグを抜いて、乾いた布でよく拭いてください。
そのまま使用すると、火災の原因となります。
・移動中に落下させたり、ぶつけたりするなどの衝撃を与えないでください。
そのまま使用すると、故障の原因となります。

⚠注意



・電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込んでください。
火災・故障の原因となることがあります。
・プリンタが動作しているとき、給紙口や排紙口に髪やネクタイなどが巻き込まれないように注意してください。
けがの原因となることがあります。



・電源プラグをコンセントから抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
電源コードを引っ張ると、コードの芯線が露出したり断線したりして、火災・感電の原因となることがあります。
・使用中のプリンタは布などでおおったり、包んだりしないでください。
熱がこもり、火災の原因となることがあります。
・電源コードを束ねて使用しないでください。
発熱して、火災の原因となることがあります。



・長期間プリンタを使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となることがあります。
・近くで雷鳴が聞こえたら、電源を切り電源プラグをコンセントから抜いて、雷がおさまるのを待ってください。
・入れたままにしておくと、プリンタを破壊し、お客様の財産に損害を及ぼす原因となることがあります。



・使用中や使用直後は、印字ヘッドが高温になります。温度が下がるまで触らないでください。
やけど・けがの原因となることがあります。



・プリンタが動作しているとき、給紙口や排紙口に手を触れないでください。
けがの原因となることがあります。
・プリンタケーブルコネクタや印字ヘッドの金属部には触らないでください。
けがやプリンタの破壊の原因となることがあります。
・印字ヘッドが動いているときは、印字ヘッドに触れないでください。
やけど・けがの原因となることがあります。

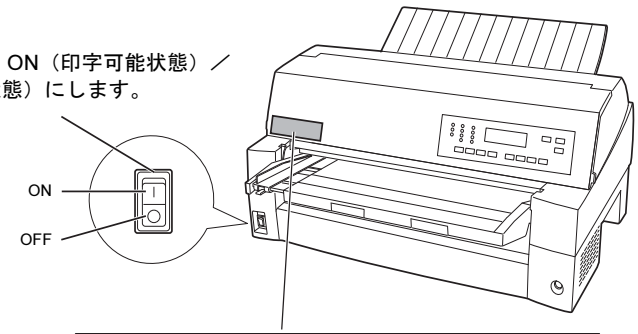


・連続帳票用紙は、連続して逆送りをさせると用紙がトラクタユニットから外れることがありますので注意してください。
・用紙厚に対して用紙厚調整レバーのセットを適正状態で取り扱ってください。
・リボンカセットは、指定の純正品の使用をお勧めします。
・リボンカセットはインク補給機構を内蔵し、濃い印字を長く持続します。
インクを使い切ると印字が薄くなり、そのまま使い続けるとリボンの布地がケバ立ち、繊維クズが発生したり、印字ヘッドピンを折損したりすることがあります。このような現象が見られたら早目にリボンカセットを交換してください。
なお、プリンタの内部やローラ部に繊維クズがたまっている場合は、定期的に清掃してください。
・リボン巻取りノブは、反時計方向に回さないでください。リボンがロックして回転できなくなります。
・リボンがたるんだまま印字を開始すると、リボンがからまったり、リボンの巻取りがロックしたりすることがあります。
・使用済みのリボンカセットは、不燃物として地方自治体の条例または規則に従って処理してください。
・印字した直後は、印字ヘッドが高温になります。リボン交換時は温度が下がったことを確かめてから、印字ヘッドをリボン交換位置に移動してください。

警告ラベル／注意ラベル

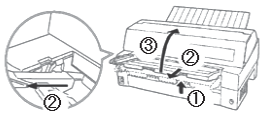
本製品には、警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。指示内容をご覧になり、安全にご利用ください。なお、警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

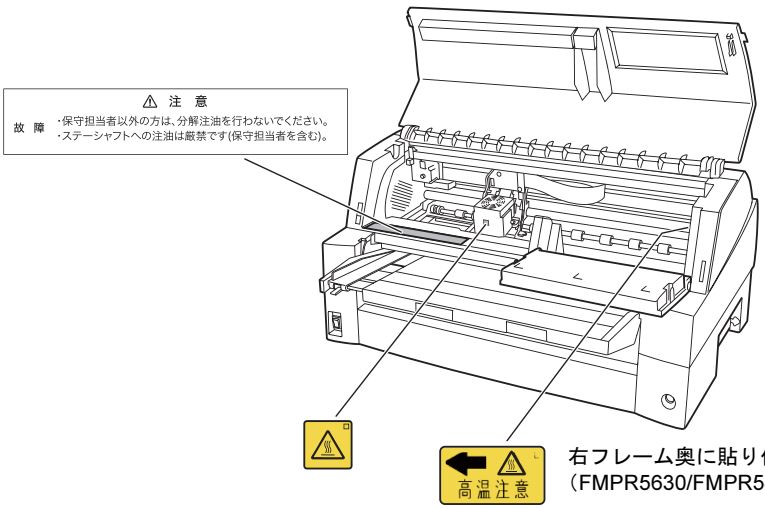
・電源スイッチ
プリンターの電源を ON（印字可能状態）／OFF（印字不可能状態）にします。



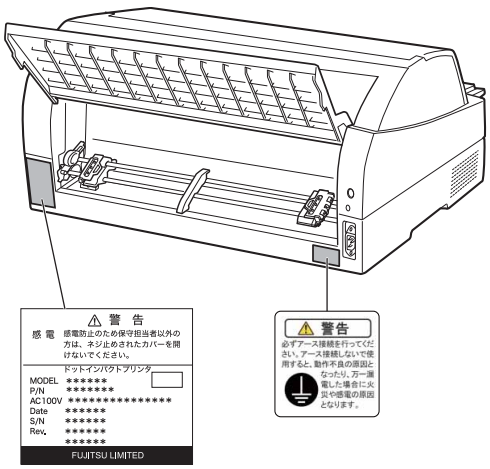
⚠ 注 意

破損
・単票テーブルに無理な力を加えると破損します。
・先端を少し持ち上げ(①)、手前に突き当たるまで引いた後(②)、回転させて開いてください(③)。





右フレーム奥に貼り付け
（FMPR5630/FMPR5430 のみ）



商標および著作権について

ウイングアーク 1st、SVF、Report Director Enterprise は、ウイングアーク 1st 株式会社の日本およびその他の国における登録商標または商標です。ESC/P は、セイコーエプソン株式会社の登録商標です。
「ゆうパック」は日本郵政の登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。
その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright Fujitsu Limited 2019-2025

1

第 1 章　お使いになる前に

この章では、 プリンタの主な特長や梱包物の確認、 使用上の注意事項、 各部の名称と働きについて説明します。

1　主な特長 18
2　梱包物を確認する 20
3　使用上のご注意 22
4　各部の名称と働き 24

1 主な特長

本製品の特長は次のとおりです。

■優れた印字品質

・ピン径 0.21mm（FMPR5630/FMPR5430 のみ）の 24 ピン印字ヘッドは、日本語の表現に適した見やすく優れた印字品質を実現します。

■印字処理時間の短縮

・同一行内に漢字､ANK が混在したときは､自動的に速度を切り替えて高速度で印字します。
・自動的に正逆方向の最短距離を判別して印字します。
・印字中に新しいデータを受信するダブルバッファ方式を採用し、印字処理時間の短縮をはかっています。
・高速度（ドット間引き）で漢字と ANK の印字密度を統一できます。
- FMPR5630：漢字 180 字／秒：標準、（漢字 360 字／秒：高速）
- FMPR5430：漢字 140 字／秒：標準、（漢字 280 字／秒：高速）
- FMPR5130：漢字 80 字／秒：標準、（漢字 160 字／秒：高速）

重要

・本プリンタは、印字ヘッドピンを保護するために用紙外印字防止機能を搭載しております。「用紙外印字防止機能について」（→ P.195）をよくお読みになり正しくご使用ください。

■専用の Windows プリンタドライバの添付

・Windows 対応の専用プリンタドライバを添付しています。
・専用プリンタドライバを使用することで、用紙サイズ選択のほかに用紙給紙口の切り替え、印字速度の切り替え、紙厚設定がプリンタドライバで設定可能です。

重要

・最新情報は富士通製品情報ページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/peripheral/printer/）でご確認ください。

■ユーティリティソフトの添付

・Windows 対応の専用ユーティリティソフトを添付しています。
・専用ユーティリティソフトによりプリンタの状態監視、セットアップの設定が可能です。「FMPRnavi2」は、パラレル、USB、または LAN（オプション）インターフェースで動作します。

■優れた操作性

・水平用紙パスの採用により、連続帳票用紙、単票用紙共にプリンタの前後から用紙吸入が可能であり、多様な設置環境に対応できます。また、単票用紙の排出方向が前後に設定でき、後部には用紙スタックが可能です。APTC 機構（自動紙厚調整機構）、HCPP 機構（連単自動切替機構）、用紙自動吸入後の印字開始位置を補正する単票セットフリー機能を標準装備することで、用紙のセット性を容易にしています。
・連続帳票用紙の印字後、単票用紙へ印字する場合、連続帳票用紙をスイッチ操作で後退できるので、連続帳票用紙をトラクタフィーダにセットしたまま単票用紙に印字できます。

■複写紙対応のカットシートフィーダ （オプション）

・オプションのカットシートフィーダはプリンタの前後に搭載可能で、最大 5P までの複写紙が使用できます。

■着脱式トラクタ

・FMPR5630/FMPR5430 は前後にトラクタユニットを標準で搭載しています。
・FMPR5130 は前側に標準で搭載しており、取り外して後側に装着できます。オプションのトラクタユニットを購入していただければ前後に取り付けることができます。

■デュアルトラクタの標準搭載 （FMPR5630/FMPR5430 の場合）

・プリンタの前後にトラクタを搭載しており、同時に 2 種類の連続用紙をセットできます。FMPR5130 は前側のみ搭載しています。

■プリンタ LAN カード （オプション）

・オプションのプリンタ LAN カードを搭載することにより、100BASE-TX/10BASE-T のネットワーク環境でのプリンタ共有が可能になります。LAN カード搭載時はパラレルインターフェースおよび USB インターフェースとの同時接続はできません。
・パソコンに監視ソフトの FMPRnavi2 をインストールすることによりエラー時のリカバリが可能になります。

■高い複写能力

・用紙厚さに合わせて自動的に印字ヘッドをコントロールすることで、標準モードでオリジナル＋ 7P（FMPR5630/FMPR5430 の場合）またはオリジナル＋ 4P（FMPR5130 の場合）の複写枚数を実現しています。
・FMPR5630/FMPR5430 の場合には、高複写モード 1 を選択することで、さらにオリジナル＋ 8P の複写能力を実現しています。また高複写モード 2 を選択すると、2 度打ちにより、より高い複写能力を実現します。
・FMPR5130 の場合には、高複写モードを選択することで、さらにオリジナル＋ 7P の複写能力を実現しています。
・縦罫線、横罫線のコントロール適切化により、縦罫線、横罫線の濃度差の少ない、鮮明な複写能力を実現しています。

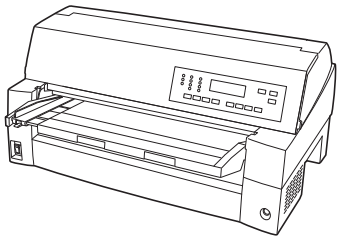
■SVF 帳票基盤ソリューションと連携

・ウイングアーク 1st 株式会社製「Report Director Enterprise」、「SVF for Java Print」使用時は、プリンタのエミュレーション設定を「EP」にすることで、本製品への印刷が可能です。

2 梱包物を確認する

お使いになる前に、次の製品が揃っていることを確認してください。
なお、プリンタが入っていた箱は、プリンタの保管・輸送のときに必要になりますので保管しておくことをお勧めします。

■FMPR5630/FMPR5430 の場合



□プリンタ本体



□電源コード



□変換プラグ



□リアスタッカ



□リボンカセット（黒、1 個）

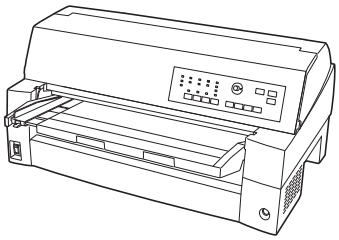
□ FMPR プリンタユーティリティ（CD-ROM）

□保証書

□ハードウェア修理相談センターラベル
（保証書の袋の中に収納）

□ハードウェアガイド（本書）
汚れ、破損などで読みにくくなったときは、添付の「FMPR プリンタユーティリティ」CD-ROM に収められているファイルを印刷してご使用ください。

■FMPR5130 の場合



□プリンタ本体



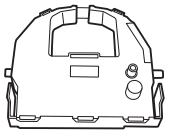
□電源コード



□変換プラグ



□リアスタッカ



□リボンカセット（黒、1 個）

□ FMPR プリンタユーティリティ（CD-ROM）

□保証書

□クイックガイド、クイックガイド専用袋

□ハードウェアガイド（本書）
汚れ、破損などで読みにくくなったときは、添付の「FMPR プリンタユーティリティ」CD-ROM に収められているファイルを印刷してご使用ください。

□ハードウェア修理相談センターラベル
（保証書の袋の中に収納）

重要

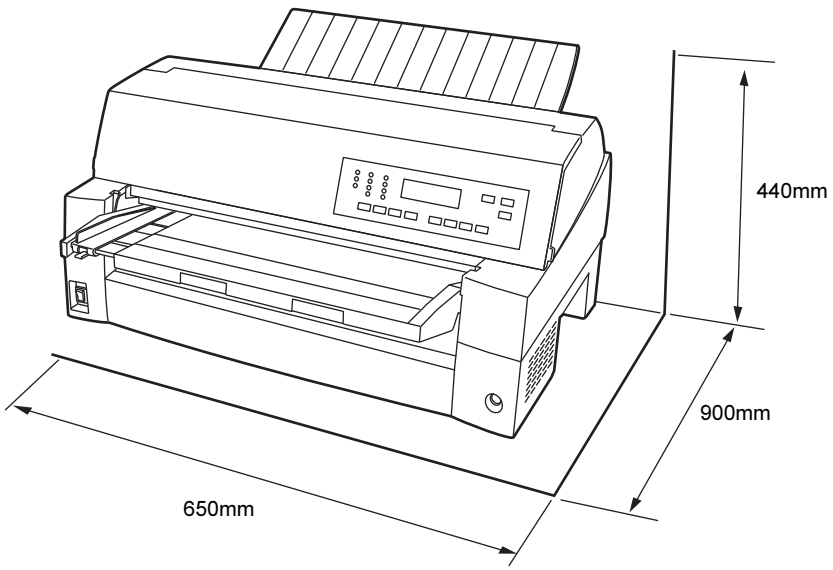
- 電源コードや変換プラグは、他の製品に使用しないでください。
- 本プリンタにプリンタケーブルは含まれていません。プリンタケーブルは「オプション品のご紹介」（→ P.52）をご覧ください。
- 保証書に必要な事項が書かれていることを確認してください。
  ご購入時に、正しい記載がない保証書は無効となり、無償保証を受けられないことがあります。
- 保証書は大切に保管してください。

3 使用上のご注意

このプリンタを使用するときには、次の点に充分留意されるようお願いします。不明な点については、ご購入元または「富士通ハードウェア修理相談センター」（→P.264）にご相談ください。

設置場所について

- 長時間直射日光の当たる場所や、エアコンの前など極端に温度や湿度が変わる場所には設置しないでください。
  温度と湿度が、次の範囲内の場所に設置してください。
  - 周囲温度：5 ℃～ 35 ℃
  - 周囲湿度：20%～ 80%（結露しないこと）
- ほこり、腐食性ガス、潮風にさらされる場所は避けてください。
- 磁石はもちろん、テレビやスピーカーなど磁気の強いものの近くに設置しないでください。
- 次亜塩素酸ナトリウム、二酸化塩素などの塩素を含む薬剤を使用した空間除菌の間近ではお使いになれません。
  消毒する場所の付近や、風下（ファンなどを使用している場合）での製品のお取り扱いは、充分ご注意ください。
- プリンタを設置するときに必要なスペースは下図のとおりです。



充分なスペースがないと正しい設置や操作ができません。図を参考にしてゆとりのある設置場所を確保してください。

⚠注意

・直射日光によって用紙を検知するセンサーに異常が発生し、誤作動する原因になります。
・水平で安定した平面に設置してください。
・段差がある机や、プリンタが斜めになるような場所には設置しないでください。
・排気口をふさがないでください。
・振動のある場所には設置しないでください。
・落としたり、ぶつけたりして衝撃を与えないでください。

・プリンタを設置するときは、「設置場所について」（→ P.22）をご覧いただき、充分なスペースを確保してください。
プリンタの外形寸法については、「外形寸法」（→ P.249）をご覧ください。

電源について

次の電圧、周波数の範囲の電源を使用してください。
・電源電圧：AC100V±10%
・電源周波数：50/60 +2%、-4%（安定した正弦波であること）

重要

・短形波が出力される機器（交流無停電電源装置、UPS など）には接続しないでください。
故障するおそれがあります。

⚠警告

・万一、発煙、異臭、異常音などがある場合には、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電や火災のおそれがあります。

使用方法について

⚠注意

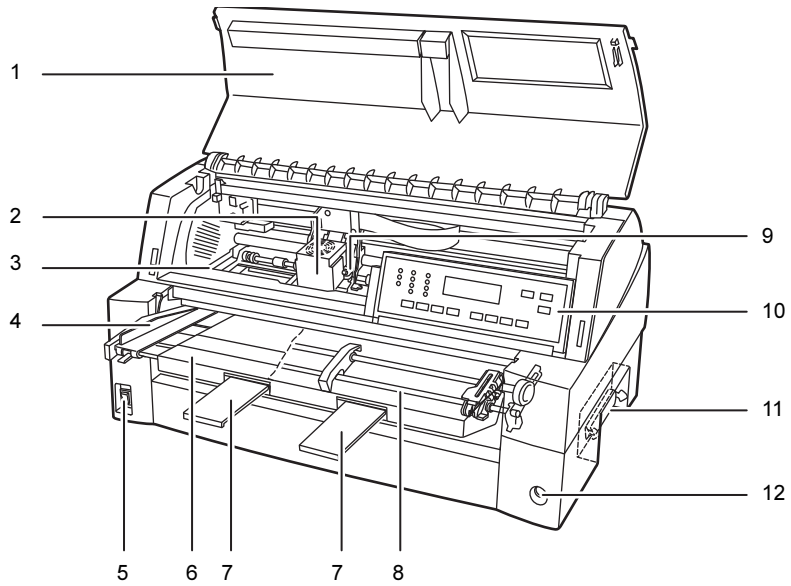
・プリンタの上に物を置かないでください。
・長時間プリンタを使用しないときは、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
・近くで雷鳴が聞こえたら、電源を切り電源プラグをコンセントから抜いて、雷がおさまるのを待ってください。
入れたままにしておきますと、機器を破壊し、お客様の財産に損害を及ぼす可能性があります。
・用紙およびリボンカセットをセットしていない状態で、印字しないでください。
印字ヘッドやプラテンロールが傷みます。

・印字ヘッドは高温になります。温度が下がるまで触らないでください。
やけど、けがのおそれがあります。

・プリンタケーブルコネクタ、印字ヘッドの金属部には触らないでください。
・印字ヘッドが動いているときは、印字ヘッドに触れたり、電源を切ったりしないでください。

4 各部の名称と働き

正面 （FMPR5630/FMPR5430 の場合）



1 トップカバー
動作中の印字ヘッドに、オペレータが触れないように保護します。また、印字ヘッドをほこりやチリから守ります。トップカバーを開けるとプリンタはオフライン状態になります。印字を行う場合は、トップカバーを閉じて、オンライン状態にしてください。

2 印字ヘッド
用紙に印字する部分です。

3 プラテンロール
印字時に用紙を支えます。

4 用紙ガイド
単票セットフリーがオフの場合に、単票用紙の手差し時に用紙の左端を支えます。印字開始位置に対して用紙ガイドを移動することにより、左端余白を調整できます。
単票セットフリーがオンの場合は使用しないので、左端に寄せておきます。

5 電源スイッチ
「｜」側を押すと電源が入り、「○」側を押すと電源が切れます。

6 単票テーブル
手差し単票用紙を使用するときのテーブルです。

7 サブガイド
長い単票用紙を使用するとき、引き伸ばして用紙がプリンタから落下しないように支えます。

8 前トラクタユニット
前トラクタ給紙で連続帳票用紙をプリンタ内部へ送ります。

9 カードガイド
用紙を送るときの案内板です。また、カードガイド上の二本線は、用紙搬送方向の印字位置を合わせるための目安です。

10 オペレータパネル

プリンタの状態表示、プリンタを操作するための各種スイッチがあります。詳しくは、「オペレータパネルの機能（FMPR5630/FMPR5430 の場合）」（→ P.148）をご覧ください。

11 インターフェースコネクタ

・パラレルケーブルコネクタ
パラレルケーブルをここに接続して、プリンタとパソコンを接続します。

・USB ケーブルコネクタ
USB ケーブルをここに接続して､プリンタとパソコンを接続します。

・オプション LAN カード挿入口
オプションのプリンタ LAN カードを接続する場合は、オプションインターフェースカバーを外して挿入します。

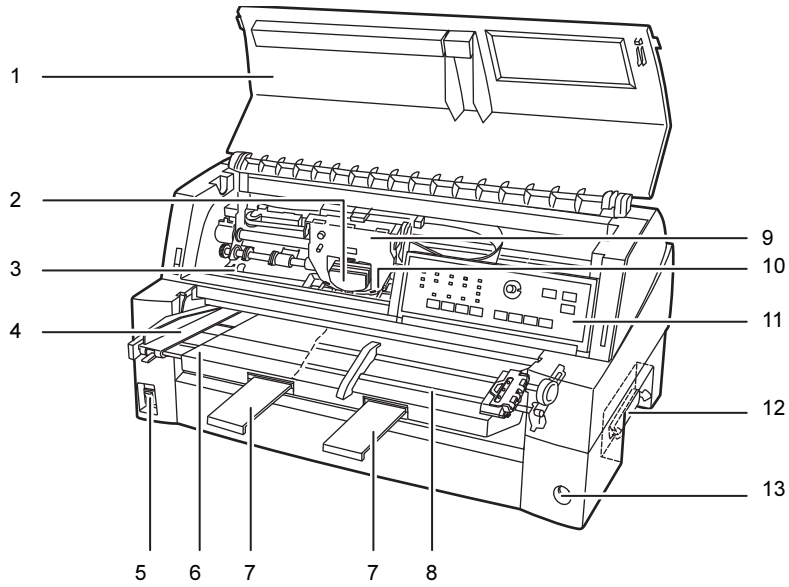
12 フロントカットシートフィーダコネクタ

オプションのカットシートフィーダを前部に取り付けて使用する場合にケーブルを接続するコネクタです。

重要

・プリンタの電源が入っているときは、印字ヘッドに触れたり、無理な力を加えたりしないでください。
・印字中は、トップカバーを開けないでください。
トップカバーを開けると、途中で印字が中断されます。カバーを閉じた後に、[オンライン] スイッチを押すと、中断した位置から印字を再開しますが、印字品質が低下することがあります。

正面 （FMPR5130 の場合）



1 トップカバー
動作中の印字ヘッドに、オペレータが触れないように保護します。また、印字ヘッドをほこりやチリから守ります。トップカバーを開けるとプリンタはオンライン状態のまま印字が停止します。印字を行う場合は、トップカバーを閉じてください。

2 印字ヘッド
用紙に印字する部分です。

3 プラテンロール
印字時に用紙を支えます。

4 用紙ガイド
単票セットフリーオフの場合に、単票用紙の手差し時に用紙の左端を支えます。印字開始位置に対して用紙ガイドを移動することにより、左端余白を調整できます。
単票セットフリーオンの場合は使用しないので、左端に寄せておきます。

5 電源スイッチ
「｜」側を押すと電源が入り、「○」側を押すと電源が切れます。

6 単票テーブル
単票用紙を挿入するときのガイドです。単票用紙は 1 枚ずつ挿入します。

7 サブガイド
長い単票用紙を使用するとき、引き伸ばして用紙がプリンタから落下しないように支えます。

8 トラクタユニット
連続帳票用紙をプリンタ内部へ送ります。プリンタの前部または後部に取り付けることができます。

9 リボンカセットホルダー
リボンカセットを取り付けるところです。

10 カードガイド
用紙を送るときの案内板です。また、カードガイド上の二本線は、用紙搬送方向の印字位置を合わせるための目安です。

11 オペレータパネル
プリンタの状態を示すランプ、プリンタを操作するための各種スイッチがあります。詳しくは、「オペレータパネルの機能（FMPR5130 の場合）」（→ P.150）をご覧ください。

12 インターフェースコネクタ

・パラレルケーブルコネクタ
パラレルケーブルをここに接続して、プリンタとパソコンを接続します。

・USB ケーブルコネクタ
USB ケーブルをここに接続して、プリンタとパソコンを接続します。

・オプション LAN カード挿入口
オプションのプリンタ LAN カードを接続する場合は、オプションインターフェースカバーを外して挿入します。

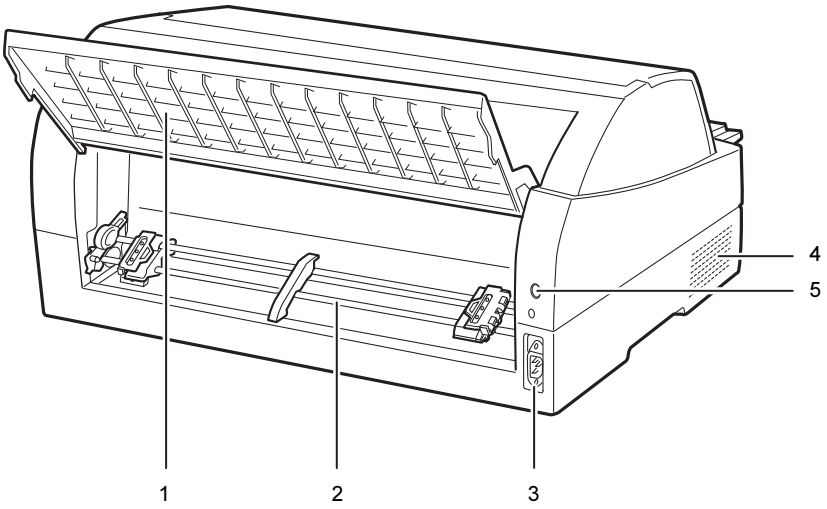
13 フロントカットシートフィーダコネクタ

オプションのカットシートフィーダを前部に取り付けて使用する場合にケーブルを接続するコネクタです。

重要

・印字ヘッドが動いているときは、印字ヘッドに触れたり、無理な力を加えたりしないでください。
・印字中は、トップカバーを開けないでください。
印字の途中でトップカバーを開けると、危険防止のためにオンライン状態のまま印字動作を停止します。このとき、オペレータパネルのスイッチ操作はできません。トップカバーを閉じると、印字動作を再開します。

背面



1 リアスタッカ
単票用紙を一時的にためておきます。

2 後トラクタユニット
後トラクタ給紙で連続帳票用紙をプリンタ内部へ送ります。

重要

・FMPR5130 は、ご購入時に、後トラクタユニットを搭載しておりません。

3 電源コネクタ
電源コードを接続します。

4 排気口
プリンタ内部の熱を排気します。排気口をふさがないでください。

5 リアカットシートフィーダコネクタ
オプションのカットシートフィーダを後部に取り付けて使用する場合にケーブルを接続するコネクタです。

2

第２章　プリンタを設置、 接続する

この章では、設置のしかた、リボンカセットの取り付け、電源の入れ方、切り方について説明します。

1　プリンタを設置する 30
2　電源の入れ方と切り方 48

1 プリンタを設置する

設置手順

プリンタは次の手順を確認しながら設置してください。

1 梱包物がすべて揃っていることを確認する

梱包されている製品は「梱包物を確認する」（→ P.20）をご覧ください。

2 単票テーブルおよびカバーを固定している固定テープ、固定部材を外す

3 トップカバーを開けて輸送用固定材を外す

輸送用固定材の取り外しについては、「輸送用固定材の取り外し」（→ P.33）をご覧ください。

4 単票テーブルを使用できるようにする

単票テーブルのセットについては、「単票テーブルを使う」（→ P.31）をご覧ください。

5 リアスタッカを取り付ける

リアスタッカの取り付けについては、「リアスタッカの取り付け」（→ P.34）をご覧ください。

6 トラクタユニットの前後の位置を選択する（FMPR5130 の場合）

トラクタユニットの位置変更や特長については、「トラクタユニットの取り付け、取り外し」（→ P.35）をご覧ください。

7 電源コードを接続する

電源コードの接続については、「電源コードの接続」（→ P.40）をご覧ください。

8 リボンカセットを取り付ける

リボンカセットの取り付けについては、「リボンカセットを取り付ける」（→ P.41）をご覧ください。

9 オプションを取り付ける

オプションのカットシートフィーダ、トラクタユニット（FMPR5130 の場合）、LAN カードを必要に応じて取り付けてください。取り付けについては、「オプションを取り付ける」（→ P.51）をご覧ください。

10 パソコンと接続する

オプションのプリンタケーブル、USB ケーブル、LAN ケーブルを準備します。パソコンとの接続については、「パソコンとの接続」（→ P.46）をご覧ください。

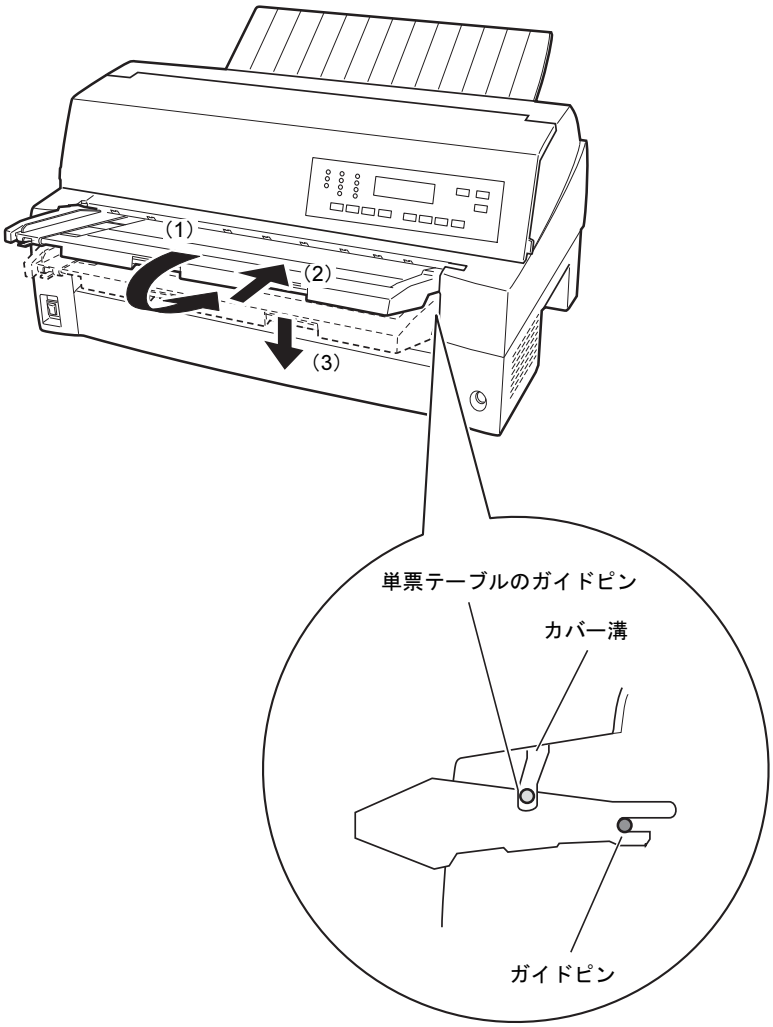
重要

- プリンタとパソコンを接続する前に、プラグアンドプレイの準備が必要ですので、『ソフトウェアガイド』の「プリンタの接続」をご覧ください。

単票テーブルを使う

1 （1）単票テーブルを回転させたのち、（2）奥に押し込みながら単票テーブルのガイドピンをカバー溝に入れて、（3）単票テーブルを下げる

セットの完了状態は、単票テーブルの先端がプリンタのガイドピンに挿入され、単票テーブルのガイドピンがカバーの溝に入っていることです。確認してください。



⚠注意

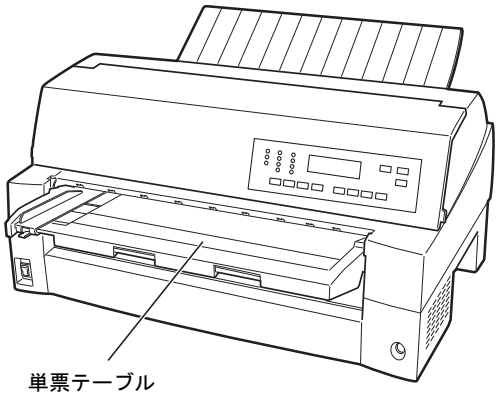
・単票テーブルの操作の途中で、無理な力をかけないでください。破損の原因となります。また、途中の状態で放置しないようにしてください。単票テーブルをセットしている途中の状態で使用すると、用紙づまりの原因となります。

取り扱いについて

単票テーブルは、連続帳票用紙を前トラクタに給紙するときや、カットシートフィーダをプリンタ前部に取り付けるときに、いったん開閉する必要があります。

■通常時

通常は下図のような状態です。



重要

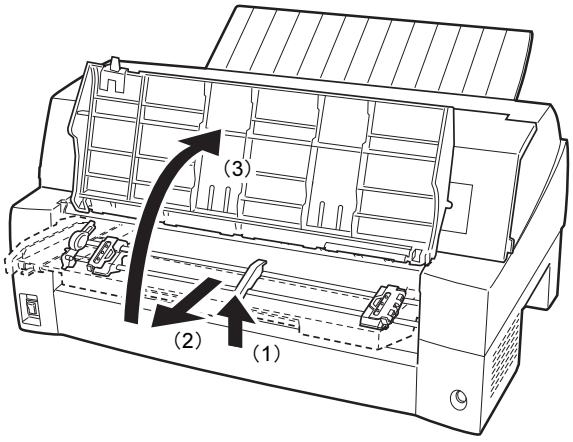
・単票テーブルは奥まで入れてください。
入っていないときは、用紙センサーが動作せず、用紙の有無が検知できません。

■前トラクタ着脱時、 連続帳票用紙前トラクタ給紙時 （開いた状態）

オプションのカットシートフィーダを、プリンタの前部に取り付ける場合は、前トラクタを取り外して単票テーブルを開いた状態にします。次の方法で行います。

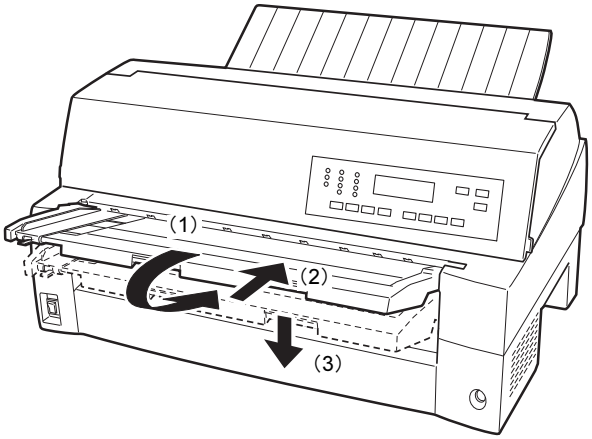
1 **単票テーブルを開く**

（1）単票テーブルの先端を少し持ち上げ、（2）手前に引いた後、（3）回転させて開きます。



2 単票テーブルを閉じる

(1) 回転させたのち、(2) 奥に押し込んで (3) 閉じます。
単票テーブルのとじ方は「単票テーブルを使う」(→ P.31) をご覧ください。



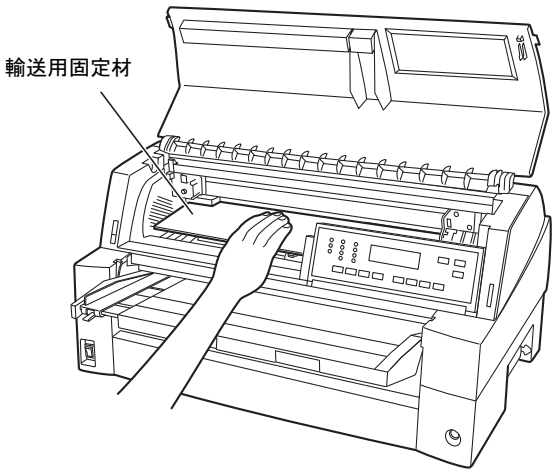
輸送用固定材の取り外し

輸送中の振動などから印字ヘッドを保護するため、輸送用固定材が取り付けられています。プリンタを使用する前に、必ず取り外してください。

重要

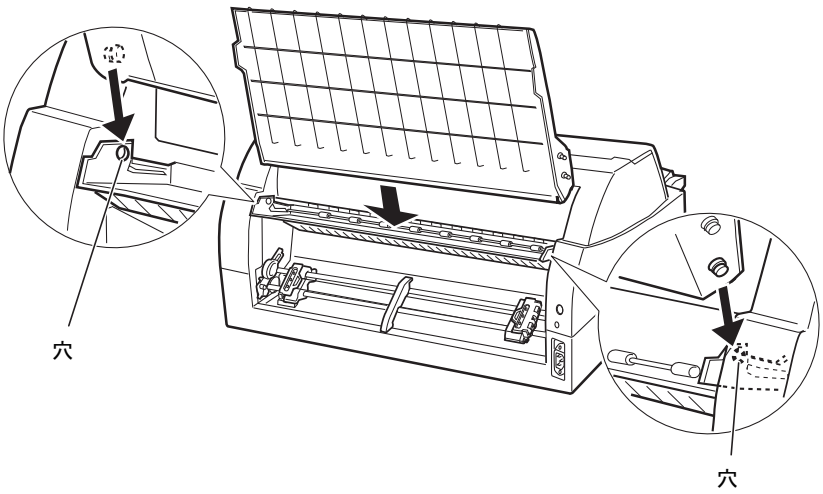
- 取り外した輸送用固定材は、箱といっしょに保管しておき、再びプリンタを輸送する場合や保管する場合に使用してください。

1 トップカバーを開けて、印字ヘッドを固定している輸送用固定材を取り外す



リアスタッカの取り付け

1 プリンタ背面のスタッカガイドの内側にある穴に、リアスタッカ両側の突起をはめる



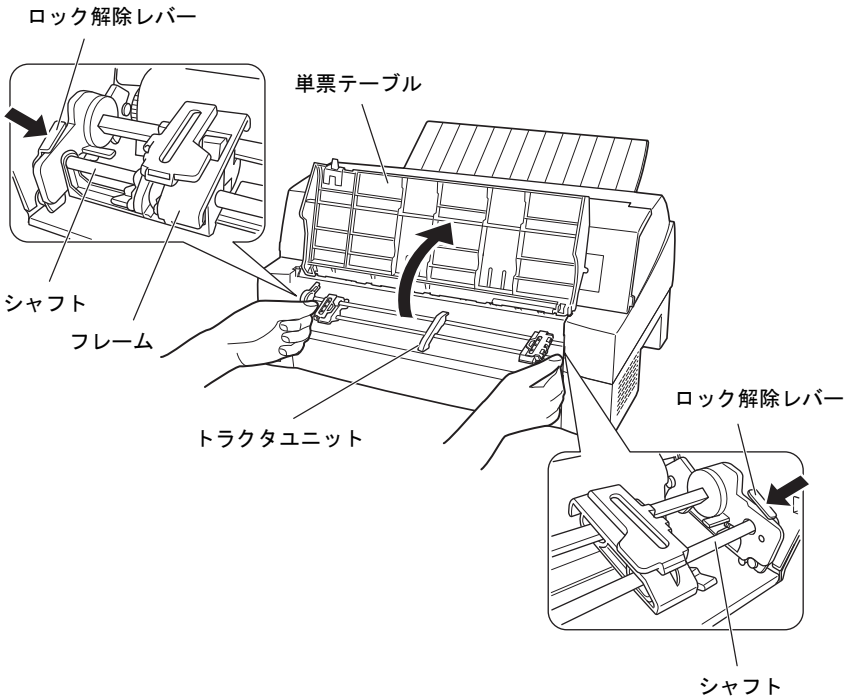
トラクタユニットの取り付け、 取り外し

前側のトラクタユニットの場合

■取り外す

1 単票テーブルを開く

2 トラクタユニットの左右にあるフレーム部のロック解除レバーを押しながら、トラクタユニットを上方に持ち上げて外す



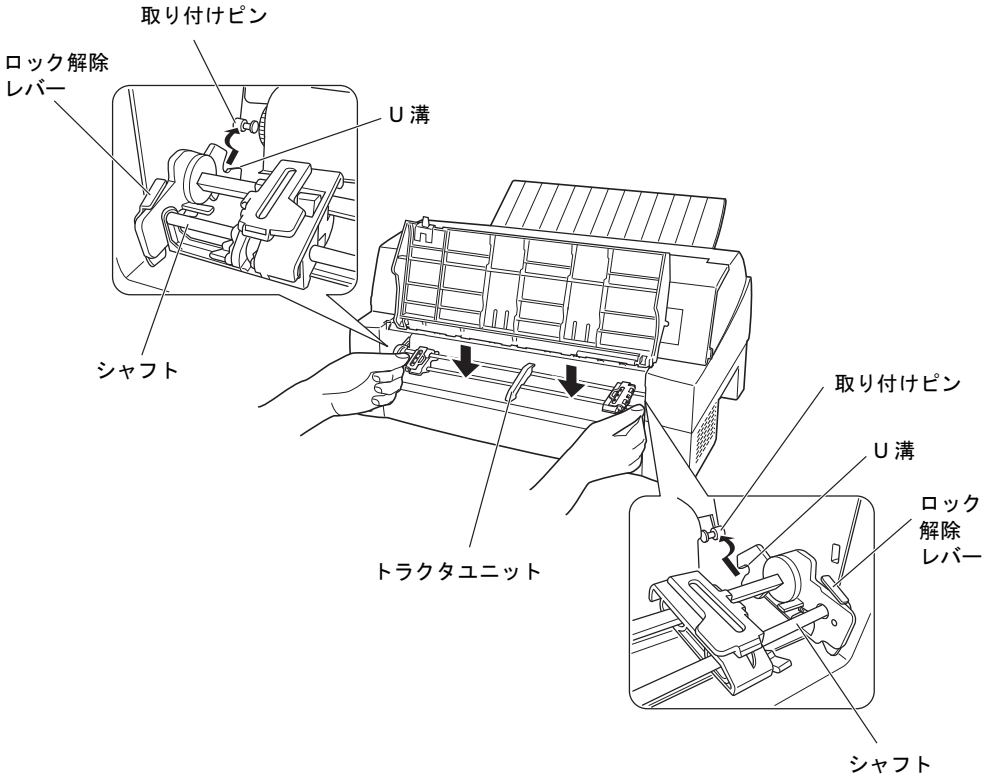
■取り付ける

1 トラクタユニット左右の U 溝をプリンタの取り付けピンに合わせる

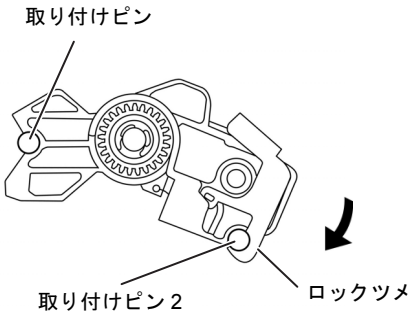
左側の取り付けピンの溝に合わせて取り付けます。右側の取り付けピンには、溝はありません。

2 トラクタユニット手前側のシャフトをカチッと音がするまで押し下げてロックさせる

押し下げるとき、ロック解除レバーを押さないでください。



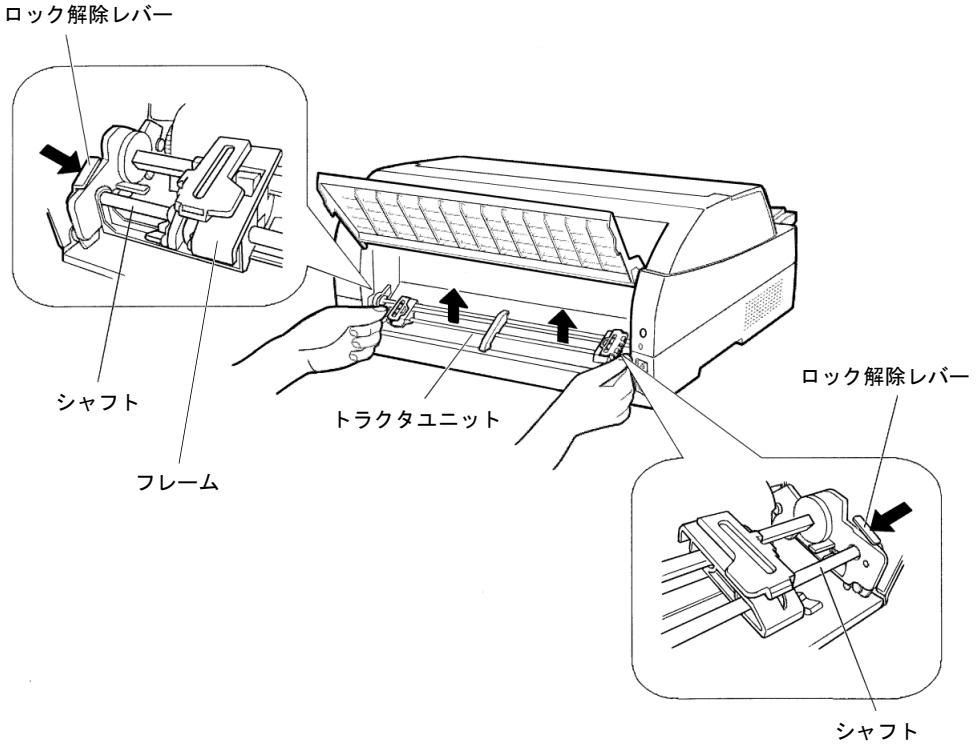
3 取り付けピン 2 にトラクタユニットの左右のツメが、しっかりかかっていることを確認する



後側のトラクタユニットの場合

■取り外す

1 トラクタユニットの左右にあるフレーム部のロック解除レバーを押しながら、トラクタユニットを上方に持ち上げて外す



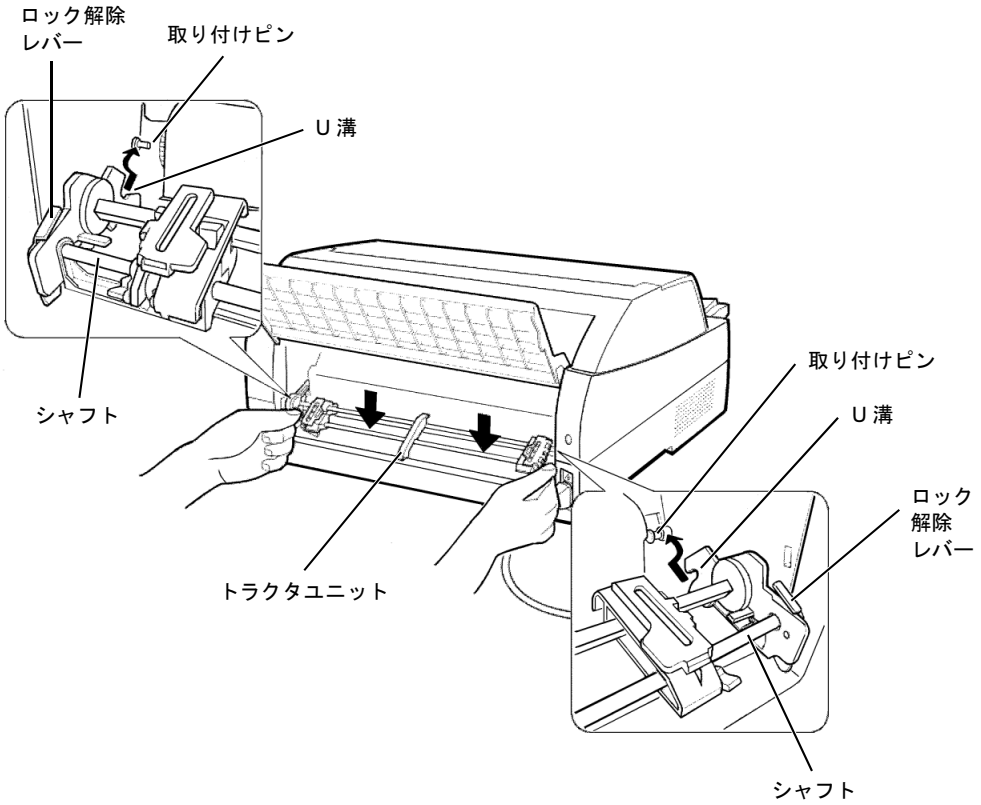
■取り付ける

1 トラクタユニット左右の U 溝をプリンタの取り付けピンに合わせる

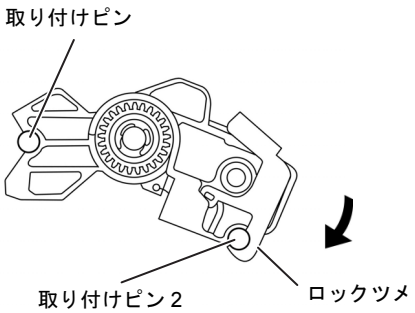
左側の取り付けピンの溝に合わせて取り付けます。右側の取り付けピンには、溝はありません。

2 トラクタユニット手前側のシャフトをカチッと音がするまで押し下げてロックさせる

押し下げるとき、ロック解除レバーを押さないでください。



3 取り付けピン 2 にトラクタユニットの左右のロックツメが、しっかりかかっていることを確認する

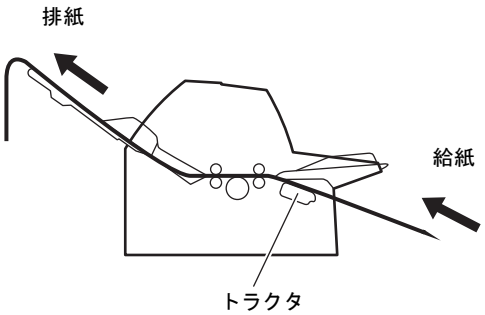


POINT

・FMPR5630/FMPR5430 は、ご購入時には、前後にトラクタユニットが装着されています。
・FMPR5130 は、ご購入時には、前側にトラクタユニットが装着されていますが、必要に応じて後側に付け替えて使用できます。なお、オプションのトラクタユニット（FMPR-TU8G）を追加すれば、前後にトラクタユニットを取り付けて使用することができます。
・オプションのカットシートフィーダ（FMPR-CF11A）を前側に取り付けるときには、前側のトラクタユニットを取り外す必要があります。カットシートフィーダを後側に取り付けるときには、後側のトラクタユニットとの同時装着が可能です。

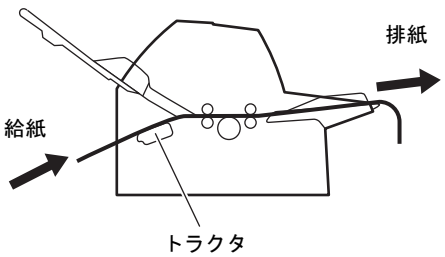
■トラクタを前に搭載したときの特長

手前側より連続用紙を交換することができ、頻繁に用紙を交換する業務に適しています。



■トラクタを後に搭載したときの特長

手前側で用紙のカットが行いやすく、頻繁に用紙をカットするような業務に適しています。
用紙のカット方法は「連続帳票用紙をカット位置に送る」（→ P.192）をご覧ください。



電源コードの接続

⚠警告

・電源コード、変換プラグは他の製品に使用しないでください。添付の電源コード以外は使用しないでください。
火災や感電の原因になります。
・変換プラグを使用する場合、プラグから出ている緑色のアース線を、必ず次のいずれかに取り付けてください。
- 電源コンセントのアース線
- 銅片などを 650mm 以上地中に埋めたもの
- D 種（旧：第 3 種）接地工事を行っている接地端子
・アース接続は必ず、電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。またアース接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。
アース接続しないで使用すると、万一漏電した場合に火災や感電の原因になります。またプリンタの誤作動の原因になります。

電源コードの接続は、次の手順で行います。

1 プリンタとパソコンの電源を切る

電源スイッチが「○」側に倒れていることを確認します。

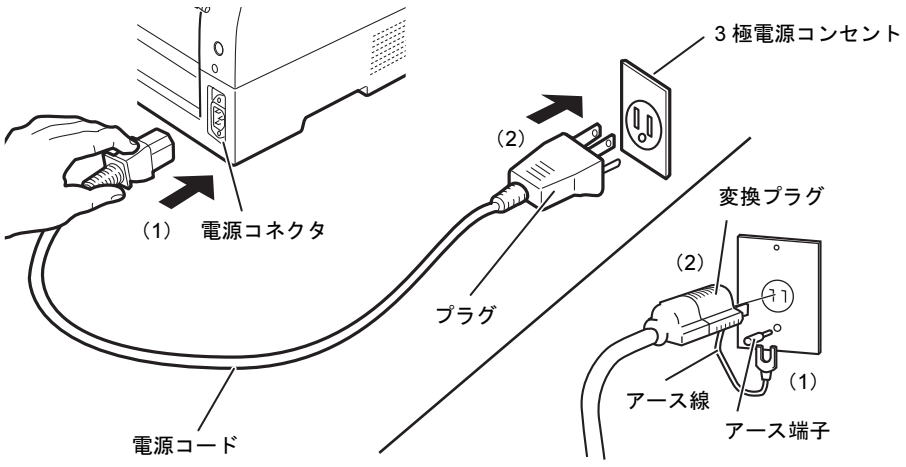
2 電源プラグをコンセントに差し込む

できるだけ 3 極の電源コンセントを使用してください。

1. 電源コードを電源コネクタに差し込む
2. プラグを電源コンセントに差し込む

もし 3 極のコンセントがない場合は、添付の変換プラグを使用してください。

1. 変換プラグのアース線を電源コンセントのアース端子に取り付ける
2. 変換プラグを電源コンセントに差し込む



重要

・電源プラグは、奥までしっかり差し込んでください。

リボンカセットを取り付ける

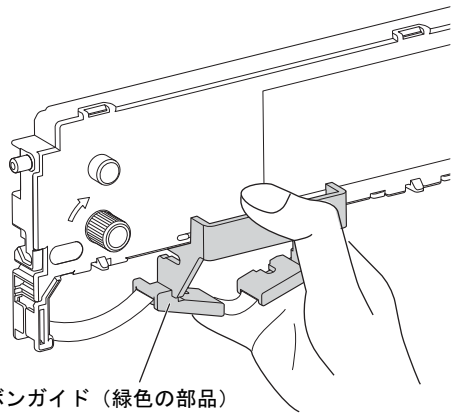
リボンカセットの取り付け方法は、プリンタにより異なります。
・「FMPR5630/FMPR5430 の場合」（→ P.41）
・「FMPR5130 の場合」（→ P.44）

FMPR5630/FMPR5430 の場合

リボンカセットの取り付けは、次の手順で行います。

1 リボンカセットからリボンガイドを外す

リボンカセットからリボンガイド（緑色の部品）をゆっくりと外します。なお、リボンのよじれを避けるため、ガイドを外す前にカセットのつまみを回したり、ガイドを急激に引き抜いたりしないようご注意ください。



リボンガイド（緑色の部品）

2 プリンタをリボンが交換できる状態にする

印字ヘッドの輸送用固定材が取り外されていることを確認した後、トップカバーを閉じた状態で電源を入れます。印字ヘッドが移動し、リボン交換位置に停止することを確認します。

POINT

・トップカバーが開いていると印字ヘッドは動作しません。トップカバーを閉めて電源を入れてください。

3 プリンタの電源を切る

電源スイッチが「○」側に倒れていることを確認します。

4 トップカバーを開ける

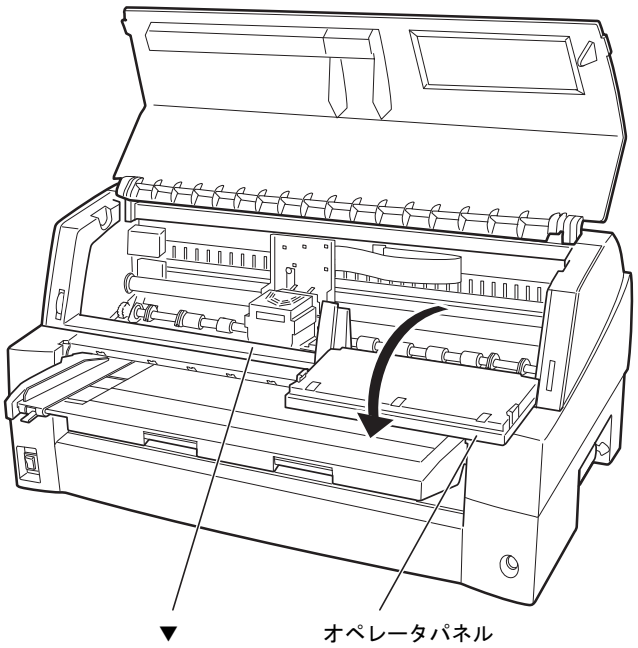
5 印字ヘッドがリボン交換位置（プリンタ本体に▼印があります）にあることを確認する

印字ヘッドがリボン交換位置にない場合は、印字ヘッド部分を持ち、ゆっくりリボン交換位置へ移動させてください。

⚠注意

・使用中や使用直後は、印字ヘッドが高温になります。温度が下がるまで触らないでください。

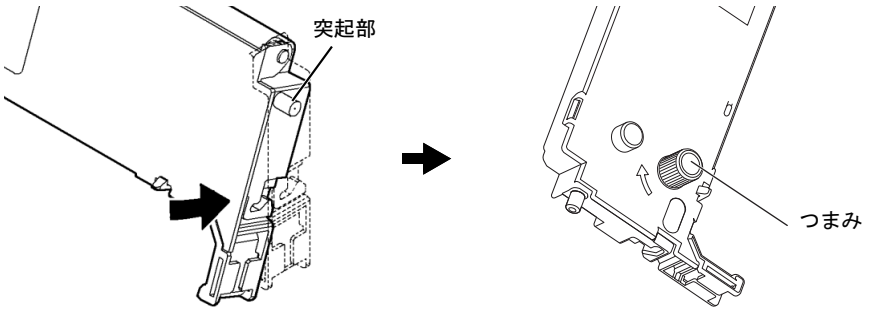
6 オペレータパネルを手前側に倒す



7 リボンカセットを取り付ける

リボンガイド（緑色の部品）を印字ヘッド手前のくぼみに置きます。次にリボンカセット両側の突起部をほぼ垂直状態にしてプリンタ上部の溝に入れ、リボンがよじれていないことを確認して、リボンカセットが完全に垂直になるように左、右、下部をカチッと音がするまで奥に押し込みます。

リボンカセットの取り付けができたら、つまみを時計方向に回してリボンのたるみを取ります。



重要

・リボンカセット装着の前にリボンカセットのつまみは回さないでください。
リボンを張った状態でリボンガイドを装着すると、リボンが折れたりよじれたりして、正常に送られなくなることがあります。

8 リボンガイドを取り付ける

リボンを軽くたるませた状態で、リボンガイド（緑色の部品）の▽印部を印字ヘッド左右両側の丸い突起にしっかりとはめ込むと、リボンがセットされます。

このとき、リボンがよじれないように注意してください。

9 リボンのたるみを取る

リボンカセットのつまみを時計回りに回して、リボンのたるみを取ります。

10 オペレータパネルを元に戻す

11 トップカバーを閉める

FMPR5130 の場合

リボンカセットの取り付けは、次の手順で行います。

1 プリンタをリボンが交換できる状態にする

印字ヘッドの輸送用固定材が取り外されていることを確認した後、トップカバーを閉じた状態で電源を入れます。印字ヘッドが移動し、リボン交換位置に停止することを確認します。

POINT

- トップカバーが開いていると印字ヘッドは動作しません。
  トップカバーを閉めて電源を入れてください。

2 プリンタの電源を切る

電源スイッチが「○」側に倒れていることを確認します。

3 トップカバーを開ける

4 印字ヘッドがリボン交換位置（プリンタ本体に▼印があります）にあることを確認する

印字ヘッドがリボン交換位置にない場合は、印字ヘッド部分を持ち、ゆっくりリボン交換位置へ移動させてください。

⚠注意

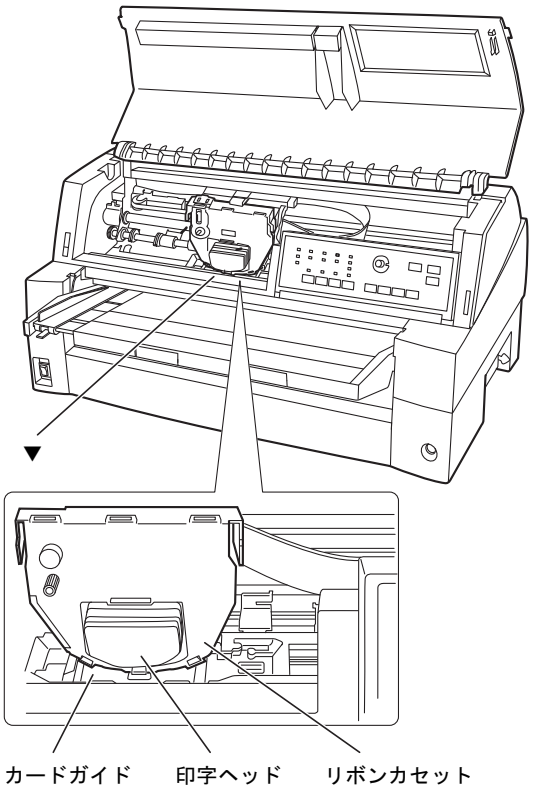
- 使用中や使用直後は、印字ヘッドが高温になります。
  温度が下がるまで触らないでください。

5 リボンカセットを取り付ける

印字ヘッドとカードガイドの間にリボンを通し、リボンカセットをゆっくり押し込みます。

6 リボンのたるみを取る

リボン巻取りノブを時計方向に回して、リボンのたるみを取ります。



7 トップカバーを閉める

パソコンとの接続

プリンタケーブルは接続する方法によって異なります。以降の説明をお読みになり、パソコンや使用目的に応じて必要なケーブルを接続してください。

⚠警告

・パラレルケーブルを抜き差しするときは、必ずパソコンと本プリンタの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
感電の原因となります。

⚠注意

・プリンタケーブルの接続は間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、プリンタ本体およびパソコン本体が故障する原因となることがあります。

パソコンとの接続は、次の手順で行います。

重要

・プリンタとパソコンを接続する前に、プラグアンドプレイの準備が必要ですので、『ソフトウェアガイド』の「プリンタの接続」をご覧ください。

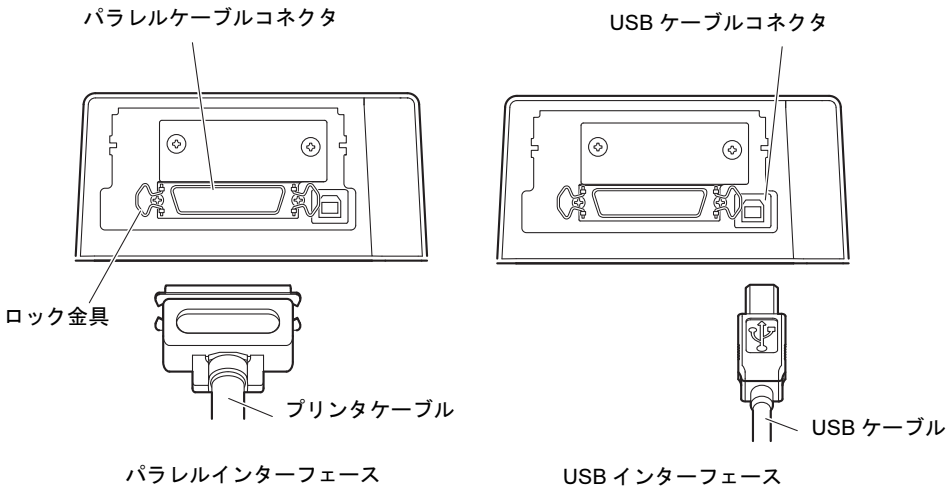
1 プリンタとパソコンの電源を切る

電源スイッチが「○」側に倒れていることを確認します。

2 プリンタケーブルをプリンタに接続する

プリンタケーブルの一方を、プリンタ右側面のプリンタケーブル接続コネクタに差し込みます。

■パラレルインターフェースおよび USB インターフェースの場合



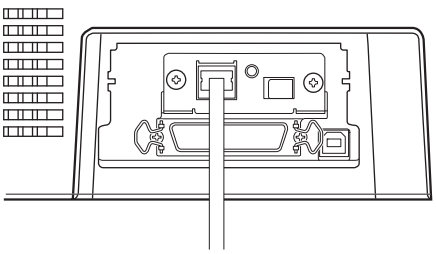
⚠注意

- パラレルインターフェースと USB インターフェースは同時に接続できません。
- USB インターフェースはすべての USB 対応機器との接続を保証するものではありません。
- パソコンとプリンタの接続に使用する USB ケーブルは、5m 以下のシールドケーブルをお使いください。
- 印刷中に USB ケーブルを抜き差ししないでください。
- USBハブを使用する場合は、パソコンと直接接続されたUSBハブに接続してください。
- 本プリンタと接続した USB ケーブルのもう一方は、パソコン本体の USB コネクタ、またはセルフパワータイプの USB ハブ（電源コードや AC アダプタにより電源が供給されるタイプのハブ）のコネクタに接続してください。上記以外の USB コネクタに接続すると、正常に動作しない場合があります。

POINT

- FMPR5130 の USB コネクタは、パラレルケーブルコネクタの左側にあります。
- USB1.1 または USB2.0 に準拠した USB ケーブルを用意してください。
- オプションのケーブルとしてプリンタケーブル（FMV-CBL716）、プリンタ USB ケーブル（XL-CBLU2G）が用意されています。「オプション品のご紹介」（→ P.52）をご覧ください。

■LAN インターフェースの場合



LAN インターフェース

POINT

- オプションのプリンタ LAN カード（FMPR-LN4）を取り付けることにより、100BASE-TX/10BASE-T のネットワーク環境でのプリンタ共有が可能になります。プリンタ LAN カードの取り付け方法については、「プリンタ LAN カードの取り付け」（→ P.62）をご覧ください。
- LAN カード搭載時はパラレルインターフェースおよび USB インターフェースとの同時接続はできません。

3 ケーブルをネットワーク機器およびパソコンに接続する

接続の方法は、お使いになるネットワークおよびパソコンのマニュアルをご覧ください。

4 プリンタドライバのインストールをする

インストール方法は、『ソフトウェアガイド』の「プリンタドライバをインストールする」をご覧ください。

2 電源の入れ方と切り方

プリンタの電源の入れ方と切り方について説明します。

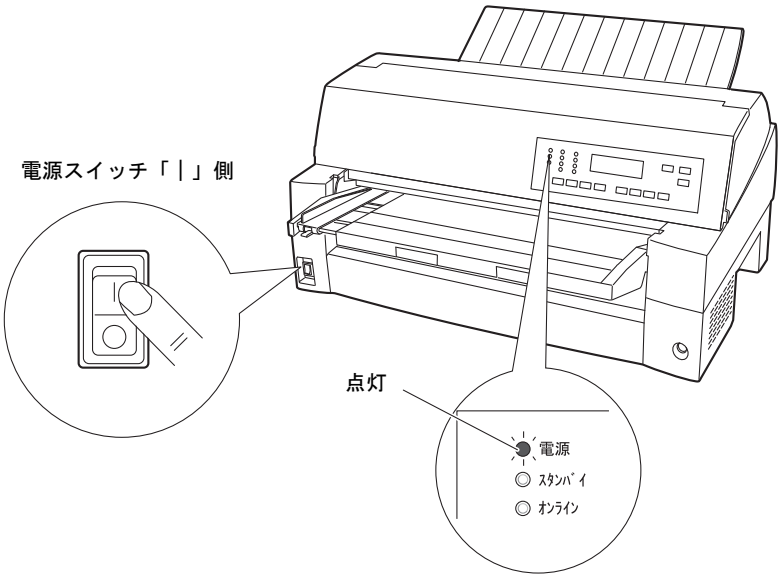
電源を入れる

重要

購入後初めてプリンタの電源を入れたときは、次の点を確認してください。
・輸送用固定材（印字ヘッド部保護用固定材）が取り外してあること（→ P.33）
・電源コンセントの電源電圧が 100V、周波数が 50 または 60Hz であること

1 プリンタの前面にある電源スイッチを「｜」側に倒す

「電源」ランプが点灯し、約 6 秒後にプリンタが印刷可能となります。



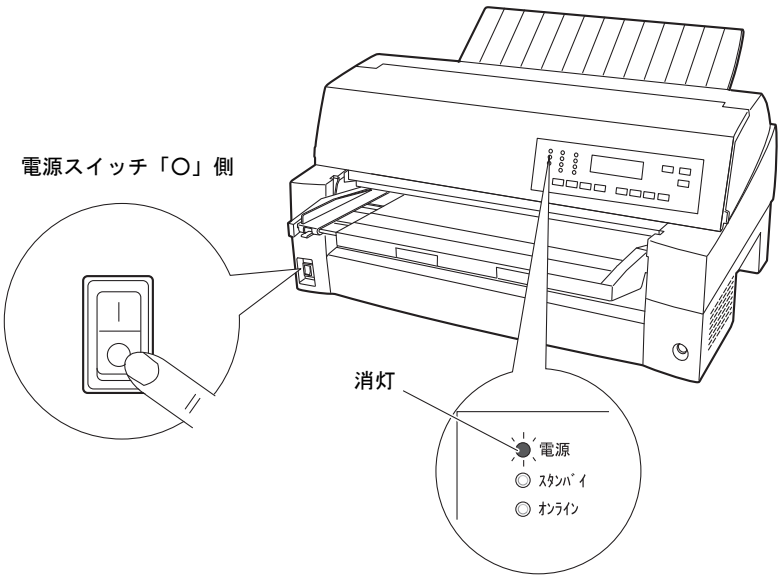
電源を切る

重要

・電源を切るときは、必ず電源スイッチで行ってください。電源プラグを抜いて電源を切ると、プリンタの故障の原因となる場合があります。
・印字ヘッドが動いているときは、電源を切らないでください。
・電源を切った後、再び電源を入れる場合は、5 秒以上待ってください。間隔を開けずに電源を入れると、故障の原因になります。

1 「電源」ランプが点灯しているときは、電源スイッチを「○」側に倒す

「電源」ランプが消灯します。



Memo

3

第 3 章　オプションを取り付ける

この章では、プリンタのオプションについて説明します。

1　オプション品のご紹介 52
2　カットシートフィーダの取り付け、 取り外し 54
3　プリンタ LAN カードの取り付け 62

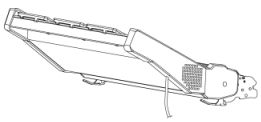
1 オプション品のご紹介

本プリンタは、次のオプション品を用意しています。必要に応じてご購入ください。
なお、オプション品の情報は、このマニュアルを発行した時点のものです。
最新情報は、富士通製品情報ページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/peripheral/printer/）でご確認ください。

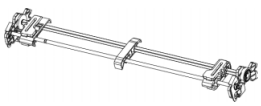
重要

・オプション品は、必ず指定のものをご使用ください。指定以外のオプション品をご使用いただく場合、プリンタの動作保証は一切致しかねますのでご注意ください。指定品以外をご使用になって生じた不具合の対応は、無償保証期間中あるいは保守契約期間中であっても有償となります。

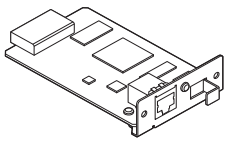
カットシートフィーダ

品名	型名	内容
カットシートフィーダ 	FMPR-CF11A	単票用紙を 1 枚ずつ連続的に送る自動給紙ユニットです。プリンタの前部または後部に取り付けて使用します。A4 普通紙 55kg での用紙セット枚数は 120 枚です。前部にカットシードフィーダを取り付けた場合は、前トラクタユニットは使用できません。

トラクタユニット （FMPR5130 の場合）

品名	型名	内容
トラクタユニット 	FMPR-TU8G	連続帳票用紙をセットするユニットです。プリンタに標準添付されているトラクタと同様にプリンタの前方、後方のどちらにでも取り付けることができます。トラクタユニットを追加することにより、同時に 2 種類の連続帳票用紙をセットすることができます。 トラクタユニットの取り扱いについては、「トラクタユニットの取り付け、取り外し」(→ P.35)をご覧ください。

プリンタ LAN カード

品名	型名	内容
プリンタ LAN カード 	FMPR-LN4	100BASE-TX/10BASE-T に対応した専用 LAN カードです。TCP/IP に対応しています。 取り付け方法については、「プリンタ LAN カードの取り付け」（→ P.62）をご覧ください。 LAN カード搭載時は、パラレルインターフェースおよび USB インターフェースは使用できません。

プリンタケーブル

ご使用のパソコンに対応したケーブルをご使用ください。

重要

・本製品にはプリンタケーブルは添付されていません。オプションのケーブルをお使いください。

オプションのケーブルは次のものが用意されています。

パラレルケーブル

品名	型名	備考
プリンタケーブル	FMV-CBL716	富士通製パソコン、各社の Windows を搭載しているパソコンに接続できます（1.5m）。

USB ケーブル

品名	型名	備考
プリンタ USB ケーブル	XL-CBLU2G	Windows が動作するパソコンに接続できます。 USB 変換ケーブル（FMV-CBL722）は使用できません。

POINT

・ケーブルを接続する場合は、当社推奨品以外のケーブルは接続しないでください。

2 カットシートフィーダの取り付け、取り外し

カットシートフィーダは、プリンタの前部または後部に取り付けて使用します。前後両方に取り付けることもできます。

⚠警告

・カットシートフィーダを取り付けたり、取り外したりするときは、必ず本プリンタの電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
感電の原因となります。

POINT

・プリンタの前側にカットシートフィーダを取り付けた場合は、前側にトラクタユニットは取り付けられません。取り外したトラクタユニットは保管しておいてください。

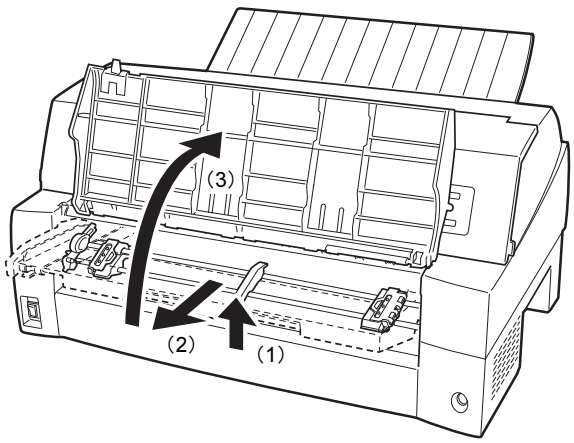
プリンタ前部に取り付ける

1 プリンタの電源を切る

プリンタの電源が「○」側に倒れていることを確認します。

2 単票テーブルを開く

(1) 単票テーブルの先端を少し持ち上げ、(2) 手前に引いた後、(3) 回転させて開きます。

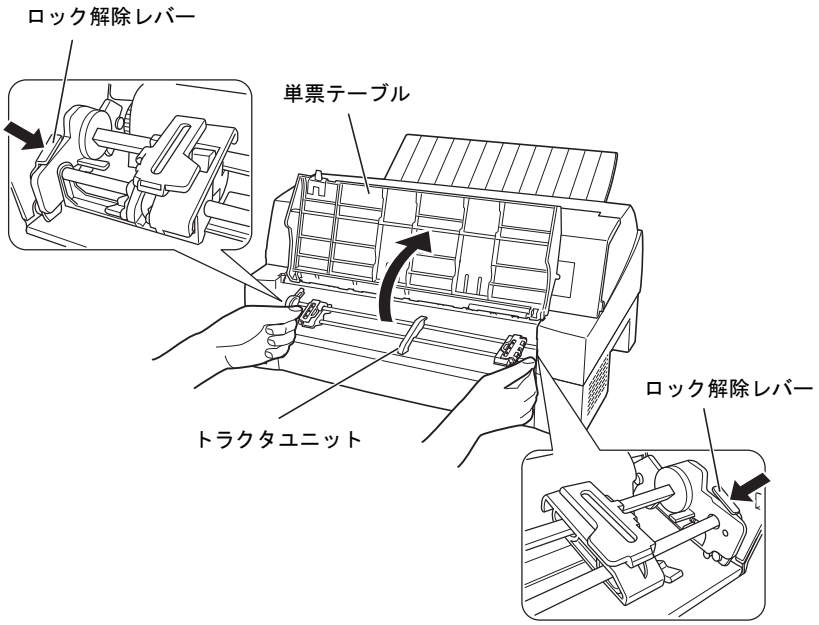


3 トラクタユニットを取り外す

単票テーブルを開きます。トラクタユニットの左右にあるフレーム部のロック解除レバーを押しながら、トラクタユニットを上方に持ち上げて外します。

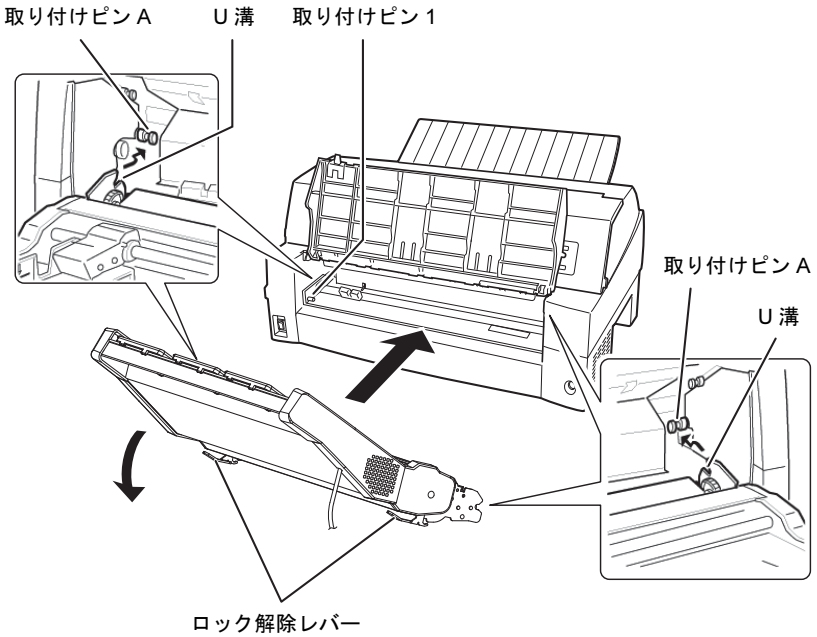
FMPR5130 の場合は、外したトラクタユニットを後ろ側に取り付けてください。

FMPR5630、FMPR5430、または FMPR5130 でオプションのトラクタユニットがある場合、取り外したトラクタユニットは保管しておいてください。

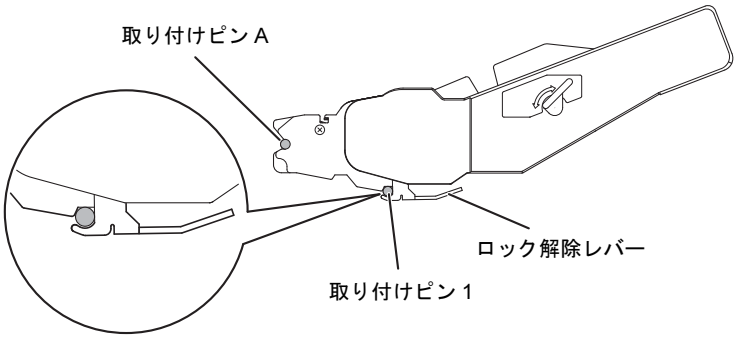


4 カットシートフィーダを取り付ける

カットシートフィーダの両側のロック解除レバーを指で押さえ、カットシートフィーダの両側にあるU溝を、プリンタの奥にある取り付けピンAに差し込みます。ゆっくりと下ろし両側のレバーを離します。片側だけ取り付けが正しくできなかった場合は、再度ロック解除レバーを押さえて、いったんカットシートフィーダを取り外してから取り付け直してください。

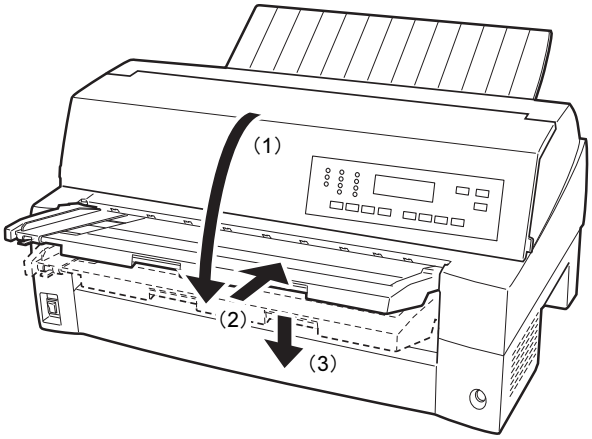


取り付けピン1にカットシートフィーダのロック解除レバーが図のように取り付いていることを確認してください。



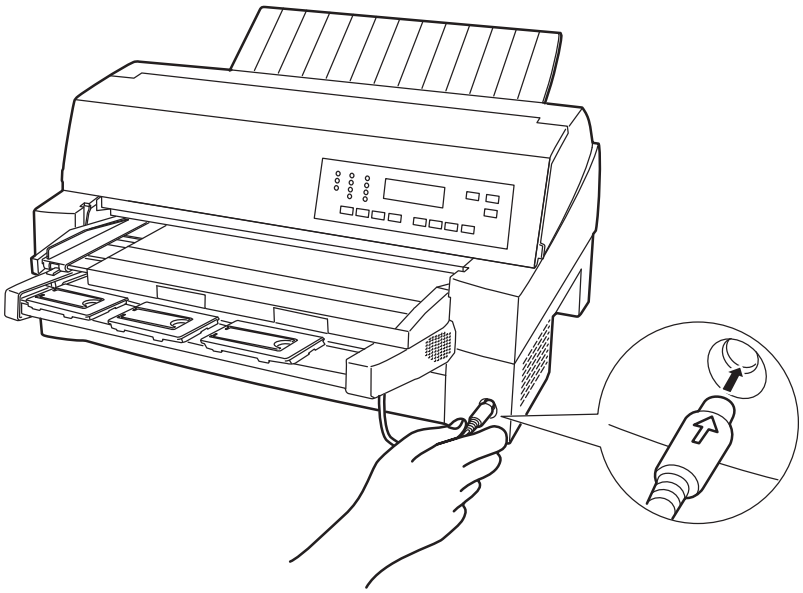
5 単票テーブルを元に戻す

(1) 単票テーブルを下図のように回転させたのち、(2) 奥に押し込んで (3) 閉じます。
単票テーブルのセットが正しくないと、用紙づまりの原因となります。

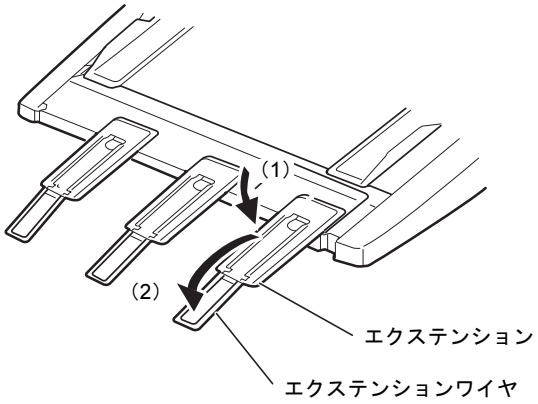


6 ケーブルを接続する

カットシートフィーダのケーブルを、プリンタ前面の右側にあるコネクタに接続します。
コネクタの矢印を上にして挿入します。



7 **使用する用紙サイズに合わせ、エクステンションおよびエクステンションワイヤを（1）、（2）の順に展開する**



プリンタ後部に取り付ける

プリンタ後部は、カットシートフィーダとトラクタユニットの同時搭載が可能です。
カットシートフィーダの取り付けは、プリンタの電源を切ってから行います。

1 **プリンタの電源を切る**

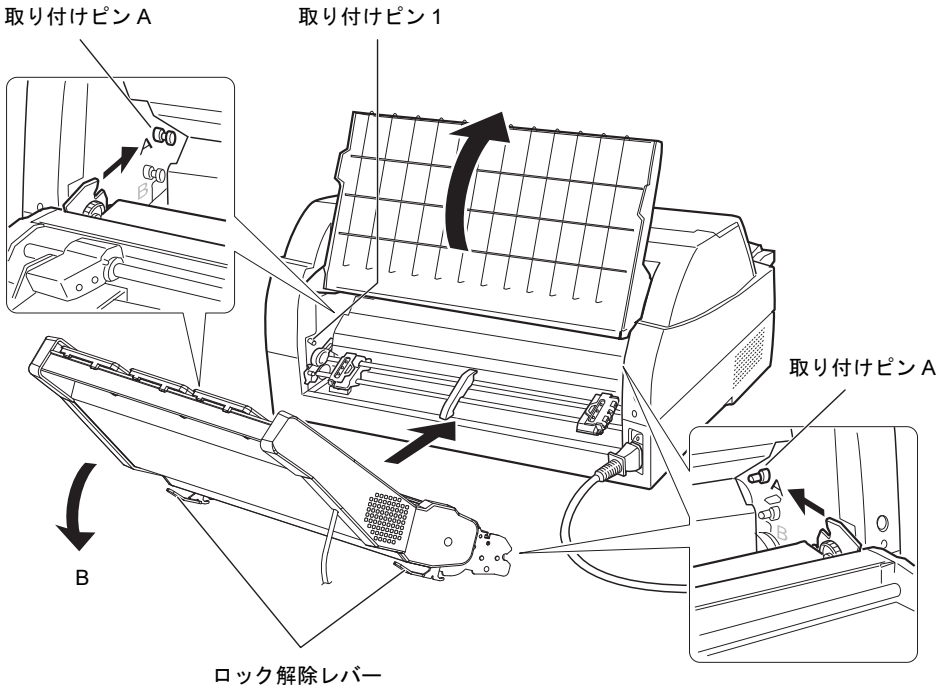
プリンタの電源が「○」側に倒れていることを確認します。

2 カットシートフィーダを取り付ける

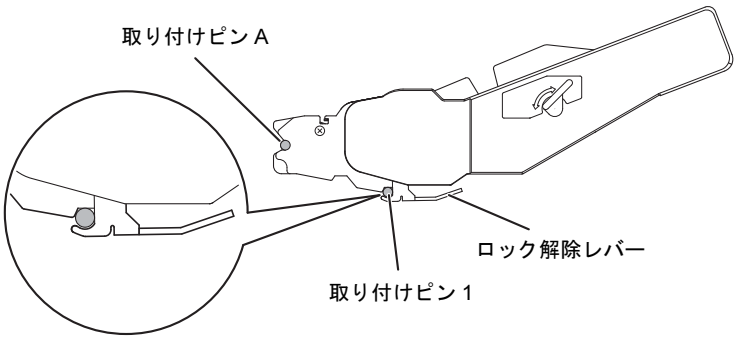
リアスタッカを開きます。

カットシートフィーダの両側のロック解除レバーを押さえて、カットシートフィーダの両側にある U 溝を、プリンタの奥にある取り付けピンに差し込みます。カットシートフィーダの U 溝をプリンタ側の刻印 A に合わせて差し込みます。

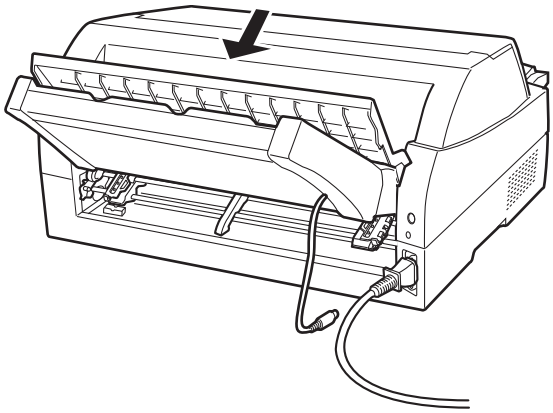
そのまま取り付けピンを支点にして、矢印 B の方向に回転させるように下ろし、両側のロック解除レバーを離します。片側だけ取り付けが正しくできなかった場合は、再度ロック解除レバーを押さえて、いったんカットシートフィーダを取り外してから取り付け直してください。



取り付けピン 1 にカットシートフィーダのロック解除レバーが図のように取り付いていることを確認してください。

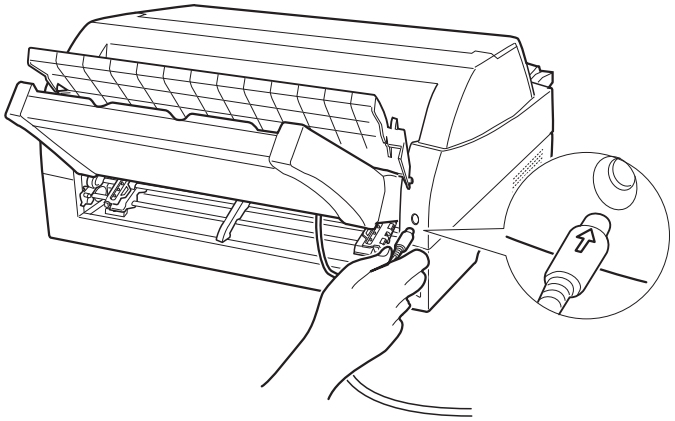


3 リアスタッカを閉じる

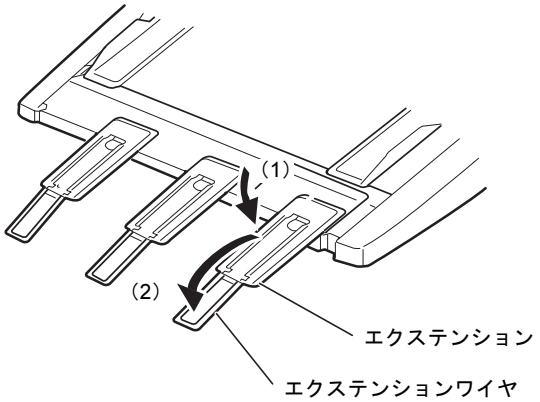


4 ケーブルを接続する

カットシートフィーダのケーブルを、プリンタ後面に向かって右側にあるコネクタに接続します。コネクタの矢印を上にして挿入します。



5 使用する用紙サイズに合わせ、エクステンションおよびエクステンションワイヤを（1）、（2）の順に矢印の方向に展開する

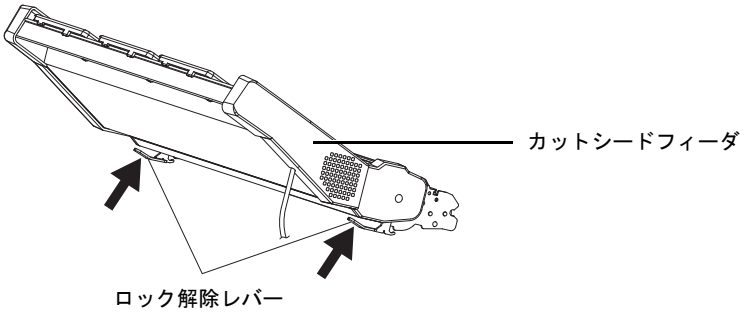


取り外す

1 プリンタの電源を切る

2 カットシートフィーダのケーブルを抜く

3 カットシードフィーダの両側のロック解除レバーを押さえる

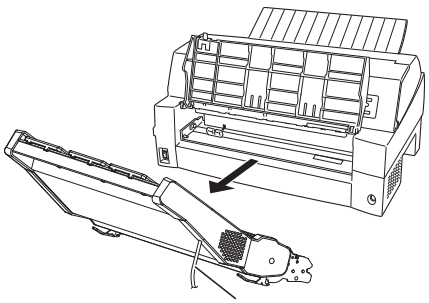


4 カットシートフィーダを取り外す

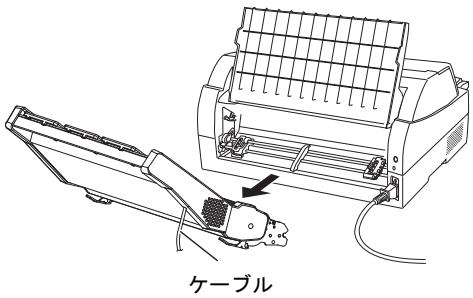
⚠警告

・カットシートフィーダを取り付けたり、取り外したりするときは、必ず本プリンタの電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。感電の原因となります。

■ プリンタ前部に取り付けた場合



■ プリンタ後部に取り付けた場合



POINT

・プリンタ前部のカットシートフィーダを取り外した後に、トラクタユニットを取り付ける方法は、「トラクタユニットの取り付け、取り外し」（→ P.35）をご覧ください。

3 プリンタ LAN カードの取り付け

ご使用方法

オプションのプリンタ LAN カード（FMPR-LN4）をプリンタ側面に取り付けて使用することにより、100BASE-TX/ 10BASE-T のネットワーク環境でのプリンタ共有が可能になります。
LAN カード搭載時は、パラレルインターフェースおよび USB インターフェースとの同時接続はできません。

⚠注意

・プリンタ LAN カードを取り付けたり、取り外したりするときは、必ず電源を切ってください。

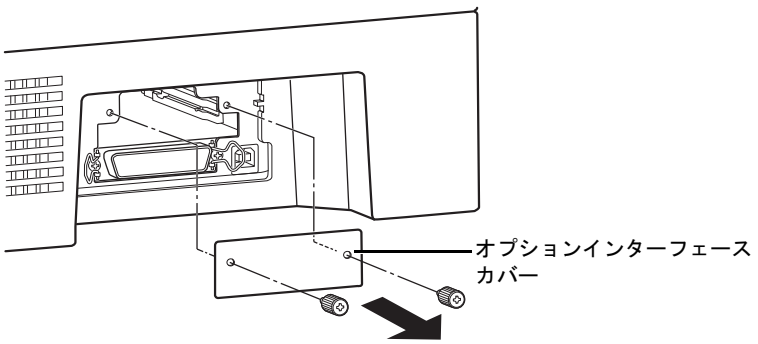
取り付ける

プリンタ LAN カードの搭載は次の手順で行います。なお取り付け後のネットワーク接続については、オプションの LAN カード（FMPR-LN4）に添付の『FMPR-LN4 セットアップガイド』、『ソフトウェアガイド』の「ネットワークを利用したプリンタの接続」をご覧ください。

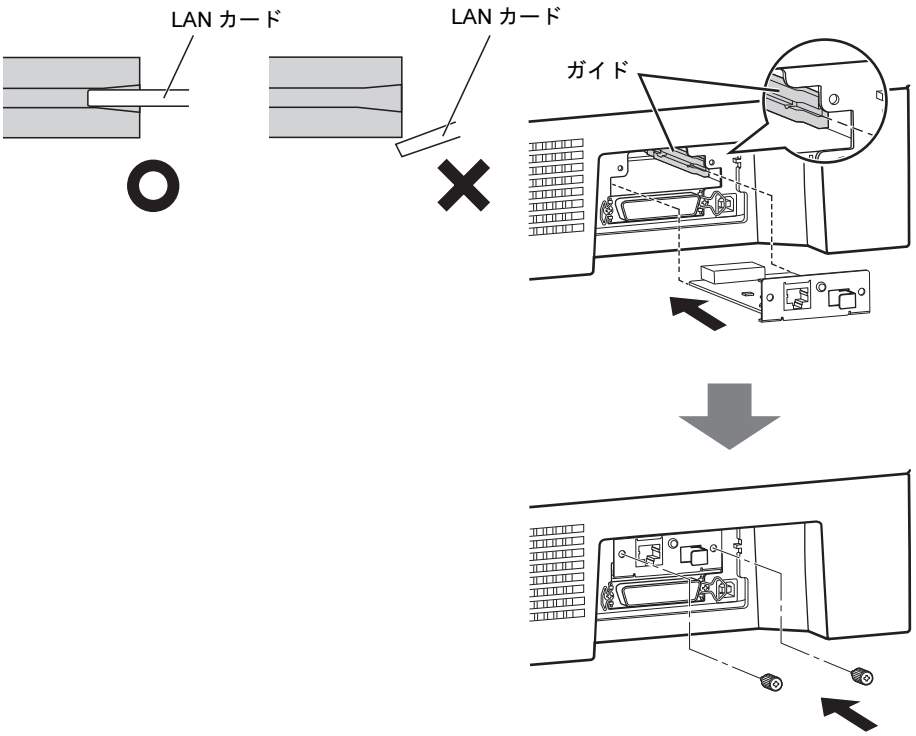
1 プリンタの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く

2 プリンタのオプションインターフェースカバーを外す

取り外したオプションインターフェースカバーは保管しておいてください。



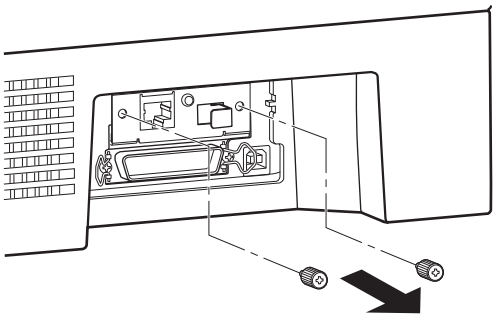
3 取り付け口のガイドに従って、**LAN** カードを差し込み、取り付ける



4 **LAN** カード固定ネジを取り付け、電源コードを差し込む

取り外す

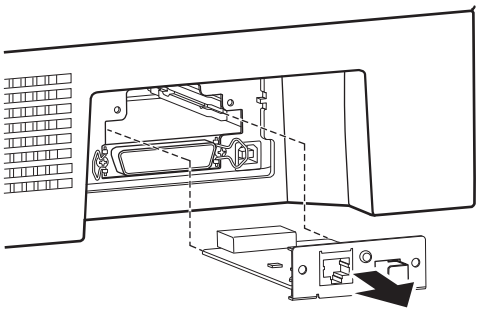
1 プリンタ本体の電源を切り、電源コードを外した後、**LAN** カードの固定ネジを外す



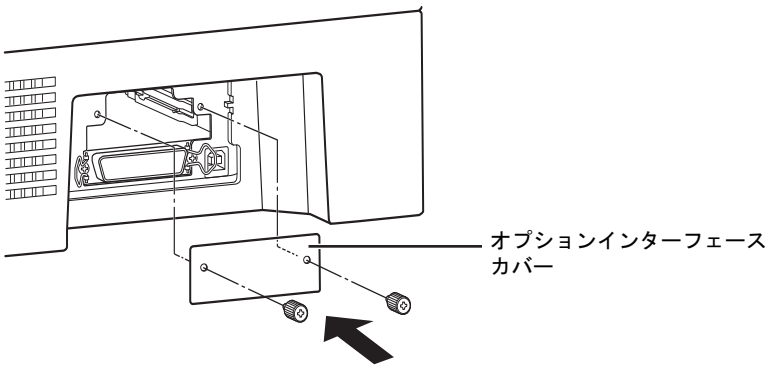
⚠注意

⚠ ・電源が入っている状態で LAN カードを取り外すと、故障の原因になることがあります。

2 ブラケットの中央部を持って LAN カードを取り外す



3 プリンタのオプションインターフェースカバーを取り付ける



4

第 4 章　日常の操作

この章では、本製品を使って印刷するときに必要となる、日常的な操作について説明します。

1　プリンタドライバの設定 66
2　用紙をセットする 71
3　用紙厚を設定する （FMPR5630/FMPR5430 の場合） 96
4　用紙厚を設定する （FMPR5130 の場合） 100
5　用紙について 103
6　用紙使用上のご注意 125
7　とじ穴の開け方 131
8　プレプリント用紙を使用するとき 132
9　用紙の形状について 135
10　用紙の取り扱い上のご注意 136
11　リボンカセットを交換する 138

1 プリンタドライバの設定

ご使用の前にプリンタドライバの設定を行う必要があります。プリンタドライバの設定を行うことで、ほとんどの設定が動作するようになります。
設定方法は『ソフトウェアガイド』の「プリンタドライバの機能と利用方法」をご覧ください。
ここでは、パソコンからプリンタの機能の設定を変更する場合について説明します。

印字の濃度を変える

印字を濃くしたい場合に設定します。この設定を行った場合、印字速度が低下します。

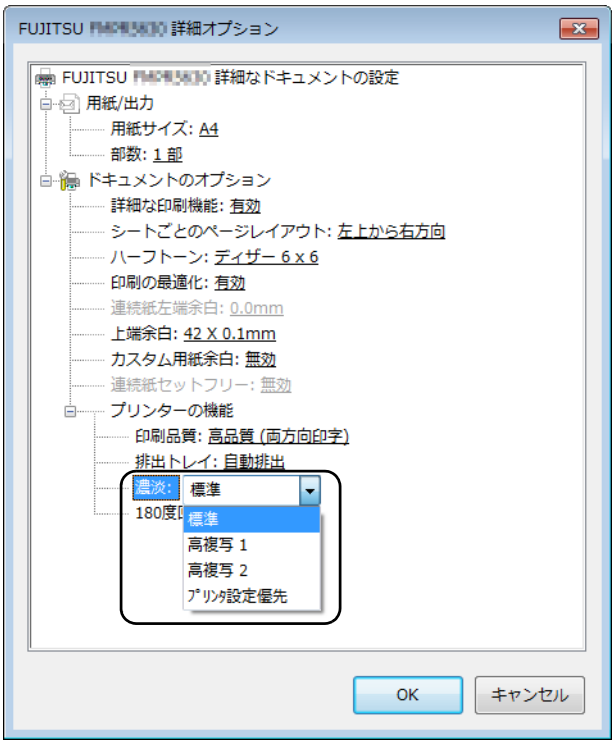
1 コントロールパネルでプリンタアイコンを表示する

詳しくは、「コントロールパネルでプリンタアイコンを表示する方法」(→ P.8) をご覧ください。

2 プリンタアイコンを右クリックし、「プリンターのプロパティ」をクリックする

3 「基本設定」をクリックし、「詳細設定」をクリックする

4 「濃淡」を選択する



設定内容は次のものがあります。

■FMPR5630/FMPR5430 の場合

・標準

通常の印字です。

プリンタドライバの設定が優先します。

・高複写 1

1 回の印字でヘッドピンを用紙に押しつけている時間を長くします。

プリンタドライバの設定が優先します。

・高複写 2

同じデータを 2 回重ねて印字します（2 度打ち）。

プリンタドライバの設定が優先します。

・プリンタ設定優先

プリンタの 高複写 スイッチの設定が有効になります。

■FMPR5130 の場合

・標準

通常の印字です。

プリンタドライバの設定が優先します。

・高複写

1 回の印字でヘッドピンを用紙に押しつけている時間を長くします。

プリンタドライバの設定が優先します。

・プリンタ設定優先

プリンタの 高複写 スイッチの設定が有効になります。

印字速度を変える

印字速度を速くします。

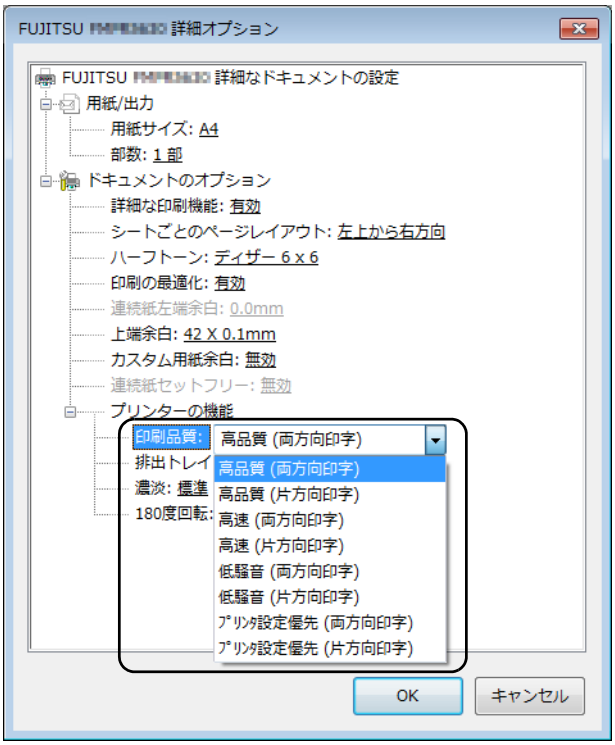
1 コントロールパネルでプリンタアイコンを表示する

詳しくは、「コントロールパネルでプリンタアイコンを表示する方法」（→ P.8）をご覧ください。

2 プリンタアイコンを右クリックし、「プリンターのプロパティ」をクリックする

3 「基本設定」をクリックし、「詳細設定」をクリックする

4 「印刷品質」を選択する



設定内容は次のものがあります。

・高品質
180dpi で印字します。
プリンタドライバの設定が優先します。

・高速
90dpi で印字し速度が倍になります。
プリンタドライバの設定が優先します。

・低騒音
90dpi で通常の速度で印字します。高品質に比べ印字密度が半分になるため音が小さくなります。
プリンタドライバの設定が優先します。

・プリンタ設定優先
プリンタの 印字モード スイッチの設定が有効になります。

・両方向印字
印字ヘッドが左から右へ移動したときと、右から左へ移動するときに印字します。

・片方向印字
印字ヘッドが左から右へ移動するときに印字します。両方向印字に比べ速度は低下します。印字精度は良くなります。

用紙の出力先を変える

単票用紙の出力先を変更できます。

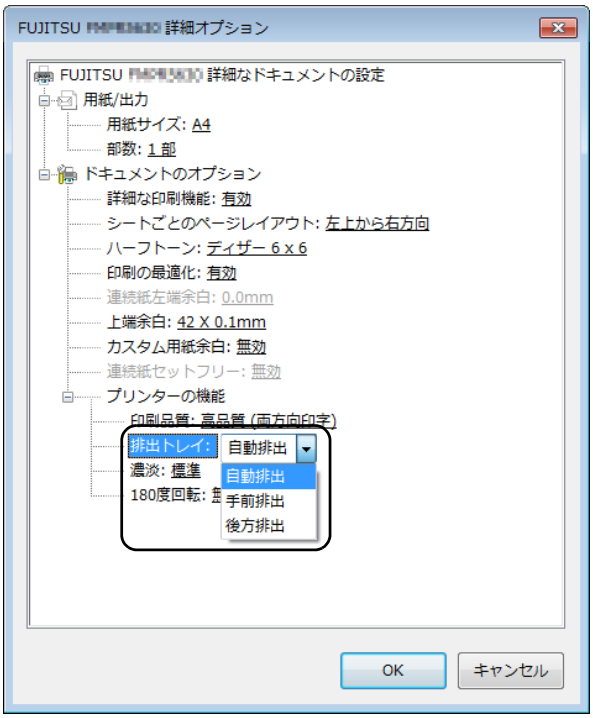
1 コントロールパネルでプリンタアイコンを表示する

詳しくは、「コントロールパネルでプリンタアイコンを表示する方法」（→ P.8）をご覧ください。

2 プリンタアイコンを右クリックし、「プリンターのプロパティ」をクリックする

3 「基本設定」をクリックし、「詳細設定」をクリックする

4 「排出トレイ」を選択する



設定内容は次のものがあります。

・自動排出

プリンタ本体での設定で動作します。

プリンタ本体での初期設定は、給紙口が手差しの場合は「手前排出」、カットシートフィーダの場合は「後方排出」になっています。

・手前排出

手差しテーブルへ排出されます。

窓口業務のように、1 枚を印字後、すぐにお客様へ渡す場合に便利です。

ただし、1 枚を印字後、用紙を取り除かないといけないので、連続印刷はできません。

プリンタドライバの設定が優先します。

・後方排出
リアスタッカへ排出します。連続で印刷できることが利点です。
プリンタドライバの設定が優先します。

その他のプリンタの設定は、「機能設定を変える（FMPR5630/FMPR5430 の場合）」（→ P.160）、「機能設定を変える（FMPR5130 の場合）」（→ P.163）をご覧ください。

2 用紙をセットする

このプリンタでは、連続帳票用紙および単票用紙が使用できます。

POINT

・FMPR5630/FMPR5430 の場合、プリンタの前後にトラクタを搭載しており、同時に 2 種類の連帳用紙をセットできます。

連続帳票用紙をセットする　（前トラクタ給紙の場合）

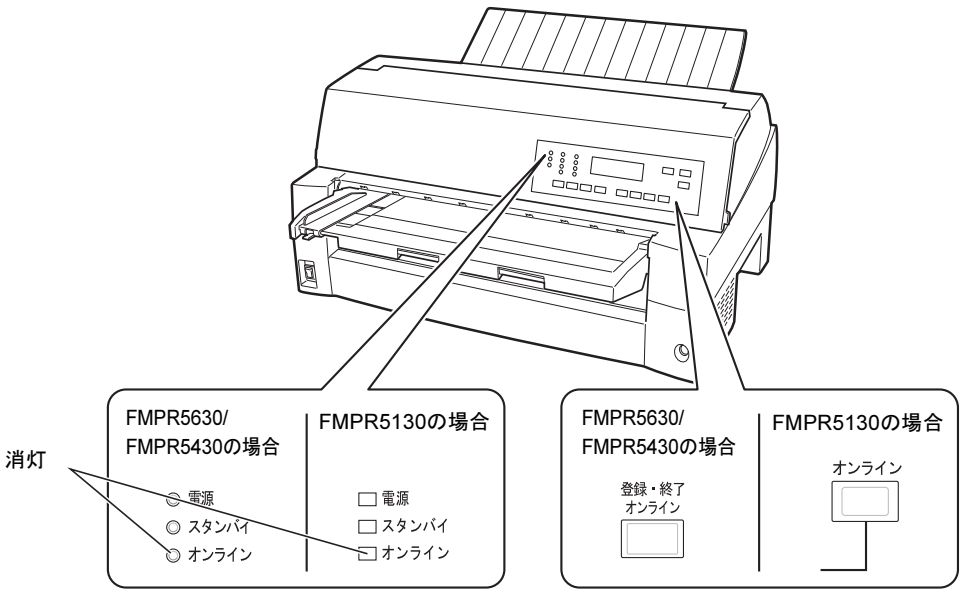
連続帳票用紙のセットは、次の手順で行います。

1 プリンタの電源を入れる

電源スイッチが「｜」側に倒れていることを確認します。

2 オフライン状態にする

オンライン スイッチを押して、プリンタをオフライン状態（「オンライン」ランプ消灯）にします。



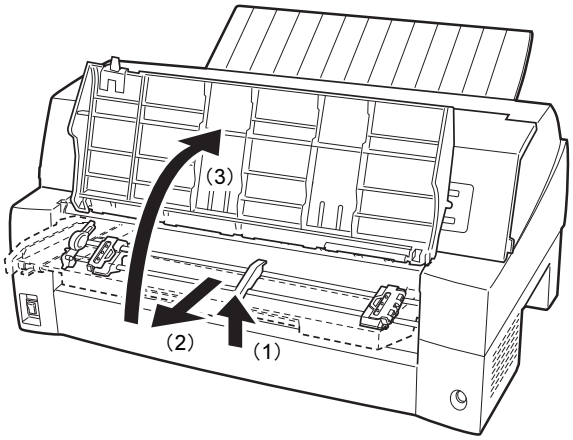
3 液晶ディスプレイに「フロントトラクタ」と表示されるまで 給紙口 スイッチを押して、「前トラクタ」状態にする（FMPR5630/FMPR5430 の場合）または 給紙口 スイッチを押して「前トラクタ」状態にする（FMPR5130 の場合）

Windows ドライバから使用する場合、給紙口はドライバの設定が優先します。設定方法は、『ソフトウェアガイド』の「プリンタドライバの機能と利用方法」をご覧ください。

4 単票テーブルを開く

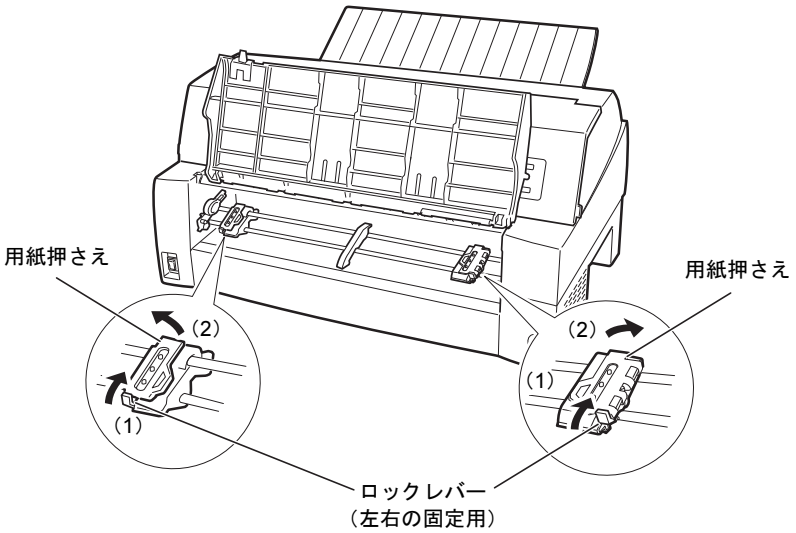
単票テーブルを開くと、単票検知センサーに外乱光が入り誤動作することがあります。電源が入った状態で単票テーブルを開くときには給紙口を「フロントトラクタ（前トラクタ）」に変更してから次の操作を行ってください。

（1）単票テーブルの先端を少し持ち上げ、（2）手前に引いた後、（3）回転させて開きます。



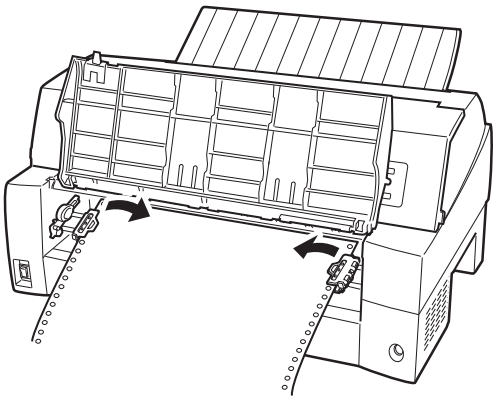
5 用紙送りトラクタのロックを外し、用紙押さえを開く

（1）左右の用紙トラクタにあるロックレバーを、矢印方向に動かして、（2）トラクタが左右に移動できるようにします。次に用紙押さえを開き、用紙をセットできる状態にします。



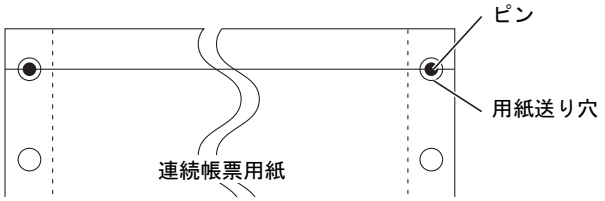
6 用紙送りトラクタに用紙をはさむ

用紙送りトラクタのピンに用紙送り穴を通し、用紙押さえを閉じます。



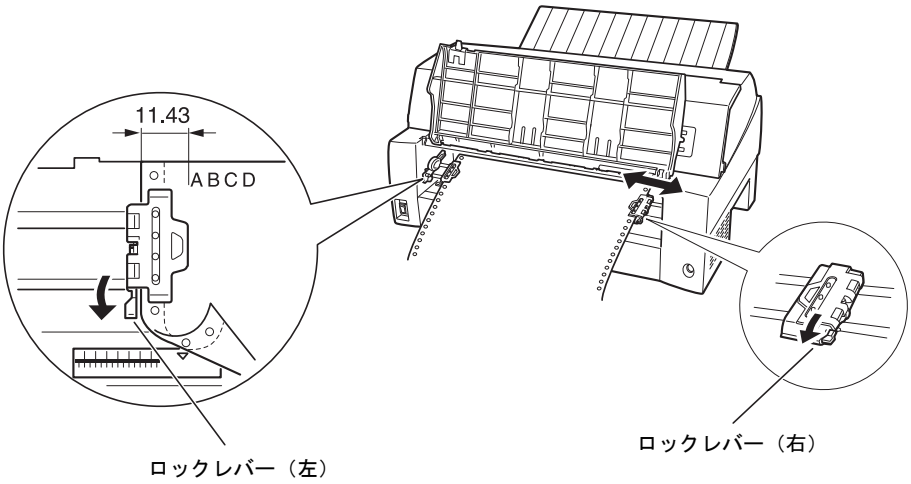
重要

・用紙送りトラクタの用紙押さえを開いたまま単票テーブルを倒さないでください。用紙送りトラクタおよび単票テーブルの破損の原因となります。
・用紙づまりを防ぐために、次の点に注意してください。
  ・用紙を用紙送りトラクタにセットするとき、用紙を張りすぎないように用紙トラクタの幅を調整してください。用紙送りトラクタのピンと用紙の用紙送り穴の中心が一致するようにします。
  ・用紙がたるんでいると、用紙づまりの原因となりますので注意してください。



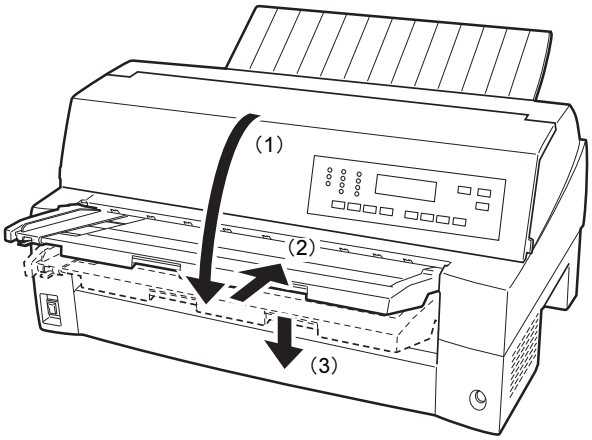
7 左側の用紙送りトラクタを用紙基準位置（桁スケール）に合わせ、ロックレバーを矢印方向に倒して固定してから、右側の用紙送りトラクタを用紙が軽く張るくらい右へ動かし、ロックレバーを矢印方向に倒して固定する

用紙の左端を「0」の位置に合わせると、左端余白が最小 11.43mm（用紙左端からの余白）となり、第 1 ドットが「▽」の位置となります。



8 単票テーブルを倒す

単票テーブルは、（1）下図のように回転させたのち、（2）奥に押し込んで（3）閉じます。



重要

・単票テーブルを上方向に開いたまま連続帳票用紙を吸入させると、用紙づまりを起こす場合があります。必ず、単票テーブルを倒してから用紙を吸入させてください。

9 印字開始位置に用紙をセットする

用紙吸入/排出 スイッチを押します。

用紙が印字開始位置まで送られます。

重要

・単票テーブルに用紙が残ったまま連続帳票用紙を吸入させると、単票テーブルの用紙も同時に吸入してしまう場合があります。連続帳票用紙の使用時には、単票テーブルの上に用紙をセットしないでください。
・用紙吸入時に用紙づまりが発生した場合、次の表示になります。
  ・FMPR5630/FMPR5430 の場合
    オペレータパネルの「メッセージ」ランプが点灯および液晶ディスプレイに下記が表示されます。

    ```
    ｷｭｳｼｼﾞｬﾑ Fﾄﾗｸﾀ
    ﾖｳｼﾔﾄﾘﾉｿﾞｲﾃｸﾀﾞｻｲ
    ```

  ・FMPR5130 の場合
    「用紙切れ」ランプ点灯
    「前トラクタ」ランプ点滅

  用紙づまりが発生した場合は、「用紙づまりと印字中に電源断をしたとき」（→ P.198）をご覧になり、つまった用紙を取り除き、用紙をセットし直してください。

10 オンライン状態にする

オンライン スイッチを押して、プリンタをオンライン状態（「オンライン」ランプ点灯）にし、パソコンからの印字データを送ります。

重要

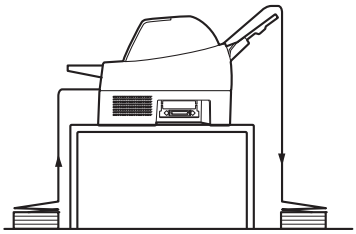
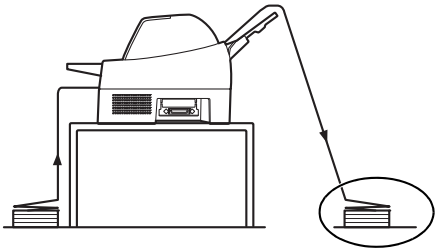
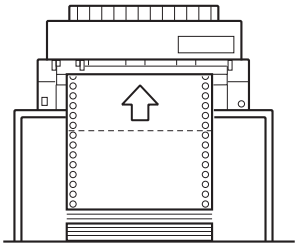
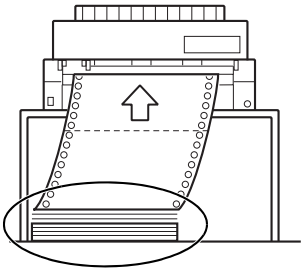
・用紙を排出するには、次の方法があります。
  印字ヘッドがページの先頭印字位置にあるときは、オンライン状態にして
  用紙カット スイッチを押すと、用紙がカット位置まで送られます。
  オフライン状態にして 改ページ スイッチを押します。
  1 回押すたびに 1 ページ分の用紙が送られます。

POINT

・用紙をカット位置まで送っている状態で、パソコンから印字データが送られてくると、用紙を自動的に印字位置（元の位置）に引き込んで印字を行います。印字を行いたくない場合は、「その他の設定（ソノタノセッテイ）」（→ P.182）の「用紙カット戻し（ヨウシカットモドシ）」を「手動（シュドウ）」に設定してください。

■前連続帳票用紙の置き方

連続帳票用紙は、下図（○印）のように置いてください。プリンタから離れすぎていたり、斜めの場所に設置したりすると、正しく用紙が送られないので注意してください。
後カットシートフィーダを搭載している場合は、「プリンタ後部に取り付ける」（→ P.58）の手順 5 の（2）、（1）の順に、エクステンションを収納してください。

	○	×
プリンタ側面		
プリンタ正面	プリンタの用紙出口と、用紙の置く位置のずれをなくしてください。 	用紙を置く位置が下図のようにずれていると正しく用紙が送られない場合がありますので、注意してください。 

重要

- **連続帳票用紙は、連続して逆送りをさせると用紙送りトラクタから外れることがありますので注意してください。**

連続帳票用紙をセットする　（後トラクタ給紙の場合）

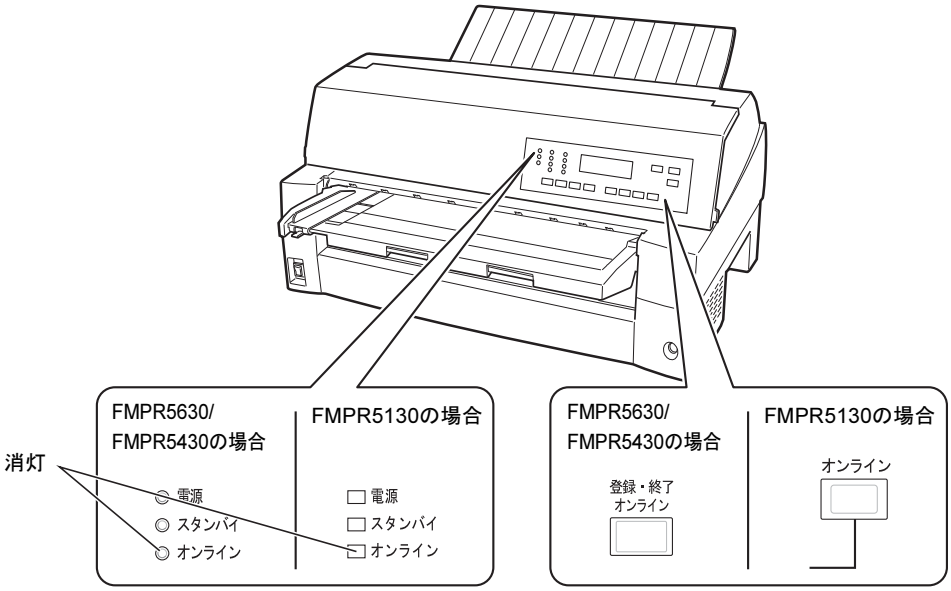
連続帳票用紙のセットは、次の手順で行います。

1 プリンタの電源を入れる

電源スイッチが「｜」側に倒れていることを確認します。

2 オフライン状態にする

オンライン スイッチを押して、プリンタをオフライン状態（「オンライン」ランプ消灯）にします。

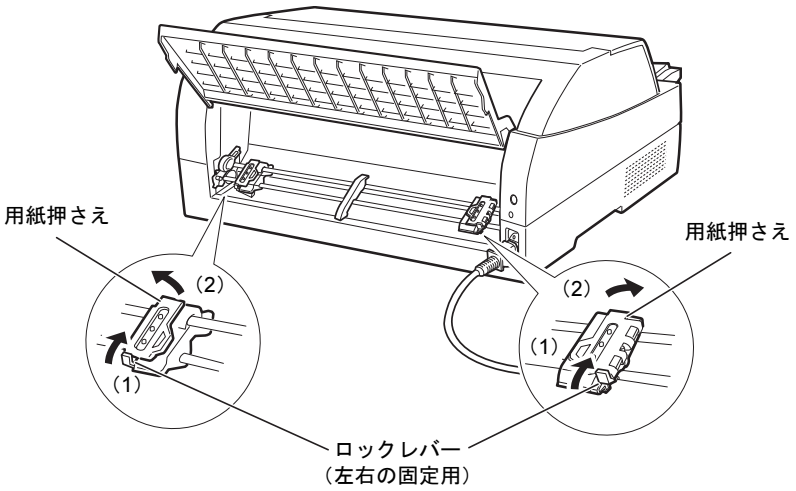


3 液晶ディスプレイに「リアトラクタ」と表示されるまで 給紙口 スイッチを押して、「後トラクタ」状態にする（FMPR5630/FMPR5430 の場合）または 給紙口 スイッチを押して「後トラクタ」状態にする（FMPR5130 の場合）

Windows ドライバから使用する場合、給紙口はドライバの設定が優先します。設定方法は、『ソフトウェアガイド』の「プリンタドライバの機能と利用方法」をご覧ください。

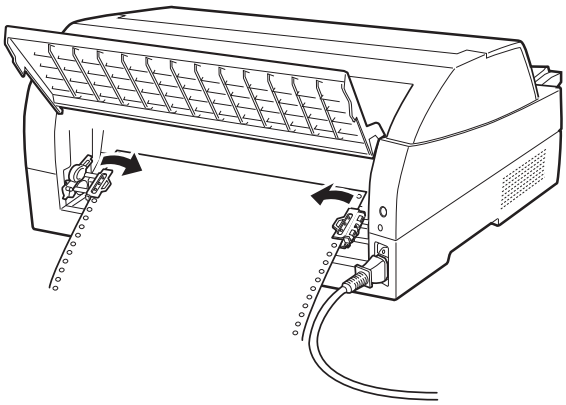
4 用紙送りトラクタのロックを外し、用紙押さえを開きます

(1) 左右の用紙トラクタにあるロックレバーを、矢印方向に動かしてトラクタ左右のロックを外し、(2) 用紙押さえを開きます。



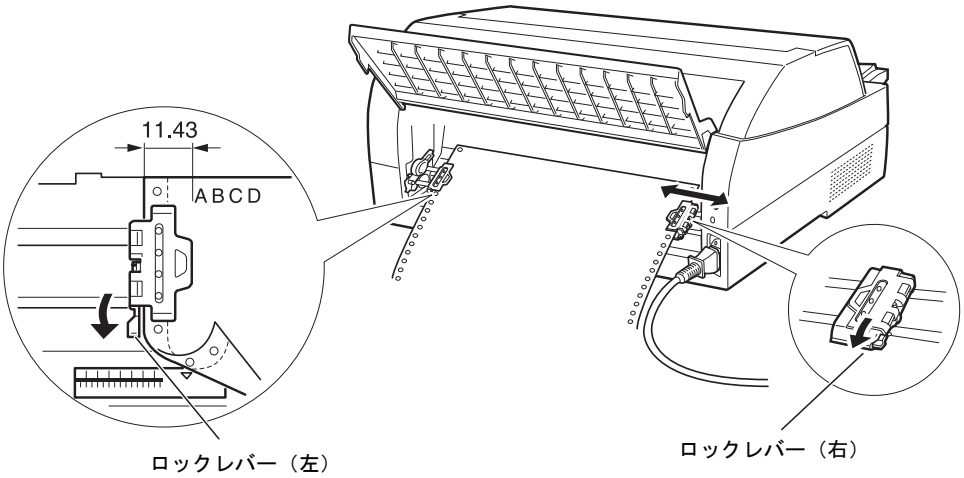
5 用紙送りトラクタに用紙をはさむ

左右の用紙送りトラクタの用紙押さえを開きます。用紙送りトラクタのピンに用紙送り穴を通し、用紙押さえを閉じます。



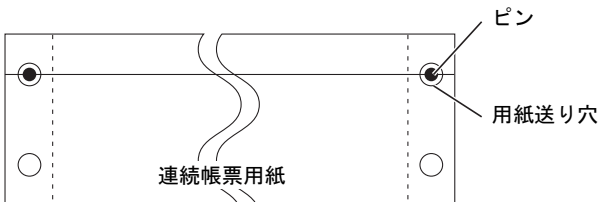
6 左側の用紙送りトラクタを用紙基準位置（桁スケール）に合わせ、ロックレバーを矢印方向に倒して固定してから、右側の用紙送りトラクタを用紙が軽く張るくらい右へ動かし、ロックレバーを矢印の方向に倒して固定する

用紙の左端を「0」の位置に合わせると、左端余白が最小 11.43mm（用紙左端からの余白）となり、第 1 ドットが「▽」の位置となります。



重要

・用紙づまりを防ぐために、次の点に注意してください。
  ・用紙を用紙送りトラクタにセットするとき、用紙を張りすぎないように用紙トラクタの幅を調整してください。用紙送りトラクタのピンと用紙の用紙送り穴の中心が一致するようにします。
  ・用紙がたるんでいると、用紙づまりの原因となりますので注意してください。



7 印字開始位置に用紙をセットする

用紙吸入/排出 スイッチを押します。
用紙が印字開始位置まで送られます。

POINT

・用紙吸入時に用紙づまりが発生した場合、次の表示になります。
　・FMPR5630/FMPR5430 の場合
　　オペレータパネルの「メッセージ」ランプが点灯および液晶ディスプレイに下記が表示されます。

キュウシシﾞャム　Rトラクタ
ヨウシヲトリノゾﾞイテクダサイ

　・FMPR5130 の場合
　　「用紙切れ」ランプ点灯
　　「後トラクタ」ランプ点滅
　用紙づまりが発生した場合は、「用紙づまりと印字中に電源断をしたとき」（→ P.198）をご覧になり、つまった用紙を取り除き、用紙をセットし直してください。

8 オンライン状態にする

オンライン スイッチを押して、プリンタをオンライン状態（「オンライン」ランプ点灯）にし、パソコンからの印字データを送ります。

重要

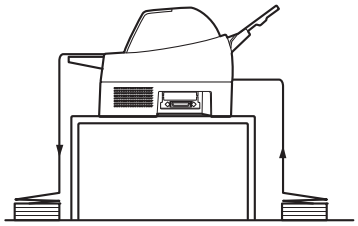
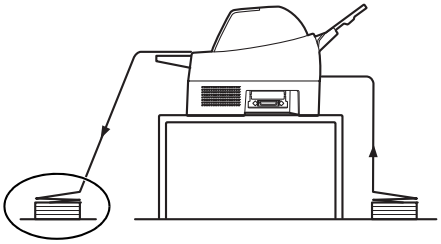
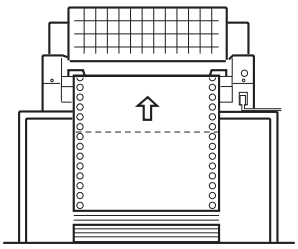
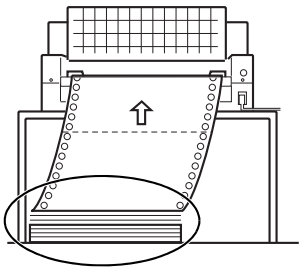
・用紙を排出するには、次の方法があります。
　印字ヘッドがページの先頭印字位置にあるときは、オンライン状態にして
　用紙カット スイッチを押すと、用紙がカット位置まで送られます。詳しくは、「カット位置に送る」（→ P.192）をご覧ください。
　オフライン状態にして 改ページ スイッチを押します。1 回押すたびに 1 ページ分の用紙が送られます。

POINT

・用紙をカット位置まで送っている状態で、パソコンから印字データが送られてくると、用紙を自動的に印字位置（元の位置）に引き込んで印字を行います。印字を行いたくない場合は、「その他の設定（ソノタノセッテイ）」（→ P.182）の「用紙カット戻し（ヨウシカットモドシ）」を「手動（シュドウ）」に設定してください。

■後連続帳票用紙の置き方

連続帳票用紙は、下図（○印）のように置いてください。プリンタから離れすぎていたり、斜めの場所に設置したりすると、正しく用紙が送られないので注意してください。
前カットシートフィーダまたは後カットシートフィーダを搭載している場合は、「プリンタ後部に取り付ける」（→ P.58）の手順 5 の（2）、（1）の順に、エクステンションを収納してください。手差しテーブルのサブガイドは引き出してください。

	○	×
プリンタ側面		
プリンタ背面	プリンタの用紙出口と、用紙の置く位置のずれをなくしてください。 	用紙を置く位置が下図のようにずれていると正しく用紙が送られない場合がありますので、注意してください。 

重要

- **連続帳票用紙は、連続して逆送りをさせると用紙送りトラクタから外れることがありますので注意してください。**

連帳用紙をセットする　（連帳セットフリーオン時）

連帳セットフリー機能を有効にすると、連帳の左端を検出し、横方向の印字位置を自動的に調整し、印字することができます。この機能で使用できる用紙幅は、4 ～ 15 インチです。詳しくは「用紙について」（→ P.103）をご覧ください。15 インチを超える連帳は、印字カットが発生しますので、連帳セットフリー機能を無効にして使用してください。
ここで説明する連帳用紙のセット方法と注意点は、前トラクタ、および後トラクタに共通する内容です。

用紙のセットに関する注意

連帳セットフリー機能を有効にする場合は、次の手順で行います。

1 **「装置機能設定（ソウチキノウセッテイ）」（→ P.169）の「前トラクタセットフリー（F トラクタセットフリー）」または「後トラクタセットフリー（R トラクタセットフリー）」を「有効（ユウコウ）」に設定する**

セットアップ項目の設定方法については、「オペレータパネルの操作」の「操作方法」（→ P.160）をご覧ください。

2 **「装置機能設定（ソウチキノウセッテイ）」（→ P.169）の「前トラクタセットフリー余白（F トラクタセットフリーヨハク）」または「後トラクタセットフリー（R トラクタセットフリーヨハク）」で、印字開始位置を設定する**

セットアップ項目の設定方法については、「オペレータパネルの操作」の「操作方法」（→ P.160）をご覧ください。
なお、ご購入時は、用紙左端より 11.3mm の位置に設定されています。

3 **連帳用紙をセットする**

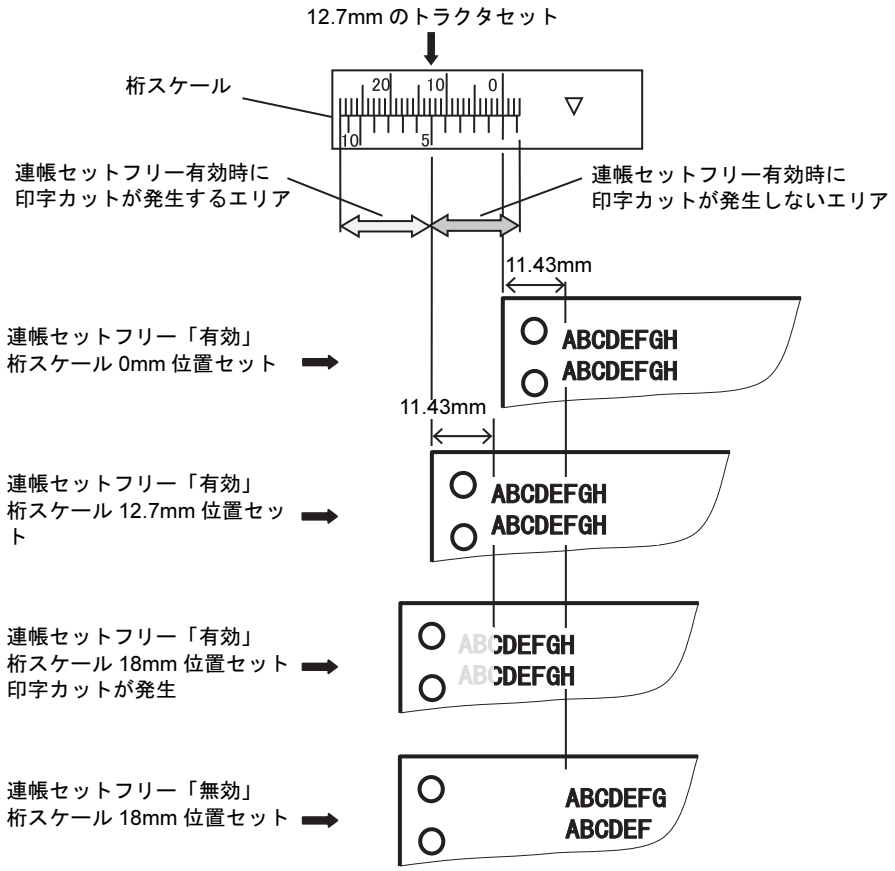
連帳用紙のセット方法については、「連続帳票用紙をセットする（前トラクタ給紙の場合）」（→ P.71）、または「連続帳票用紙をセットする（後トラクタ給紙の場合）」（→ P.77）をご覧ください。

重要

- **印字開始位置を頻繁に変更したいときは連帳セットフリー機能を使わずに、トラクタの位置を調整してください。**

用紙左端位置に関する注意

左側の用紙送りトラクタを用紙基準位置（桁スケール）の 0 ～ 12.7mm の位置に合わせて固定してください。
12.7mm の位置より左側にセットすると、印字データによっては、印字がカットされます。



単票用紙をセットする （単票セットフリーオン時）

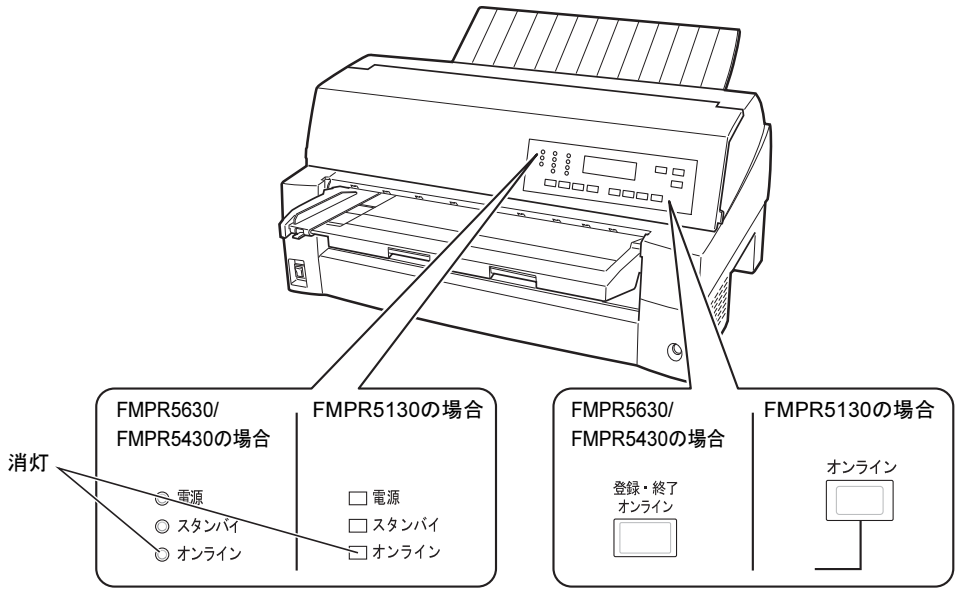
単票セットフリー機能を使用すると、単票テーブルの中央に用紙を差し込むと自動的に吸入されます。なお、単票用紙は 1 枚ずつ差し込んでください。使用できる用紙サイズは、はがき～ B4 横です。詳しくは、「用紙について」（→ P.103）をご覧ください。
単票セットフリーオンで使用できない用紙は単票セットフリーオフにして使用してください。詳しくは、「単票用紙をセットする（単票セットフリーオフ時）」（→ P.87）をご覧ください。

1 プリンタの電源を入れる

電源スイッチが「｜」側に倒れていることを確認します。

2 オフライン状態にする

オンライン スイッチを押して、プリンタをオフライン状態（「オンライン」ランプ消灯）にします。



3 「単票セットフリー」ランプが点灯していることを確認する

消灯している場合は 単票セットフリー スイッチを 1 回押してください。

4 液晶ディスプレイに「テサシ」と表示されるまで 給紙口 スイッチを押して、「単票手差し」状態にする（FMPR5630/FMPR5430 の場合）または 給紙口 スイッチを押して「単票手差し」状態にする（FMPR5130 の場合）

このとき連続帳票用紙が吸入されたままの場合は、連続帳票用紙の退避動作を行ってから、単票用紙に切り替わります。

Windows ドライバから使用する場合、給紙口はドライバの設定が優先します。設定方法は、『ソフトウェアガイド』の「プリンタドライバの機能と利用方法」をご覧ください。

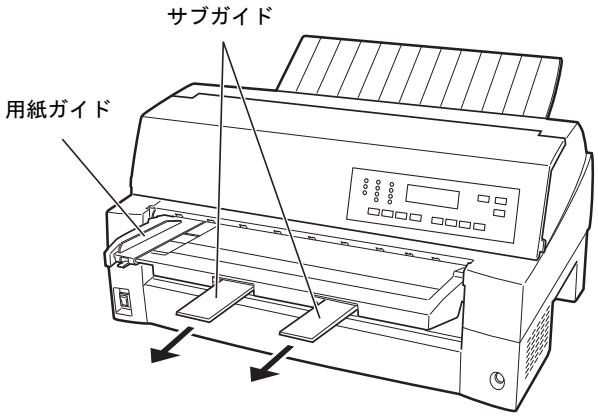
重要

- **連続帳票用紙の退避動作が終了する前に単票テーブルに用紙をセットすると、「単票手差し」状態に切り替わらない場合があります。**
  連続帳票用紙の退避動作が終了し、「単票手差し」状態に切り替わった後に単票をセットするようにしてください。

5 用紙ガイドを単票テーブルの左側に移動させる

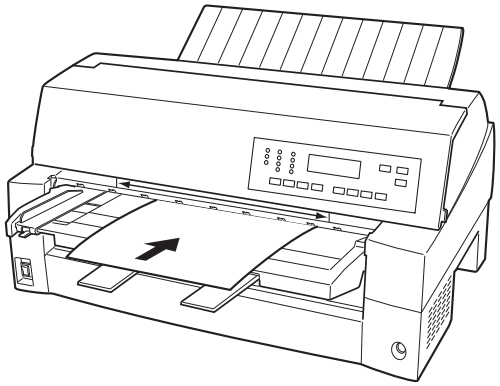
用紙ガイドを使用しないときは、ロックレバーは外し、単票テーブルの左端に突き当たるまで寄せて、ロックレバーを下側に倒してロックしてください。

6 用紙サイズに応じてサブガイドを引き出す



7 用紙をセットする

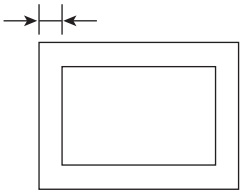
印字する面を上にし、「単票セットフリー」の用紙セット範囲に単票用紙を 1 枚ずつ差し込むと、自動的に吸入されます。



重要

・「装置機能設定（ソウチキノウセッテイ）」（→ P.169）で「オートローディング（オートローディング）」を「無効（ムコウ）」に設定している場合は、自動的に吸入されませんので、オフラインにしてから、用紙吸入/排出 スイッチで用紙を吸入してください。
印字開始位置は、「余白量設定（ヨハクリョウセッテイ）」（→ P.172）の左端余白量に従います。ご購入時は、用紙左端より 5.08mm の位置になります。

5.08mm



・印字開始位置を帳票に合わせて細かく設定したい場合は、単票セットフリーをオフにして用紙ガイドで調整してください。

8 オンライン状態にする

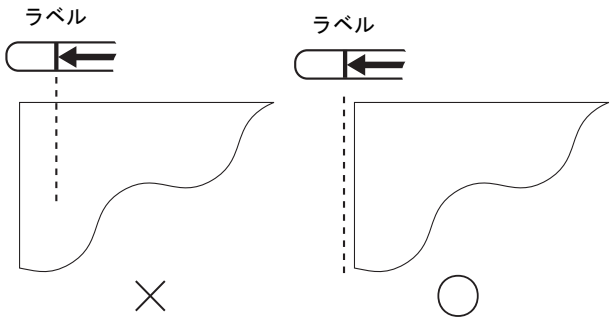
オンライン スイッチを押して、プリンタをオンライン状態（「オンライン」ランプ点灯）にし、パソコンから印字データを送ります。

重要

・「その他の設定」（→ P.182）で「単票自動オンライン（テサシジドウオンライン）」を「有効（ユウコウ）」に設定されている場合は、自動的にオンライン状態になります。

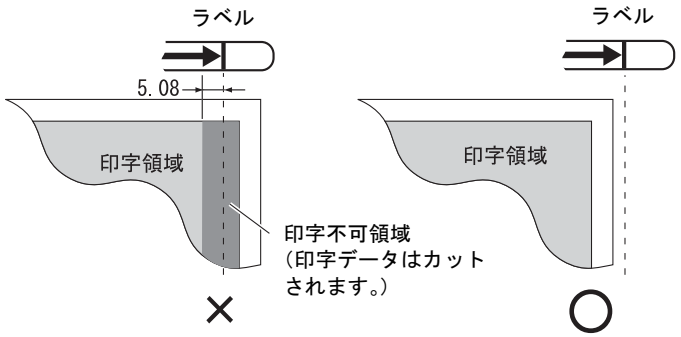
用紙左端位置に関する注意

プリンタのラベル ◀━ 部（「単票セットフリー」の用紙セット範囲）に対して、用紙の左端を下記の × で示す位置にセットした場合、用紙は吸入後排出されます。○で示す位置にセットしてください。



用紙右端位置に関する注意

プリンタのラベル ━▶ 部（「単票セットフリー」の用紙セット範囲）に対して、用紙の右端を下記の × で示す位置にセットした場合、用紙は吸入後排出されます。○で示す位置にセットしてください。



用紙に関するご注意

- 用紙の先端や先端のコーナー部に折れや曲がりがあると、うまく吸入できないことがあります。折れや曲がりのない用紙を使用してください。
- 単票セットフリーで使用できる用紙は次のサイズです。
  - 用紙幅

    100mm 以上

    用紙をセットできる範囲は 368mm です。この範囲にセットできる用紙をお使いください。
  - 用紙長さ

    70 ～ 364mm

  詳しくは、「用紙について」（→ P.103）をご覧ください。
- 束のりとじの単票は、とじ部分が分離しやすくジャムが発生するので、使用を避けてください。

  束のりとじとは、単票の厚み部分だけでのりとじを行っているものです。
- 単票セットフリーで、宅配便伝票などの連続帳票用紙を 1 枚ずつ手で切ってご使用になる場合は、用紙先端のカールなどにより、うまく吸入できないことがあります。

  用紙のカールなどを取り除いてからご使用ください。

単票用紙をセットする （単票セットフリーオフ時）

単票セットフリーオフ時の単票用紙のセットについて次に示します。
単票用紙は 1 枚ずつセットしてください。また、連続帳票用紙をセットしたままでもセットできます。
単票用紙のセットは、次の手順で行います。

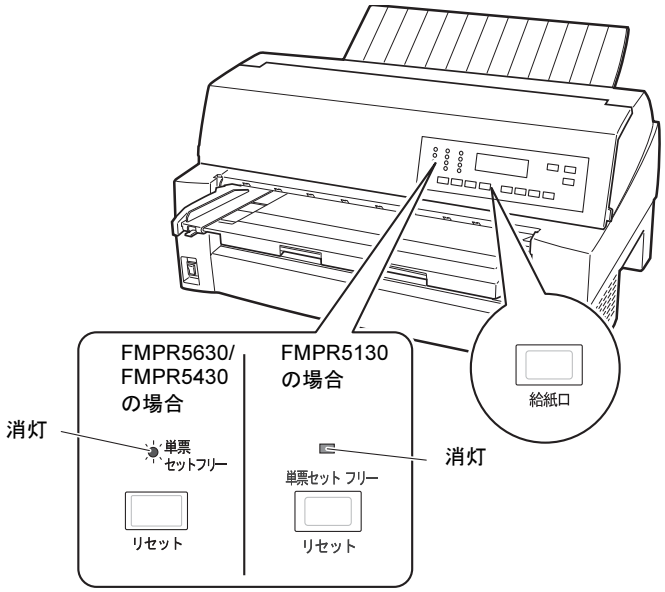
1 プリンタの電源を入れる

電源スイッチが「｜」側に倒れていることを確認します。

2 オフライン状態にする

オンライン スイッチを押して、プリンタをオフライン状態（「オンライン」ランプ消灯）にします。

3 単票セットフリー スイッチを押して「単票セットフリー」ランプを消灯させる



4 液晶ディスプレイに「テサシ」と表示されるまで 給紙口 スイッチを押して、「単票手差し」状態にする（FMPR5630/FMPR5430 の場合）または 給紙口 スイッチを押して「単票手差し」状態にする（FMPR5130 の場合）

このとき連続帳票用紙が吸入されたままの場合は、連続帳票用紙の退避動作を行ってから、単票用紙に切り替わります。

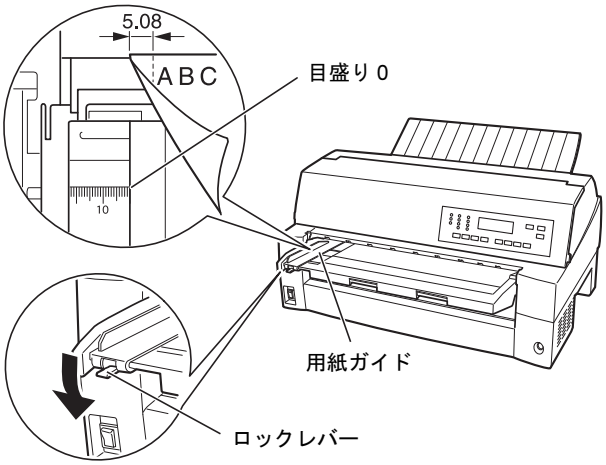
Windows ドライバから使用する場合、給紙口はドライバの設定が優先します。設定方法は、『ソフトウェアガイド』の「印字位置が行方向にずれているとき」をご覧ください。

重要

・連続帳票用紙の退避動作が終了する前に単票テーブルに用紙をセットすると、「単票手差し」状態に切り替わらない場合があります。
連続帳票用紙の退避動作が終了し、「単票手差し」状態に切り替わった後に単票をセットするようにしてください。

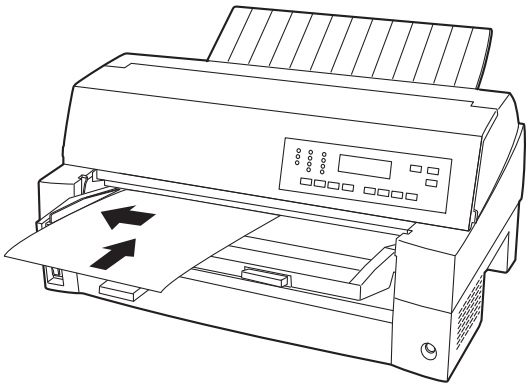
5 印字開始位置に合わせて用紙ガイドを移動する

用紙ガイドの左端を単票テーブルの目盛り 0（mm）の位置にして、ロックレバーを下側に倒してロックします。第 1 ドット目が用紙の左端より 5.08mm の位置に印字します。
目盛り（0）より右に用紙ガイドをセットした場合は印字の左端が欠ける場合があります。



6 単票用紙をセットする

印字する面を上にし、単票用紙の左端を必ず用紙ガイドに当てて、1 枚ずつ差し込みます。
用紙が奥に軽く突き当たるまで、まっすぐに差し込んでください。
用紙が自動的に印字開始位置まで送られます。



重要

- 「装置機能設定（ソウチキノウセッテイ）」（→ P.169）で「オートローディング（オートローディング）」を「無効（ムコウ）」に設定している場合は、用紙吸入/排出 スイッチを押して用紙をセットしてください。
- 幅の狭い媒体（100mm 未満の媒体）をセットする場合は、用紙ガイドを目盛り 0（mm）の位置に合わせます。
- 用紙ガイドは目盛り 0（mm）の位置より右側にしないでください。
- A3 用紙の場合は、用紙ガイドを目盛り 28（mm）よりも左側へ移動して用紙をセットしてください。

7 オンライン スイッチを押し、オンライン状態（「オンライン」ランプ点灯）にしてパソコンから印字データを送る

送られた用紙がまっすぐセットされなかった場合は、オンライン状態にする前に 用紙吸入/排出 スイッチを押し、いったん単票用紙を排出してから再度セットしてください。

重要

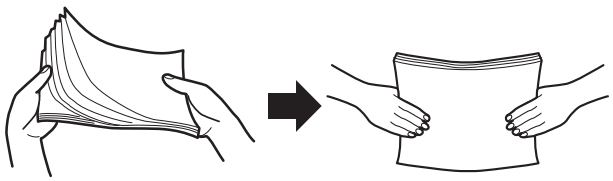
・「その他の設定（ソノタノセッテイ）」（→ P.182）で「単票自動オンライン（テサシジドウオンライン）」を「有効（ユウコウ）」に設定されている場合は、自動的にオンライン状態になり、印字を開始します。

単票用紙をセットする（カットシートフィーダを取り付けた場合）

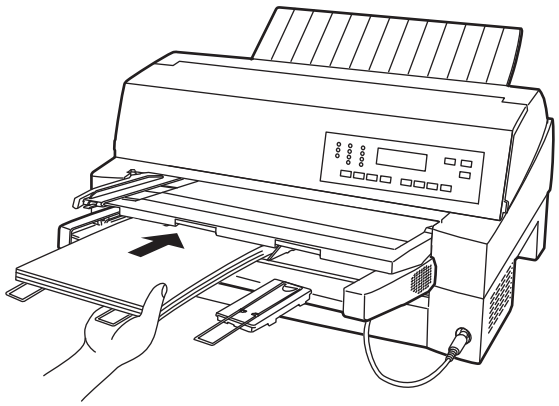
カットシートフィーダをプリンタに取り付けた場合に用紙をセットする方法について説明します。
カットシートフィーダの取り付けについては、「カットシートフィーダの取り付け、取り外し」（→ P.54）をご覧ください。

POINT

・セットするときは、図のように用紙をさばき、机の上などで用紙の上下、左右をきちんと揃えてください。



・用紙はカールを取り除いたうえでセットしてください。
用紙は、湿度などの影響でカールしていることがあります。カールした用紙を補充する場合や別梱包の用紙を合わせてセットする場合、カールを取り除いてセットしてください。



・紙質は同一種類のものをセットしてください。
銘柄や連量（紙厚）などが異なるものをいっしょにしてセットしないでください。

1 プリンタの電源を入れる

電源スイッチが「｜」側に倒れていることを確認します。

2 オフライン状態にする

オンライン スイッチを押して、プリンタをオフライン状態（「オンライン」ランプ消灯）にします。

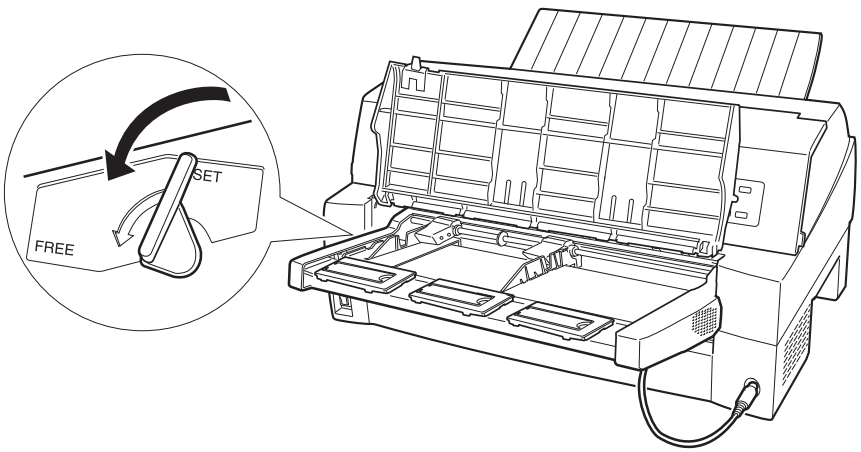
3 液晶ディスプレイ上にカットシートフィーダが表示されるまで 給紙口 スイッチを押す（FMPR5630/FMPR5430 の場合）または 給紙口 スイッチを押して「カットシートフィーダ」ランプ点灯状態にする（FMPR5130 の場合）

パソコンから印刷する場合は、プリンタドライバに設定された給紙口に切り替わります。

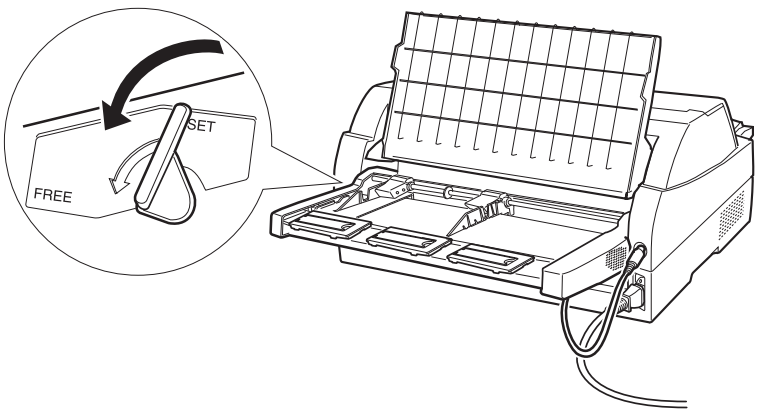
4 カットシートフィーダが、プリンタ前部に取り付けられている場合は単票テーブル（→ P.32）を、プリンタ後部に取り付けられている場合はリアスタッカを開く

5 カットシートフィーダのセットレバーを「FREE」の位置にする

■カットシートフィーダがプリンタ前部に取り付けられている場合



■カットシートフィーダがプリンタ後部に取り付けられている場合



6 用紙ガイドに沿って用紙を載せる

用紙を揃え、左側の用紙ガイドに沿って用紙を載せます。左側の用紙ガイドの赤線が、一度にセットできる用紙の高さを示します。

重要

- 左側の用紙ガイドは通常の場合、「▽」の位置（最も内側）に寄せてご使用ください。
- A3 用紙を横にセットするときは、「←」の位置に用紙ガイドを移動してください。

POINT

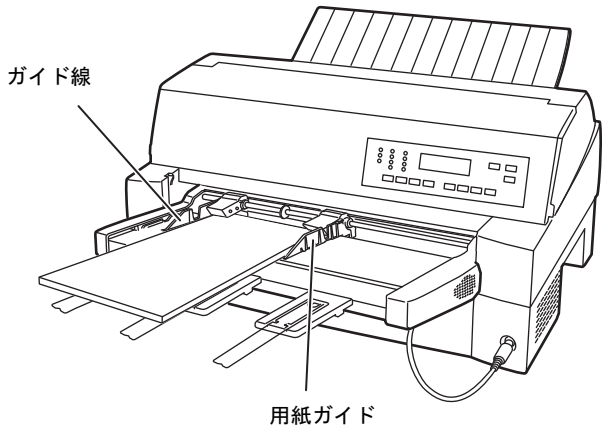
- 55kg 紙の場合、総枚数が 120 枚となります。

7 長い用紙をセットする場合は、エクステンション、エクステンションワイヤを展開する

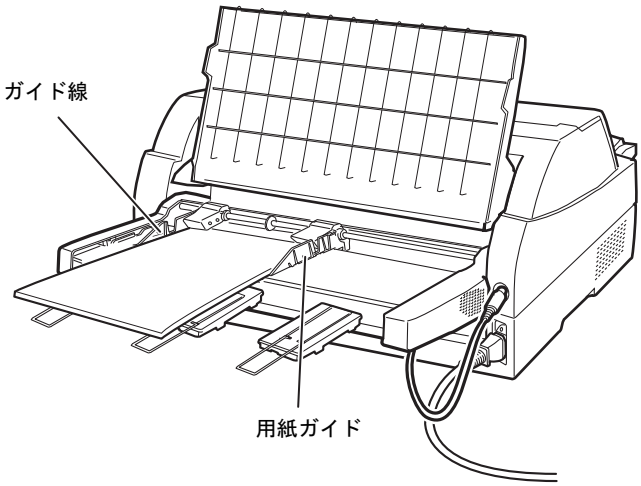
詳しくは、「カットシートフィーダの取り付け、取り外し」（→ P.54）をご覧ください。

8 右側用紙ガイドの位置を、セットする用紙に合わせる

■カットシートフィーダがプリンタ前部に取り付けられている場合



■カットシートフィーダがプリンタ後部に取り付けられている場合



POINT

・用紙と用紙ガイドとの間にすきまがある場合は、用紙が斜めに吸入されます。右側用紙ガイドを左へ動かしてすきま（0.5mm 程度）を小さくしてください。なお、ガイドを用紙に押しつけすぎますと、吸入不良を起こすことがありますのでご注意ください。

9 カットシートフィーダのセットレバーを「SET」の位置に戻し、単票テーブル、リアスタッカを元に戻す

10 オンライン状態にする

オンライン スイッチを押して、プリンタをオンライン状態（「オンライン」ランプ点灯）にし、パソコンからの印字データを送ります。

重要

・リアスタッカへ印字後の用紙をスタックしすぎると用紙づまりなどが発生します。スタック可能枚数は 120 枚（上紙 55kg 用紙でカットシートフィーダにセット可能な枚数）を目安に適度に取り除いてください。

単票用紙をセットする （CSF セットフリーオン時）

CSF セットフリー機能を有効にすると、単票の左端を検出し、横方向の印字位置を自動的に調整し、印字することができます。この機能で使用できる用紙幅は、100 ～ 364mm（B4 の長手方向）です。詳しくは「用紙について」（→ P.103）をご覧ください。364mm を超える単票は、印字カットが発生しますので、CSF セットフリー機能を無効にして使用してください。

ここで説明するカットシートフィーダへの用紙のセット方法と注意点は、フロントカットシートフィーダおよびリアカットシートフィーダに共通する内容です。

用紙のセットに関する注意

CSF セットフリー機能を有効にする場合は、次の手順で行います。

1 **「装置機能設定（ソウチキノウセッテイ）」（→ P.169）の「前 CSF セットフリー（FCSF セットフリー）」または「後 CSF セットフリー（RCSF セットフリー）」を「有効（ユウコウ）」に設定する**

セットアップ項目の設定方法については、「オペレータパネルの操作」の「操作方法」（→ P.160）をご覧ください。

2 **「余白量設定（ヨハクリョウセッテイ）」（→ P.172）の「前 CSF セットフリー余白量（FCSF セットフリーヨハク）」または「後 CSF セットフリー余白量（RCSF セットフリーヨハク）」で、印字開始位置を設定する**

セットアップ項目の設定方法については、「オペレータパネルの操作」の「操作方法」（→ P.160）をご覧ください。

なお、ご購入時は、用紙左端より 5.08mm の位置に設定されています。

3 **単票用紙をセットする**

単票用紙のセット方法については、「単票用紙をセットする（カットシートフィーダを取り付けた場合）」（→ P.90）をご覧ください。

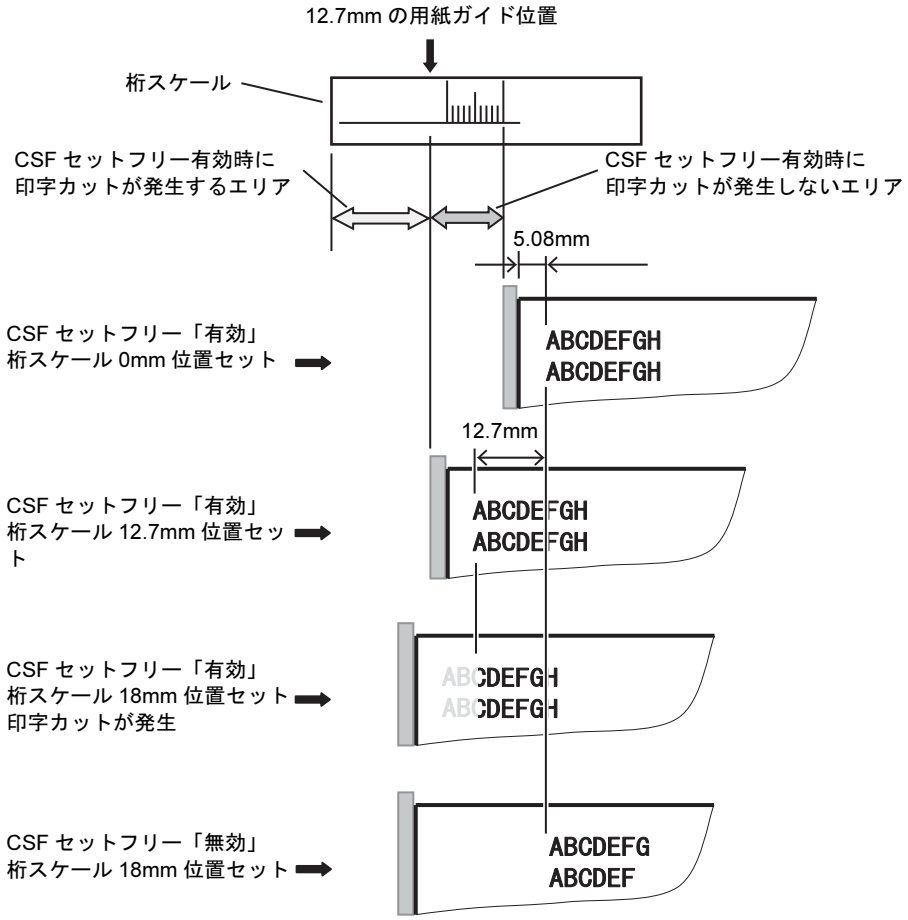
重要

- 印字開始位置を頻繁に変更したいときは、CSF セットフリー機能を使わず用紙ガイドの位置で調整してください。

用紙左端位置に関する注意

左側の用紙ガイドを用紙基準位置（桁スケール）の 0 ～ 12.7mm の位置に合わせて固定してください。

12.7mm の位置より左側にセットすると、印字データによっては印字がカットされます。



3 用紙厚を設定する（FMPR5630/FMPR5430 の場合）

用紙厚の設定とは、印字ヘッドとプラテンの間隔を使用する用紙の厚みに合わせることです。
本プリンタは、使用する用紙の厚さ、枚数に応じて自動的に印字ヘッドの位置を上下に調整する自動紙厚調整機能を装備しており、通常は紙厚設定の必要はありません。自動紙厚調整機能で用紙がかすれたり、汚れたりしたときに、次の手順で用紙厚を設定してください。

ドライバのプロパティで設定する

1 コントロールパネルでプリンタアイコンを表示する

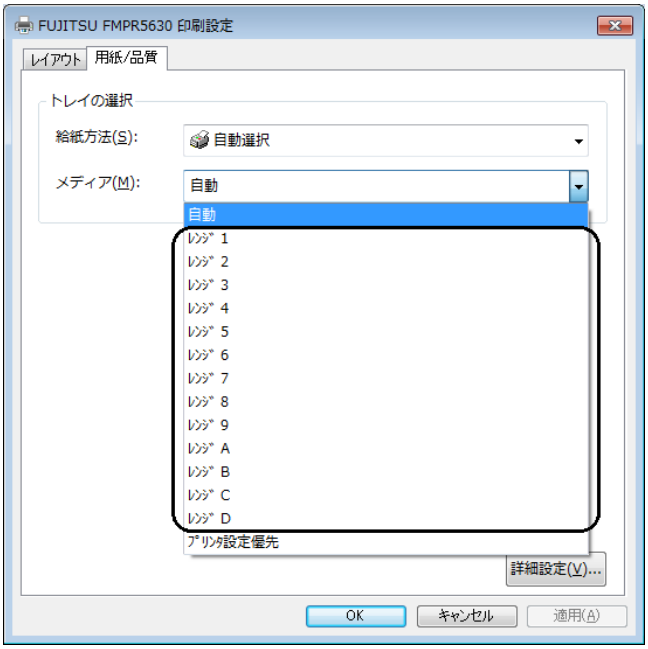
詳しくは、「コントロールパネルでプリンタアイコンを表示する方法」（→ P.8）をご覧ください。

2 プリンタアイコンを右クリックし、「プリンターのプロパティ」をクリックする

3 「基本設定」をクリックし、「用紙／品質」タブをクリックする

4 「メディア」から「レンジ 1」～「レンジ D」を選択する

用紙厚設定のレンジが「レンジ 1」のとき、印字ヘッドとプラテンの間隔は最も狭くなり、「レンジ D」のとき最も広くなります。



POINT

・プリンタ側の設定で、用紙厚さ調整が「オート」になっているときに、ドライバの設定が有効となります。プリンタ側で「オート」以外に設定されているときは、ドライバの設定は無視し、プリンタ側の用紙厚調整の設定値に従います。

プリンタで設定する

1 オフライン状態にして メニュー スイッチを押す

メニューモードになります。

2 ◁スイッチまたは▷スイッチを押して「ソウチキノウセッテイ」を表示させる

3 ▽スイッチを押して、下のレベルに移動する

4 ◁スイッチまたは▷スイッチを押して「カミアツチョウセイ」を表示させる

5 ▽スイッチを押して、下のレベルに移動する

6 ◁スイッチまたは▷スイッチを押してレンジ「1」～「D」を選択する

オペレータパネルから用紙厚を調整するときは、「紙厚調整モードを切り替える」（→ P.157）をご覧ください。

オペレータパネルの紙厚調整のレンジが「1」のとき、印字ヘッドとプラテンの間隔は最も狭くなり、「D」のとき最も広くなります。

7 メニュースイッチを押す

設定値の先頭に「*」が表示され、その値が設定されます。

8 登録・終了スイッチを押し設定登録メニューを表示させる

```
▲:  セッテイトウロク
▼:  セッテイトリケシ
```

9 △スイッチを押して設定を登録する

△スイッチを押すと、設定した内容で登録します。

これを実行しないとここまで設定した内容は保存されません。

▽スイッチを押すと、設定した内容が取り消しになります。

POINT

・プリンタドライバのメディアの設定が「プリンタ設定優先」のときは、プリンタ側の設定が有効になります。

用紙厚さとレンジについて

用紙の種類と厚さ			レンジ											
1 枚紙	複写紙	推奨厚さ（mm）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D
連量 45 ～ 70kg	—	0.08	○												
連量 70 ～ 110kg	一般的な 2P	0.13		○											
連量 110 ～ 135kg	一般的な 3P	0.18			○										
はがき 各種封筒 特殊紙など	一般的な 4P	0.23				○									
	一般的な 5P	0.28					○								
	一般的な 6P	0.33						○							
	一般的な 7P	0.38							○						
	一般的な 8P	0.43								○					
	一般的な 9P	0.48									○				
	各種宅配伝票 （ゆうパックなど）	0.53										○			
		0.58											○		
		0.63												○	
		0.68													○

重要

手動でお使いになる場合は、用紙の厚さに対して次の目安に沿って手動紙厚調整レンジをセットしてください。
手動紙厚調整は数字 1 ～ 9、英字 A ～ D の 13 段階あり、オペレータパネルによりレンジ 1 から 1 レンジ増すごとに約 0.05mm 単位でプラテンと印字ヘッドの間隔が広くなります。およその目安として 1 ～ 2 の設定で 1 枚、1 レンジ増すごとに用紙 1 枚分間隔が広くなります。
使用する用紙の複写枚数、厚さに応じて適切な印字品質となるように手動紙厚調整レンジを設定してください。
使用する用紙に対して、手動紙厚調整レンジが適切でないときは、次のような現象が起こることがあります。

- 用紙厚に対して手動紙厚調整レンジの設定が広すぎるとき
  - 印字抜けが生じることがあります。
  - 印字ヘッドの故障の原因になることがあります。
- 用紙厚に対して手動紙厚調整レンジの設定が狭すぎるとき
  - 印字中にリボンが外れたり、たるんだりして印字ヘッドの故障の原因になることがあります。
  - 用紙の端面が切れたり、しわになったりすることがあります。
  - リボンによって用紙が汚れることがあります。
  - 用紙の送りが悪くなることがあります。
  - キャリッジが正常に動かなくなることがあります。

紙厚調整の動作タイミングについて

- 紙厚調整がオートのとき
  印字動作を開始するときに、自動的に用紙厚が調整されます。
- 紙厚調整が手動のとき
  オペレータパネルでの設定後、次の印字動作を開始するときに、設定した用紙厚に調整されます。

4 用紙厚を設定する（FMPR5130の場合）

用紙厚の設定とは、印字ヘッドとプラテンの間隔を使用する用紙の厚みに合わせることです。
本プリンタは、使用する用紙の厚さ、枚数に応じて自動的に印字ヘッドの位置を上下に調整する自動紙厚調整機能を装備しており、通常は紙厚設定の必要はありません。
自動紙厚調整機能で用紙がかすれたり、汚れたりしたときに、次の手順で、手動で用紙厚を設定してください。

ドライバのプロパティで設定する

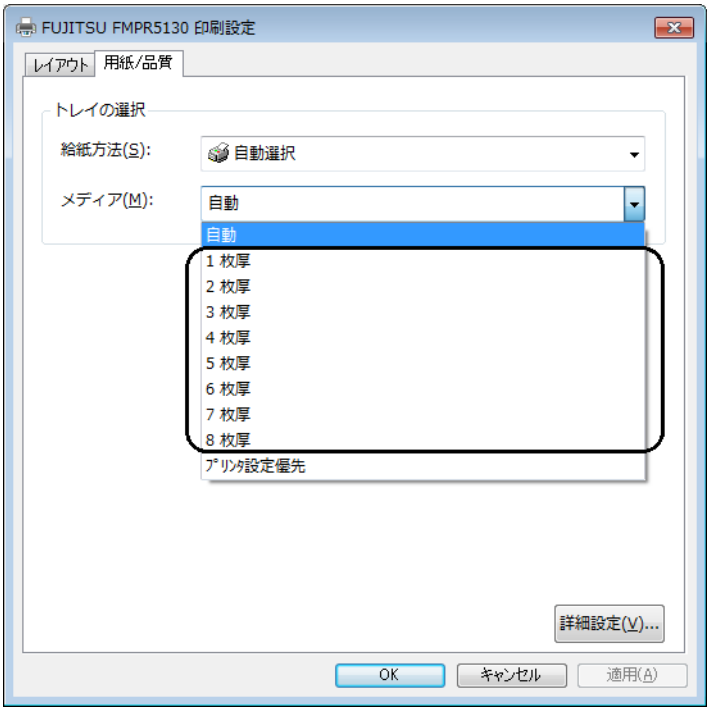
1 コントロールパネルでプリンタアイコンを表示する

詳しくは、「コントロールパネルでプリンタアイコンを表示する方法」(→ P.8) をご覧ください。

2 プリンタアイコンを右クリックし、「プリンターのプロパティ」をクリックする

3 「基本設定」をクリックし、「用紙／品質」タブをクリックする

4 「メディア」から「用紙厚」を選択する



POINT

・プリンタ側の設定で、用紙厚さ調整が「自動」になっているときに、ドライバの設定が有効となります。プリンタ側で「自動」以外に設定されているときは、ドライバの設定は無視し、プリンタ側の用紙厚調整の設定値に従います。

ダイヤルで設定をする

1 オペレータパネルの手動紙厚調整ダイヤルで設定する

オペレータパネルの[自動紙厚調整]スイッチを押して手動にします(ランプが消灯します)。
次にダイヤルで用紙厚を設定します。
ダイヤル設定は印字が開始するときに動作します。
用紙厚を設定するときは、下表を参考にしてください。
オペレータパネルの手動紙厚調整ダイヤルが「1」の位置にあるとき、印字ヘッドとプラテンの間隔は最も狭くなり、「D」の位置のとき最も広くなります。
常に手動で使用する場合は、「機能設定を変える（FMPR5130 の場合)」(→ P.163）の「用紙厚さ調整」を「手動」に設定してください。

手動紙厚調整



用紙厚さとレンジについて

用紙の種類と厚さ			手動紙厚調整ダイヤルの位置													
1 枚紙	複写紙	推奨厚さ（mm）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	R
連量 45 ～ 70kg	—	0.08	○													
連量 70 ～ 110kg	一般的な 2P	0.13		○												
連量 110～135kg	一般的な 3P	0.18			○											
はがき 各種封筒 特殊紙など	一般的な 4P	0.23				○										
	一般的な 5P	0.28					○									
	一般的な 6P	0.33						○								
	一般的な 7P	0.38							○							
	一般的な 8P	0.43								○						

用紙の種類と厚さ			手動紙厚調整ダイヤルの位置													
1 枚紙	複写紙	推奨厚さ（mm）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	R
はがき 各種封筒 特殊紙など	各種宅配伝票 （ゆうパックなど）	0.48									○					
		0.53										○				
		0.58											○			
		0.63												○		
		0.68													○	
リボン交換時																○

重要

手動でお使いになる場合は、用紙の厚さに対して下記の目安に沿って手動紙厚調整ダイヤルをセットしてください。
手動紙厚調整ダイヤル位置は数字 1 ～ 9、英字 A ～ D の 13 段階あり、ダイヤルの回転によって 1 番の位置から 1 目盛り増すごとに約 0.05mm 単位で用紙と印字ヘッドの間隔が広くなります。およその目安として 1 ～ 2 番の設定で 1 枚、1 目盛り増すごとに用紙 1 枚分間隔が広くなります。
使用する用紙の複写枚数、厚さに応じて適切な印字品質となるように手動紙厚調整ダイヤルを設定してください。
使用する用紙に対して、手動紙厚調整ダイヤルのセットが適切でないときは、次のような現象が起こることがあります。
・用紙厚に対して手動紙厚調整ダイヤルのセットが広すぎるとき
  ・印字抜けが生じることがあります。
  ・印字ヘッドの故障の原因になることがあります。
・用紙厚に対して手動紙厚調整ダイヤルのセットが狭すぎるとき
  ・印字中にリボンが外れたり、たるんだりして印字ヘッドの故障の原因になることがあります。
  ・用紙の端面が切れたり、しわになったりすることがあります。
  ・リボンによって用紙が汚れることがあります。
  ・用紙の送りが悪くなることがあります。
  ・ヘッドが正常に動かなくなることがあります。

紙厚調整の動作タイミングについて

・自動紙厚調整モードのとき
  印字動作を開始するときに、自動的に用紙厚が調整されます。
・手動紙厚調整モードのとき
  ダイヤル操作後、次の印字動作を開始するときに、設定した用紙厚に調整されます。また、印字中にダイヤルを回すと、次の改行時に変更した用紙厚に調整されます。

POINT

・プリンタドライバのメディアの設定が「プリンタ設定優先」のとき、プリンタ側の設定が有効になります。

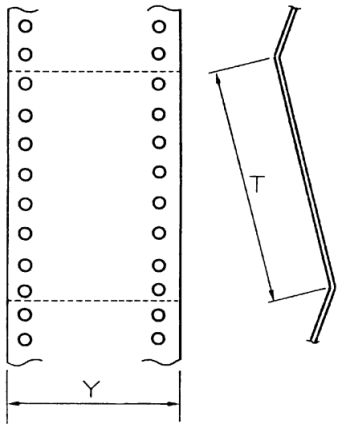
5 用紙について

連続帳票用紙

このプリンタで使用できる連続帳票用紙は、次のとおりです。

用紙の寸法

連続帳票用紙の寸法を下図に示します。



記号	寸法
Y（用紙幅）	101.6mm ～ 406.4mm（4 ～ 16 インチ）
T（折り畳み長さ）	101.6mm 以上（4 インチ以上）［注］

注　連帳用紙を 1 ページに切って用紙をセットする場合、用紙の長さを前トラクタでは 4 インチ以上、後トラクタでは 5 インチ以上にしてください。

用紙の構成枚数

オリジナルを含む用紙の構成枚数と用紙の厚さ（連量）の組み合わせは、下表のとおりです。
下表以外の用紙の組み合わせでは、用紙送り精度の乱れなどがより発生しやすくなります。
連量 70kg を超える用紙については、「はがき用紙（前トラクタ）」（→ P.109）をご覧ください。

用紙種類	枚数	連量（kg）［注 1］	備考
1 枚用紙	1P	45、55、70	（）内の連量の用紙は、複数つづりの一番下の用紙のみ使用可能です。
ノンカーボン紙［注 2］	2P	34、43、55、（70）	
	3P	34、43、（55、70）	
	4P	34、（43、55、70）	
	5P	34、（43、55）	
	6P	34、（43、55）	
	7P	34、（43、55）	
	8P	34、（43、55）	
	9P［注 4］	34、（43、55）	
裏カーボン紙［注 2］	2P	34、45、55、（70）	
	3P	34、45、（55、70）	
	4P	34、（45、55、70）	
	5P	34、（45、55）	
	6P	34、（45、55）	
	7P	34、（45、55）	
	8P	34、（45、55）	
	9P［注 4］	34、（45、55）	
中カーボン紙［注 3］	2P	30、40、45、（55、70）	
	3P	30、40、（45、55）	
	4P	30、40、（45、55）	
	5P	30、40、（45、55）	

注 1　連量とは、四六判（788×1091mm）の用紙 1000 枚の重量を kg で示した値です。
注 2　ノンカーボン紙および裏カーボン紙の連量は、用紙メーカーによって多少異なる場合があります。その場合、表の数値に近いものを選んでください。なお、裏カーボン紙は、多湿環境で使用しないでください。
注 3　中カーボン紙は、間に挿入されるカーボン紙を用紙 1 枚に相当するものとして数え、複写枚数は 5P までです。中カーボン紙に使用するカーボン紙の厚さは、0.03mm 以下としてください。
注 4　FMPR5630/FMPR5430 のみ

- 用紙の種類および保管状況により、印字品質に差が出る場合があります。
  不具合が発生する用紙については、その度合いが容認できるものであるかどうか判断のうえご使用ください。
- 全体の用紙厚さは、0.65mm 以下にしてください。
- とじられた用紙の大きさは、各層とも同一になるようにしてください。

用紙長の確認方法

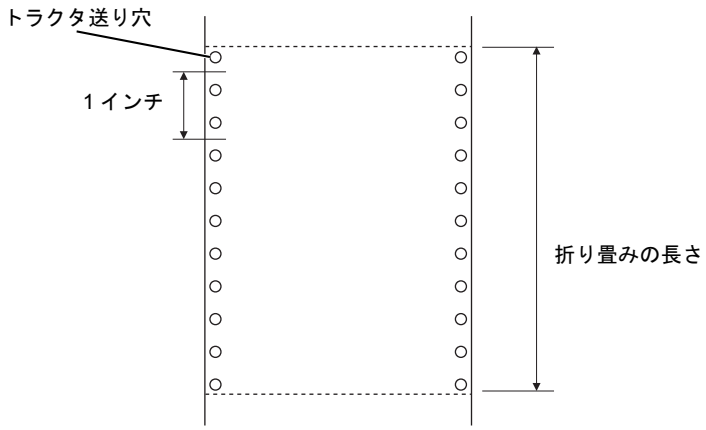
連続帳票用紙の用紙長はインチ単位となっています。
ドライバの用紙サイズ設定やユーザ定義サイズの設定も通常はインチ単位（ヤードポンド法）で行います。
用紙長はトラクタ送り穴が 2 つで 1 インチ（2.54cm）となりますので用紙の 1 折り畳みあたりのトラクタ送り穴の数を数えて 2 で割った値が長さとなります。

折り畳みの長さ＝トラクタ送り穴 ÷2（インチ）

重要

・連続帳票用紙の折り畳みの長さは、一般的には、インチ単位となります。

次の用紙は、トラクタ送り穴数＝ 11、折り畳みの長さ＝ 11÷2 ＝ 5.5 インチとなります。

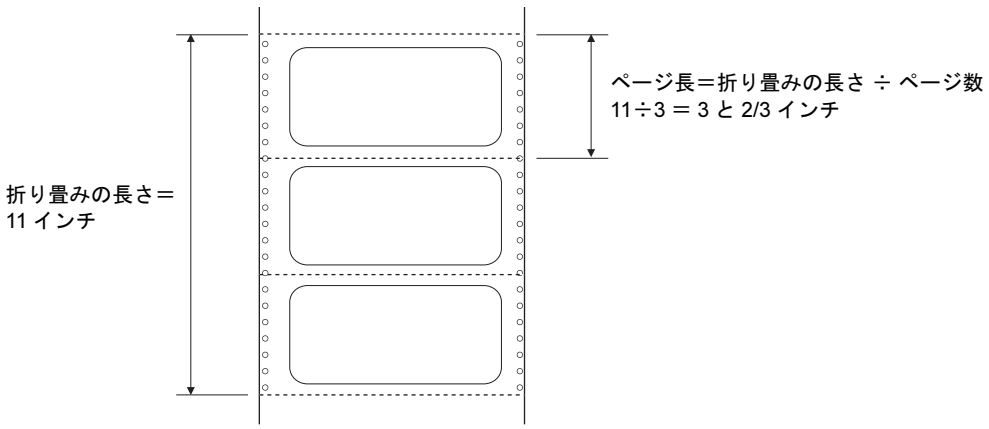


■特殊な連続帳票用紙の場合

一般的な連続帳票用紙は、1 ページ単位での折り畳みのため、ページ長＝折り畳みの長さとなります。
ラベル紙のように複数ページをまとめて折り畳んでいる場合は、ページ長は次の計算になります。

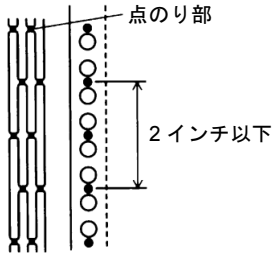
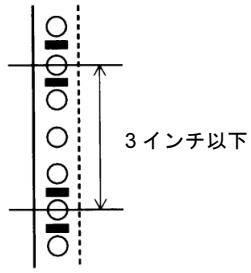
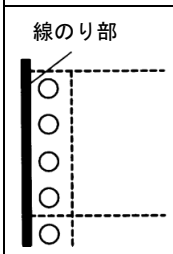
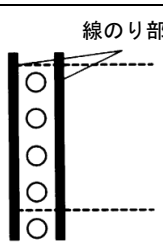
ページ長＝折り畳みの長さ ÷ ページ数（インチ）

下記の用紙は、折り畳みの長さ＝ 11、ページ数＝ 3、ページ長＝ 11÷3 ＝ 3 と 2/3 インチとなります。

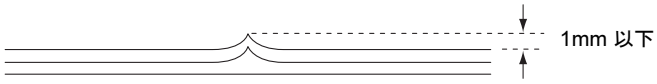


用紙のとじ方

連続帳票用紙の重ね合わせのとじ方は、「千鳥点のりとじ」にしてください。のり付け方法にはいろいろありますが、折り曲げやすいように点のりで、各層間で交互の位置にのり付けする方法をお勧めします。

<table>
<tr><th colspan="2">とじ方法</th><th>適用する用紙枚数</th><th>備　考</th></tr>
<tr><td>千鳥点のりとじ</td><td> 
</td><td>9 枚まで</td><td>本プリンタに最も適したとじ方です。</td></tr>
<tr><td>ダブルギャザー</td><td> 
</td><td>9 枚まで</td><td>用紙枚数が多くなるほど、用紙層ずれが出やすくなります。</td></tr>
<tr><td>線のりとじ</td><td>1 列
 
</td><td>2 列
 
</td><td>9 枚まで</td><td>用紙のしなやかさが失われ堅くなってしまうので、用紙ジャムなどが出やすくなります。</td></tr>
</table>

- 上記説明図では帳票の片側のみ示していますが、実際には両側を千鳥点のり付けしてください。
- 完成した用紙の折り畳み部分を平らに伸ばしたときのふくらみは、下図に示すように 1mm 以下になるようにしてください。

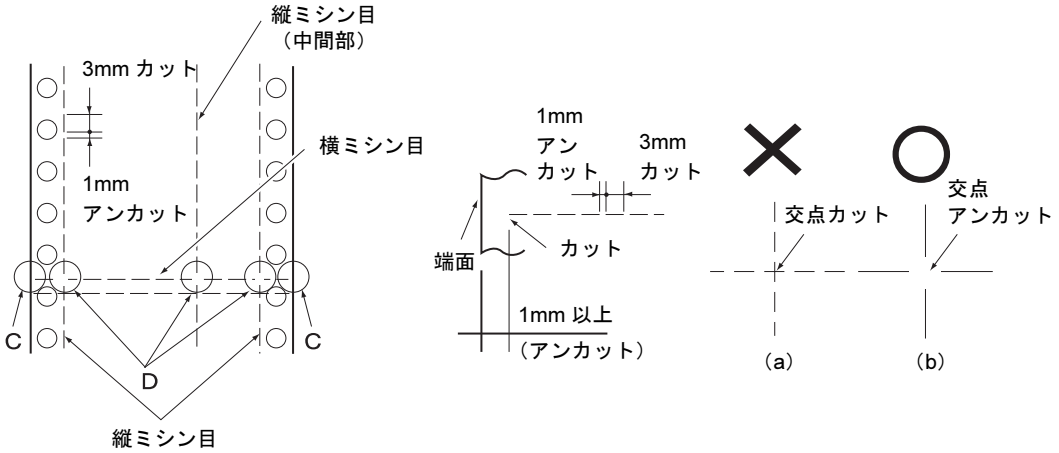


- プリンタ故障の原因になるので、金属ホチキスとじは使用しないでください。
- 帳票の用紙送り穴の層間でのずれは、0.4mm 以下のものを使用してください。
- 用紙とじ部でリボンがずれて印字の上下が欠ける場合は、機能設定「その他の設定（ソノタノセッテイ）」（→ P.182）の「リボン保護機能（リボンホゴキノウ）」を「有効（ユウコウ）」にしてください。

ミシン目の入れ方

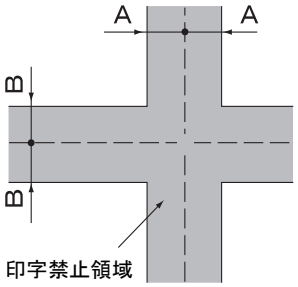
ミシン目の入れ方によっては、用紙送りに悪影響を与えることがあります。特に 1 枚用紙の場合、ミシン目を強く入れると使用中にミシン目から破けることがあります。
ミシン目の入れ方は、次のようにしてください。

- 1 枚用紙のミシン目（縦、横ミシン目共）のアンカット（切らない部分）、カット（切る部分）の比率は、約 1 : 3 にしてください。
- 横ミシン目の端面アンカット寸法（両端部 C）は、1mm 以上にしてください。



重要

- 縦ミシン目と横ミシン目の交点（D）部は交点アンカット（b）の方法にしてください。交点カット（a）は、行わないでください。
- ミシン目上に印字すると、用紙にキズが付いたりプリンタの故障となったりすることがありますので、下の図に示す斜線部には印字しないでください。

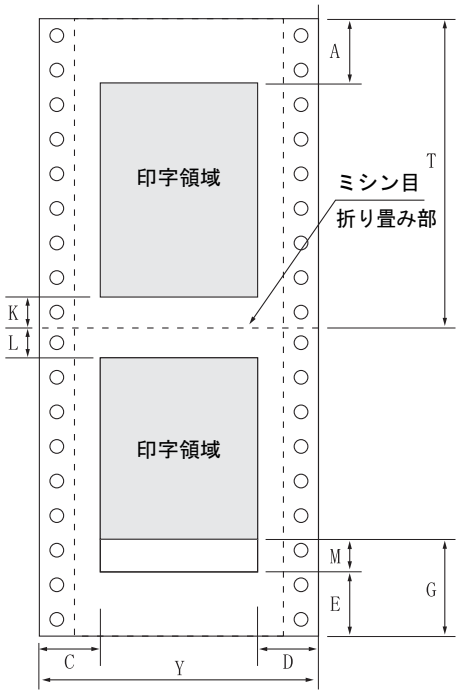


記号	A	B
寸法	3mm 以上	3mm 以上

一般用紙 （前 ・ 後トラクタ）

■用紙サイズおよび印字領域

連続帳票用紙の印字領域を下図に示します。



記号	項　目	寸法（mm）	
		前トラクタ	後トラクタ
A	上端余白	4.2 以上	
C	横打ち出し	［注 1］［注 4］	
D	最終印字	［注 2］［注 4］	
E	下端余白	4.2	
G	PE 検出［注 3］	4.2	4.2
		約 101	約 157
K	下端余白	4.2 以上	
L	上端余白	4.2 以上	
M	印字品質低下領域	［注 3］	
T	用紙長さ	4 インチ以上	
Y	用紙幅	4 ～ 16 インチ［注 5］	

注 1　初期値は 14mm です。10 ～ 34mm まで 1.0mm 単位で設定できます。
ミシン目がある場合は、データをミシン目より内側にしてください。

注 2　初期値は 14mm です。10 ～ 14mm まで 1.0mm 単位で設定できます。
ミシン目がある場合は、データをミシン目より内側にしてください。

注 3　M の領域はトラクタから外れた領域です。トラクタから外れた後の改行がうまくいかない場合や、逆改行を行う場合は、トラクタの位置（前トラクタ約 101mm、後トラクタ約 157mm）で PE を検知するように設定変更してください。機能設定「余白量設定（ヨハクリョウセッテイ）」の「前トラクタ下端余白量（F トラクタカタンヨハク）」、「後トラクタ下端余白量（R トラクタカタンヨハク）」でそれぞれ変更できます。PE 検出の初期設定は、4.2mm です。

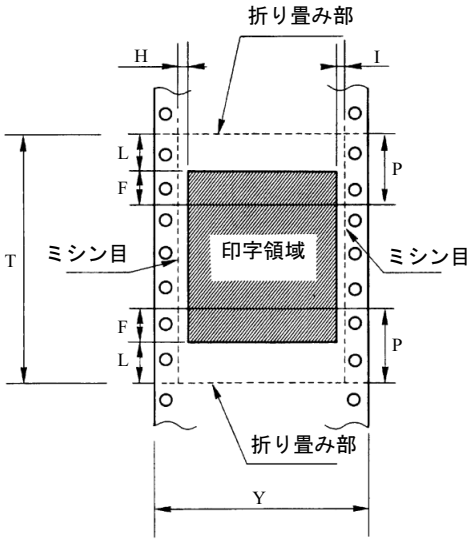
注 4　左右の印字余白（C、D）が 16mm 未満となる場合は、セットアップ項目の「前トラクタ印字カット量 L（F トラインジカットリョウ L）」、「前トラクタ印字カット量 R（F トラインジカットリョウ R）」、「後トラクタ印字カット量 L（R トラインジカットリョウ L）」、「後トラクタ印字カット量 R（R トラインジカットリョウ R）」を 10mm に変更して使用してください。変更しない場合、左右端から約 14mm の範囲に入る印字データがデータカットされ、データが正しく印字されなくなるので注意してください。

注 5　最大印字幅は 345.44mm（13.6 インチ）のため、幅の広い用紙をセットした場合、左端および右端余白は大きくなります。

はがき用紙 （前トラクタ）

このプリンタで連続帳票のはがき用紙を使用できます。はがき用紙を使用する場合は、前方（オペレータパネル側）から用紙をセットします。

■用紙サイズおよび印字領域



印字領域内にミシン目がある場合、印字はそのミシン目から 5.08mm 以上離してください。ただし、折り畳み部以外のミシン目は、アンカットおよびカット比を 1 : 2 にしてください。

記号	項　目	寸法（mm）
H	横打ち出し	5.08 以上（1/5 インチ）
I	最終印字	5.08 以上（1/5 インチ）
L	縦打ち出し［注 1］	8.46 以上（1/3 インチ）［注 2］
P	縦打ち出し（推奨値）	25.4（1 インチ）［注 2］
Y	用紙幅	228.6 ～ 330.2（9 ～ 13 インチ）
T	用紙長さ	203.2 ～ 355.6（8 ～ 14 インチ）

注 1　L 領域では印字ユニットの横移動はさせないでください。
　　用紙のふくらみなどにより、リボン汚れおよび用紙引っかけの原因になります。
注 2　F の印字領域内では、多少改行が乱れることがあります。

■連量紙

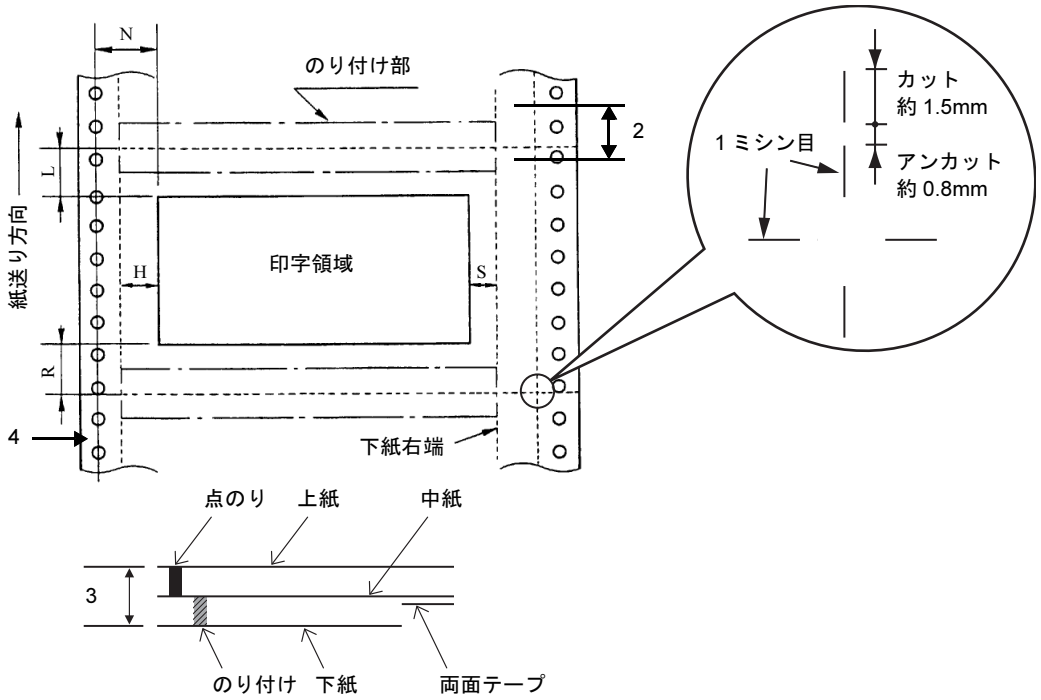
135kg 以下とし、枚数は 1 枚のみとします。

■ミシン目の入れ方

一般連続帳票用紙と同様です。

封筒用紙 （前 ・ 後トラクタ）

■用紙サイズおよび印字領域



記号	寸法（mm）
N	19 以上（3/4 インチ）
S	1 以上（1/25 インチ）
L	8.46 以上（1/3 インチ）［注］
H	5.08（1/5 インチ）
R	21.7（5/6 インチ）［注］

注　改行精度が保証できる印刷領域は、ミシン目から 25.4mm 以上離してください。

1 ミシン目の寸法は、上図をお勧めします。ミシン目の強い場合は、破れやすくなります。
縦ミシン目と横ミシン目の交点部は交点アンカットの方法にしてください（「ミシン目の入れ方」（→ P.107））。

2 のり付けの幅は、1/6 インチ以下とします。

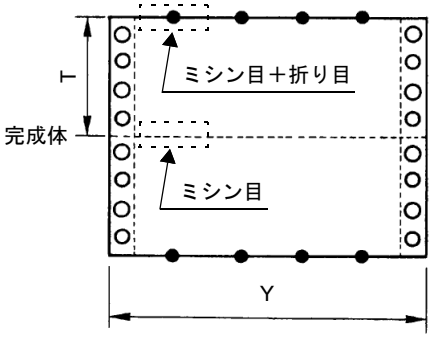
3 のり付けによる厚み増加は、0.1mm 以下とします。

4 穴ずれは、0.3mm 以下とします。

■紙質構成および連量

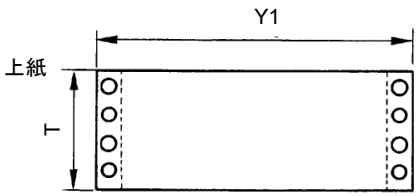
紙質	上紙	中紙	下紙
	裏カーボン紙	ノンカーボン紙	ノンカーボン紙
連量（kg）	33.5	70	70

■形状および構造



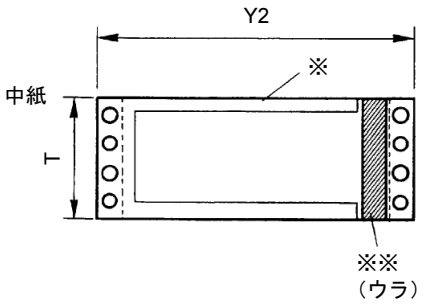
・大きさ

記号	寸法（mm）
T	127（5 インチ）
Y	254（10 インチ）
Y1	254（10 インチ）
Y2	254（10 インチ）
Y3	228.6（9 インチ）



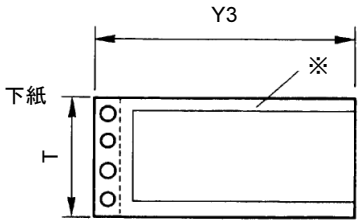
・とじ方法

とじ方法	上紙／下紙	中紙／下紙
種類	点のり	棒のり
位置	両端	左端・上下端 1/6 インチ幅（※ 印）



・両面テープ仕様（※※ 印）

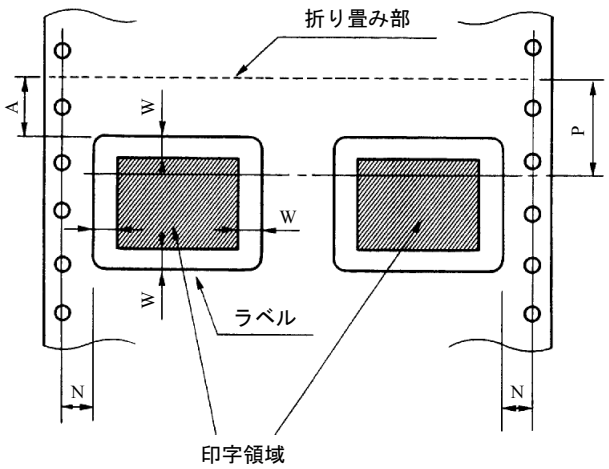
銘柄		アスコットテープ
幅（mm）	はくり紙	12
	肉のり	10



ラベル紙 （前 • 後トラクタ）

■用紙サイズおよび印字領域

用紙サイズ（台紙）は、一般連続帳票用紙と同じです。



記号	寸法（mm）
A	2.54 以上（1/10 インチ）
N	6.35 以上（1/4 インチ）
W	2.54 以上（1/10 インチ）
P	25.4（1 インチ）［注］

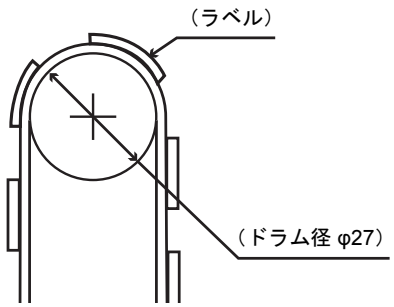
注　P 範囲内での印字領域では、多少改行が乱れる場合があります。
改行量が 1/6 インチ以上の場合は、となり合う印字行の文字どうしが重なり合うことはありません。

■用紙厚さ

- 用紙厚さは、ラベル＋台紙が 0.2mm 以下となるようにしてください。
- 台紙の厚さは、0.1mm 以下としてください。
- ラベルの厚さは、0.1mm 以下としてください。

■ラベルの貼り付け強度

- 次の条件で、ラベルが台紙からはがれないものを使用してください。
  ラベルのめくれのあるもの、折れ曲がりのあるものは使用しないでください。
- 低温、低湿環境で放置したラベル紙は、はがれやすい場合がありますので印字確認のうえ、めくれ、折れがないことを確認のうえお使いください。



項目	条件
巻付ドラム径	φ27
巻付角度	180°
巻付時間	24 時間
周囲温度	40 ℃
周囲湿度	30%RH

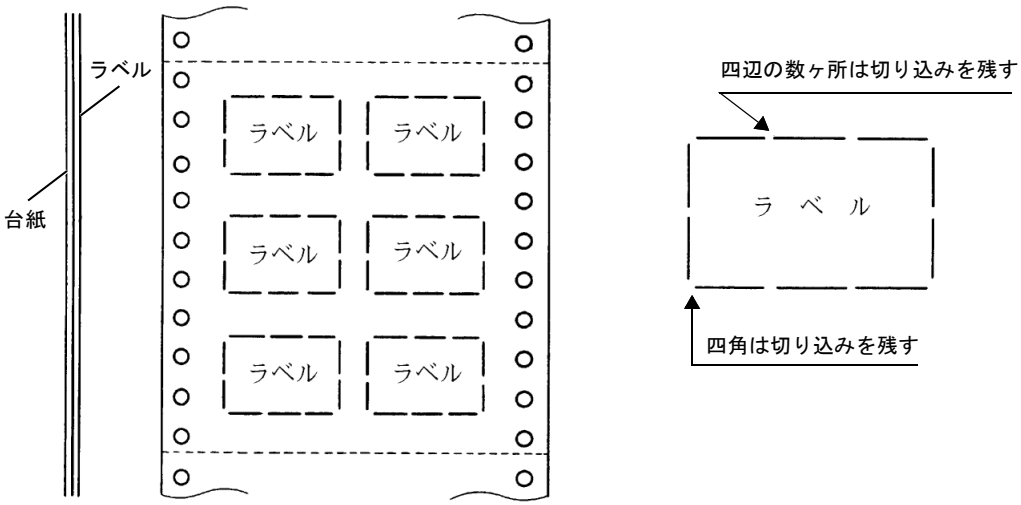
■用紙の形態

ラベルのはがれによる用紙搬送不能、または印字ヘッドの損傷など、重大なトラブルを防止するために下記用紙形態をお勧めします。

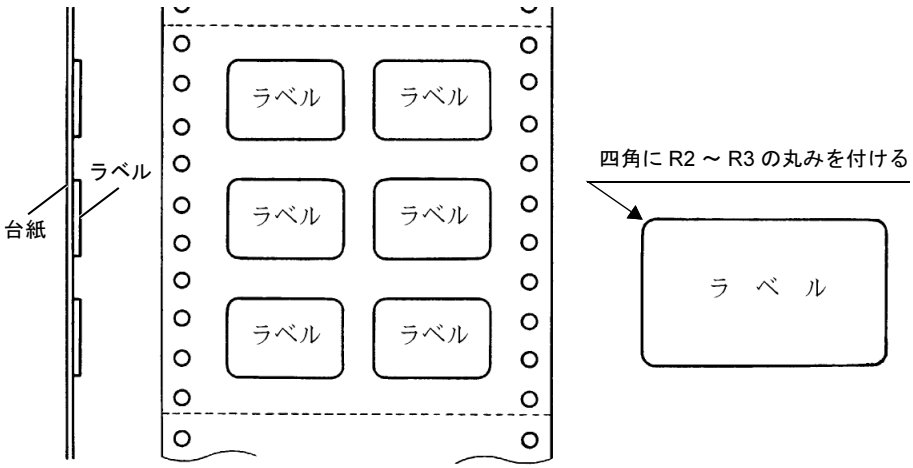
・カストリは行わず、ラベルの四角および他の四辺に切り込みを残した用紙

この形態は、ほぼ完全にラベルのはがれを防止することができ、最もお勧めするものです。できる限りこの形態を使用するようにしてください。

カストリとは、台紙全体に張られた粘着シールをラベルの部分だけを残してはぎ取ることをいいます。



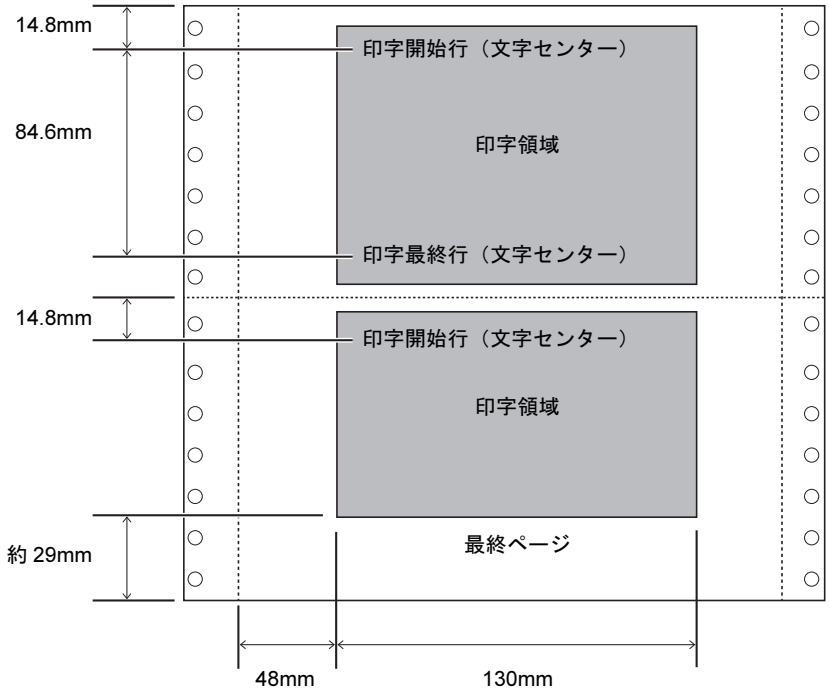
・カストリを行う場合、必ずラベルの四角に丸みを付けてください。



宅配伝票 （前トラクタ）

ここでは宅配伝票としての代表的な郵便小包ラベル（ゆうパック B、B-2、B-3）について規定します。
他の宅配伝票を使用する場合は、充分確認のうえご使用願います。

■印字領域



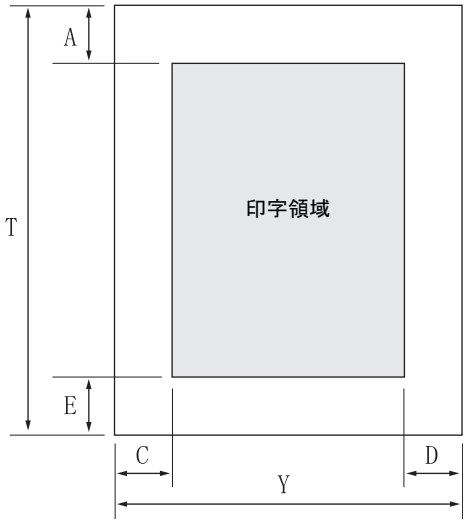
- 印字領域内の用紙段差は、最大 0.15mm 以下としてください。
- 用紙厚段差のある伝票を印字すると、自動用紙厚調整機構（APTC）の故障の原因となりますので、手動紙厚調整に切り替えて使用してください。詳しくは、「用紙厚を設定する（FMPR5630/FMPR5430 の場合）」（→ P.96）、「用紙厚を設定する（FMPR5130 の場合）」（→ P.100）をご覧ください。
- 印字領域外への印字は禁止します。

手差しで使用する単票用紙

一般用紙

■用紙サイズおよび印字領域

印字領域以外への印字は禁止します。



記号	項目	寸法（mm）	
		単票セットフリーオフの場合	単票セットフリーオンの場合
A	上端余白［注 1］	4.2 以上	4.2 以上
E	下端余白［注 1］	4.2 以上	4.2 以上
C	左端余白［注 2］［注 3］	5.08 以上	5.08
D	右端余白［注 2］	5.08 以上	5.08 以上
T	用紙長さ	70 ～ 420［注 4］	70 ～ 364
Y	用紙幅［注 5］	55 ～ 420	100 以上［注 6］

注 1　A、E 値は、ドットピッチが 1/180 インチのときの値です。

注 2　B4 横より幅の大きな用紙を使用する場合は、C 値と D 値は同時に実現できません。

注 3　A3 横を使用する場合は、C 値は 33 ～ 38.5mm となります。
「余白量設定（ヨハクリョウセッテイ）」（→ P.172）の「セットフリー無効時の左端位置（セットフリーオフサタンイチ）」で印字領域を「左寄せ（ヒダリヨセ）」に設定している場合は、C 値は 15.08 ～ 25.08mm となります。

注 4　単票セットフリーオフの場合は、用紙長さが 90mm 以下の用紙は、セットしにくくなります。
また、前カットシートフィーダを取り付けたとき、用紙長さは 90 ～ 420mm となります。

注 5　最大印字幅は 345.44mm（13.6 インチ）のため、幅の広い用紙をセットした場合、左端および右端余白は大きくなります。

注 6　用紙をセットできる範囲は 368mm です。
この範囲にセットできる用紙をお使いください。

■用紙枚数

用紙種類	枚数	連量（kg）［注 1］	備考
1 枚用紙	1P	45、55、70、90、110、135	
ノンカーボン紙［注 2］	2P	34、43、55、(70)	( ) 内の連量の用紙は、複数つづりの一番下の用紙のみ使用可能です。
	3P	34、43、(55、70)	
	4P	34、(43、55、70)	
	5P	34、(43、55)	
	6P	34、(43、55)	
	7P	34、(43、55)	
	8P	34、(43、55)	
	9P［注 3］	34、(43、55)	
裏カーボン紙［注 2］	2P	34、44、55、(70)	
	3P	34、44、(55、70)	
	4P	34、(44、55、70)	
	5P	34、(45、55)	
	6P	34、(45、55)	
	7P	34、(45、55)	
	8P	34、(45、55)	
	9P［注 3］	34、(45、55)	

注 1　連量とは、四六判（788mm×1091mm）の用紙 1000 枚の重量を kg で示します。

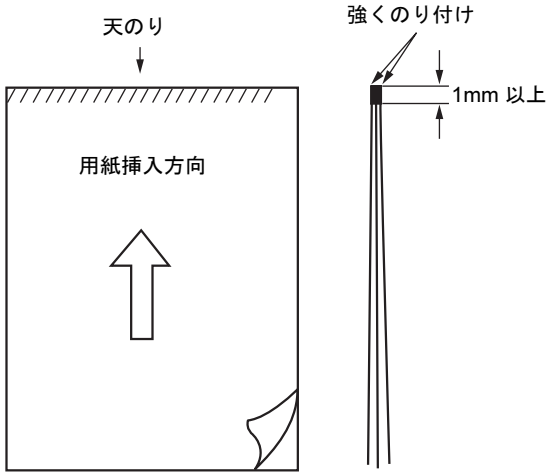
注 2　ノンカーボン紙および裏カーボン紙の連量は、用紙メーカーによって多少異なる場合がありますが、その場合は表の数値に近いものを選んでください。

注 3　FMPR5630/FMPR5430 のみ

- 中カーボン紙は、単票用紙の場合使用しないでください。
- 単票用紙で用紙の排出方向を手前排出（単票テーブル側）にしたとき、用紙下端部の角折れが発生する場合には、排出方向を後方排出（リアスタッカ側）に切り替えてご使用してください。
  切り替えるには、オペレータパネルの 手前排出 スイッチを押して「手前排出」ランプを消灯します（「単票用紙の排出方向を切り替える（手前排出）」(→ P.153)）。または、機能設定の「装置機能設定（ソウチキノウセッテイ）」(→ P.169) の「手差し排出方向（テサシハイシュツホウコウ）」を「後方排出（コウホウハイシュツ）」に設定します。
  用紙下端部の印字デューティが高いときに、角折れが発生する場合があります。

用紙のとじ方

とじ方法は、必ず下図のように天のりとじにしてください。

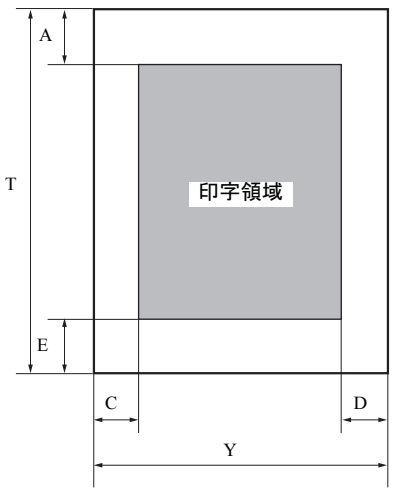


- のり付け部が波打ったり硬くなったりしないように、のりの量と種類に注意してください。
- 束のりとじの用紙はとじ力が弱いことから分離したり、のりがはみ出したりしてジャムが発生する可能性がありますので、使用を避けてください。

はがき

■用紙サイズおよび印字領域

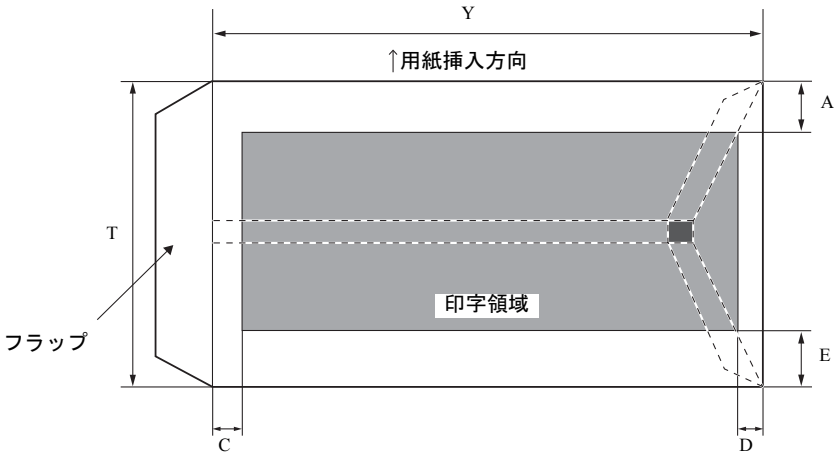
往復はがきは、折り目のないものを使用してください。



記号	項目	寸法（mm）
A	上端余白	4.2 以上
E	下端余白	4.2 以上
C	左端余白	5.08 以上
D	右端余白	5.08 以上
T	用紙長さ	100、148、200
Y	用紙幅	100、148、200

封筒

■用紙サイズおよび印字領域



記号	項目	寸法（mm）
A	上端余白	7.38 以上
E	下端余白	7.38 以上
C	左端余白	12 以上
D	右端余白	12 以上
Y	用紙幅	148 ～ 332
T	用紙長さ	90 ～ 240

※ 印字領域以外には印刷しないでください。

■封筒サイズおよび坪量

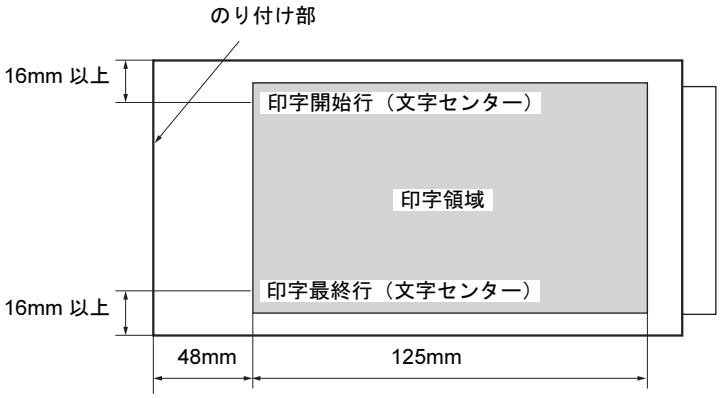
封筒の種類	寸法		坪量（g/m2）		最大用紙厚（mm）
	Y（mm）	T（mm）	クラフト紙	その他の紙	
長形 2 号	277	119	70、85	70 以上 85 以下	0.48
長形 3 号	235	120	50、60、70、85	55 以上 85 以下	0.48
長形 4 号	205	90			
長形 5 号	185	90			
角形 2 号	332	240	70、85	70 以上 85 以下	0.48
角形 3 号	277	216			
角形 4 号	267	197			
角形 5 号	240	190			
角形 6 号	229	162			
角形 7 号	205	142			
角形 8 号	197	119	50、60、70、85	55 以上 85 以下	0.48
洋形 1 号	176	120	50、60、70、85	70 以上 85 以下	0.46
洋形 2 号	162	114			
洋形 3 号	148	98			
洋形 4 号	235	105			
洋形 5 号	217	95			
洋形 6 号	190	98			
洋形 7 号	165	92			
US10	239	105	81 以下	81 以下	0.46
ジャーマンタイプ	220	111			

- 印字領域以外への印字を禁止します。
- 封筒印字時は、印字汚れ・かすれなどが発生しやすくなりますので、充分確認のうえ使用してください。また、自動紙厚調整機構（APTC）の故障の原因となりますので、手動紙厚調整に切り替えて使用してください。詳しくは、「用紙厚を設定する（FMPR5630/FMPR5430 の場合）」（→ P.96）、「用紙厚を設定する（FMPR5130 の場合）」（→ P.100）をご覧ください。
- 印字領域内の用紙の段差は、最大 0.15mm 以下としてください。
- のり付け部のうえおよびその周辺 5mm 以内への印字を禁止します。
- フラップ部破線の食い込みが封筒肩より 12mm 以上の場合は、破線部の右側で印字してください。
- フラップ部などがのり付け加工された封筒は、使用しないでください。
- 切手およびシールなどを貼り付けた封筒は、使用しないでください。
- G 部への印字は、リボン汚れが発生しやすいので避けてください。
- 封筒は、単票セットフリーオフにして印字してください。単票セットフリーオンで印字すると、封筒のフラップ部（斜めの部分）を用紙端面と判断し、印字開始位置がずれることがあります。
- 封筒のフラップ部は左側になるように用紙をセットしてください。

宅配伝票

ここでは宅配伝票としての代表的な郵便小包ラベル（ゆうパック）について規定します。他の宅配伝票を使用する場合は、充分確認のうえご使用願います。

■印字領域



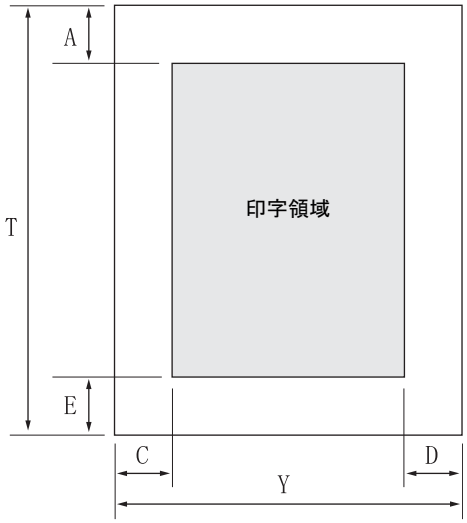
- 印字領域以外の印字は禁止します。
- 用紙厚段差のある伝票を印字すると、自動用紙厚調整機構（APTC）の故障の原因となりますので、手動紙厚調整に切り替えて使用してください。詳しくは、「用紙厚を設定する（FMPR5630/FMPR5430 の場合）」（→ P.96）、「用紙厚を設定する（FMPR5130 の場合）」（→ P.100）をご覧ください。
- 印字領域内の用紙の段差は、最大 0.15mm 以下としてください。
- 用紙の最大厚さは、ゆうパック伝票（Max0.6mm）以下としてください。
- 折れ曲がりのある用紙は、斜行、角折れ、および用紙づまりの原因になります。

カットシートフィーダ（オプション）で使用する単票用紙

一般用紙

■用紙サイズおよび印字領域

印字領域以外への印字は禁止します。



記号	項目	寸法（mm）	
		フロントカット シートフィーダ	リアカット シートフィーダ
A	上端余白［注 1］	4.2 以上	4.2 以上
E	下端余白［注 1］	4.2 以上	4.2 以上
C	左端余白［注 2］［注 3］	5.08 以上	5.08 以上
D	右端余白［注 2］	5.08 以上	5.08 以上
T	用紙長さ	70 ～ 420	100 ～ 420
Y	用紙幅［注 4］	100 ～ 420	100 ～ 420

注 1　A、E 値は、ドットピッチが 1/180 インチのときの値です。

注 2　B4 横より幅の大きな用紙を使用する場合は、C 値と D 値は同時に実現できません。

注 3　A3 横を使用する場合は、C 値は約 37.3mm となります。

「余白量設定（ヨハクリョウセッテイ）」（→ P.172）の「セットフリー無効時の左端位置（セットフリーオフサタンイチ）」で印字領域を「左寄せ（ヒダリヨセ）」に設定している場合は、C 値は約 28mm となります。

注 4　カットシートフィーダで複写紙を使用する場合、Y 値は 182mm 以上のものを使用してください。

■用紙枚数

用紙種類	枚数	連量（kg）［注 1］	備　考
1 枚用紙	1P	45、55、70、90、135	
ノンカーボン紙［注 2］	2P	34、43、55、（70）	（）内の連量の用紙は、複数つづりの一番下の用紙のみ使用可能です。
	3P	34、43、（55、70）	
	4P	34、（43、55、70）	
	5P	34、（43、55）	
裏カーボン紙［注 2］	2P	34、44、55、（70）	
	3P	34、44、（55、70）	
	4P	34、（44、55、70）	
	5P	34、（45、55）	

注 1　連量とは、四六判（788mm×1091mm）の用紙 1000 枚の重量を kg で示します。

注 2　ノンカーボン紙、裏カーボン紙の連量は、メーカーによって多少異なる場合がありますが、その場合表の数値に近いものを選んでください。

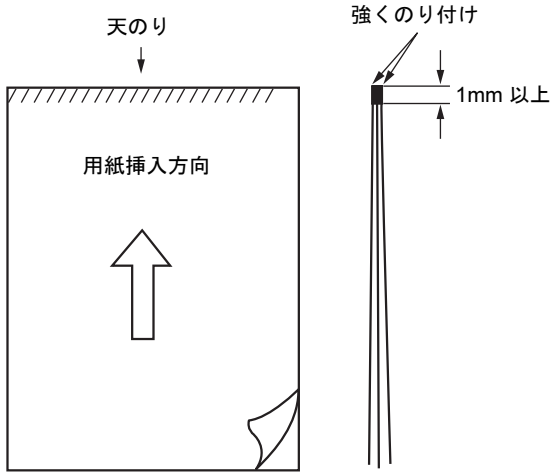
・単票用紙で用紙の排出方向によっては、用紙下端部の角折れが発生する場合があります。この場合、リアカットシートフィーダの場合は手前排出（単票テーブル側）に、フロントカットシートフィーダの場合は後方排出（リアスタッカ側）に、排出方向を切り替えてご使用ください。

用紙下端部の印字デューティが高いときに、角折れが発生する場合があります。

排出方向を切り替えは、オペレータパネルの 手前排出 スイッチを押して「手前排出」ランプを点灯させると手前排出になり、消灯させると後方排出になります（「単票用紙の排出方向を切り替える（手前排出）」（→ P.153））。または、機能設定の「装置機能設定（ソウチキノウセッテイ）」（→ P.169）の「前 CSF 排出方向（FCSF ハイシュツホウコウ）」、「後 CSF 排出方向（RCSF ハイシュツホウコウ）」を「手前排出（テマエハイシュツ）」または「後方排出（コウホウハイシュツ）」に設定します。

用紙のとじ方

とじ方法は、必ず下図のように天のりとじにしてください。



- のり付け部が波打ったり硬くなったりしないように、のりの量と種類を注意してください。
- 束のりとじの用紙はとじ力が弱いことから分離したり、のりがはみ出したりしてジャムが発生する可能性がありますので、使用を避けてください。

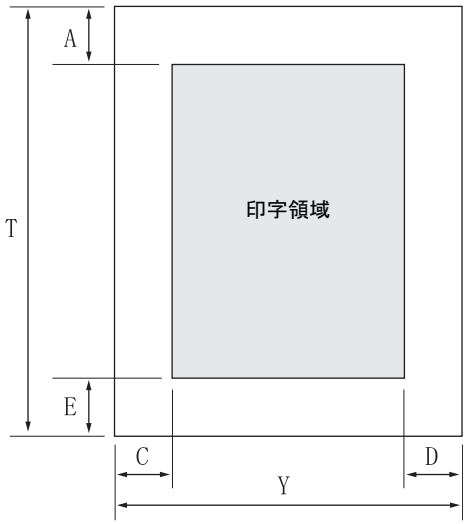
■ホッパ容量

- 一般用紙（55kg、1P）：120 枚
- 5P（34kg）用紙：25 枚
- 郵便はがき：40 枚

はがき

■用紙サイズおよび印字領域

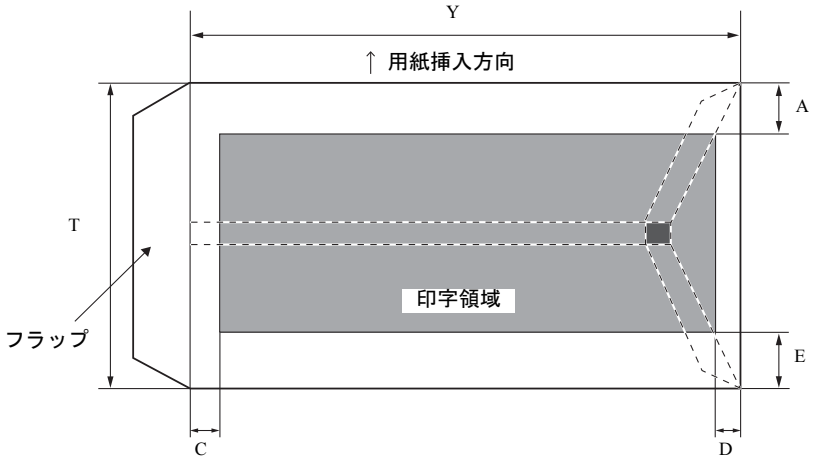
往復はがきは、折り目のないものを使用してください。



記号	項目	寸法（mm）
A	上端余白	4.2 以上
E	下端余白	4.2 以上
C	左端余白	5.08 以上
D	右端余白	5.08 以上
T	用紙長さ	100、148、200
Y	用紙幅	100、148、200

封筒

■用紙サイズおよび印字領域



記号	項目	寸法（mm）
A	上端余白	7.38 以上
E	下端余白	7.38 以上
C	左端余白	12 以上
D	右端余白	12 以上
Y	用紙幅	148 ～ 332
T	用紙長さ	90 ～ 240

※ 印字領域以外には印刷しないでください。

■封筒サイズおよび坪量

封筒の種類	寸法		使用可否		坪量		最大用紙厚(mm)
	Y（mm）	T（mm）	前カットシートフィーダ	後カットシートフィーダ	クラフト紙	その他の紙	
長形 3 号	235	120	○	○	50、60、70	50 以上 70 以下	0.40
長形 4 号	205	90	○	×			
長形 5 号	185	90	○	×			
角形 6 号	229	162	○	○	70	70 以下	0.40
角形 7 号	205	142	○	○			
角形 8 号	197	119	○	○	50、60、70	70 以下	0.40
洋形 3 号	148	98	○	○	50、60、70	70 以上 81 以下	0.46
洋形 4 号	235	105	○	○			
US10	239	105	○	○	81 以下	81 以下	0.46
ジャーマンタイプ	220	111	○	○			

6 用紙使用上のご注意

連続帳票普通紙

使用できる用紙

本プリンタでは、PPC 用紙、普通紙および上質紙の連続帳票用紙を使用することができます。しかし一般の市販品には本プリンタに適さないものもあります。
詳しくは、「連続帳票用紙」（→ P.103）をご覧ください。また、推奨用紙については、「推奨用紙」（→ P.262）をご覧ください。
用紙を大量にご購入する前に、サンプル用紙で試し印刷をし、支障がないことを確認することをお勧めします。また、プレプリント用紙を使用する場合は、罫線枠に文字が重ならないようにしてください。

使用できない用紙

- 連量が 45kg 未満の薄い用紙（複数つづりの構成用紙は除きます）
- 連量が 70kg を超える厚い用紙
- 全体の用紙厚さが 0.65mm を超える厚い用紙
- 用紙のとじ方法が線のりとじ、紙ホチキスとじ、束のりとじ、片のりとじの複写用紙
- ミシン目の入れ方が「ミシン目の入れ方」（→ P.107）記載以外のミシン目を入れた用紙
- 湿っている用紙や濡れている用紙
- 一度印刷された用紙（裏紙など）
- 貼り合わせた用紙（切手など）や、のりなどが付いている用紙
- 印字領域内にとじ穴がある用紙
- 反り（カール）、しわ、折り目のある用紙や、破れている用紙
- ホチキス、クリップ、リボン、テープなどが付いている用紙
- ざら紙や繊維質の多い用紙など、表面がなめらかでない用紙
- 裁断部のバリが大きい用紙
- 紙粉の多い用紙

使用できない用紙を使用したときの問題点

- 連量が 70kg を超える厚い用紙や全体の用紙厚さが 0.65mm を超える用紙を使用すると、給紙ミス、紙づまりが発生するだけでなく、給紙ローラがすべってしまうことによりローラが摩耗し、本プリンタに適している用紙までも給紙できなくなり、プリンタの故障の原因となります。
- 湿っている用紙などに印刷した場合は、紙づまりやしわなどが発生しやすくなります。
- 用紙のとじ方法が線のりとじ、束のりとじ、片のりとじの複写用紙を使用すると用紙づまりや印字ずれが発生し、プリンタの故障の原因となります。
- 一度印刷された用紙（裏紙）を使用すると用紙搬送ローラなどへの用紙巻きつきなどの不具合が発生する場合があります。
- 貼り合わせた用紙や、のりの付いている用紙に印刷するとのりの成分などがプリンタ内部に付着し、印字不良やプリンタの故障の原因となることがあります。

・印字領域内にとじ穴やミシン目がある用紙を使用すると印字ヘッドピンが折れプリンタの故障の原因となります。

連続帳票特殊紙

使用できる用紙

本プリンタでは、はがき用紙およびラベル紙などの特殊連続帳票用紙を使用することができます。
しかし印刷品質は、普通紙より劣ることがありますので、用紙を大量にご購入する前に、サンプル用紙で試し印刷をし、支障がないことを確認することをお勧めします。
詳しくは、「はがき用紙（前トラクタ）」（→ P.109）、「封筒用紙（前・後トラクタ）」（→ P.110）、「ラベル紙（前・後トラクタ）」（→ P.112）をご覧ください。

はがき用紙

■使用できない用紙

・連量が 135kg を超える厚い用紙
・ミシン目の入れ方が「ミシン目の入れ方」（→ P.107）記載以外のミシン目を入れた用紙
・湿っている用紙や濡れている用紙
・一度印刷された用紙（裏紙など）
・貼り合わせた用紙（切手など）や、のりなどが付いている用紙
・印字領域内にとじ穴がある用紙
・反り、しわ、折り目のある用紙や、破れている用紙
・カールしている用紙
・ホチキス、クリップ、リボン、テープなどが付いている用紙
・ざら紙や繊維質の多い用紙など、表面がなめらかでない用紙
・裁断部のバリが大きい用紙
・紙粉の多い用紙

■使用できない用紙を使用したときの問題点

・連量が 135kg を超える厚い用紙を使用すると給紙ミス、紙づまりが発生するだけでなく、給紙ローラがすべってしまうことにより、ローラが摩耗し、本プリンタに適している用紙まで給紙できなくなります。
・貼り合わせた用紙や、のりの付いている用紙に印刷するとのりの成分などがプリンタ内部に付着し、印字不良やプリンタの故障の原因となることがあります。
・印字領域内にとじ穴やミシン目がある用紙を使用すると印字ヘッドピンが折れプリンタの故障の原因となります。

ラベル紙

■使用できない用紙

・用紙（ラベル＋台紙）の厚さ 0.2mm を超える厚いラベル紙
・台紙の厚さ 0.1mm を超える厚いラベル紙
・ラベルの厚さ 0.1mm を超える厚いラベル紙

・湿っている用紙や濡れている用紙
・一度印刷された用紙
・貼り合わせた用紙（切手など）や、のりなどがラベルからはみ出して付いている用紙
・印字領域内にとじ穴がある用紙
・反り、しわ、折り目のある用紙や、破れている用紙
・カールしている用紙
・ホチキス、クリップ、リボン、テープなどが付いている用紙
・ざら紙や繊維質の多い用紙など、表面がなめらかでない用紙
・裁断部のバリが大きい用紙
・紙粉の多い用紙
・ラベルの貼り付け強度の弱い用紙（「ラベルの貼り付け強度」（→ P.112））

■使用できない用紙を使用したときの問題点

・用紙の厚さ 0.2mm を超える厚いラベル紙を使用すると給紙ミス、紙づまりが発生するだけでなく、ラベルが台紙からはがれやすくなり、用紙搬送ローラへの巻きつきや、プリンタ内部への貼りつきによりプリンタの故障の原因となります。
・ラベルの貼り付け強度の弱い用紙を使用すると、ラベルが台紙からはがれやすくなり、用紙搬送ローラへの巻きつきや、プリンタ内部への貼りつきによりプリンタの故障の原因となります。
・一度印刷された用紙（裏紙）を使用すると用紙搬送ローラなどへの用紙巻きつきなどの不具合が発生する場合があります。
・印字領域内にとじ穴がある用紙を使用すると印字ヘッドピンが折れプリンタの故障の原因となります。

封筒

■使用できない用紙

・フラップなどがのり付け加工された用紙
・窓付き封筒
・二重封筒
・湿っている用紙や濡れている用紙
・一度印刷された用紙
・貼り合わせた用紙（切手など）や、のりなどが付いている用紙
・反り（カール）、しわ、折り目のある用紙や、破れている用紙
・ホチキス、クリップ、リボン、テープなどが付いている用紙
・ざら紙や繊維質の多い用紙など、表面がなめらかでない用紙
・裁断部のバリが大きい用紙
・紙粉の多い用紙

■使用できない用紙を使用したときの問題点

・窓付きの用紙を使用すると給紙ミス、紙づまりが発生するだけでなく、給紙ローラがすべってしまうことによりローラが摩耗し、本プリンタに適している用紙までも給紙できなくなり、プリンタの故障の原因となります。
・貼り合わせた用紙や、のりの付いている用紙に印刷するとのりの成分などがプリンタ内部に付着し、印字不良やプリンタの故障の原因となることがあります。

単票普通紙

使用できる用紙

本プリンタでは、PPC 用紙、普通紙および上質紙の単票用紙を使用することができます。しかし一般の市販品には本プリンタに適さないものもありますので、用紙を大量にご購入する前に、サンプル用紙で試し印刷をし、支障がないことを確認することをお勧めします。また、プレプリント用紙を使用する場合は、罫線枠に文字が重ならないようにしてください。
用紙の仕様については「用紙について」（→ P.103）をご覧ください。また、推奨用紙については、「推奨用紙」（→ P.262）をご覧ください。

使用できない用紙

- 連量が 45kg 未満の薄い用紙（複数つづりの構成用紙は除きます）
- 連量が 135kg を超える厚い用紙
- 全体の用紙厚さが 0.65mm を超える厚い用紙
- 用紙のとじ方法が横のりとじの複写用紙
- 湿っている用紙や濡れている用紙
- 一度印刷された用紙（裏紙など）
- 貼り合わせた用紙（切手など）や、のりなどが付いている用紙
- 印字領域内にとじ穴がある用紙
- 反り（カール）、しわ、折り目のある用紙や、破れている用紙
- ホチキス、クリップ、リボン、テープなどが付いている用紙
- ざら紙や繊維質の多い用紙など、表面がなめらかでない用紙
- 裁断部のバリが大きい用紙
- 紙粉の多い用紙

使用できない用紙を使用したときの問題点

- 連量が 135kg を超える厚い用紙や全体の用紙厚さが 0.65mm を超える用紙を使用すると、給紙ミス、紙づまりが発生するだけでなく、給紙ローラがすべってしまうことによりローラが摩耗し、本プリンタに適している用紙までも給紙できなくなり、プリンタの故障の原因となります。
- 用紙のとじ方法が横のりとじの複写用紙を使用すると斜行印字が発生することがあります。
- 連量が 45kg 未満の薄い用紙や湿っている用紙などに印刷した場合は、紙づまりやしわなどが発生しやすくなります。
- 一度印刷された用紙（裏紙）を使用すると用紙搬送ローラなどへの用紙巻きつきなどの不具合が発生する場合があります。
- 貼り合わせた用紙や、のりの付いている用紙に印刷するとのりの成分などがプリンタ内部に付着し、印字不良やプリンタの故障の原因となることがあります。
- 印字領域内にとじ穴やミシン目がある用紙を使用すると印字ヘッドピンが折れプリンタの故障の原因となります。

単票特殊紙

使用できる用紙

本プリンタでは、郵便はがき（郵便局から発売されているはがき。ただし、絵入りはがき、インクジェット用はがきは除く）、ラベル紙および宅配伝票などの特殊単票用紙を使用することができます。
しかし印刷品質は、普通紙より劣ることがありますので、用紙を大量にご購入する前に、サンプル用紙で試し印刷をし、支障がないことを確認することをお勧めします。
用紙の仕様については「用紙について」（→ P.103）をご覧ください。

はがき用紙

■使用できない用紙

- 折り目を付けた往復はがき
- 湿っている用紙や濡れている用紙
- 貼り合わせた用紙（切手など）や、のりなどが付いている用紙
- 印字領域内にとじ穴がある用紙
- 反り、しわ、折り目のある用紙や、破れている用紙
- カールしている用紙
- ホチキス、クリップ、リボン、テープなどが付いている用紙
- ざら紙や繊維質の多い用紙など、表面がなめらかでない用紙
- 裁断部のバリが大きい用紙
- 紙粉の多い用紙

■使用できない用紙を使用したときの問題点

- 給紙ミス、紙づまりが発生するだけでなく、給紙ローラがすべってしまうことにより、ローラが摩耗し、本プリンタに適している用紙まで給紙できなくなります。
- 折り目を付けた往復はがきを使用すると用紙吸入不良や斜行印字が発生します。
- 一度印刷された用紙（裏紙）を使用すると用紙搬送ローラなどへの用紙巻きつきなどの不具合が発生する場合があります。
- 貼り合わせた用紙や、のりの付いている用紙に印刷するとのりの成分などがプリンタ内部に付着し、印字不良やプリンタの故障の原因となることがあります。
- 印字領域内にとじ穴やミシン目がある用紙を使用すると印字ヘッドピンが折れプリンタの故障の原因となります。

ラベル紙

■使用できない用紙

- 用紙（ラベル＋台紙）の厚さ 0.2mm を超える厚いラベル紙
- 台紙の厚さ 0.1mm を超える厚いラベル紙
- ラベルの厚さ 0.1mm を超える厚いラベル紙
- 湿っている用紙や濡れている用紙
- 一度印刷された用紙
- 貼り合わせた用紙（切手など）や、のりなどがラベルからはみ出して付いている用紙

・印字領域内にとじ穴がある用紙
・反り、しわ、折り目のある用紙や、破れている用紙
・カールしている用紙
・ホチキス、クリップ、リボン、テープなどが付いている用紙
・ざら紙や繊維質の多い用紙など、表面がなめらかでない用紙
・裁断部のバリが大きい用紙
・紙粉の多い用紙
・ラベルの貼り付け強度の弱い用紙（「ラベルの貼り付け強度」（→ P.112））

■使用できない用紙を使用したときの問題点

・用紙の厚さ 0.2mm を超える厚いラベル紙を使用すると給紙ミス、紙づまりが発生するだけでなく、ラベルが台紙からはがれやすくなり、用紙搬送ローラへの巻きつきや、プリンタ内部への貼りつきによりプリンタの故障の原因となります。
・ラベルの貼り付け強度の弱い用紙を使用すると、ラベルが台紙からはがれやすくなり、用紙搬送ローラへの巻きつきや、プリンタ内部への貼りつきによりプリンタの故障の原因となります。
・一度印刷された用紙（裏紙）を使用すると用紙搬送ローラなどへの用紙巻きつきなどの不具合が発生する場合があります。
・印字領域内にとじ穴やミシン目がある用紙を使用すると印字ヘッドピンが折れプリンタの故障の原因となります。

封筒

■使用できない用紙

・フラップなどがのり付け加工された用紙
・窓付き封筒
・二重封筒
・湿っている用紙や濡れている用紙
・一度印刷された用紙
・貼り合わせた用紙（切手など）や、のりなどが付いている用紙
・反り（カール）、しわ、折り目のある用紙や、破れている用紙
・ホチキス、クリップ、リボン、テープなどが付いている用紙
・ざら紙や繊維質の多い用紙など、表面がなめらかでない用紙
・裁断部のバリが大きい用紙
・紙粉の多い用紙

■使用できない用紙を使用したときの問題点

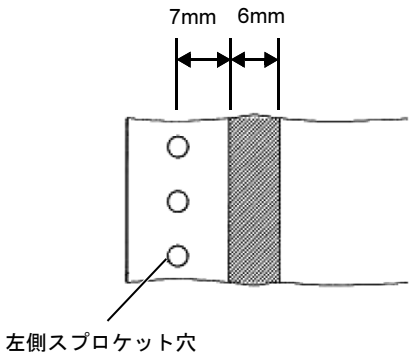
・窓付きの用紙を使用すると給紙ミス、紙づまりが発生するだけでなく、給紙ローラがすべってしまうことによりローラが摩耗し、本プリンタに適している用紙までも給紙できなくなり、プリンタの故障の原因となります。
・貼り合わせた用紙や、のりの付いている用紙に印刷するとのりの成分などがプリンタ内部に付着し、印字不良やプリンタの故障の原因となることがあります。

7 とじ穴の開け方

印字領域内にとじ穴を開けないでください。やむを得ず印字領域内にとじ穴を開けるときは、とじ穴部と印字が重ならないようにしてください。

また次の制限事項があります。

- とじ穴部付近への印字は、穴の周囲 5.08mm を避けて印字してください。
- とじ穴開けの禁止位置は、プレプリント用紙の制限エリア（斜線部内）と同様です。
- とじ穴の径は 6mm 以下にしてください。
  長円穴の場合は長径側を 6mm 以下にしてください。
- 連帳にとじ穴を開けるときは、下図の斜線部への穴開けは避けてください。

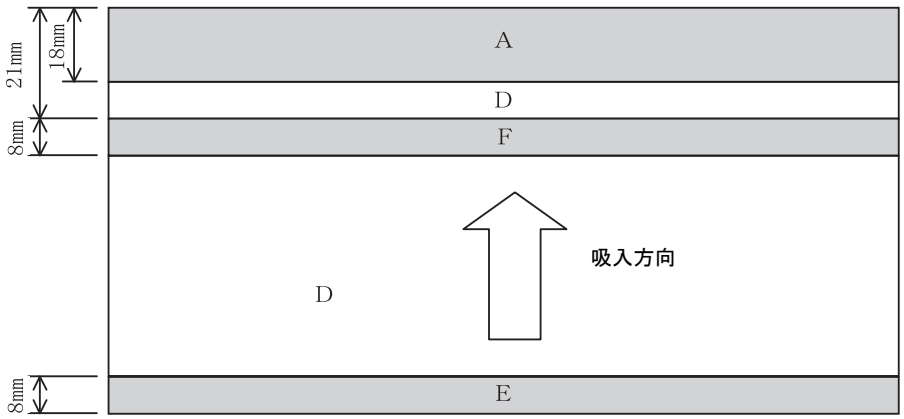


8 プレプリント用紙を使用するとき

あらかじめ文字や枠などを印刷してある用紙（プレプリント用紙）を作成したり、使用したりするときは、次の点に注意してください。

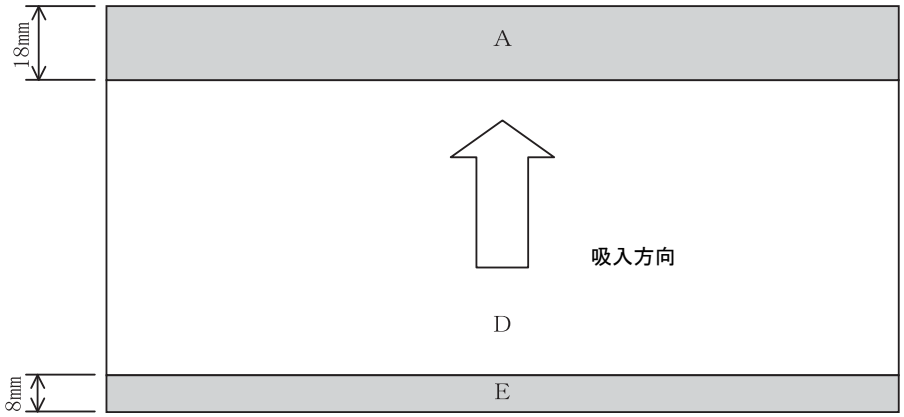
単票セットフリーオン時の手差し単票のプレプリント禁止領域

■FMPR5630/FMPR5430 の場合



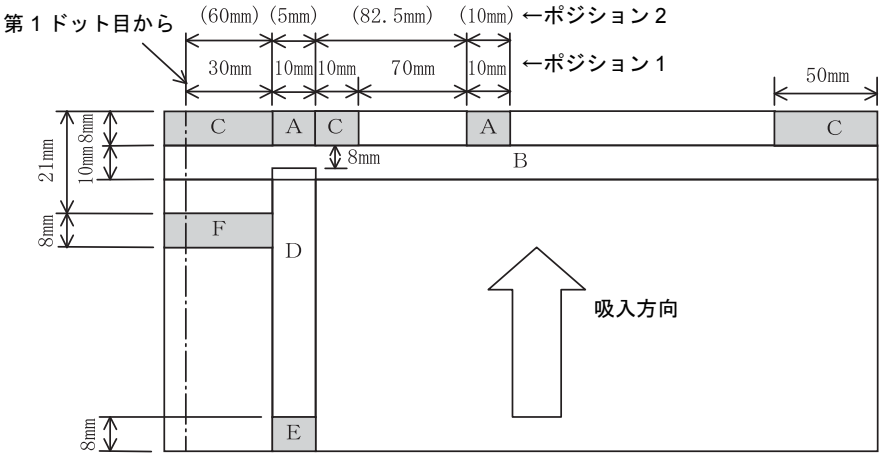
- A、E、F 部は光反射率 60%以下の色（例えば黒）は使用しないでください。
- D 部に反射率 60%以下の色（例えば黒）を使用する場合は、「プレプリント禁止領域に印刷するとき」（→ P.133）に示す幅の条件に従ってください。

■FMPR5130 の場合



- A、E 部は光反射率 60%以下の色（例えば黒）は使用しないでください。
- D 部に反射率 60%以下の色（例えば黒）を使用する場合は、「プレプリント禁止領域に印刷するとき」（→ P.133）に示す幅の条件に従ってください。

単票セットフリーオフ時の手差し単票、 カットシートフィーダで使用する単票、 連帳の場合のプレプリント禁止領域



- A、B、C、E、F 部は光反射率 60%以下の色（例えば黒）は使用しないでください。
- D 部に反射率 60%以下の色（例えば黒）を使用する場合は、「プレプリント禁止領域に印刷するとき」（→ P.133）に示す幅の条件に従ってください。
- B、C 部は「その他の設定（ソノタノセッテイ）」（→ P.182）の「用紙吸入時の斜行検出（シャコウケンシュツ）」と「用紙外印字防止（ヨウシガイインジボウシ）」を「無効（ムコウ）」にした場合は、プレプリントの制約はなくなります。
- F 部は「装置機能設定（ソウチキノウセッテイ）」（→ P.169）の「オートローディング（オートローディング）」を「無効（ムコウ）」にすると、プレプリントの制約はなくなります。また、連帳使用時は適用外です。
- ポジション 1、2 は「その他の設定（ソノタノセッテイ）」（→ P.182）の「前用紙吸入時のキャリア位置（F パスキャリアイチ）」と「後用紙吸入時のキャリア位置（R パスキャリアイチ）」で設定できます。

プレプリント禁止領域に印刷するとき

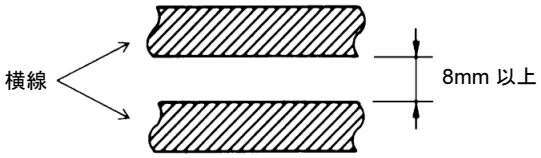
やむを得ず D 部内に印刷するときは、次のようにしてください。

1 **斜線内に印刷する横線の太さは、下図に示すように 8mm 以下にする**



2 手順1の横線が連続するときは、下図に示すようにすきまを8mm以上空ける

線の太さが 0.5mm 以下のときは、すきまが 4mm 以上でも可能です。



3 斜線内に縦線を入れるときは、線の太さを 0.5mm 以下とし、斜線内に 1 本までとする

やむを得ず A、B、C、E、F 部内に印刷するときは、線の太さを 0.5mm 以下とし、すきまを 4mm 以上空けてください。

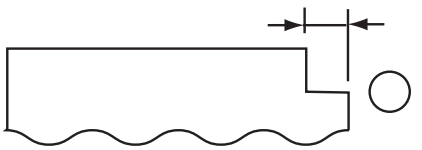
9 用紙の形状について

単票セットフリーオン時の用紙上端について



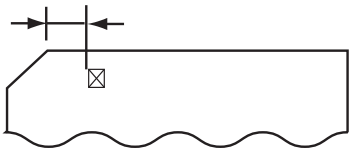


このような用紙はセット位置によって打ち出し位置がずれることがありますので、単票セットフリーオフで使用してください。



用紙右上部の切り欠きは 8mm 以下としてください。

単票セットフリーオフ時の用紙上端について



左端部の面取りは第 1 ドットの左側となるように用紙ガイドを移動して使用してください。

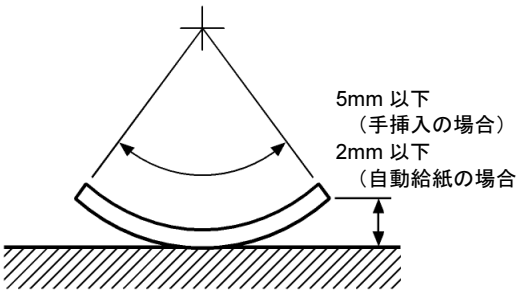


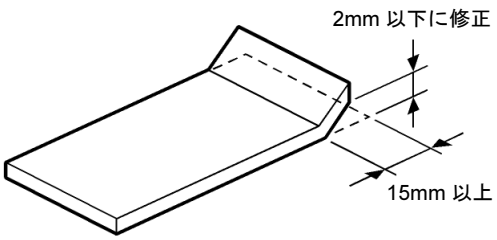
用紙上端の切り欠きや面取りが 8mm を超える場合は、機能設定で用紙吸入時の斜行検出を無効にして、使用してください。

10 用紙の取り扱い上のご注意

用紙の保管、 取り扱いについて

- 用紙は次のような場所に保管してください。
  - 暗く、湿気の少ない書棚の中のような場所
  - 平らなパレットの上
  - 周囲温度：5 ℃～ 35 ℃
  - 周囲湿度：20% ～ 80%（結露しないこと）
- 次のような場所は避けてください。
  - 床の上に直接置く
  - 直射日光の当たる場所
  - 外壁の内側の近く
  - 段差や、曲がりのある場所
  - 静電気が発生する所
  - 過度の温度上昇と、急激な温度変化のある所
  - 複写機、空調機、ヒーター、ダクトのそば
- 排出された単票用紙を長時間放置したり、大量の単票用紙を排出したりした場合、用紙がカールする、用紙が崩れる、などにより次の排出が適切に行えなくなります。排出された用紙は、すみやかに取り除いてください。
- 用紙厚さに段差のある用紙や穴の開いている用紙は、印字かすれ、リボンによる用紙汚れや印字ヘッドピン折れの原因になりますので、充分に試し印字をしてください。
- 用紙の上端がカールしていたり、折れたりしている用紙は、プリンタ内部で用紙走行不良を起こしやすいので、上端がカールしていないまたは折れていない用紙をご使用ください。





- 長期間放置した用紙を使用した場合、うまく印刷できないことがあります。
  用紙を長期間保管するときは、次の配慮をしてください。
  - 開封後の残りの用紙は、ほこりが付かないよう、包装してあった紙に包む。
  - 長期間プリンタを使用しないときは、プリンタにセットした用紙を外して、包装してあった紙に包む。
- 用紙を印字開始位置に送った後、長時間放置すると用紙がカールします。
  用紙を印字開始位置に送った後は、早めに印刷してください。用紙送り後、印刷を中止する場合は、いったん用紙を排出（連帳用紙の場合は退避位置に後退）してください。

特殊用紙について

- この章に記述した仕様以外の用紙は、使用しないでください。用紙づまりなどのトラブルの原因となります。
- 再生紙の種類によってはリボンカセットの寿命が短くなったり、用紙づまりが起きたりすることがあります。このときは、使用を中止し、紙質の良いものに変更してください。

11 リボンカセットを交換する

リボンカセットの種類

このプリンタで使用するリボンカセットは、下表のとおりです。

・FMPR5630/FMPR5430 の場合

商品名	商品番号	備考
リボンカセット SDM-14	0327410	黒色インクリボンが入ったリボンカセットです （ANK ドラフト 1,500 万字）
サブカセット SDM-14	0327420	詰め替え用インクリボンです。サブカセットは 1 つのリボンカセットに対して 5 回詰め替え可能です。

・FMPR5130 の場合

商品名	商品番号	備考
リボンカセット SDM-15	0327510	黒色インクリボンが入ったリボンカセットです （ANK ドラフト 500 万字）
サブリボンカセット SDM-15	0327520	詰め替え用インクリボンです。サブカセットは 1 つのリボンカセットに対して 4 回詰め替え可能です。

なお、オプション品の情報は、このマニュアルを発行した時点のものです。
最新情報は、富士通製品情報ページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/peripheral/printer/）でご確認ください。
これらについては、本製品のご購入元または富士通コワーコにご相談ください。

■富士通コワーコお客様総合センター

通話料無料：0120-505-279
受付時間：月曜～金曜　9：00 ～ 12：00、13：00 ～ 17：30
（土・日曜日・祝日・当社指定の休日を除く）
URL：https://www.fujitsu.com/jp/group/coworco/

⚠注意

⚠ ・インクリボンをお子様が口に入れたりなめたりしないように注意してください。健康を損なう原因となることがあります。

重要

・インクリボン、リボンカセットは、本製品専用の純正サプライ品のご使用をお奨めします。
富士通プリンタは、純正のインクリボン、リボンカセットのご使用時に最適な印字品質が得られるよう設計されています。非純正のものをご使用になりますと、プリンタ本体の故障の原因になったり、印刷品質が低下するなど、本来の性能が発揮できない場合があります。なお、すべての非純正品で、必ず不具合が発生するわけではありません。
非純正の消耗品のご使用に起因する装置故障への対応につきましては、保守契約または保証期間内であっても有償となりますので、ご留意ください。
・指定以外のリボンカセットを使用すると、インクリボンがからまったり、印字ヘッドが傷んだりしてプリンタの故障を引き起こすことがあります。
・インクリボンがたるんだ状態で使用しないでください。たるんだまま印字を開始すると、インクリボンがからまったり、巻取りがロックされたりすることがあります。
・使用済みのリボンカセットおよびサブカセットは、不燃物として地方自治体の条例または規則に従って処理してください。
・印刷中に印字ヘッドのピン折れが発生していたリボンを続けて使用すると、リボンが破れている場合があるため、印字ヘッド交換時にインクリボンの交換をお勧めします。

交換のしかた （FMPR5630/FMPR5430 の場合）

リボンカセットの交換は、次の手順で行います。

1 印字ヘッドをリボン交換位置に移動する

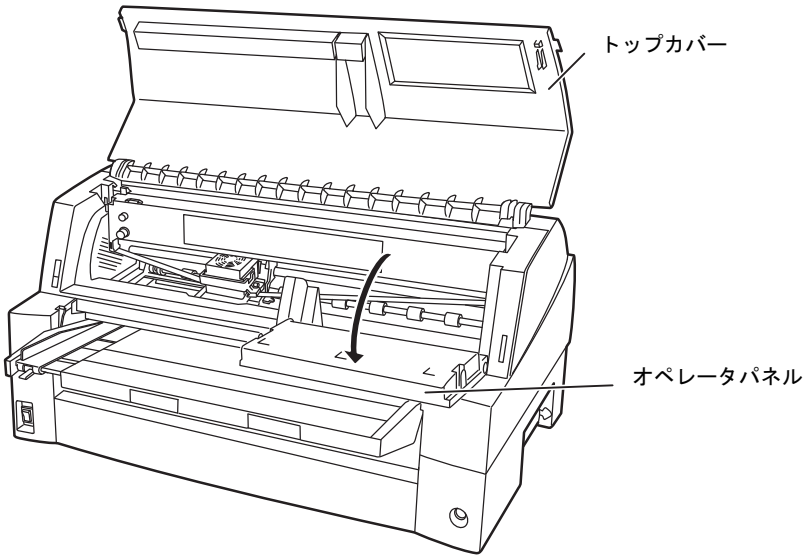
トップカバーを閉じて、電源を入れると、印字ヘッドがリボン交換位置に移動します。

2 電源を切る

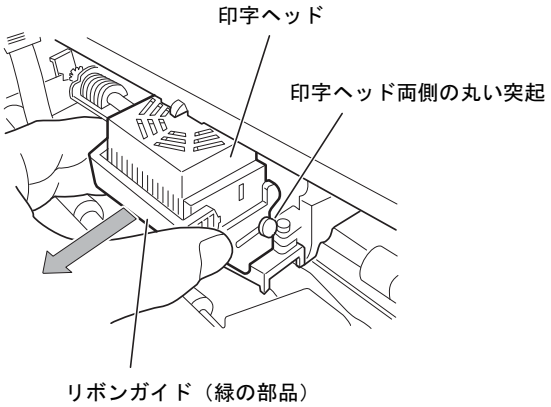
電源スイッチが「○」側に倒れた状態になります。

3 トップカバーを開ける

4 オペレータパネルを手前側に倒す

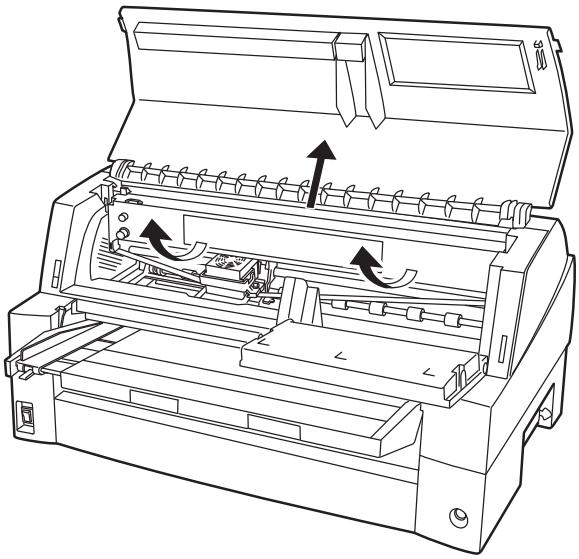


5 リボンガイドを外す



6 リボンカセットを取り外す

リボンカセットを手前に起こしてロックを外し、プリンタから取り外します。



7 新しいリボンカセットを取り付ける

新しいリボンカセットの取り付けは、「リボンカセットを取り付ける」（→ P.41）をご覧ください。

⚠注意

・印字した直後は、印字ヘッドおよびプリンタ内部が高温になります。温度が下がったことを確かめてから、リボンを交換してください。やけどの原因となることがあります。

サブカセットの交換方法は、FMPR5630/FMPR5430 は梱包箱に記載されている交換手順をご覧ください。
FMPR5130 のサブカセットの交換は、「サブカセットの交換のしかた」（→ P.143）をご覧ください。
サブカセットは、1 つのリボンカセットに対して、FMPR5630/FMPR5430 は 5 回まで、FMPR5130 は 4 回まで交換可能です。それ以降はリボンカセットを交換してください。
リボンカセットおよびサブカセットの交換後、「リボン寿命が表示されたら」（→ P.209）をご覧いただき、リボンカウンタをクリアしてください。

交換のしかた （FMPR5130 の場合）

リボンカセットの交換は、次の手順で行います。

1 印字ヘッドをリボン交換位置に移動する

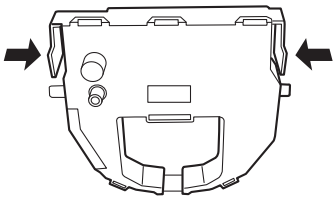
トップカバーを閉じて、電源を入れると、印字ヘッドがリボン交換位置に移動します。

2 電源を切る

電源スイッチが「○」側に倒れた状態になります。

3 トップカバーを開ける

4 リボンカセットの両脇を押して、プリンタから取り外す



⚠注意

・印字した直後は、印字ヘッドが高温になります。温度が下がったことを確かめてから、リボンを交換してください。やけどの原因となることがあります。

5 新しいリボンカセットを取り付ける

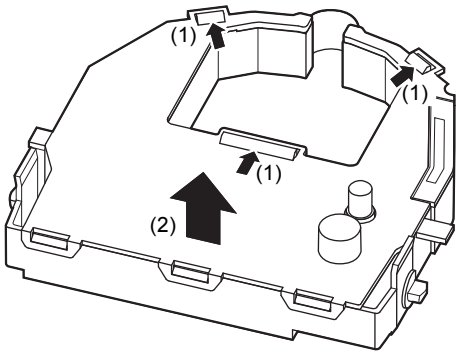
新しいリボンカセットの取り付けは、「リボンカセットを取り付ける」の「FMPR5130 の場合」（→ P.44）をご覧ください。

リボンカセットの交換後、「リボン寿命が表示されたら」（→ P.209）をご覧いただき、リボンカウンタをクリアしてください。

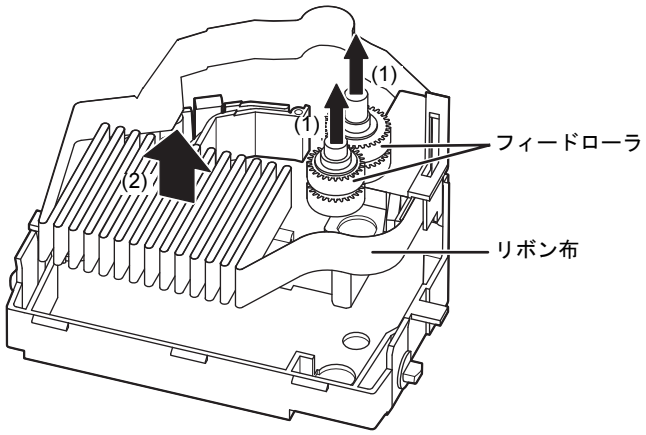
サブカセットの交換のしかた

サブカセットの交換は、次の手順で行います。

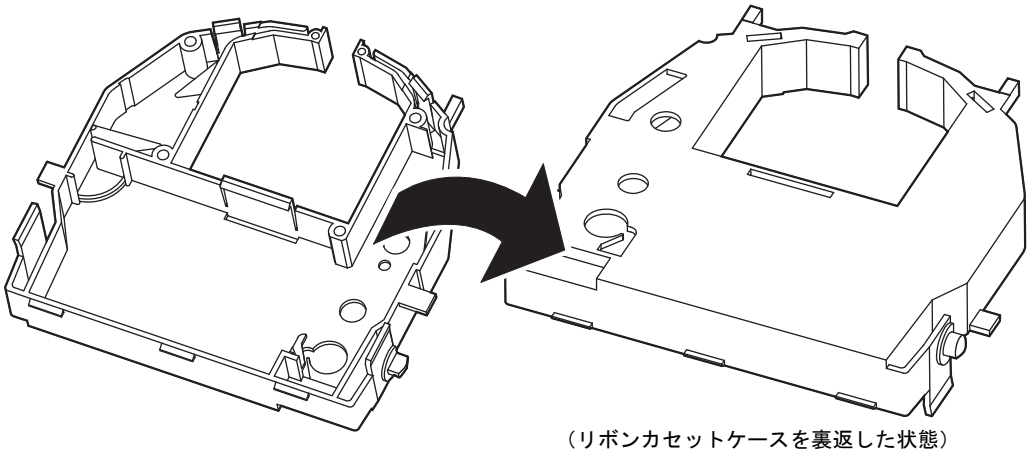
1 **(1)** リボンカセットのふたのロックツメを外し、**(2)** リボンカセットのふたを矢印方向に外す



2 **(1)** フィードローラ **2** 個を矢印方向に外した後、**(2)** リボン布を矢印方向に外す

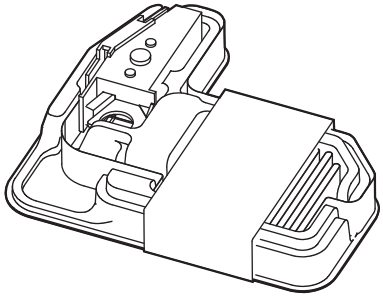


3 リボンカセットケース単体の状態にした後、リボンカセットケースを裏返す

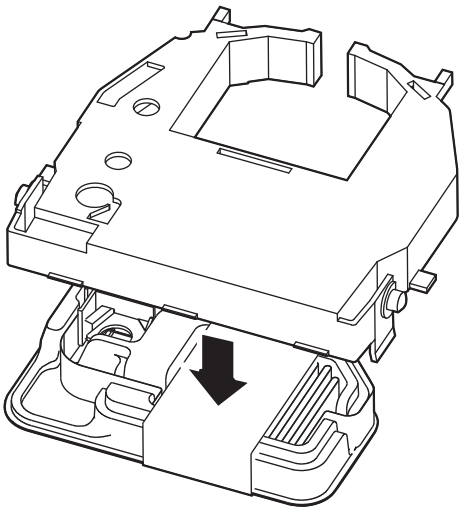


（リボンカセットケースを裏返した状態）

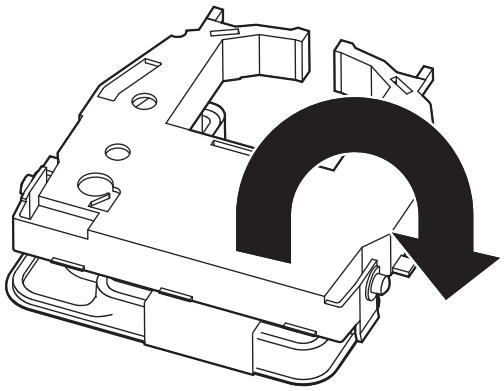
4 サブカセットを下図の方向に向け配置する



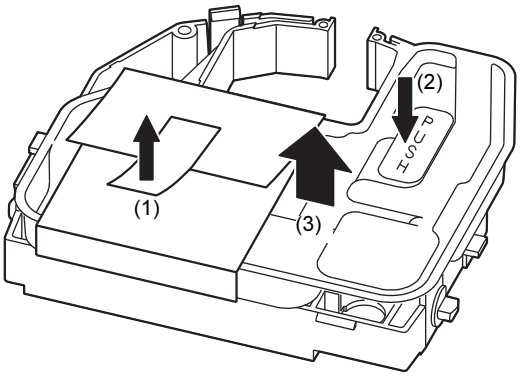
5 サブカセットの上にリボンカセットケースを載せる



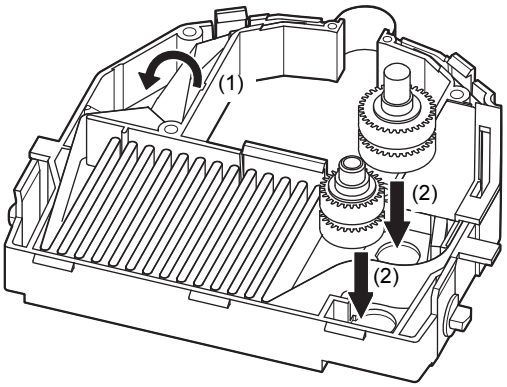
6 サブカセットの上にリボンカセットケースを載せた状態でサブカセットが上面になるように裏返す



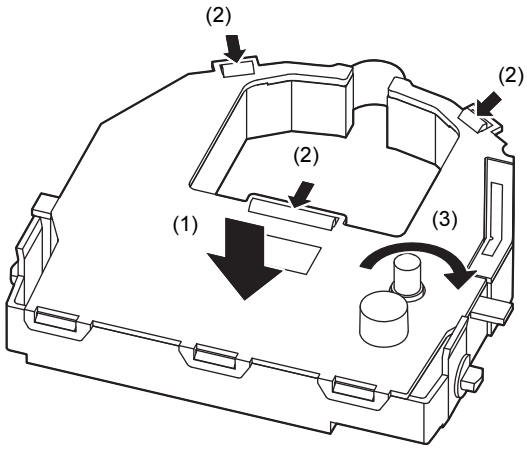
7 **(1)** サブカセットに巻いてあるシートのテープをはがし、**(2)** サブカセットの「**PUSH**」と刻印ある場所を指で押した後、**(3)** サブカセットのケースを矢印方向にゆっくりと引き上げる



8 **(1)** リボンをケースに収納し、**(2)** フィードローラ（**2** 個）をリボンカセットケースに差し込む



9 **(1)** リボンカセットのふたをフックにはめ込み、**(2)** リボンカセットのふたのロックツメにロックし、**(3)** リボンノブを矢印方向に回し、スムーズに回転しリボンが送られていることを確認する



リボンカセットおよびサブカセットの交換後、「リボン寿命が表示されたら」（→ P.209）をご覧いただき、リボンカウンタをクリアしてください。

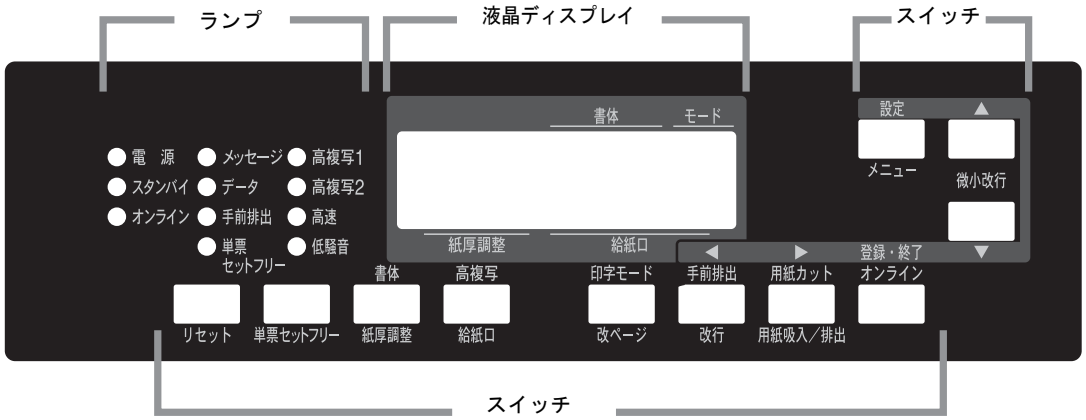
第 5 章　オペレータパネルの操作

この章では、オペレータパネルの機能やその使い方について説明します。

1　オペレータパネルの機能　（FMPR5630/FMPR5430 の場合）　. 148
2　オペレータパネルの機能　（FMPR5130 の場合）　. 150
3　オペレータパネルを操作する 152
4　オンライン状態で行う操作　. 153
5　オフライン状態で行う操作　. 155
6　単票手差しの使用方法を切り替える　. 158
7　プリンタをリセットする 159
8　操作方法 160
9　用紙の吸入量を調整する　（FMPR5630/FMPR5430 の場合）　. 187
10　用紙の吸入量を調整する　（FMPR5130 の場合）　. 190
11　連続帳票用紙をカット位置に送る　. 192
12　自動検出機能　. 194
13　用紙外印字防止機能について 195

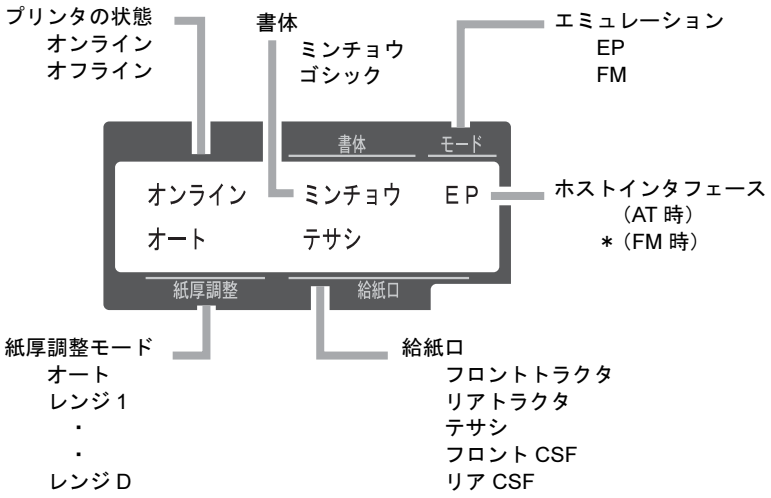
1　オペレータパネルの機能（FMPR5630/FMPR5430 の場合）

オペレータパネルには、プリンタの状態を表示する液晶ディスプレイとランプ、プリンタを操作するためのスイッチが付いています。



液晶ディスプレイ

16 桁 ×2 行表示の液晶ディスプレイであり、プリンタの状態を表示します。



ランプ

各ランプの機能は次のとおりです。

ランプ名称	色	機　能
電源	緑	電源スイッチを入れる（「｜」側に倒す）と点灯します。
スタンバイ［注］	オレンジ	スタンバイ状態で点灯します。このとき、他のランプおよび LCD はすべて消灯状態となります。
オンライン	緑	オンライン状態で点灯します。
データ	緑	プリンタ内に印刷するデータがあるかどうかを知らせます。 点灯：データが残っている 点滅：データをパソコンから受信中 消灯：データがない 点灯または点滅中に電源を切断すると、そのデータは失われます。
メッセージ	オレンジ	印刷できない状態にあることを知らせます。 点灯：エラーが発生し、印刷できない状態 消灯：印刷できる状態
単票セットフリー	緑	単票セットフリー機能がオンの状態で点灯します。
高複写 1、2	緑	高複写印字モードのときに点灯します。
高速	緑	高速印字モード（間引き印字）のときに点灯します。
低騒音	緑	低騒音印字モード（間引き印字）のときに点灯します。
手前排出	緑	単票用紙の排出方向が「手前排出」のときに点灯します。

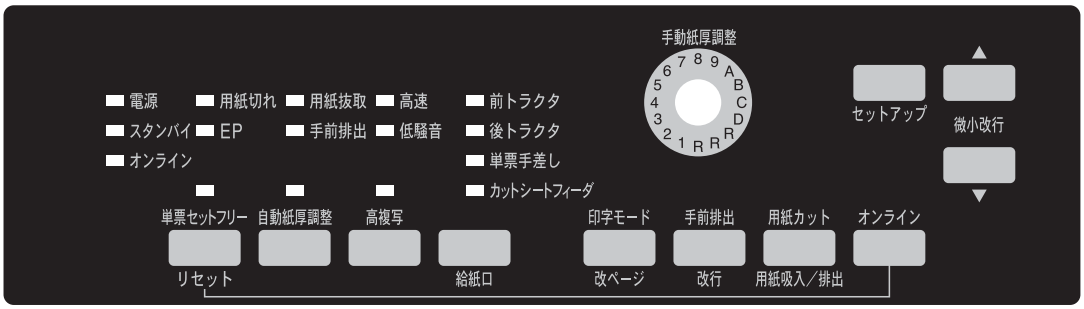
注　エラーなどが発生している場合、プリンタはスタンバイモードに入りません。

スイッチ

用紙カット／用紙吸入 / 排出、手前排出／改行、印字モード／改ページのように、スイッチの上下に名称が書かれている場合、そのスイッチの機能はオンライン状態のときは上側、オフライン状態のときは下側になります。
各スイッチを使用した機能については、「オペレータパネルを操作する」（→ P.152）をご覧ください。

2 オペレータパネルの機能（FMPR5130 の場合）

オペレータパネルには、プリンタの状態を示すランプとプリンタを操作するためのスイッチおよびダイヤルが付いています。



POINT

・各スイッチの真上のランプは、各スイッチと連動した機能になります。

ランプ

各ランプの機能は次のとおりです。

ランプ名称	色	機　能
電源	緑	電源スイッチを入れる（「｜」側に倒す）と点灯します。
用紙切れ	オレンジ	用紙がなくなると点灯します。アラーム発生時に点滅します。
スタンバイ［注 1］	オレンジ	スタンバイ状態で点灯します。このとき、他のランプはすべて消灯状態となります。
用紙抜取［注 2］	緑	手前に排出した用紙が抜き取り待ち状態のときに点滅します。
EP	緑	ESC/P モードの場合に点灯します。FM モードのとき消灯します。
単票セットフリー	緑	単票セットフリー機能がオンの状態で点灯します。
自動紙厚調整	緑	自動紙厚調整の場合に点灯します。
高複写	緑	高複写印字モードのときに点灯します。
前トラクタ	緑	前トラクタからの用紙を使用する場合に点灯します。インクリボン寿命のとき点滅します。
後トラクタ	緑	後トラクタからの用紙を使用する場合に点灯します。装置寿命のとき点滅します。
単票手差し	緑	単票手差しからの用紙を使用する場合に点灯します。印字ヘッド寿命のとき点滅します。

ランプ名称	色	機　能
カットシートフィーダ	緑	カットシートフィーダまたは単票手差しからの用紙を使用する場合に点灯します。CSF ローラキット寿命のとき点滅します。
高速	緑	高速印字モード（間引き印字）のときに点灯します。
低騒音	緑	低騒音印字モード（間引き印字）のときに点灯します。
手前排出	緑	単票用紙の排出方向が「手前排出」のときに点灯します。手前に排出した単票用紙が抜き取り待ち状態のときに点滅します。
オンライン	緑	オンライン状態で点灯します。

注 1　エラーなどが発生している場合、プリンタはスタンバイモードに入りません。

注 2　単票用紙の抜き取り待ち状態とは、次の不具合を防止するために単票テーブルに排出した用紙が除去されるまで動作を停止し、「用紙抜取」ランプを点滅させ、排出された用紙の除去をオペレータにうながします。

- 単票テーブルに排出した用紙が誤って再吸入される。
- 単票テーブルに連続排出された用紙が単票テーブルから落下する。

スイッチ

用紙カット／用紙吸入 / 排出、手前排出／改行、印字モード／改ページのように、スイッチの上下に名称が書かれている場合、そのスイッチの機能はオンライン状態のときは上側、オフライン状態のときは下側になります。
以降、連続帳票用紙の前トラクタ給紙（→ P.71）を前連帳、後トラクタ給紙（→ P.77）を後連帳と表記します。

POINT

- **プリンタのトップカバーが開いていると、[微小改行▲] スイッチ、[微小改行▼] スイッチ以外のスイッチは操作できません。**

3 オペレータパネルを操作する

印刷をするときに用紙の給紙口を切り替えるためにオペレータパネルを操作します。

POINT

・プリンタのトップカバーが開いていると、スイッチは操作できません。ただし、[微小改行▲]スイッチ、[微小改行▼]スイッチは操作できます。
印字ヘッドが動いているときに、トップカバーを開けた場合は、[微小改行▲]スイッチ、[微小改行▼]スイッチも操作できません。

オンライン状態とオフライン状態を切り替える

プリンタの状態には、オンライン状態とオフライン状態があります。オンライン状態とオフライン状態は、オペレータパネルの[オンライン]スイッチによって切り替えます。

■オンライン状態

パソコンからデータを受信して印刷動作ができる状態をいいます。通常、電源を入れるとオンライン状態になり「オンライン」ランプが点灯します。「オンライン」ランプが消灯しているとき（オフライン状態）に[オンライン]スイッチを押すと、オンライン状態になります。

■オフライン状態

パソコンからデータを受信できない状態をいいます。オンライン状態のときに[オンライン]スイッチを押すと、オフライン状態になります。

4 オンライン状態で行う操作

ここで使用するスイッチは、スイッチの上の名称で表記します。

用紙をカットする

前／後トラクタ時に[用紙カット]スイッチを押すと、あらかじめセットしたプリンタの用紙がカット位置にくるように用紙送りを行います。詳しくは、「連続帳票用紙をカット位置に送る」（→ P.192）をご覧ください。
再度押すと、元の位置（ページ先頭位置）に戻ります。
単票モードの場合は、本スイッチは無効になります。

単票用紙の排出方向を切り替える （手前排出）

単票用紙の排出方向の切り替えを行います。
単票用紙の排出方向には、手前（単票テーブル側）と後方（リアスタッカ側）の2つがあります。

■「手前排出」 ランプ消灯時

[手前排出]スイッチを押すと、「手前排出」ランプが点灯し、単票用紙の排出方向は手前排出となります。

■「手前排出」 ランプ点灯時

[手前排出]スイッチを押すと、「手前排出」ランプが消灯し、単票用紙の排出方向は後方排出となります。
排出方向は、単票手差し、前カットシートフィーダ、後カットシートフィーダとも用紙繰り出し方向です。
Windows から印字する場合、プリンタドライバのプロパティ設定が優先します。プロパティが「自動排出」設定の場合は、プリンタ側の排出方向設定が有効となります。

印字モードを切り替える

印字モード スイッチを押すごとに、「標準印字モード」、「高速印字モード」、「低騒音印字モード」の順に切り替わります。

- 標準印字モード
  180dpi の解像度で印刷します。
- 高速印字モード（「高速」ランプ点灯）
  間引き印字することにより、標準の 2 倍の速度で印字します。
- 低騒音印字モード（「低騒音」ランプ点灯）
  高速印字モード（間引き印字）のパターンを標準印字速度で印字し、騒音を低減します。プリンタドライバからの高速印字、高品質（標準印字）の指定は、低騒音印字モードが解除されると有効になります。

Windows から印字する場合、プリンタドライバのプロパティ設定が優先します。プロパティが「プリンタ設定優先」の場合は、プリンタ側の印字モード設定が有効となります。

高複写モードに切り替える

■FMPR5630/FMPR5430 の場合

高複写 スイッチを押すごとに、「標準」、「高複写 1」、「高複写 2」の順に切り替わります。
高複写モードのときは、「高複写 1」または「高複写 2」ランプが点灯します。

- 高複写 1（「高複写 1」ランプ点灯）
  印字速度を若干落とし、印字圧を上げます。
- 高複写 2（「高複写 2」ランプ点灯）
  印字速度を半分以下に落とし、フロント、リアのヘッドで同一ドットを 2 度打ちします。

■FMPR5130 の場合

高複写 スイッチを押すごとに、「標準」、「高複写」の順に切り替わります。
高複写モードのときは、「高複写」ランプが点灯します。

- 高複写（「高複写」ランプ点灯）
  印字速度を若干落とし、印字圧を上げます。

漢字の書体を切り替える （FMPR5630/FMPR5430 の場合）

書体 スイッチを押すごとに「ミンチョウ」と「ゴシック」が切り替わります。
選択された書体が、液晶ディスプレイに表示されます。

5 オフライン状態で行う操作

ここで使用するスイッチは、スイッチの下の名称で表記します。

用紙の吸入や排出を行う

■前トラクタ／後トラクタセット時 （給紙口を 「フロントトラクタ」 または 「リアトラクタ」 選択時）

用紙なし状態の場合、用紙吸入/排出スイッチを押すと、前トラクタまたは後トラクタにセットしてある連続帳票用紙を印字開始位置まで吸入します。
用紙あり状態の場合、用紙吸入/排出スイッチを押すと、前トラクタまたは後トラクタにセットしてある連続帳票用紙を待機位置まで後退します。

■単票用紙セット （手差しモード） 時 （給紙口を 「テサシ」 選択時）

機能設定の「装置機能設定（ソウチキノウセッテイ）」（→ P.169）で「オートローディング（オートローディング）」を「無効（ムコウ）」に設定している場合、単票テーブルに単票用紙をセットした状態で用紙吸入/排出スイッチを押すと、単票用紙を印字開始位置まで吸入します。
用紙あり状態で用紙吸入/排出スイッチを押すと、単票用紙の排出を行います。
排出方向は、「手前排出」ランプの表示状態に従い手前または後方です。

■カットシートフィーダ搭載時 （給紙口を 「フロント CSF」 または 「リア CSF」 選択時）

フロントカットシートフィーダまたはリアカットシートフィーダにセットした用紙が未吸入状態で用紙吸入/排出スイッチを押すと、単票用紙を印字開始位置まで吸入します。用紙吸入状態で本スイッチを押すと、単票用紙を排出します。
排出方向は、「手前排出」ランプの表示状態に従い手前または後方です。

POINT

・用紙後退中に途中で止まることがありますが、故障ではありません。しばらくすると動き出します。

改行する

改 行スイッチを 1 回押すと、正改行（用紙繰り出し方向）動作を行います。
正改行の方向は、プリンタ前面から吸入する用紙（前トラクタ、単票、フロントカットシートフィーダ）と、プリンタ背面から吸入する用紙（後トラクタ、リアカットシートフィーダ）では、用紙繰り出し方向が異なります。
押し続けると、連続正改行動作となります。
改 行スイッチによる正改行の送り量は、1/6 インチ固定です。

改ページを行う

改ページスイッチを押します。

■前トラクタ／後トラクタ時 （給紙口を 「フロントトラクタ」 または 「リアトラクタ」 選択時）

用紙を次のページの先頭行に送ります。このときのページの長さは、機能設定の「EP 設定」（→ P.176）の「連帳ページ長」により設定されます。初期設定は 11 インチです。
印刷実行後はプリンタドライバ、アプリケーションから設定した値になりますが、その後に電源の切断、リセットスイッチによるリセット、リセットコマンド送出によるリセットを実行した場合は、機能設定の「ESC/P 固有設定」の「連帳ページ長」で設定したページ長になります。

■単票用紙セット （手差しモード） 時 （給紙口を 「テサシ」 選択時）

用紙を排出します。
機能設定の「その他の設定（ソノタノセッテイ）」（→ P.182）で「単票モード時の FF コード（タンピョウノ FF コード）」を「ページ長送り（ページオクリ）」にした場合はページ長分用紙を送ります。

■カットシートフィーダ搭載時 （給紙口を 「フロント CSF」 または 「リア CSF」 選択時）

フロントカットシートフィーダまたはリアカットシートフィーダにセットした用紙が未吸入状態で本スイッチを押すと、単票用紙を印字開始位置まで吸入します。用紙吸入状態で本スイッチを押すと、この単票用紙を排出後、フロントカットシートフィーダまたはリアカットシートフィーダにセットした次の単票用紙を印字開始位置まで吸入します。

給紙口を切り替える

使用する給紙口を選択します。
FMPR5630/FMPR5430 の場合は、給紙口スイッチを 1 回押すごとに、給紙口が「フロントトラクタ」、「リアトラクタ」、「テサシ」、「リア CSF」、「フロント CSF」の順に切り替わります。選択された給紙口が、液晶ディスプレイに表示されます。
フロント CSF、リア CSF、フロントトラクタ、リアトラクタは、それぞれカットシートフィーダが搭載されているときのみ選択可能です。
フロント CSF 搭載時はフロントトラクタには切り替わりません。
FMPR5130 の場合は、給紙口スイッチを 1 回押すごとに、給紙口が「前トラクタ」、「後トラクタ」、「手差し」、「カットシートフィーダ」の順に切り替わります。そのとき未搭載の給紙口は表示されません。
Windows から印字する場合、プリンタドライバのプロパティ設定が優先します。
ただし、手差し口に用紙がセットされている状態で、プロパティ設定とプリンタ設定の給紙口が一致した場合は、手差し口から給紙します。

紙厚調整モードを切り替える

■FMPR5630/FMPR5430 の場合

[紙厚調整]スイッチを押すごとに、「オート」、「レンジ 1」～「レンジ 9」、「レンジ A」～「レンジ D」の順に切り替わります。
選択されたモードが、液晶ディスプレイに表示されます。
「オート」に設定した場合は、プリンタドライバのプロパティでの用紙厚設定が優先されるので、プリンタドライバのプロパティで用紙厚を正しく設定する必要があります。
「オート」以外に設定した場合は、プリンタドライバのプロパティで設定した内容を無視するので設定されたレンジで印字します。

■FMPR5130 の場合

「自動紙厚調整」ボタンを 2 秒間押すと、自動紙厚調整と手動紙厚調整を切り替えます。
自動紙厚調整は、用紙吸入時に自動で設定します。
手動紙厚調整は、ダイヤルで用紙厚を設定します。
設定方法は、「用紙厚を設定する（FMPR5130 の場合）」－「ダイヤルで設定をする」（→ P.101）をご覧ください。

6 単票手差しの使用方法を切り替える

単票手差しの方法を切り替えます。

単票セットフリー スイッチを押すごとに単票セットフリーのオン、オフが切り替わります。

■単票セットフリーオフ時 （「単票セットフリー」 ランプ消灯）

用紙ガイドに用紙左端を沿わせてセットします。印字開始位置は、用紙ガイド（左）を移動させて余白を調整してください。

単票セットフリーオフの場合のみ「オートローディング」の時間設定が有効となります。

■単票セットフリーオン時 （「単票セットフリー」 ランプ点灯）

用紙を単票テーブルの用紙吸入口に軽く押し込むだけで用紙がセットされます。「単票セットフリー」ランプが点灯します。印字開始位置は、機能設定の「余白量設定（ヨハクリョウセッテイ）」（→ P.172）の「手差しセットフリー左端余白量（テサシセットフリーヨハク）」で設定した値になります。「装置機能設定（ソウチキノウセッテイ）」（→ P.169）の「オートローディング（オートローディング）」が「無効（ムコウ）」の場合は、用紙吸入/排出 スイッチを押さないと用紙を吸入しません。

7 プリンタをリセットする

リセットすると未印刷データは消去されます。

■FMPR5630/FMPR5430 の場合

1 オンライン スイッチを押してオフライン状態にする

2 リセット スイッチを押す

液晶ディスプレイに「ショキカ シマスカ？ Y: リセット N: オンライン」と表示されます。

POINT

- 初期化しないときは、オンライン スイッチを押すと、リセットせずにオフライン状態に戻ります。
- プリンタ内に未印刷データがあるときは、「データ」ランプが点灯しています。このときプリンタを初期化すると、未印刷データは消去されます。

3 再度、リセット スイッチを押す

リセット後、モード表示（→ P.148）に EP、FM のいずれかが表示されていないときは、再度プリンタをリセットしてください。

■FMPR5130 の場合

1 オンライン スイッチを押してオフライン状態にする

2 オンライン スイッチを押したまま、リセット スイッチを押す

ブザーが鳴り、初期化されます。

8 操作方法

ここでは、プリンタの設定について説明します。

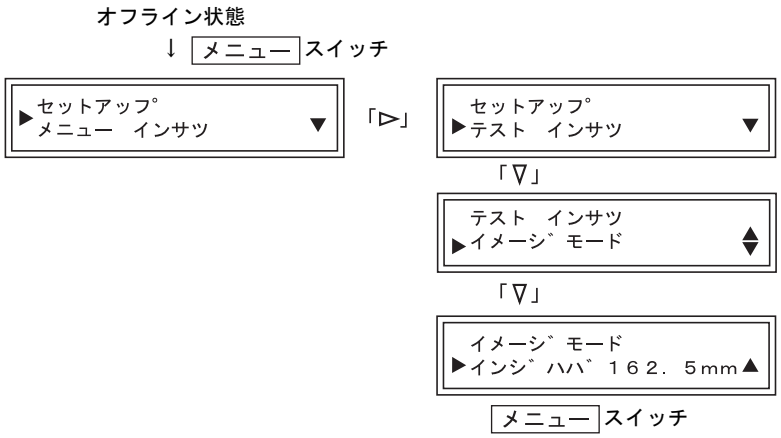
プリンタドライバの優先項目については、プリンタドライバの設定に従って、プリンタは動作します。
プリンタドライバで設定できない項目については、「機能設定を変える（FMPR5630/FMPR5430 の場合）」（→ P.160）、「機能設定を変える（FMPR5130 の場合）」（→ P.163）より設定してください。
プリンタの各機能の設定を変更する方法と設定項目の詳細について説明します。

機能設定を変える （FMPR5630/FMPR5430 の場合）

基本的な操作

メニューモードでは、目的の設定値を上位のレベルから順に選んで表示させ、設定します。設定値までのレベルの深さは項目によって異なります。
メニューモードでは、次のスイッチを使用します。

- [メニュー] スイッチ
  オフライン状態で本スイッチを押すとメニューモードに入ります。メニューモード移行後は、本スイッチを押すと表示中の値に設定します。
- △または▽スイッチ
  レベルを移動します。
- ◁または▷スイッチ
  同じレベル内で項目を切り替えます。

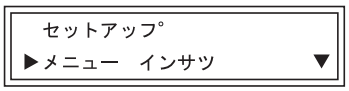


選んだ項目に設定する操作

具体的な操作方法を次に示します。
表示例は、ブザーの鳴動のオン／オフを設定するときのものです。

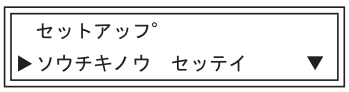
1 オフライン状態で［メニュー］スイッチを押し、メニューモードにする

オンライン状態
↓［オンライン］スイッチ
オフライン状態
↓［メニュー］スイッチ



2 ◁スイッチまたは▷スイッチで、同じレベル内の項目を切り替える

↓ ◁スイッチまたは▷スイッチ

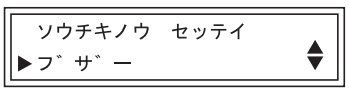


3 ▽スイッチまたは△スイッチで、レベルを移動する

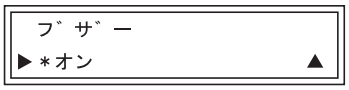
▽スイッチを押すと、手順 2 で選択した項目が上段に、その項目の下にある項目が下段に表示されます。△スイッチを押すと、上のレベルに移動します。

4 手順 2 と手順 3 の操作を繰り返して、目的の設定値を表示する

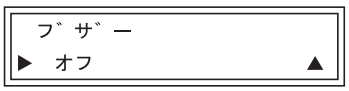
↓ ▽スイッチ



↓ ▽スイッチ



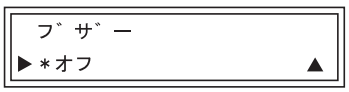
↓ ◁スイッチまたは▷スイッチ



5 ［メニュー］スイッチを押して、値を確定する

［メニュー］スイッチを押すと、設定値の前に「*」が表示され、その値が設定されます。

↓［メニュー］スイッチ



6 必要に応じて設定を繰り返す

他に設定する項目がある場合は、操作を繰り返して設定します。

7 メニューモードの「トウロク」で「セッテイトウロク」を実行し、設定内容を登録する

登録・終了スイッチを押した後、△スイッチを押すと、設定を登録します。▽スイッチを押すと、登録が取り消しになります。これを実行しないと、ここまで設定した内容は保存されません。

↓ 登録・終了スイッチ

```
▲:  セッテイトウロク
▼:  セッテイトリケシ
```

手順 5 の操作後、登録・終了スイッチを押すと、メニューモードの「トウロク」と同様に設定内容を登録できます。

重要

- **設定の登録後、オンライン状態になっていない場合、オンラインスイッチを押してオンライン状態にします。**

数値を設定する操作

余白の設定や用紙吸入量の設定など、値を数値で指定するときは、次のように操作します。
表示例は、F トラクタ給紙位置を設定するときのものです。
設定画面を表示し、▷スイッチで加算、◁スイッチで減算します。

設定画面を表示　↓ ◁スイッチ、▷スイッチ、▽スイッチ、△スイッチ

```
 F トラクタ キュウシイチ
▶ *－1.0mm                ▲
```

値を増減　↓ ◁スイッチ、▷スイッチ

```
 F トラクタ キュウシイチ
▶  ＋1.0mm                ▲
```

途中で機能設定を抜ける操作

登録・終了スイッチを押します。
設定変更をしていない場合は、下の画面表示に戻ります。
＊＊＊＊＊＊＊＊は現在の給紙方法が表示されます。

↓ 登録・終了スイッチ

```
ヨウシ  ナシ  ********
ヨウシヲ  セットシテクﾀﾞｻｲ
```

機能設定を変える （FMPR5130 の場合）

ここでは、機能設定の変え方と動作モード（FM、ESC/P）ごとに設定できる機能の内容について説明します。
機能設定は、「オフラインセットアップモード」で行います。
オフラインセットアップモードによる設定手順は次のとおりです。

1 プリンタに単票用紙をセットする

単票用紙をセットした後、電源を切ります。

2 オフラインセットアップモードへ入る

オフラインセットアップモードに入る方法には、次の二通りがあります。（モードに入ってからの操作はどちらも同じです）

1. **セットアップ スイッチを押しながら電源を入れます。**
   一度すべてのランプが点灯してからスイッチを離してください。
2. **オフライン状態（オンラインランプ消灯状態）でセットアップ**
   セットアップ スイッチをブザーが鳴るまで押し続けます。

POINT

- **トップメニュー表示中は、改ページ スイッチ、［改行］スイッチ、▽スイッチ、△スイッチ以外は無効です。**
- **トップメニューを終了するには、改ページ スイッチで「終了」の箇所に印字ヘッドを移動し、改ページ スイッチで実行してオフラインにしてください。**

次のトップメニューを印字します。

```
セットアップ開始
設 定　終 了　設定一覧　　初期化
```

メニューの内容は次のとおりです。

メニュー名	内　容
設定	プリンタの機能設定を変更します。
終了	プリンタの機能設定を終了します。
設定一覧	現在の設定内容をすべて印字します。
初期化	現在の設定内容を初期設定に戻します。

3 オフラインセットアップを実行する

オペレータパネルによる操作により、選択項目に印字ヘッドを移動させ、オフラインセットアップを行います。オフラインセットアップモードによる機能設定の操作は次のスイッチで行います。

	操作内容	使用するスイッチ
1	印字ヘッドを移動し、メニューを選択する。	改ページ
2	印字ヘッド位置の機能を確定し、次の設定項目に進む。	微小改行▼
3	印字ヘッド位置の機能を確定し、1 つ前の設定項目に戻る。	微小改行▲
4	用紙なし状態時の用紙吸入を行う。	用紙吸入/排出
5	機能設定開始状態（トップメニュー）に戻る。	オンライン

オフラインセットアップモードでの設定変更例 （設定一覧を印字する場合）

印字結果の例です。

```
セットアップ開始

設 定    終 了    設定一覧    初期化  ……（1）

FMPR5130          装置号機：MA0100000          ROM 版数：01A

装置機能設定                    補正機能
 ホストインタフェース    ＝ AT      手差し改行補正量        ＝ 0 mm
 エミュレーションモード  ＝ EP      前 CSF 改行補正量       ＝ 0 mm
        ・          ・                ・              ・
        ・          ・                ・              ・
        ・          ・                ・              ・
 受信バッファ          ＝ 有り
 用紙長インチ変換      ＝ 有効

設 定        終 了        設定一覧    初期化  ……（2）

セットアップ終了
```

1 セットアップスイッチを押しながら電源を入れて、（1）トップメニューを印字する

2 改ページスイッチを 2 回押し、印字ヘッドを「設定一覧」の位置に移動させ、微小改行▼スイッチを押す

設定一覧が印字されます。

3 途中用紙がなくなり、用紙が排出されたら、新しい用紙をセットする

4 設定一覧の印字が終了したら、オンラインスイッチを 2 回押す

（2）トップメニューが印字されます。

5 改ページ スイッチを 1 回押し、印字ヘッドを「終了」の位置に移動させ 微小改行▼ スイッチを押す

オフラインセットアップモードを終了します。

重要

・カットシートフィーダを取り付けているときは、用紙設定状態にかかわらず機能設定に入れません。

印字モードを 「標準」 から 「高速」

印字結果の例です。

```
セットアップ開始

設 定    終 了    設定一覧    初期化 ..... (1)

装置機能設定 余白量設定 EP 設定 補正機能   その他の設定 ..... (2)

[共通セットアップ項目]

ホストインタフェース
AT        RSV1 ..... (3)
AT        RSV1

エミュレーションモード
EP        FM        RSV2 ..... (4)
EP        FM        RSV2

印字モード
標準      高速      低騒音 ..... (5)
標準      高速      低騒音

用紙厚さ調整
自動      手動 ..... (6)

装置機能設定 余白量設定   EP 設定    補正機能   その他の設定 ..... (7)

設 定        終 了        設定一覧    初期化 ..... (8)

セットアップ終了
```

1 セットアップ スイッチを押しながら電源を入れて、(1) トップメニューを印字する

2 印字ヘッドを「設定」の位置に移動させ、微小改行▼ スイッチを押す

(2) 各設定項目の大項目メニューが印字されます。

3 印字ヘッドを「装置機能設定」の位置に移動させ、微小改行▼ スイッチを押す

最初の設定項目が印字されます。(3)「ホストインタフェース AT」が選択されており、その位置に印字ヘッドが移動している状態です。

4 **印字された設定項目を変更する必要がない場合は 微小改行▼ スイッチを押す**

次の設定項目が印字されます。(4)「エミュレーションモード EP」が選択されており、その位置に印字ヘッドが移動している状態です。
さらに、設定項目を変更する必要がないため、微小改行▼ スイッチを押すと、(5)「印字モード 標準」を印字します。

5 **改ページ スイッチを 1 回押し、印字ヘッドを「高速」の位置に移動させ、微小改行▼ スイッチを押す**

(6) 選択した項目が決定され、次の項目が印字されます。

6 **変更する作業が終了した後、オンライン スイッチを押す**

(7) 各設定項目の大項目メニューが印字されます。

7 **もう一度 オンライン スイッチを押す**

(8) トップメニューが印字されます。

8 **改ページ スイッチを 1 回押し、印字ヘッドを「終了」の位置に移動させ、微小改行▼ スイッチを押す**

この時点で設定内容が記憶され、オフラインセットアップモードを終了します。

重要

- 機能設定を変更中に電源を切ったり、微小改行▼ スイッチを押さなかったりした場合には、設定した内容は保証されません。

連帳ページ長を 「66 行」 から 「75 行」 に変更する例 （設定値が 9 個以上ある項目を変更する場合）

印字結果の例です。

```
セットアップ開始

設 定    終 了    設定一覧    初期化 ..... ..... (1)

装置機能設定 余白量設定 EP 設定 補正機能  その他の設定 ..... (2)

連帳ページ長
65 行  66 行  67 行  68 行  69 行  70 行  71 行  72 行  次の設定値 ... (3)
73 行  74 行  75 行  76 行  77 行  78 行  79 行  80 行  次の設定値 ... (4)
73 行  74 行  75 行  76 行  77 行  78 行  79 行  80 行  次の設定値

連帳ミシン目スキップ
0 インチ              1 インチ              ..... (5)

装置機能設定 余白量設定   EP 設定      補正機能   その他の設定  ..... (6)

設 定          終 了          設定一覧      初期化 ..... (7)

セットアップ終了
```

1 **セットアップ**スイッチを押しながら電源を入れて、(1) トップメニューを印字する

2 印字ヘッドを「設定」の位置に移動させ、**微小改行▼**スイッチを押す
(2) 各設定項目の大項目メニューが印字されます。

3 印字ヘッドを「EP 設定」の位置に移動させ、**微小改行▼**スイッチを押す
(3) 最初の設定項目 (「66 行」が選択されて、その位置に印字ヘッドが移動している状態) が印字されます。

4 **改ページ**スイッチを 7 回押し、印字ヘッドを「次の設定値」の位置に移動させ、**微小改行▼**スイッチを押す
(4) 次の設定値が印字され、印字ヘッドは「次の設定値」の位置に停止します (**微小改行▲**スイッチを押した場合は、前の設定値が印字されます)。

5 **改ページ**スイッチを 3 回押し、印字ヘッドを「75 行」の位置に移動させ、**微小改行▼**スイッチを押すと、
選択した項目が決定され、(5) 次の項目が印字されます。

6 変更する作業が終了した後、**オンライン**スイッチを押す
(6) 各設定項目の大項目メニューが印字されます。

7 もう一度**オンライン**スイッチを押す。
(7) トップメニューが印字されます。

8 **改ページ**スイッチを 1 回押し、印字ヘッドを「終了」の位置に移動させ、**微小改行▼**スイッチを押す
この時点で設定内容が記憶され、オフラインセットアップモードを終了します。

重要

- 機能設定を変更中に電源が切れた場合には、設定した内容は保証されません。

設定を工場出荷値に戻す

設定メニューから初期化を実行してください。

機能設定の種類

プリンタの設定値は、メニューモードで変更することができます。ここでは、メニューモードで設定できる各項目について説明します。
設定を変更する手順については、「機能設定を変える（FMPR5630/FMPR5430 の場合）」（→ P.160）、「機能設定を変える（FMPR5130 の場合）」（→ P.163）をご覧ください。
設定項目については、「設定項目」（→ P.169）をご覧ください。

■メニュー印刷

設定一覧の印刷を行います。
設定内容変更後、まだ設定値を登録していない場合、変更した設定値ではなく、登録されている設定値を印刷します。

■テスト印刷 （FMPR5630/FMPR5430 の場合）

テストパターンを選択し、印刷を行います。
テストパターンは、イメージモード、漢字モード、ANK モード、スキップモードから選択できます。
テスト印刷は、登録・終了スイッチを押して終了します。

■装置機能設定

プリンタの機能を設定します。設定できる項目は、次のとおりです。

- ホストインターフェース
- エミュレーションモード
- 印字モード
- 用紙厚さ調整モード
- 印字圧
- オートローディングの有効 / 無効、開始時間の設定
- 手差しセットフリー機能
- CSF セットフリー機能
- トラクタセットフリー機能
- 単票手差し用紙の排出方向
- CSF 用紙の排出方向
- 単票用紙なし検出
- 電源を入れたときの PE 検出制御
- 漢字書体
- 単票自動排出
- ブザー鳴動
- 印字方向
- 給紙口指定
- 印字モード指定
- ページ長指定
- 複写圧制御
- *INIT 受信後の状態
- 単票引き抜き検知
- スタンバイモード

■余白量設定
上下端または左端の余白量を設定します。
上端余白量は、いずれも用紙上端から 1 行目の文字上端までの値を指します。

■EP 設定
ESC/P 固有の書式設定を行います。

■補正機能
改行や上端余白の補正を行います。

■その他の設定
メニュー印刷～補正機能以外の設定を行います。

設定項目
表中の初期設定とは、ご購入時にすでに設定してある値をいいます。
○印の付いている設定項目が初期設定です。
機能名の「CSF」とは、カットシートフィーダの略称です。

■装置機能設定

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
ホストインタフェース	AT	○	プリンタが設定されているホストを設定します。	
	RSV1			
エミュレーションモード	FM		電源を入れたときのエミュレーションモードを設定します。 FM：FM モード［注 1］ EP：ESC/P モード	
	EP	○		
	RSV2			
印字モード	標準	○	印字モードを設定します。 本項目はドライバの設定が優先されます。	○
	高速			
	低騒音			
用紙厚さ調整（FMPR5630/FMPR5430 のみ）	オート	○	用紙厚さの検出方法を設定します。 オート：プリンタドライバのメディアが自動のとき、プリンタが検出します。プリンタドライバのメディアにレンジ 1 ～ D を設定したときは、メディアの設定が優先します。 オート以外：レンジ 1 ～レンジ D が有効になります。	○
	レンジ 1 ～ レンジ D			

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
用紙厚さ調整（FMPR5130 のみ）	自動	○	用紙厚さの検出方法を設定します。 自動 : 用紙吸入時にプリンタが検出します。 ドライバで用紙厚を設定するときは自動にしてください。 手動 : ダイヤルで設定した値が有効になります。	○
	手動			
印字圧モード	標準	○	印字圧（印字の濃さ）を設定します。 FMPR5630/FMPR5430 の場合、標準 : 通常、高複写 1 : 印字時間を長くします。高複写 2 : 同じ文字を 2 度印字します。 FMPR5130 の場合、標準 : 通常、高複写 : 印字時間を長くします。 Windows から印字した場合は、ドライバからの指定値に変更されます。	○
	高複写／高複写 1			
	高複写 2			
オートローディング	無効		単票用紙がセットされてから用紙の吸入が開始されるまでの時間を設定します。 無効を選択した場合は、用紙を吸入しません。	
	0.5 秒			
	1.0 秒			
	1.5 秒	○		
	2.0 秒			
手差しセットフリー	有効	○	手差し単票用紙のセットフリー機能の有効／無効を設定します。	
	無効			
前 CSF セットフリー	有効		前 CSF 用紙のセットフリー機能の有効／無効を設定します。	
	無効	○		
後 CSF セットフリー	有効		後 CSF 用紙のセットフリー機能の有効／無効を設定します。	
	無効	○		
前トラクタセットフリー	有効		前トラクタ用紙のセットフリー機能の有効／無効を設定します。	
	無効	○		
後トラクタセットフリー	有効		後トラクタ用紙のセットフリー機能の有効／無効を設定します。	
	無効	○		
手差し排出方向	手前排出	○	手差し給紙口から印字した用紙の排出方向を指定します。手前排出 : 単票テーブルに排出されます。 後方排出 : リアスタッカに排出されます。Windows から印字した場合は、ドライバからの指定値に変更されます。	○
	後方排出			

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
前 CSF 排出方向	手前排出		前 CSF 給紙口から印字した用紙の排出方向を指定します。手前排出 : 単票テーブルに排出されます。 後方排出 : リアスタッカに排出されます。Windows から印字した場合は、ドライバからの指定値に変更されます。	○
	後方排出	○		
後 CSF 排出方向	手前排出		後 CSF 給紙口から印字した用紙の排出方向を指定します。手前排出 : 単票テーブルに排出されます。 後方排出 : リアスタッカに排出されます。Windows から印字した場合は、ドライバからの指定値に変更されます。	○
	後方排出	○		
手差し用紙なし検出	検出する	○	単票モード時の単票用紙なしを検出する／しないを設定します。	
	検出しない			
用紙なし検出時の状態	オンライン	○	用紙なし検出時のプリンタの状態をオンラインにするかオフラインにするかを設定します。	
	オフライン			
漢字書体	明朝体	○	電源を入れたときの全角漢字および半角漢字の書体を設定します。	○
	ゴシック体			
手差し自動排出	排出する	○	印字途中で用紙なしとなったとき、単票用紙を排出するかを設定します。	
	排出しない			
ブザー	オン	○	ブザーのオン／オフを設定します。 オフを選択すると、一切鳴らなくなります。 FMPR5130 の設定内容は「鳴動する／鳴動しない」です。	
	オフ			
印字方向	両方向	○	電源を入れたときの印字方向を設定します。 本設定はドライバ設定が優先します。	○
	片方向			
給紙口指定	ドライバ優先	○	給紙口をドライバの指定を優先するか、プリンタ側の設定を優先するかを設定します。	○
	プリンタ優先			
印字モード指定	ドライバ優先	○	印字モードをドライバの指定を優先するか、プリンタ側の設定を優先するかを設定します。	○
	プリンタ優先			

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
ページ長指定	ドライバ優先	○	ページ長をドライバの指定を優先するか、プリンタ側の設定を優先するかを設定します。 プリンタ側の設定を優先すると連帳ページ長の設定が有効となります。	○
	プリンタ優先			
複写圧制御	モード 1	○	検出した用紙厚に応じて自動的に複写能力（複写圧）を切り替える制御方法を設定します。 モード 1：1P ～ 3P、4P ～ 6P、7P ～ 9P の 3 段階切り替え モード 2：1P ～ 9P それぞれの 9 段階切り替え	
	モード 2			
*INIT 受信後の状態［注 2］	オンライン	○	*INIT 信号受信による初期化処理後に、オンラインにするか、状態を保持するかを設定します。 「FMPRnavi2」の印刷ジョブの削除後の動作を設定します。	
	状態保持			
単票引き抜き検知	有効		単票用紙（手差し、CSF）の引き抜き検知を行うかどうかを設定します。	
	無効	○		
スタンバイモード［注 3］	1 分～ 60 分	1 分	スタンバイモードへの移行時間を1分単位で設定します。	

注 1　USB または LAN に接続したときは、FM モードは使用できません。ESC/P モードにしてください。
注 2　*INIT については、「コネクタピン配列」（→ P.253）をご覧ください。
注 3　エラーなどが発生している場合、プリンタはスタンバイモードに入りません。

■余白量設定

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
上端余白指定	ドライバ優先	○	用紙吸入時の上端余白量の指定方法を設定します。 「ドライバ優先」を選択した場合は、Windows ドライバから指定された上端余白に従います。 「プリンタ優先」を選択した場合は、機能設定の「余白量設定」で指定した上端余白量に従います。	
	プリンタ優先			
手差し上余白量 EP［注 1］	4.2mm		ESC/P モードにおける、単票用紙の上端から第一行印字文字の上端までの量を設定します。	○
	8.5mm	○		
	22.0mm			
	その他［注 2］			

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
前 CSF 上端余白量 EP［注 1］	4.2mm		ESC/P モードにおける、前 CSF の上端から第一行印字文字の上端までの量を設定します。	○
	8.5mm	○		
	22.0mm			
	その他［注 2］			
後 CSF 上端余白量 EP［注 1］	4.2mm		ESC/P モードにおける、後 CSF の上端から第一行印字文字の上端までの量を設定します。	○
	8.5mm	○		
	22.0mm			
	その他［注 2］			
前トラクタ上端余白量 EP［注 1］	4.2mm		ESC/P モードにおける、前トラクタから吸入した用紙の上端から第一行印字文字の上端までの量を設定します。	○
	8.5mm	○		
	22.0mm			
	その他［注 2］			
後トラクタ上端余白量 EP［注 1］	4.2mm		ESC/P モードにおける、後トラクタから吸入した用紙の上端から第一行印字文字の上端までの量を設定します。	○
	8.5mm	○		
	22.0mm			
	その他［注 2］			
手差し上端余白量 FM［注 1］	4.2mm		FM モードにおける、単票用紙の上端から第一行印字文字の上端までの量を設定します。	○
	9.1mm			
	14.3mm			
	22.0mm	○		
	その他［注 2］			
前 CSF 上端余白量 FM［注 1］	4.2mm		FM モードにおける、前 CSF 用紙の上端から第一行印字文字の上端までの量を設定します。	
	9.1mm			
	14.3mm			
	22.0mm	○		
	その他［注 2］			
後 CSF 上端余白量 FM［注 1］	4.2mm		FM モードにおける、後 CSF 用紙の上端から第一行印字文字の上端までの量を設定します。	
	9.1mm			
	14.3mm			
	22.0mm	○		
	その他［注 2］			

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
前トラクタ上端余白量 FM［注 1］	4.2mm		FM モードにおける、前トラクタ用紙吸入後の第一印字開始行の位置を、用紙の上端から第一行印字文字上端までの量を設定します。	
	22.0mm	○		
	その他［注 2］			
後トラクタ上端余白量 FM［注 1］	4.2mm		FM モードにおける、後トラクタ用紙吸入後の第一印字開始行の位置を、用紙の上端から第一行印字文字上端までの量を設定します。	
	22.0mm	○		
	その他［注 2］			
前トラクタ下端余白量	4.2mm	○	前トラクタ用紙の下端余白量を用紙下端から印字可能最終行文字の下端までの量を設定します。 101mm を設定したときは、用紙下端がトラクタの用紙センサーを外れたところで停止します。	○
	101mm			
後トラクタ下端余白量	4.2mm	○	後トラクタ用紙の下端余白量を用紙下端から印字可能最終行文字の下端までの量を設定します。 157mm を設定したときは、用紙下端がトラクタの用紙センサーを外れたところで停止します。	○
	157mm			
手差しセットフリー左端余白量	0.0mm : 5.1mm : 45.2mm [約 0.3mm (1/90 インチ単位)]	5.1mm	手差しセットフリー使用時の左端余白を設定します。	
前 CSF セットフリー余白量	0mm : 5.1mm : 45.2mm [約 0.3mm (1/90 インチ単位)]	5.1mm	前 CSF セットフリー使用時の左端余白を設定します。	

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
後 CSF セットフリー余白量	0mm : 5.1mm : 45.2mm [約 0.3mm (1/90 インチ単位)]	5.1mm	後 CSF セットフリー使用時の左端余白を設定します。	
前トラクタセットフリー余白量	0mm : 11.3mm : 45.2mm [約 0.3mm (1/90 インチ単位)]	11.3mm	前トラクタセットフリー使用時の左端余白を設定します。	
後トラクタセットフリー余白量	0mm : 11.3mm : 45.2mm [約 0.3mm (1/90 インチ単位)]	11.3mm	後トラクタセットフリー使用時の左端余白を設定します。	
セットフリー無効時の左端位置	標準	○	セットフリー機能無効時の印字開始位置を設定します。この設定は、セットフリーが無効に設定されている給紙口から給紙されたすべての用紙に有効となります。標準の場合、第一ドット印字開始位置が目盛り (→P.89) 0 から 5.08mm の位置となり、左寄せの場合 12.7mm 左になります（目盛り 0 から左へ 7.6mm)。 使用例としては、A3 横のように幅の広い用紙は印刷領域を超えているため、その分左右余白が大きくなります。 この場合、左寄せに設定すると、左余白を小さくできます。	
	左寄せ			

注 1 「上端余白指定」で「プリンタ優先」を設定したときに有効になります。

注 2 FMPR5630/FMPR5430 の場合は、その他を設定すると、そのときの設定値が表示されます。さらに◁スイッチと▷スイッチで -10.0mm ～ 30.0mm（0.5mm 単位）に設定できます。
FMPR5130 の場合は、その他を設定すると、次の設定項目に「上端余白量（その他)」の項目が印字され、-10.0mm ～ 30.0mm（0.5mm 単位）が設定できるようになります。

■EP 設定

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
LAN 接続	有効	○	本項目は、FMPR-LN4 搭載時のみ印刷されます。 設定値は「有効」固定となります。	
連帳ページ長	1 行		連続帳票用紙のページ長を設定します。 連続帳票用紙のみの有効な値です。 1 行は 1/6 インチ固定です。 「ページ長指定」で「プリンタ優先」に設定したとき有効となります。	○
	:			
	66 行 (1 行単位)	○		
	:			
	132 行			
連帳ミシン目スキップ	0 インチ	○	連続帳票用紙のミシン目をはさんでスキップする量を設定します。	
	1 インチ			
オートティアオフ［注 1］	有効		連続帳票用紙のオートティアオフの有効／無効を設定します。 オートティアオフとは、印刷が終了し、または印刷データを印刷し終了するごとに自動的に用紙カット位置まで用紙を送る機能です。 「用紙カット戻し」が手動に設定されている場合 用紙カット送り後、プリンタはオフラインとなり（「オンライン」ランプ点滅）、用紙を切り離し後、 オンライン スイッチを押すと用紙を戻しオンラインとなります。	
	無効	○		
行間	6LPI	○	改行量指定のないデータに対する改行ピッチの大きさを設定します。	○
	8LPI			
ANK モジピッチ（FMPR5630/FMPR5430 の場合） 文字間（FMPR5130 の場合）	10CPI	○	ANK 文字の文字ピッチの大きさを指定します。 本設定は、印刷データで指定にある設定が優先します。	
	12CPI			
ANK モジヒンイ（FMPR5630/FMPR5430 の場合） 文字品位 （FMPR5130 の場合）	LQ	○	ANK 文字の文字品位を設定します。 本設定は、印刷データで指定にある設定が優先します。	○
	DRAFT			

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
ANK シュクショウモジ（FMPR5630/FMPR5430 の場合）縮小文字（FMPR5130 の場合）	標準印字	○	印字文字の大きさを設定します。 本設定は、印刷データで指定にある設定が優先します。	○
	縮小印字			
ANK コード表	カタカナコード	○	ANK コード表を設定します。 本設定は、印刷データで指定にある設定が優先します。	○
	グラフィックス コード			
ANK 書体	クーリエ	○	ANK 文字の書体を設定します。 本設定は、印刷データで指定にある設定が優先します。	○
	サンセリフ			
数字フォント幅	標準	○	数字フォント（0 ～ 9）のフォント幅を選択します。 本設定は、漢字全角文字（明朝体／ゴシック体）に対してのみ有効です。 本設定は、印刷データで指定にある設定が優先します。	○
	幅広			
ゼロフォント字体	スラッシュ無し	○	ANK コード（30h）の印字フォントパターンを選択します。 本設定は、クーリエフォントに対してのみ有効です。	
	スラッシュ有り			
国際文字	日本	○	国際文字の出力種類を設定します。 本設定は、印刷データで指定にある設定が優先します。	○
	アメリカ			
CR コード［注 2］	CR	○	CRコードの機能を、印字指令とするか、印字改行指令とするかを設定します。 AFXT を選択したときの CR コードの機能は、電源を入れたとき、INIT 受信時のAFXT信号の状態により決定されます。 AFXT の設定は、パラレルインターフェース時に有効となります。USB インターフェースの場合、CR コードは CR となります。 N-CR を選択した場合、CR コードでは印字起動を行わず、受信位置の復帰（レフトマージン位置に戻す）のみを行います。	
	CR+LF			
	AFXT			
	N-CR			
SLCTIN［注 2］	有効	○	SLCT IN 信号の有効／無効を設定します。	
	無効			

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
DC1/DC3［注 2］	有効		DC1/DC3 コマンドの有効／無効を設定します。	
	無効	○		
SLCT［注 2］	HIGH 固定	○	SLCT 信号を HIGH 固定とするか、プリンタの状態により可変とするかを設定します。	
	可変			
受信バッファ	有り	○	受信バッファ（16KB）の有無を設定します。本設定により、インターフェース設定状態も切り替わります。FM モード時は、受信バッファ「無し」固定です。	
	無し（USB 無効）			
用紙長インチ変換	有効	○	連続帳票用紙の長さをミリメートルで設定した場合に、本来のインチに変換する機能の有効／無効を設定します。	
	無効			

注 1　本機能を有効で運用している場合に電源を切断し再度入れたときは、用紙を再セットしてから印刷をしてください。そのままの状態で印刷をすると、用紙カット位置まで用紙が送られた状態からの印刷を開始するため、用紙の上端部分が白紙になります。

注 2　各信号の説明は、「コネクタピン配列」（→ P.253）をご覧ください。

■補正機能

補正機能は、用紙のたわみにより生じる、累積改行ずれを補正する機能設定です。
本設定により単票手差し、連続帳票用紙について補正量を設定することができます。

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
手差し改行補正量	-1.0mm		単票（手差し）用紙に対する累積改行補正量［注］を設定します。 約 254mm 改行したときの改行ずれ量を補正します。印字位置が上にずれている場合は、+方向の補正を行います。	
	-0.6mm			
	-0.3mm			
	0mm	○		
	+0.3mm			
	+0.6mm			
	+1.0mm			
前 CSF 改行補正量	-1.0mm		前 CSF 用紙に対する累積改行補正量［注］を設定します。	
	-0.6mm			
	-0.3mm			
	0mm	○		
	+0.3mm			
	+0.6mm			
	+1.0mm			

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
後 CSF 改行補正量	-1.0mm		後 CSF 用紙に対する累積改行補正量［注］を設定します。	
	-0.6mm			
	-0.3mm			
	0mm	○		
	+0.3mm			
	+0.6mm			
	+1.0mm			
前トラクタ改行補正量	-1.0mm		連続帳票用紙の用紙吸入後の初期の前連帳改行補正量[注]を設定します。1ページ目に対してその後のページの印字ずれ量を補正します。印字位置が上にずれている場合は、＋方向の補正を行います。	
	-0.6mm			
	-0.3mm			
	0mm	○		
	+0.3mm			
	+0.6mm			
	+1.0mm			
後トラクタ改行補正量	-1.0mm		連続帳票用紙の用紙吸入後の初期の後連帳改行補正量[注]を設定します。1ページ目に対してその後のページの印字ずれ量を補正します。印字位置が上にずれている場合は、＋方向の補正を行います。	
	-0.6mm			
	-0.3mm			
	0mm	○		
	+0.3mm			
	+0.6mm			
	+1.0mm			
前トラクタ改行補正量（最終頁）	-1.0mm		連続帳票用紙の最終ページに対する前連帳改行補正量[注]を設定します。最終ページの下端から約 100mm の改行ずれ量を補正します。印字位置が上にずれている場合は、＋方向の補正を行います。	
	-0.6mm			
	-0.3mm			
	0mm	○		
	+0.3mm			
	+0.6mm			
	+1.0mm			
後トラクタ改行補正量（最終頁）	-1.0mm		連続帳票用紙の最終ページに対する後連帳改行補正量[注]を設定します。最終ページの下端から約 155mm の改行ずれ量を補正します。印字位置が上にずれている場合は、＋方向の補正を行います。	
	-0.6mm			
	-0.3mm			
	0mm	○		
	+0.3mm			
	+0.6mm			
	+1.0mm			

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
手差し給紙位置	-1.0mm		手差し口から用紙吸入後の第一印字開始行の位置を、用紙の上端から第一印字文字上端までの量で微調整します。	
	:			
	0mm（0.1mm単位）	○		
	:			
	+1.0mm			
前 CSF 給紙位置	-1.0mm		前カットシートフィーダから用紙吸入後の第一印字開始行の位置を、用紙の上端から第一印字文字上端までの量で微調整します。	
	:			
	0mm（0.1mm単位）	○		
	:			
	+1.0mm			
後 CSF 給紙位置	-1.0mm		後カットシートフィーダから用紙吸入後の第一印字開始行の位置を、用紙の上端から第一印字文字上端までの量で微調整します。	
	:			
	0mm（0.1mm単位）	○		
	:			
	+1.0mm			
前トラクタ給紙位置	-1.0mm		前トラクタから用紙吸入後の第一印字開始行の位置を、用紙の上端から第一印字文字上端までの量で微調整します。	
	:			
	0mm（0.1mm単位）	○		
	:			
	+1.0mm			
後トラクタ給紙位置	-1.0mm		後トラクタから用紙吸入後の第一印字開始行の位置を、用紙の上端から第一印字文字上端までの量で微調整します。	
	:			
	0mm（0.1mm単位）	○		
	:			
	+1.0mm			

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
単票下端検出位置	-10.0mm		単票用紙（手差し、カットシートフィーダ）の下端余白量を、用紙下端から印字可能最終行文字の下端までの量で微調整します。	
	:			
	0mm（0.5mm単位）	○		
	:			
	+10.0mm			
前トラクタ下端検出位置	-10.0mm		前トラクタ用紙の下端余白量を、用紙下端から印字可能最終行文字の下端までの量で微調整します。	
	:			
	0mm（0.5mm単位）	○		
	:			
	+10.0mm			
後トラクタ下端検出位置	-10.0mm		後トラクタ用紙の下端余白量を、用紙下端から印字可能最終行文字の下端までの量で微調整します。	
	:			
	0mm（0.5mm単位）	○		
	:			
	+10.0mm			

注　補正結果は使用する用紙の種類により変わる場合があります。

■その他の設定

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
前用紙吸入時のキャリア位置	ポジション1	○	単票手挿入、前トラクタ、前カットシートフィーダから用紙を吸入するときの印字ヘッドキャリア位置を設定します。 ・ポジション 1：約 31 桁目 ・ポジション 2：約 42 桁目 帳票用紙を事前に印刷したプレプリント用紙を使用する場合、用紙上端が正しく検出できない場合があります。その場合は、ポジションを変更してください。	
	ポジション2			
後用紙吸入時のキャリア位置	ポジション1	○	後トラクタ、後カットシートフィーダから用紙を吸入するときの印字ヘッドキャリア位置を設定します。 ・ポジション 1：約 31 桁目 ・ポジション 2：約 42 桁目 帳票用紙を事前に印刷したプレプリント用紙を使用する場合、用紙上端が正しく検出できない場合があります。その場合は、ポジションを変更してください。	
	ポジション2			
用紙吸入時の斜行検出	有効	○	単票用紙を吸入するときに斜行を検出するかしないかを設定します。	
	無効			
セットフリー斜行しきい値	0.5mm		手差し単票用紙を吸入するときに斜行吸入と判断する値を設定します。	
	1.0mm	○		
	1.5mm			
	2.0mm			
	2.5mm			
手差し斜行しきい値	0.5mm		手差しセットフリーオフ時の手差し単票用紙を吸入するときに斜行吸入と判断する値を設定します。	
	1.0mm	○		
	1.5mm			
	2.0mm			
	2.5mm			
単票自動オンライン	有効	○	単票用紙吸入後、自動的にオンラインとするかを設定します。用紙の自動吸入、スイッチによる吸入共に行います。	
	無効			
トラクタ自動オンライン	有効		連続帳票用紙吸入後、自動的にオンラインとするかを設定します。	
	無効	○		

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
単票モード時のFF コード	ページ長送り		単票モードでの FF コード受信および 改ページ スイッチの処理方法を設定します。ESC/P エミュレーションにおいて、「ページ長送り」を設定した場合でも、単票ページ長が設定されていない状態では、排出動作となります。	
	排出	○		
セットフリー右端越え用紙排出	有効	○	単票セットフリーオンで手差し単票用紙を吸入したときに、用紙の右端が吸入可能範囲外であった場合に用紙を排出するかしないかを設定します。	
	無効			
用紙幅検出方式	1 回検出	○	用紙吸入時の用紙幅検出方式を設定します。 プレプリントにより用紙幅を誤検出してしまう場合には2回検出を設定してください。	
	2 回検出			
用紙外印字防止	有効	○	用紙の左右端を検出し、印字領域を超えるデータの処理方法を設定します。「前・後トラクタ印字カット量 L」または「前・後トラクタ印字カット量 R」のいずれか 1 つでも「10.0mm」に設定した場合に限り、選択が可能になります。	
	無効			
前トラクタ印字カット量 L	10.0mm		前トラクタにセットした連帳左端面印字カット量（余白量）を設定します。左端のデータが印字できない場合に「10.0mm」に設定し、ご使用ください。 ただし、10mm 付近にミシン目がある場合、データがミシン目にかかると印字ヘッドピンが引っかかり折れるため、データはミシン目より用紙の内側にしてください。	
	:			
	14mm（1mm 単位）	○		
	:			
	34.0mm			
前トラクタ印字カット量 R	10.0mm		前トラクタにセットした連帳右端面印字カット量（余白量）を設定します。右端のデータが印字できない場合に「10.0mm」に設定し、ご使用ください。 ただし、10mm 付近にミシン目がある場合、データがミシン目にかかると印字ヘッドピンが引っかかり折れるため、データはミシン目より用紙の内側にしてください。	
	11.0mm			
	12.0mm			
	13.0mm			
	14.0mm	○		

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
後トラクタ印字カット量 L	10.0mm		後トラクタにセットした連帳左端面印字カット量（余白量）を設定します。左端のデータが印字できない場合に「10.0mm」に設定し、ご使用ください。ただし、10mm 付近にミシン目がある場合、データがミシン目にかかると印字ヘッドピンが引っかかり折れるため、データはミシン目より用紙の内側にしてください。	
	:			
	14mm（1mm 単位）	○		
	:			
	34.0mm			
後トラクタ印字カット量 R	10.0mm		後トラクタにセットした連帳右端面印字カット量（余白量）を設定します。右端のデータが印字できない場合に「10.0mm」に設定し、ご使用ください。ただし、10mm 付近にミシン目がある場合、データがミシン目にかかると印字ヘッドピンが引っかかり折れるため、データはミシン目より用紙の内側にしてください。	
	11.0mm			
	12.0mm			
	13.0mm			
	14.0mm	○		
単票印字カット量	2.8mm	○	セットフリーオフのときの単票左端面印字カット量（余白量）を設定します。 右端面は、2.8mm 固定です。	
	15.0mm			
改行ジャム検知	有効	○	改行ジャムエラーの検出を行うかどうかを設定します。 本項目はFMPR5630/FMPR5430でのみ設定できます。	
	無効			
CSF ビン 1 選択	前 CSF	○	前後カットシートフィーダを同時搭載した場合に、どのカットシートフィーダをビン1として使用するかを設定します。選択されなかったカットシートフィーダがビン 2 となります。	○
	後 CSF			
CSF 給紙制御	標準	○	カットシートフィーダからの吸入方式を設定します。標準はカットシートフィーダから直接用紙を吸入します。スイッチバックはカットシートフィーダの用紙をいったん途中まで排出させた後にもう一度吸入する方式です。	
	スイッチバック			

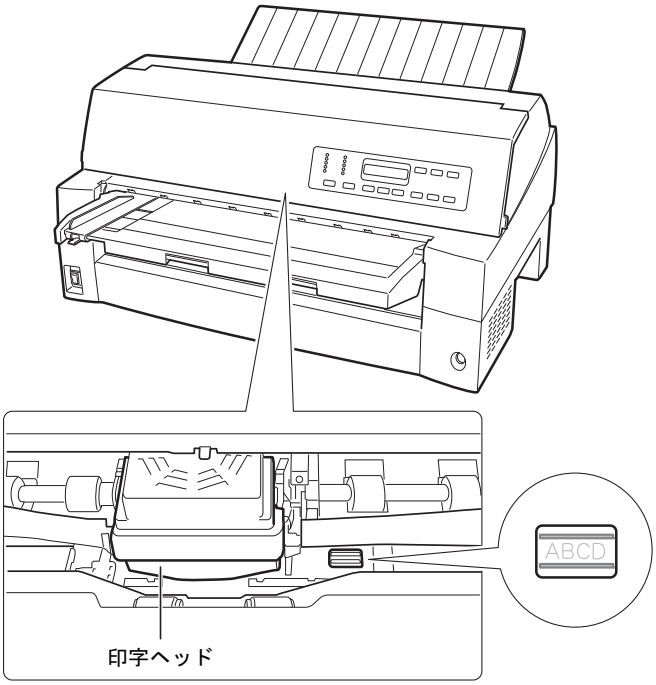
機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
トラクタ給紙制御	精度優先	○	連帳用紙の吸入方式を設定します。精度優先は、用紙吸入時に用紙厚検出を行い、吸入された用紙厚に最適な用紙送り制御をします。速度優先は用紙厚さを検出しないで直接印字開始位置まで用紙を吸入します。	
	速度優先			
逆改行抑制制御	有効		縦倍文字やマルチパス文字など、1回の印字起動により複数パスとなる文字を印字するときに生じる逆改行を、極力少なくする制御です。「有効」設定時は不要な逆改行がなくなります。	
	無効	○		
カット戻し制御（FMPR5630/FMPR5430 の場合） 用紙カット引き戻し制御（FMPR5130 の場合）	精度優先		用紙カット引き戻し時の動作方法を設定します。 「速度優先」設定時は、用紙送り出しを行った分だけ引き戻しを行い、元の位置（ページ先頭位置）に戻ります。 「精度優先」設定時は、用紙後退により用紙なしを検出した場合（用紙が切り取られた場合）に用紙再吸入動作を行います。	
	速度優先	○		
用紙カット戻し	自動	○	用紙カット時のプリンタの状態を指定します。 ・自動 用紙カット時もオンラインで次の印刷データを受信すると、用紙が戻ります。 ・手動 用紙カット後、オフラインとなり、[オンライン]スイッチを押すと用紙戻り印字します。	
	手動			
リボン交換表示	有効	○	リボン寿命時交換表示の有効、無効を設定します。無効を設定してもリボン寿命のカウントは継続します。	
	無効			
リボン交換時期	80%		リボン交換表示の使用率を設定します。	
	90%			
	100%	○		
連帳改行時リボン保護機能	有効		連帳改行時に印字ヘッドが用紙送り穴位置に停止した場合、用紙送り穴位置を避けて改行し、リボンを保護するかしないかを設定します。	
	無効	○		

機能名	設定内容	初期設定	内　容	ドライバ優先
CSF 紙厚検出	毎回		紙厚調整が「自動」に設定されているとき、カットシートフィーダ給紙の印刷時に、用紙厚さ検出を毎ページ行うかを設定します。	
	通常	○		
スキップ印字	有効	○	1行中の印字データ間に一定量の空白部分がある場合に、空白部分をスキップ（変速動作）するかどうかを設定します。 ただし、空白の前後にある印字データの印字速度が異なる場合（LQ 文字＋空白＋ CQ 文字など）は、本設定にかかわらず、空白部分での変速動作を行います。	
	無効			
電源投入時の用紙位置	現在位置	○	電源投入時の用紙位置を設定します。「カット位置」選択時は用紙カット送り出し位置にあるものとして、引き戻し動作を行います。	
	カット位置			
上端ヘッド保護制御	有効	○	上端余白量がマイナス値に設定されているときの動作を設定します。 「有効」の場合、上端余白量 0mm の位置に達するまでは印字／改行動作を行いません（データは破棄されます）。	
	無効			
特殊モード 1	有効		リザーブ	
	無効	○		
特殊モード 2	有効		リザーブ	
	無効	○		
特殊モード 3	有効		リザーブ	
	無効	○		
特殊モード 4	有効		リザーブ	
	無効	○		
特殊モード 5	有効		リザーブ	
	無効	○		
特殊モード 6	有効		リザーブ	
	無効	○		
特殊モード 7	有効		リザーブ	
	無効	○		
特殊モード 8	有効		リザーブ	
	無効	○		

9 用紙の吸入量を調整する（FMPR5630/FMPR5430 の場合）

用紙の自動吸入（オートロード）時の用紙吸入位置を、行方向に調整します。ご購入時に用紙の吸入量（印字開始位置）は、初期設定値に調整されていますが、ずれている場合はこの機能で調整してください。手差し、前後カットシートフィーダ、前後トラクタフィーダそれぞれの吸入量を調整できます。

用紙吸入量を調整するとき、カードガイドの右側窓のラインが文字の上下端を示しているので、これを目安にして用紙を合わせます。



用紙の吸入量は、次の手順で調整します。

1 用紙をセットする

2 オフライン状態で メニュー スイッチを押す

メニューモードになります。

オンライン状態
↓ オンライン スイッチ
オフライン状態
↓ メニュー スイッチ

```
セットアップ゜
▶メニュー　インサツ　　▼
```

3 ◁スイッチまたは▷スイッチを押して、「ホセイキノウ」を表示させる

↓ ◁スイッチまたは▷スイッチ

```
セットアップ゜
▶ホセイキノウ                ▼
```

4 ▽スイッチを押して、下のレベルに移動する

↓ ▽スイッチ

```
ホセイキノウ
▶テサシ　カイキ゛ョウホセイ  ▲▼
```

5 ◁スイッチまたは▷スイッチを押して、次のいずれかのモードを選択する

・テサシ キュウシイチ
・FCSF キュウシイチ
・RCSF キュウシイチ
・F トラクタ キュウシイチ
・R トラクタ キュウシイチ

6 ▽スイッチを押して、下のレベルに移動する

「テサシ キュウシイチ」を選択した場合の例で説明します

↓ ▽スイッチ

```
テサシ キュウシイチ
▶＊　　０ｍｍ                ▲
```

7 ◁スイッチまたは▷スイッチを押して吸入位置を調整する

↓ ◁スイッチまたは▷スイッチ

```
テサシ キュウシイチ
▶　－０．１ｍｍ              ▲
```

◁スイッチを 1 回押すごとに－側に 0.1mm ずつ変化します。
▷スイッチを 1 回押すごとに＋側に 0.1mm ずつ変化します。
調整量は約 ±1mm まで可能です。
±1mm 以上の調整をする場合は、「余白量設定」（→ P.172）で行ってください。

・前方から吸入された用紙に対して上端余白を大きくしたいとき
　▷スイッチを押します。
　後方から吸入された用紙に対しては、上端余白が小さくなります。
・前方から吸入された用紙に対して上端余白を小さくしたいとき
　◁スイッチを押します。
　後方から吸入された用紙に対しては、上端余白が大きくなります。
・用紙位置の補正
　テサシ、前カットシートフィーダ、後カットシートフィーダ、前トラクタ、および後トラクタをおのおの独立して行うことができます。

8 調整が終わったら［メニュー］スイッチを押す

↓［メニュー］スイッチ



設定値の先頭に「*」が表示されます。

POINT

・本設定を有効にするには、「余白量設定」（→ P.172）で「上端余白指定」を「プリンタ優先」に設定したとき有効となり、各給紙口の上余白に対して微調整を行います。

9 ［登録・終了］スイッチを押して設定した値を登録する

↓［登録・終了］スイッチ



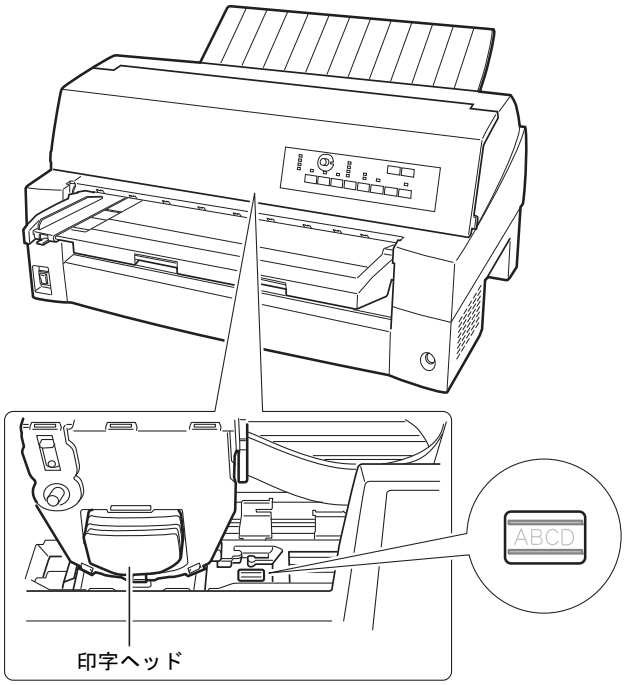
△スイッチを押すと、設定した内容で登録します。
これを実行しないとここまで設定した内容は保存されません。
▽スイッチを押すと、設定した内容が取り消しになります。
調整した内容がプリンタに記憶され、オンライン状態になります。

5

10 用紙の吸入量を調整する（FMPR5130 の場合）

用紙の自動吸入（オートロード）時の用紙吸入位置を、行方向に調整します。ご購入時に用紙の吸入量（印字開始位置）は、初期設定値に調整されていますが、ずれている場合はこの機能で調整してください。連続帳票用紙、単票用紙それぞれの吸入量を調整できます。

用紙吸入量の調整するとき、カードガイドの右側窓のラインが文字の上下端を示しているので、これを目安にして用紙を合わせます。



用紙の吸入量は、次の手順で調整します。

1 **セットアップ スイッチを押しながら電源を入れ、オフラインセットアップモードに入る**

2 **「設定」⇒「補正機能」に進み、調整したい用紙の「給紙位置」項目を選択する**

選択項目は、次のとおりです。

- 手差し給紙位置
- 前 CSF 給紙位置
- 後 CSF 給紙位置
- 前トラクタ給紙位置
- 後トラクタ給紙位置

3 設定値を選択する

・プラスの値を選択すると、上端余白が大きくなります。
・マイナスの値を選択すると、上端余白が小さくなります。
・用紙位置の調整は、手差し単票、前カットシートフィーダ、後カットシートフィーダ、前トラクタ、および後トラクタをおのおの独立して設定することができます。

4 調整が終わったらトップメニューに戻り「終了」を選択し、オフラインセットアップモードを終了する

調整した内容がプリンタに記憶され、オフライン状態になります。

POINT

・オフラインセットアップモードについては、「機能設定を変える（FMPR5130 の場合）」（→ P.163）をご覧ください。

11 連続帳票用紙をカット位置に送る

あらかじめセットした連続帳票用紙のミシン目がカットしやすい位置（カット位置）にくるように、用紙を送る機能です。

カット位置に送る

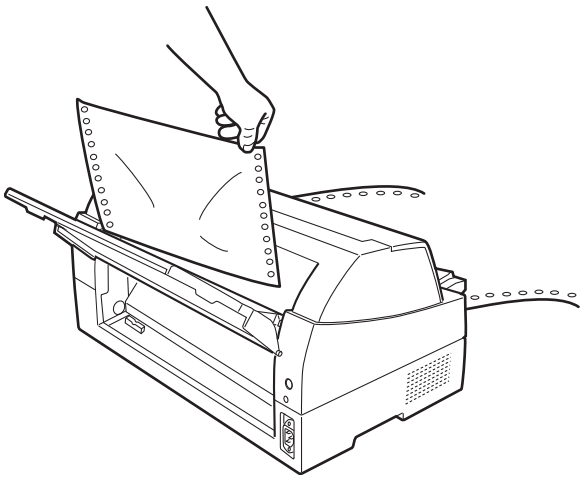
次の手順で、連続帳票用紙をカット位置に送ります。

1 オンライン状態で 用紙カット スイッチを押す

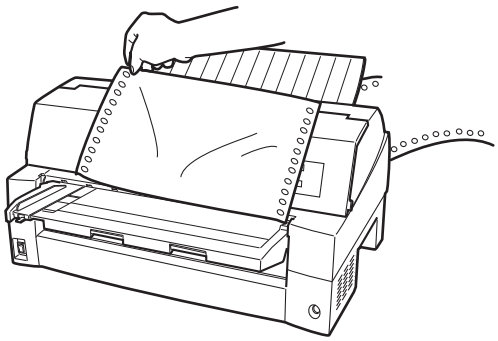
ミシン目が用紙カット位置まで送られます。

ESC/P モード時、機能設定の「EP 設定」（→ P.176）で「オートティアオフ」を「有効」に設定している場合は、印刷が終わる（または印刷データを印刷し終わる）ごとに自動的に用紙カット位置まで用紙が送られます。

■連続帳票用紙を前方からセットした場合



■連続帳票用紙を後方からセットした場合



重要

・ページ長設定が正しくないとき、微小改行▲ スイッチまたは 微小改行▼ スイッチで用紙を移動させた場合は、カット位置が合わなくなります。
・「その他の設定」（→ P.182）で「用紙カット戻し」を「手動」に設定した場合、用紙をカット位置に送り出したときに、「オンライン」ランプが点滅します。
用紙を切り離した後、オンライン スイッチを押すと、印字位置が戻ります。

2 用紙を切り取る

3 もう一度、用紙カット スイッチを押す

用紙が印字開始位置に戻ります。
この操作を行わない場合は、次の印字データを受信すると自動的に元の位置に戻ります。

カット位置の補正方法

カット位置に用紙を送り出したときに、プリンタの用紙カット位置と用紙のミシン目がずれている場合は、次の手順で位置を補正できます。連続帳票用紙の送り出し量をそれぞれ補正できます。
約 9mm の補正が可能です。

1 オンライン状態で 用紙カット スイッチを押し用紙をカット位置に送る

2 用紙送り出し後も 用紙カット スイッチを押したまま、微小改行▲ スイッチまたは 微小改行▼ スイッチを押しカット位置を合わせる

3 用紙カット位置に用紙のミシン目が合ったら 用紙カット スイッチを離す

新たな用紙カットの送り出し量として設定されます。
・正方向（用紙を送り出す方向）に補正するとき
微小改行▲ スイッチを押します。
1 回スイッチを押すごとに用紙を正方向に 1/180 インチ補正されます。
・逆方向（用紙を戻す方向）に補正するとき
微小改行▼ スイッチを押します。
1 回スイッチを押すごとに用紙を逆方向に 1/180 インチ補正されます。

重要

・ 用紙カット スイッチを離した時点で送り出し量が設定されるので、途中でスイッチを離した場合は手順 1 からやり直してください。

12 自動検出機能

このプリンタには、次の 4 つの自動検出機能があります。

用紙なし検出

印字中に用紙がなくなると、印字動作が停止して「メッセージ」ランプが点灯し、ブザーが鳴ってオフライン状態になります。液晶ディスプレイには「ヨウシ ナシ ********」と表示されています（FMPR5630/FMPR5430 の場合）。
印字中に用紙がなくなると、印字動作が停止して、「用紙切れ」ランプが点灯し、ブザーが鳴ってオフライン状態になります（FMPR5130 の場合）。

印字ヘッド昇温検出

印字ヘッドの過熱状態を検出すると、分割して印字し印字ヘッドの劣化を防止します。

ヘビーデューティ検出

高密度の印字（50%以上）を行うと、分割して印字します。

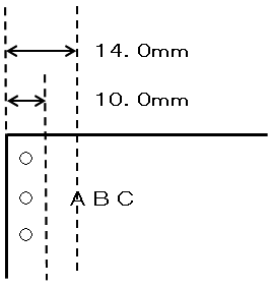
異常電流検出

プリンタ内で異常電流が流れたときは、プリンタ保護のために、自動的に電源を切断します。この状態で電源スイッチを ON にしても、約 5 分間は電源が入りません。数分後、電源を再度入れてください。この状態で電源が入らないときは、プリンタの故障と思われますので、電源プラグを抜いてご購入元または「富士通ハードウェア修理相談センター」（→ P.264）に相談してください。

13 用紙外印字防止機能について

本プリンタは、印字ヘッドピンを保護するために印字領域を超えた分の印字をカットする（印字しない）用紙外印字防止機能を搭載しております。
ご購入時には、用紙外印字防止機能は「有効」に設定されていますので、変更せずにそのままの状態でご使用ください。詳しくは、「その他の設定」（→ P.182）をご覧ください。

規格外のプレプリント用紙（禁止領域にプレプリントがある）の場合、用紙の左右端を正しく検出できずに、印字がカットされることがあります。この場合は規格にあった用紙への変更をお願いします。用紙変更までの間は、用紙外印字防止機能を「無効」に変更してご使用ください。ただし、セットした用紙本来の印字領域を超える印字データを受信すると、印字ヘッドピン折れを招きますので、用紙の付け替えミスなどがないよう、充分にご注意ください。用紙の変更が終わったら、用紙外印字防止機能を「有効」に戻してください（「プレプリント用紙を使用するとき」（→ P.132））。
また、連続帳票用紙の縦ミシン目を考慮して、ご購入時にはトラクタ印字カット量（左右端の余白量）は 14.0mm に設定してあります。
そのため、下図のような印字データでは、A の左半分が欠けて印字されますので、この場合はトラクタ印字カット量を 10.0mm に設定してください（「前・後トラクタ印字カット量 L/R」（→ P.182））。
ただし、縦ミシン目やとじ穴部分に印字を行うと印字ヘッドピン折れを招きますので、印字しないようにアプリケーションでの対応をお願いします。



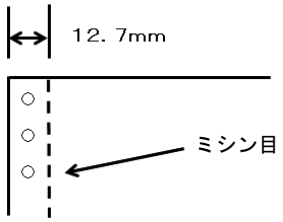
なお、印字領域内にとじ穴やミシン目がある用紙は、印字ヘッドピン折れの原因となりますので使用しないでください。

POINT

- **印字ヘッドピンが折れた場合は印字ドット抜けとなり、印字ヘッドを交換しなければ、復旧することができません。**

次のように、ミシン目が用紙端から 10mm を超える位置にある用紙の場合、トラクタ印字カット量を 10mm に変更すると、ミシン目位置の印字抑止ができず、印字ヘッドピン折れを招くことがあります。このような場合は、用紙およびアプリケーションの見直しが必要です。

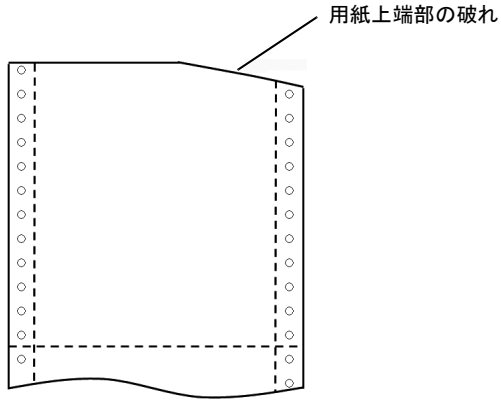
例）



用紙外印字防止機能を「有効」に戻す方法は、「その他の設定」（→ P.182）をご覧ください。

重要

・連続帳票用紙をカットするとき、ミシン目で正しくカットされず左右端が破れた状態のまま印刷を行うと、用紙幅検出を用紙の上端付近で行っているため用紙幅を正しく検出できず左右の文字が欠けてしまいます。
用紙上端部に破れや切り残しがあるページは、切り取ってから印刷してください。



・印刷データと異なる用紙に印刷しないでください。
特に LAN 環境で使用する場合、プリンタの選択ミスで、セットしている用紙と合わない印刷データが流れ、とじ穴や媒体段差での引っかかりなどによりピン折れの危険が高まります。プリンタの選択ミスがないよう、充分注意してください。

・印字が薄くなったら、リボンカセットを適時交換してください。
リボン生地の印字跡部分の黒さが薄くなった状態で印字を続けると、リボンが破れて印字ヘッドピンが引っかかり、ピン折れにつながります。リボンカセットは適時交換してください。

6

第 6 章　こんなときには

この章では、用紙づまりのとき、故障が発生したと思われるとき、各種メッセージが表示されたときの対処方法について説明します。

1　用紙づまりと印字中に電源断をしたとき 198
2　リボン寿命が表示されたら 209
3　プリンタがうまく動かないとき 211
4　テスト印字をする 220
5　HEX ダンプ印字をする 223
6　プリンタを清掃する 225
7　プリンタを輸送するとき 226
8　メッセージ一覧 227

1　用紙づまりと印字中に電源断をしたとき

用紙づまりが起きたり、印字中にプリンタの電源を切ったりした場合、印刷が途中で止まります。
そのままプリンタの電源を入れると、文字化けします。『ソフトウェアガイド』の「用紙づまりと印字中の電源断について」をご覧いただき、パソコンの対処を行ってからプリンタの電源を入れてください。

連続帳票用紙がつまったとき

用紙づまりを起こしたときは、用紙を無理に引っ張らず、ゆっくり取り除きます。
まず、はじめに取り出しやすいように連続帳票用紙をミシン目でカットします。
その後、用紙づまりの状態に合わせて次の手順で用紙を取り除きます。

前トラクタからの給紙および印字中に用紙がつまったとき

1　**オフライン状態にする**

オンライン スイッチを押して、プリンタをオフライン状態（「オンライン」ランプ消灯）にします。
動作が停止し、印字ヘッドとプラテンとのすきまが最大となります。

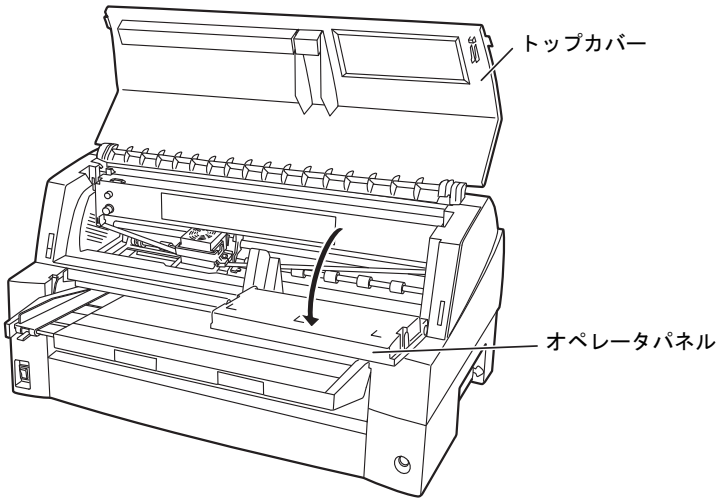
2　**プリンタの電源を切る**

電源スイッチが「○」側に倒れていることを確認します。

3　**トップカバーを開く**

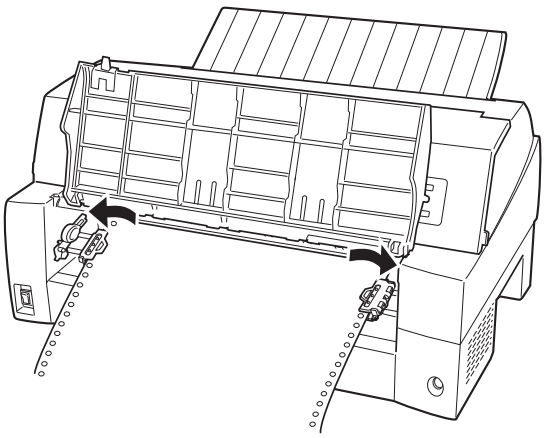
トップカバーを開き、プリンタ内部の用紙づまりの状況を確認します。

4 必要に応じてオペレータパネルを手前に倒す



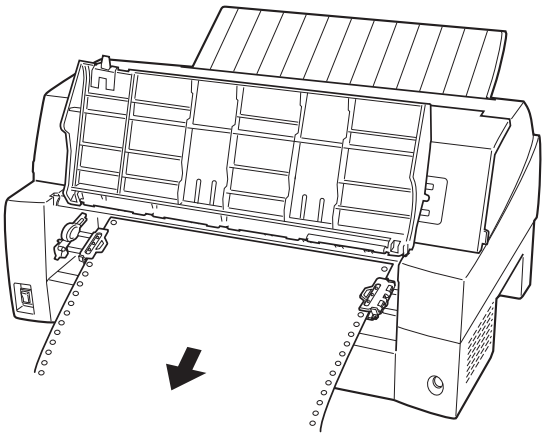
5 トラクタの左右の用紙押さえを開き、トラクタから用紙を外す

単票テーブルを上側に開き、プリンタの外に出ている用紙を切り離し、用紙送りトラクタ左右用紙押さえを開いて、トラクタから用紙を外します。

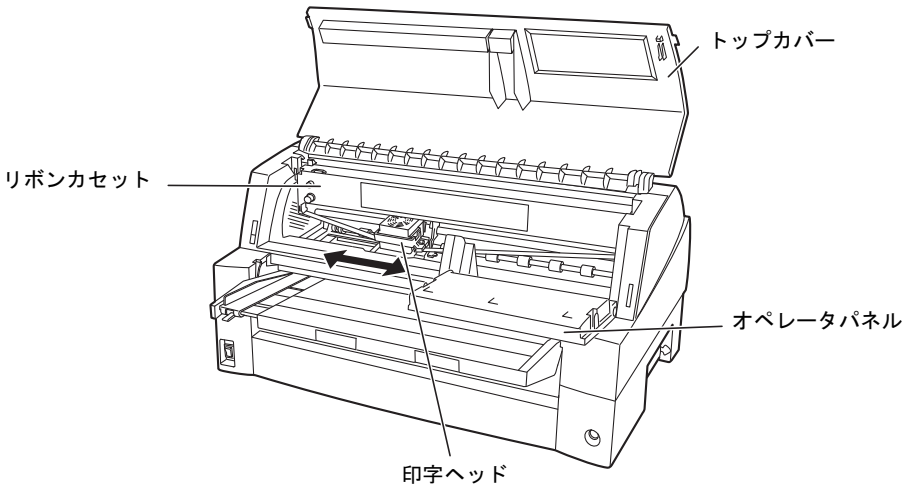


6 用紙を取り除く

プリンタの前または後から出ている用紙の端をゆっくり引いて、取り除きます。



用紙が印字部につまってうまく取り除けない場合や小さな紙片が残ってしまった場合は、用紙を取り除きやすいように印字ヘッドを適当な位置に手で動かし（下図）、残った用紙を手で取り除きます。また、印字ヘッド先端付近の用紙が取り除きにくい場合は、リボンカセットを取り外してから用紙を取り除きます。取り除きにくい場合はピンセットなどを使用してください。



⚠注意

・印字した直後は、印字ヘッドおよびプリンタ内部が高温になります。温度が下がったことを確かめてから、印字ヘッドを動かしてください。
やけどの原因となることがあります。

7 オペレータパネルを手前に倒した場合は元に戻し、トップカバーを閉じる

後トラクタからの給紙および印字中に用紙がつまったとき

1 オフライン状態にする

オンライン スイッチを押して、プリンタをオフライン状態（「オンライン」ランプ消灯）にします。

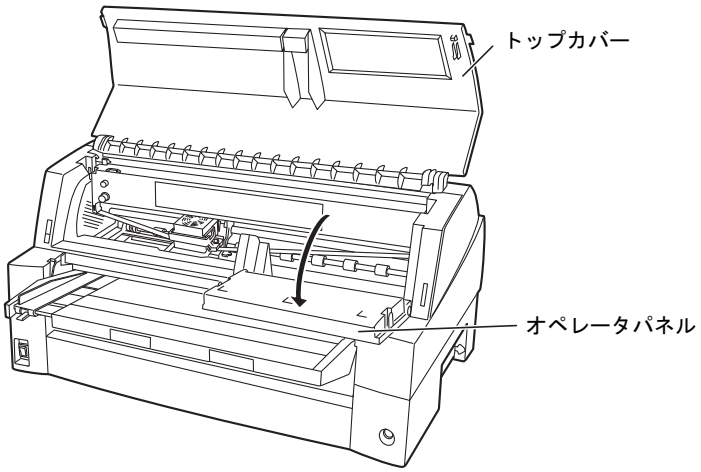
2 プリンタの電源を切る

電源スイッチが「○」側に倒れていることを確認します。

3 トップカバーを開く

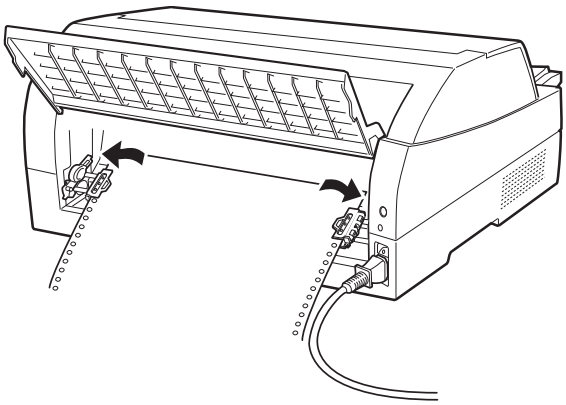
トップカバーを開き、プリンタ内部の用紙づまりの状況を確認します。

4 必要に応じてオペレータパネルを手前に倒す



5 トラクタの左右の用紙押さえを開き、トラクタから用紙を外す

プリンタの外に出ている用紙を切り離し、用紙送りトラクタ左右用紙押さえを開いて、トラクタから用紙を外します。



6 用紙を取り除く

プリンタの前または後から出ている用紙の端をゆっくり引いて、取り除きます。
用紙が印字部につまってうまく取り除けない場合や小さな紙片が残ってしまった場合は、用紙を取り除きやすいように印字ヘッドを適当な位置に手で動かし、残った用紙を手で取り除きます。また、印字ヘッド先端付近の用紙が取り除きにくい場合は、リボンカセットを取り外してから用紙を取り除きます。取り除きにくい場合はピンセットなどを使用してください。

⚠注意



・印字した直後は、印字ヘッドおよびプリンタ内部が高温になります。温度が下がったことを確かめてから、印字ヘッドを動かしてください。
やけどの原因となることがあります。

7 オペレータパネルを手前に倒した場合は元に戻し、トップカバーを閉じる

単票用紙がつまったとき

用紙づまりを起こしたときは、用紙を無理に引っ張らず、ゆっくり取り除きます。
用紙づまりの状態に合わせて、次の手順で用紙を取り除きます。

手差しで吸入した単票用紙がつまったとき

1 オフライン状態にする

オンライン スイッチを押して、プリンタをオフライン状態（「オンライン」ランプ消灯）にします。
動作が停止し、印字ヘッドとプラテンのすきまが最大となります。

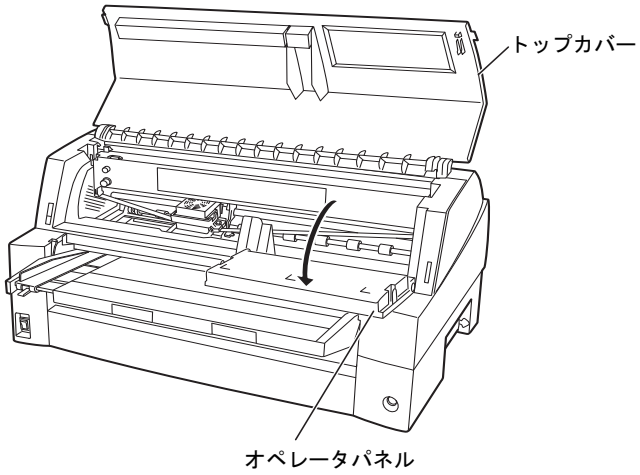
2 プリンタの電源を切る

電源スイッチが「○」側に倒れていることを確認します。

3 トップカバーを開く

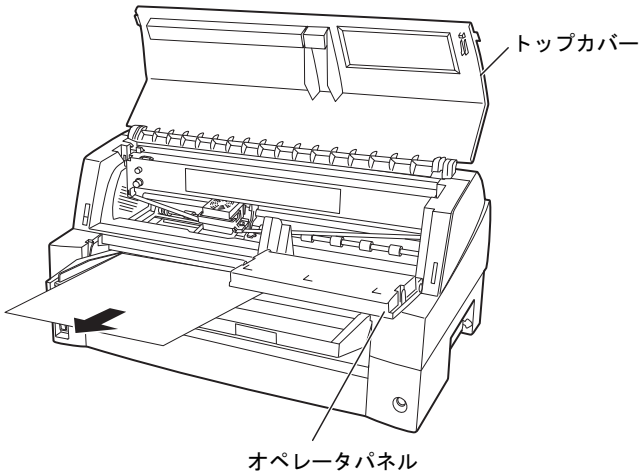
トップカバーを開き、プリンタ内部の用紙づまりの状況を確認します。

4 必要に応じてオペレータパネルを手前に倒す



5 用紙を取り除く

プリンタの前または後から出ている用紙の端をゆっくり引いて、取り除きます。



用紙が印字部につまってうまく取り除けない場合や小さな紙片が残ってしまった場合は、用紙を取り除きやすいように印字ヘッドを適当な位置に手で動かし、残った用紙を手で取り除きます。また、印字ヘッド先端付近の用紙が取り除きにくい場合は、リボンカセットを取り外してから用紙を取り除きます。取り除きにくい場合はピンセットなどを使用してください。

⚠注意

・印字した直後は、印字ヘッドおよびプリンタ内部が高温になります。温度が下がったことを確かめてから、印字ヘッドを動かしてください。
やけどの原因となることがあります。

6 オペレータパネルを手前に倒した場合は元に戻し、トップカバーを閉じる

リアスタッカ部に用紙がつまったときまたは用紙が排出しきれずにローラ部に残ったとき

1 オフライン状態にする

オンライン スイッチを押して、プリンタをオフライン状態（「オンライン」ランプ消灯）にします。

動作が停止し、印字ヘッドとプラテンのすきまが最大となります。

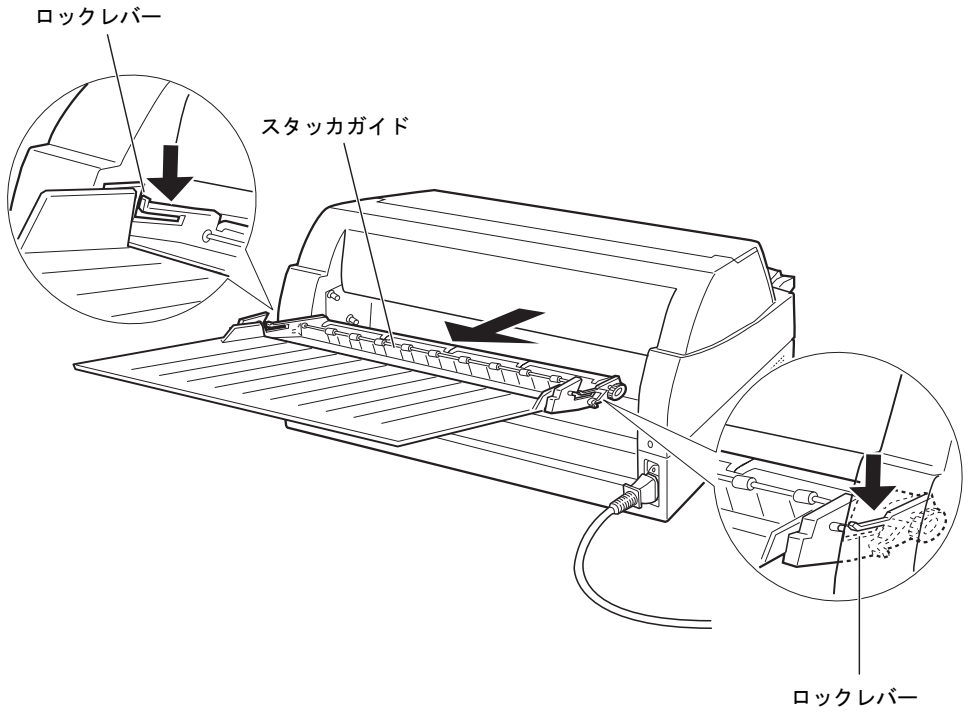
2 プリンタの電源を切る

電源スイッチが「○」側に倒れていることを確認します。

3 スタッカユニット（リアスタッカ + スタッカガイド）を取り外す

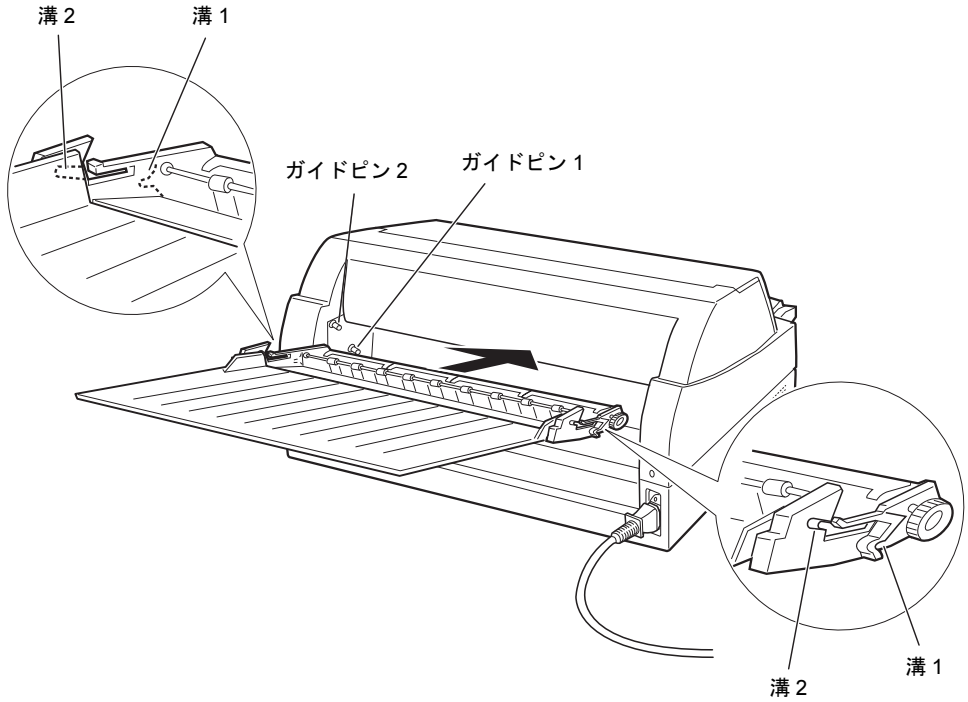
スタッカガイドのロックレバーを押し下げながら、後方に取り外します。

プリンタ内部の用紙づまりの状況を確認します。



4 スタッカユニット（リアスタッカ + スタッカガイド）を取り付ける

リアスタッカ左右の溝 1 をガイドピン 1 に合わせ、ガイドピン 2 が溝 2 にロックされるまでリアスタッカを押し込みます。



カットシートフィーダから吸入した用紙がつまったとき

1 オフライン状態にする

オンライン スイッチを押して、プリンタをオフライン状態（「オンライン」ランプ消灯）にします。

2 プリンタの電源を切る

電源スイッチが「○」側に倒れていることを確認します。

3 トップカバーを開く

トップカバーを開き、プリンタ内部の用紙づまりの状況を確認します。

カットシートフィーダユニット内での用紙づまりの場合

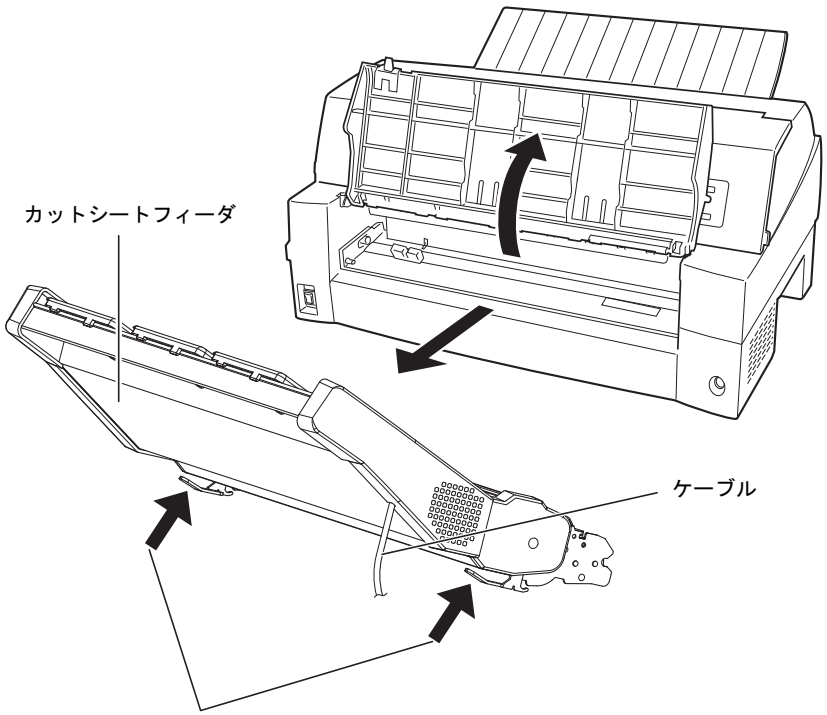
1 カットシートフィーダをプリンタ本体から取り外す

カットシートフィーダのケーブルをプリンタ本体のコネクタから抜いて、カットシートフィーダをプリンタ本体から取り外します。

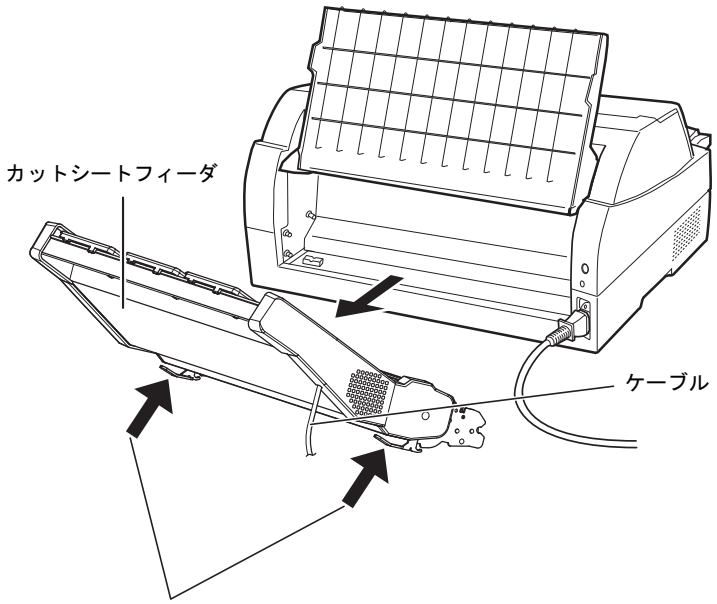
⚠注意

・ケーブルを外すときは必ず電源を切ってください。電源を切らずに作業すると感電の原因となることがあります。

■プリンタ前部から取り外す場合

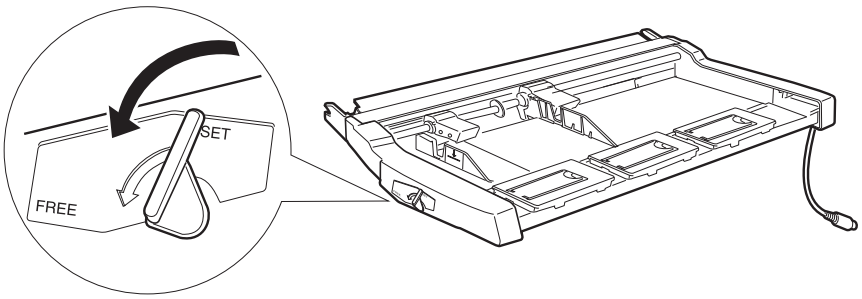


■ プリンタ後部から取り外す場合



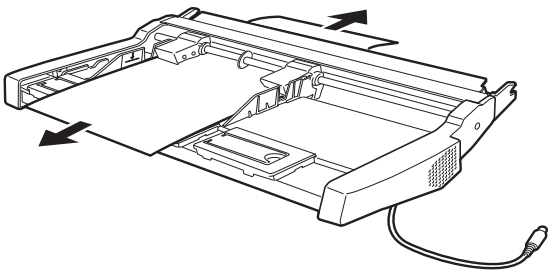
2 セットレバーを「FREE」の位置にする

カットシートフィーダ側面のセットレバーを「FREE」の位置にします。



3 用紙を取り除く

カットシートフィーダの前または後から用紙の端をゆっくり引いて取り除きます。



プリンタ内部まで用紙が送られた後の用紙づまりの場合

■つまった用紙がカットシートフィーダ側に残った場合

1 **カットシートフィーダをプリンタ本体から取り外す**

カットシートフィーダのケーブルをプリンタ本体のコネクタから抜いて、カットシートフィーダをプリンタ本体から取り外します。

詳しくは、「カットシートフィーダの取り付け、取り外し」（→ P.54）をご覧ください。

2 **セットレバーを「FREE」の位置にする**

カットシートフィーダの側面のセットレバーを「FREE」の位置にします（→ P.207）。

3 **用紙を取り除く**

カットシートフィーダの前または後から用紙の端をゆっくり引いて取り除きます。

■つまった用紙がプリンタに残った場合

1 **カットシートフィーダをプリンタ本体から取り外す**

カットシートフィーダのケーブルをプリンタ本体のコネクタから抜いて、カットシートフィーダをプリンタ本体から取り外します。

詳しくは、「カットシートフィーダの取り付け、取り外し」（→ P.54）をご覧ください。

2 **用紙を取り除く**

プリンタの前または後から出ている用紙の端をゆっくり引いて、取り除きます。

用紙が印字部につまってうまく取り除けない場合や小さな紙片が残ってしまった場合は、用紙を取り除きやすいように印字ヘッドを適宜な位置に手で動かし、残った用紙を手で取り除きます。また、印字ヘッド先端付近の用紙が取り除きにくい場合は、リボンカセットを取り外してから用紙を取り除きます。取り除きにくい場合はピンセットなどを使用してください。

⚠注意

・印字した直後は、印字ヘッドおよびプリンタ内部が高温になります。温度が下がったことを確かめてから、印字ヘッドを動かしてください。
やけどの原因となることがあります。

重要

・一度紙づまりを起こした用紙の再使用はしないでください。

2 リボン寿命が表示されたら

FMPR5630/FMPR5430 の場合

LCD 画面に「リボン　コウカンジキ」と表示されたら、「リボンカセットを交換する」(→ P.138) をご覧いただき、リボンカセットを交換後、次の操作をしてください。

1 オフライン状態でメニュースイッチを押し、メニューモードにする

オンライン状態
↓ [オンライン] スイッチ
オフライン状態
↓ [メニュー] スイッチ

```
セットアップ゜
▶メニュー　インサツ　　▼
```

2 ◁スイッチまたは▷スイッチを押して「リボンカウンタ　クリア」を表示させる

↓ ◁スイッチまたは▷スイッチ

```
セットアップ゜
▶リボンカウンタ　クリア　▼
```

3 ▽スイッチを押して「クリアスル　→セッテイ」を表示させる

↓ ▽スイッチ

```
リボンカウンタ　クリア
▶クリアスル　→セッテイ　▼
```

4 [設定] スイッチを押して、リボンカウンタの初期化を行い、手順 2 の画面に戻る

↓ [設定] スイッチ

```
セットアップ゜
▶リボンカウンタ　クリア　▼
```

5 [オンライン] スイッチを押し、オフライン状態に戻り、終了する

重要

・リボン寿命以外でリボンカセットまたはサブカセットを交換した場合でも、上記の手順でリボンカウンタのクリアを行ってください。

FMPR5130 の場合

「前トラクタ」ランプが点滅したら、リボンカセットの交換時期です。「リボンカセットを交換する」（→ P.138）をご覧いただき、リボンカセットを交換後、次の操作をしてください。

1 **オンライン** スイッチを押し、プリンタをオフラインにする

2 **高複写** スイッチを 5 秒間以上押し続ける

「高複写」ランプが点滅します。

3 **高複写** スイッチを 2 秒以上押し続ける

ブザーが 1 回なります。

4 **オンライン** スイッチを押す

プリンタはオフライン状態になりますので、印刷をする場合は、もう一度、オンライン スイッチを押し、オンラインにします。

重要

- リボン寿命以外でリボンカセットまたはサブカセットを交換した場合でも、上記の手順でリボンカウンタのクリアを行ってください。

3 プリンタがうまく動かないとき

プリンタが動かなくなったり、きれいに印字できなくなったりした場合の処置方法を説明します。故障とお考えになる前に簡単な点検で解決する場合がありますので、下表の項目について確認してください。
処置を行ってもうまくいかない場合は、ご購入元または「富士通ハードウェア修理相談センター」（→ P.264）にご相談ください。

電源を入れたときの不具合

電源を入れると、オペレータパネルのランプが点灯し、各部機構の位置決め動作と自己診断を行います。そのときの異常動作に対する処置方法を説明します。

現象	原因	処置
電源を入れた後「電源」ランプが点灯せず、プリンタが動作しない。	電源コードの接続が正しくない。	プリンタの電源を切り、電源コードの接続を確かめてください（「電源コードの接続」（→ P.40））。
電源を入れた後、いったん「電源」ランプが点灯するが消灯する。	電圧異常を検出し、電源が自動的に停止した。	電源を切って、5 分間放置後、再度電源を入れて、再現する場合は、修理を依頼してください。
電源を入れた後「用紙切れ」ランプが点滅する。	用紙やリボンが印字ヘッドに引っかかっているため、電源を入れたときの印字ヘッドの左右動作（イニシャル動作）が正常にできない。	電源を切って、印字ヘッドに引っかかっているものを取り除いてください。
	印字ヘッドを固定している輸送用固定材が取り外されていないため、電源を入れたときの印字ヘッドの左右動作（イニシャル動作）が正常にできない。	電源を切って、輸送用固定材を取り外してください（「輸送用固定材の取り外し」（→ P.33））。
	モータやセンサー、回路の故障、その他を検出した。	電源を切って、再度電源を入れて、再現する場合は、修理を依頼してください。
電源を入れた後「電源」ランプ以外が消灯（FMPR5130 の場合）。	フロントカバーが開いている。カバーオープンを検出した。	フロントカバーを閉じてください。再現する場合は、修理を依頼してください。

現象	原因	処置
電源を投入後、「リボンイジョウ」が表示される。 (FMPR5630/FMPR5430のみ)	リボン送りの異常を検出した。	リボンカセットを外し、リボンカセットのつまみを回し、リボンが正常に送られることを確認してください。
		リボンが正しく取り付けられているか確認してください。
		リボンカセットを純正品に交換してください。

単票用紙吸入時の不具合

単票用紙吸入がうまくできない場合の処置方法を説明します。

現象	原因	処置
指定の給紙口から吸入しない。	給紙口の選択が、別の給紙口になっている。	給紙口 スイッチを押して、「テサシ」、「前カットシートフィーダ」または「後カットシートフィーダ」を選択してください。
	前回吸入した用紙を、手で引き抜いたため、プリンタの状態が紙あり状態となっている。	オンライン スイッチを押してオフライン状態にした後に、用紙吸入/排出 スイッチを押し、一度排出動作をさせてから、再吸入してください。
	機能設定でオートローディングが無効になっている	用紙吸入/排出 スイッチを押して吸入させるか、機能設定を変更してください。

単票用紙排出時の不具合

単票用紙排出がうまくできない場合の処置方法を説明します。

現象	原因	処置
用紙排出を手前排出(テーブル側)した場合に用紙下端が角折れする。	用紙下端部の印字デューティが高いため、用紙がカールした状態で排出されるため。	手前排出 スイッチを押して、「手前排出」ランプを消灯し、排出方向を後方排出(リアスタッカ側)にしてください。「単票用紙の排出方向を切り替える(手前排出)」(→ P.153)または機能設定の「装置機能設定」(→ P.169)の「手差し排出方向」を「後方排出」に設定してください。

連続帳票用紙吸入時の不具合

連続帳票用紙がうまく吸入できない場合の処置方法を説明します。

現象	原因	処置
吸入しない。	プリンタがオンライン状態である。	オンライン スイッチを押してオフライン状態にしてから、用紙吸入/排出 スイッチを押してください。
	給紙口が正しく選択されていない。	給紙口 スイッチを押して、正しい給紙口(「フロントトラクタ」または「リアトラクタ」)を選択してください。
	前回吸入した用紙を、手で引き抜いたため、プリンタが紙あり状態となっている。	用紙吸入/排出 スイッチを押し、一度排出動作をさせてから、再吸入してください。
	プラテンロール直前直後の用紙ガイド（斜面）上に紙粉がたまり、センサーが誤検出している。	紙粉を清掃してください（「プリンタを清掃する」（→ P.225））。
吸入途中で排出される。	左右のトラクタ間で用紙がたるんでいる。	左右のトラクタ間隔を軽く用紙が張る程度に調整してください。

印字中の問題点

印字中の問題点に対する対処方法を説明します。

現象	原因	処置
印字が始まらない。	「オンライン」ランプが消えている。	オンライン スイッチを押して、「オンライン」ランプを点灯させてください。
オンライン状態であるのに、印字できない。	プリンタケーブルの接続に問題がある。	プリンタのケーブルを正しく接続してください。
オンライン状態であるのに、印字できない。	FM モードのときは、USB または LAN は使用できません。	FM モードを使用する場合は、パラレルポートを使用してください。USB または LAN を使用するときは、ESC ／ P モードにしてください。
印字開始前に給紙口が切り替わってしまう。	ドライバのプロパティで設定した給紙口が正しくない。	ドライバのプロパティで正しく設定してください。
印字音はするのに印字しない。	リボンカセットを取り付けていない。	リボンカセットを取り付けてください。

現象	原因	処置
「リボンイジョウ」が表示される。（FMPR5630/FMPR5430 のみ）	リボン送りの異常を検出した。	リボンカセットを外し、リボンカセットのつまみを回し、リボンが正常に送られることを確認してください。
		リボンが正しく取り付けられているか確認してください。
		リボンカセットを純正品に交換してください。

印字結果の問題点

印字結果の問題点に対する処置方法を説明します。

現象	原因	処置
リボン汚れが出る。	手動紙厚調整のとき、レンジ設定が適正値に対して狭くなっている。	広めに設定し直してリボン汚れが出なくなるようにしてください。
	ドライバのプロパティで設定した用紙厚さが、適正値に対して狭い。	ドライバのプロパティ設定値（レンジ設定）を、リボン汚れが出なくなるまで多くしてください。
	段差のある用紙を使用している。	手動紙厚調整にて印字してください。 詳しくは、「用紙厚を設定する（FMPR5630/FMPR5430 の場合）」（→ P.96）、「用紙厚を設定する（FMPR5130 の場合）」（→ P.100）をご覧ください。
	自動紙厚調整機構の故障。	応急処置として、手動紙厚調整に切り替えて使用することができます。
	リボンカセットの交換時期が近づいている。リボン生地の波うちが激しくなっている。	新しいリボンカセットと交換してください（「リボンカセットを交換する」（→ P.138））。
縦線のつなぎの左右方向のずれが大きい。行間ずれが大きい。	手動紙厚調整のとき、レンジ設定が適正値に対して狭いため、印字ヘッドの左右動作の負荷が大きくなっている。	広めに設定し直してください。
	ドライバのプロパティで設定した用紙厚さが、適正値に対して狭いため、印字ヘッドの左右動作の精度が悪くなっている。	ドライバのプロパティ設定値（レンジ設定）を、多くしてください。
	段差のある用紙の段差部分で印字ヘッドの左右動作の精度が悪くなっている。	手動紙厚調整にて印字してください。 詳しくは、「用紙厚を設定する（FMPR5630/FMPR5430 の場合）」（→ P.96）、「用紙厚を設定する（FMPR5130 の場合）」（→ P.100）をご覧ください。

現象	原因	処置
印字が薄い。	手動紙厚調整のとき、レンジ設定が適正値に対して広い。	正しいレンジに設定し直してください。印字が濃くなるまで設定します。狭くしすぎると故障の原因となるので注意してください。
	ドライバのプロパティで設定した用紙厚さが適正値に対して広い。	ドライバのプロパティ設定値（枚数）を印字が濃くなるまで少なくしてください。
	段差のある用紙を使用している。	手動紙厚調整にて印字してください。 ドライバ指定は、「用紙厚を設定する（FMPR5630/FMPR5430 の場合）」（→ P.96）、「用紙厚を設定する（FMPR5130 の場合）」（→ P.100）をご覧ください。
	とじ穴が印刷開始行にある。	とじ穴付近で紙厚調整を行うため用紙厚が正しく認識できません。 手動紙厚調整にして印字してください。 ドライバ指定は、「用紙厚を設定する（FMPR5630/FMPR5430 の場合）」（→ P.96）、「用紙厚を設定する（FMPR5130 の場合）」（→ P.100）をご覧ください。
	自動紙厚調整機構の故障。	応急処置として、手動紙厚調整に切り替えて使用することができます。
	リボンカセットの交換時期が近づいている。リボン生地の印字跡部の黒さが薄くなっている。	新しいリボンカセットと交換してください（「リボンカセットを交換する」（→ P.138））。
	印字ヘッドの交換時期が近づいている。	印字ヘッドの交換時期が近づくと FMPR5630/FMPR5430 は LCD に「ヘッドコウカンジキ」が表示されます。 FMPR5130 は、「単票手差し」ランプが点滅します。 印字ヘッドを交換する必要があります。 ご購入元または「富士通ハードウェア修理相談センター」（→ P.264）にご連絡ください。
印字を構成するドットが横 1 列に欠ける。	印字ヘッドのピンが折れている。	印字ヘッドを交換する必要があります。 ご購入元または「富士通ハードウェア修理相談センター」（→ P.264）にご連絡ください。
印字の一部が欠ける。	リボンカセットが正しく取り付けられていない。	印字を中止して、リボンカセットを正しく取り付けてください。 詳しくは、「リボンカセットを取り付ける」（→ P.41）をご覧ください。

現象	原因	処置
印字が所々でよじれたように欠ける。用紙を変えても発生する。	リボンがたるんだり、よじれたりしている。	印字を中止して、リボンカセットを点検してください。リボンつまみを回してリボンのよじれがないか確認します。
印字行の左端部や右端部で印字の上下が欠ける。連続帳票用紙のみ発生する。	連続帳票用紙の改行時に用紙のとじ部や用紙送り穴の影響でリボンがずれて、印字左右端部が欠ける。	機能設定で連続帳票用紙の改行時のリボン保護制御を有効にして使用してください。
余分なページが排出されたら	不要な改行、改ページを行っている。	印刷を停止して、印刷データを確認してください。

印字位置の問題点

印字位置に問題点がある場合の処置方法を説明します。

現象	原因	処置
印字開始位置が上、または下にずれる。	ドライバでの給紙方法選択、余白の設定、プリンタの上端余白の設定がアプリケーションに適合していない。	アプリケーションに合わせて、ドライバの給紙方法、余白量設定、プリンタの機能設定を正しく設定してください。
	用紙の上端のミシン目で切り取られた部分に紙片が残っている箇所がある。	紙片が残らないように、ミシン目で正しくカットしてください。
	ソフトウェアによっては上端余白の設定を変更する必要がある。	アプリケーションの説明書で確認してください。
	用紙上端のプレプリント禁止領域にプレプリントがある。	プレプリントの修正をしてください。
単票セットフリー使用時に印字の左右の位置がずれる。	機能設定の単票左端余白量とドライバの余白設定が異なっている。	プリンタとドライバの設定を合わせてください。
	用紙の左端部に面取り、プレプリントがあるために、用紙左端を正しく認識できない。	用紙を修正するか、単票セットフリーをオフにして使用してください。

印字位置がページによってずれる

印字位置がページによってずれる場合の処置方法を説明します。

現象	原因	処置
連続用紙の印字位置がページによってずれる。	仕様外用紙を使用しているため、正しく搬送できない。	「用紙について」（→ P.103）をご覧になり、仕様にあった用紙を使用してください。
	連続用紙の置き方が悪く、正しく搬送できない。	連続用紙はプリンタ給紙口の下に置き、斜めになったり、途中に引っかかったりしないようにしてください。また、箱からスムーズに引き出されない用紙は、箱から出して設置してください。
	用紙のページ長さと、ドライバのページ長設定値が異なる。	ドライバのページ長指定に合う用紙を使用してください。
	用紙の特性により、吸入位置に対してわずかながら印字位置がずれることがある。	用紙吸入量を調整してください。 詳しくは、「用紙の吸入量を調整する（FMPR5630/FMPR5430 の場合）」（→ P.187）、「用紙の吸入量を調整する（FMPR5130 の場合）」（→ P.190）をご覧ください。
	機能設定の「その他の設定」の「連帳給紙制御」が「速度優先」に設定されている。	機能設定で「その他の設定」（→ P.182）の「連帳給紙制御」を「精度優先」にしてください。

カットシートフィーダ使用時の不具合

カットシートフィーダ使用時の不具合点に対する処置方法を説明します。

現象	原因	処置
カットシートフィーダが動作しない。	カットシートフィーダがきちんとプリンタにセットされていない。	正しくセットされているか、また、コネクタが正しくセットされているか確認してください。詳しくは、「カットシートフィーダの取り付け、取り外し」（→ P.54）をご覧ください。
用紙を吸入しない。	左右の用紙ガイドで用紙をきつくはさんでいる。	用紙に対して適正なゆとりを持って、用紙ガイドをセットしてください。
	用紙が厚すぎる。	仕様にあった用紙を使用してください。
	セットした用紙が多すぎる（用紙ガイドの赤線を越えている）。	用紙ガイドの赤線以内にセットしてください。
	セットレバーが「FREE」になっている。	セットレバーを「SET」にしてください。
	給紙口が正しく選択されていない。	オペレータパネルの給紙口スイッチを操作し正しい給紙口をセットしてください。
	カットシートフィーダがプリンタにきちんとセットされていない。	正しくセットし直してください（「カットシートフィーダの取り付け、取り外し」(→ P.54)）。
複数枚の用紙が同時に送られてしまう。	用紙を充分にさばいていない。	用紙を充分にさばいてからセットしてください。
	用紙が薄すぎる。	仕様にあった用紙を使用してください。
	用紙に折れ曲がりがある。	折れ曲がりのない用紙を使用してください。
	左右の用紙ガイドと用紙のすきまが狭すぎるか、広すぎる。	用紙ガイドを用紙幅に合わせて正しくセットしてください。
	用紙が不揃いの状態でセットされている。	用紙を揃えて正しくセットしてください。
	種類の異なった用紙が混在している。	用紙の種類は1種類にして紙置台へセットしてください。

現象	原因	処置
斜行や用紙づまりが起きる。	左右の用紙ガイドと用紙のすきまが狭すぎるか広すぎる。	用紙ガイドを用紙幅に合わせて正しくセットしてください。
	仕様以外の用紙を使用している。	仕様にあった用紙を使用してください。
	用紙に折れ曲がりがある。	折れ曲がりのない用紙を使用してください。
	種類の異なった用紙が混在している。	用紙の種類は1種類にしてセットしてください。
	セットした用紙が多すぎる。用紙ガイドの赤線を越えている。	用紙ガイドの赤線以内にセットしてください。
	カットシートフィーダが正しくセットされていない。	カットシートフィーダが正しくセットされているか確認してください。
用紙排出を手前排出（テーブル側）した場合に用紙下端が角折れする。	用紙下端部の印字率が高いため、用紙がカールした状態で排出されるため。	手前排出スイッチを押して、「手前排出」ランプを消灯し、排出方向を後方排出（リアスタッカ側）にしてください（「単票用紙の排出方向を切り替える（手前排出）」（→ P.153））、または機能設定の「装置機能設定」（→ P.169）の「前 CSF 排出方向」、「後 CSF 排出方向」を「後方排出」に設定してください。

4 テスト印字をする

パソコンやネットワークに接続して、印字ができない場合、プリンタの動作を確認するときにテスト印字を行ってください。

FMPR5630/FMPR5430 の場合

テスト印字は、次の手順で行います。

1 単票用紙または連続帳票用紙をセットする

2 オフライン状態で［メニュー］スイッチを押し、メニューモードにする

オンライン状態
↓［オンライン］スイッチ
オフライン状態
↓［メニュー］スイッチ

```
セットアップ°
▶メニュー　インサツ　　▼
```

3 ◁スイッチまたは▷スイッチを押して「テストインサツ」を表示させる

↓ ◁スイッチまたは▷スイッチ

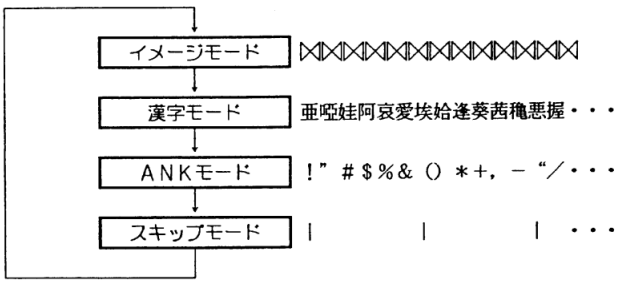
```
セットアップ°
▶テスト　インサツ　　▼
```

4 ▽スイッチで下のレベルへ移り、◁スイッチまたは▷スイッチでテストパターンを選択する

↓ ▽スイッチ

```
テスト　インサツ
▶イメージ゛モード゛　　▼
```

↓ ◁スイッチまたは▷スイッチ



漢字モードは明朝、ゴシック、ANK モードはドラフト、高品位を選択できます。
エミュレーションは、セットアップのモード設定（ESC/P または FM）に従います。

5 ▽スイッチで下のレベルへ移り、◁スイッチまたは▷スイッチを押して印字幅を選択する

↓ ▽スイッチ

```
 ｲﾒｰｼﾞ ﾓｰﾄﾞ
▶ｲﾝｼﾞ ﾊﾊﾞ １６２．５mm ▲
```

↓ ◁スイッチまたは▷スイッチ

```
 ｲﾒｰｼﾞ ﾓｰﾄﾞ
▶ｲﾝｼﾞ ﾊﾊﾞ ３４５．５mm ▲
```

6 メニュー スイッチを押す

テスト印字が開始されます。

7 テスト印字中に 登録・終了 スイッチを押すと、テスト印字が終了する

重要

・用紙なし状態でテスト印字を行うと、プラテンに直接印字してしまうためヘッドピンを傷めます。

FMPR5130 の場合

テスト印字は、次の手順で行います。

1 単票用紙または連続帳票用紙をセットする

2 電源を切る

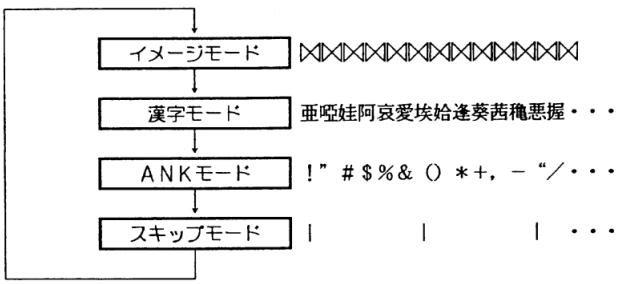
電源スイッチが「○」側に倒れていることを確認します。

3 改　行 スイッチを押しながら電源を入れ、オペレータパネルのランプがすべて点灯したらスイッチを離す

用紙がなくなるまで、連続して印字します。

■テストモードを切り替えるとき

印字中に 改　行 スイッチを押すと、印字ヘッドが左端または右端に移動したときに、順次テストモードが切り替わります。



漢字モードおよびANKモードのとき、電源を入れたときのエミュレーションにより印字内容が異なります。

・FMエミュレーション
- 漢字モードのとき、「第一水準漢字」と「第二水準漢字」の印字を繰り返します。
- ANKモードのとき、ドラフト文字を印字します。

・ESC/Pエミュレーション
- 漢字モードのとき、「非漢字」、「第一水準漢字」、「第二水準漢字」の順に、印字を繰り返します。
- ANKモードのとき、高品位文字を印字します。

■印字速度を切り替えるとき

印字中に[印字モード]スイッチを押すと、印字ヘッドが左端または右端に移動したときに、印字速度が切り替わります。

スイッチを押すたびに、高速印字モード、標準印字モード、低騒音モードが切り替わります。高速印字モードのときは、「高速」ランプ、低騒音モードのときは「低騒音」ランプが点灯します。

■標準印字/高複写モードを切り替えるとき

印字中に[高複写]スイッチを押すと、印字ヘッドが左端または右端に移動したときに、印字密度が切り替わります。

スイッチを押すたびに、標準印字モードと高複写モードが交互に切り替わります。高複写モードのときは、「高複写」ランプが点灯します。

■明朝体／ゴシック体を切り替えるとき

印字中に[用紙カット]スイッチを押すと、印字ヘッドが左端または右端に移動したときに、印字の字体が切り替わります。

スイッチを押すたびに、明朝体とゴシック体が交互に切り替わります。

4 テスト印字中に[オンライン]スイッチを押すと、テスト印字が終了する

重要

・カットシートフィーダを取り付けているときは、用紙設定状態に変わらず、機能設定に入れません。
・用紙なし状態でテスト印字を行った場合は、空印字動作を行います。

5 HEX ダンプ印字をする

HEX ダンプ印字は、印刷データの確認に利用してください。パソコンからプリンタへ送られてきたデータを 16 進数のまま印字します。

FMPR5630/FMPR5430 の場合

HEX ダンプ印字は次の手順で行います。

1 単票用紙または連続帳票用紙をセットする

2 オフライン状態で [メニュー] スイッチを押し、メニューモードにする

オンライン状態
↓ [オンライン] スイッチ
オフライン状態
↓ [メニュー] スイッチ



3 ◁スイッチまたは▷スイッチを押して「HEX　ダンプインサツ」を表示させる

↓ ◁スイッチまたは▷スイッチ



4 ▽スイッチで下のレベルに移り、「セッテイ」と表示されたら [メニュー] スイッチを押す

オンライン状態になり、パソコンからのデータは 16 進数で印刷されます。
HEX ダンプ印刷を解除するには、[オンライン] スイッチを押してオフライン状態にし、[リセット] スイッチを押します。
「ショキカ シマスカ ?」と表示されたら、再度 [リセット] スイッチを押します。通常のオフライン状態に戻ります。

FMPR5130 の場合

HEX ダンプ印字は次の手順で行います。

1 単票用紙または連続帳票用紙をセットする

2 改　行 スイッチと 改ページ スイッチを同時に押しながら、電源を入れ、ランプがすべて点灯してからスイッチを離す

HEX ダンプを印字できる状態になります。

3 印字データを送る

パソコンから送られるデータは 16 進数のまま印字されます。1 行にみたないデータは印字されず、オンライン スイッチを押してオフライン状態にすると印字されます。

4 HEX ダンプ印字を解除する

電源をいったん切ってから、もう一度入れてください。

重要

・カットシートフィーダを取り付けているときは、HEX ダンプ印字できません。

6 プリンタを清掃する

プリンタを良好な状態で使用できるように、定期的に清掃してください。

⚠注意



・プリンタの清掃を行う場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源スイッチを切らずにプリンタの清掃を行うと、感電の原因となることがあります。



・印字した直後は、印字ヘッドが高温になります。温度が下がったことを確かめてから、清掃してください。
やけどの原因となることがあります。

重要

・シンナーやベンジンなどの薬品は使用しないでください。プリンタの表面が変質したり、変形したりするおそれがあります。
・プリンタの内部を濡らさないでください。電気回路がショートするおそれがあります。
・プリンタに潤滑油を補給しないでください。プリンタの故障の原因となる場合があります。異常を感じた場合は、ご購入元または「富士通ハードウェア修理相談センター」（→ P.264）までご連絡ください。

清掃は、次の手順で行います。

1 プリンタの電源を切り、電源プラグを抜く

2 トップカバーを開ける

3 プリンタを清掃する

印字した用紙が汚れたり、カバー部が汚れたりしているときは、中性洗剤を薄めた水に清潔な軟らかい布を浸し固く絞って、カバー表面、プラテン、およびゴムローラの表面を拭いてください。プリンタ内の紙粉は除去してください。

重要

・印字ヘッドなどの壊れやすい部品には触らないように注意してください。破損の原因となります。

4 トップカバーを閉じて、電源を入れる

7 プリンタを輸送するとき

プリンタを衝撃から守るため、次の手順で梱包してから輸送してください。

1 **プリンタの電源をいったん入れた後に切る**
電源スイッチが「○」側に倒れていることを確認します。
いったん電源を入れることで、印字ヘッドが移動し、以降の作業ができる状態になります。

2 **用紙を取る**

3 **プラグを電源プラグから抜いて、プリンタケーブルをプリンタから外す**

4 **リボンカセットを取り外す**
詳しくは、「リボンカセットを交換する」（→ P.138）をご覧ください。

5 **印字ヘッドを手でゆっくりと右端まで移動する**

6 **印字ヘッドを保護するために、輸送用固定材を取り付ける**

7 **プリンタを衝撃から守るために梱包材などでくるみ、届いたときと同じ状態にして箱に入れる**

8 メッセージ一覧

Windows およびプリンタのオペレータパネルに表示されるメッセージ一覧

プリンタがエラーになったとき、Windows に表示されるメッセージおよび処置について説明します。
プリンタの状態は、次の表の「プリンタのLCD表示」、「プリンタのLED表示」をご覧ください。
Windows に表示されるメッセージおよび対処については、次の表から該当するエラー番号の「内容と処置」をご覧ください。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
情報取得中	[注 1]	[注 2]	－	[情報取得中]
印刷可能			－	[印刷可能]
印刷中			3200-002	[印刷中]
印刷完了			3001-0010	[印刷完了] 印刷が完了しました。
印刷キャンセル			3001-0020	[印刷キャンセル] 印刷をキャンセルしました。
印刷保留			3001-0030	[印刷保留] 印刷を保留しました。
印刷開始			3001-0040	[印刷開始] 印刷を開始します。
印刷可能（リボン寿命）	オンライン　ミンチョウ　ＥＰ オート　テサシ ↕ [注 3] リボ゛ン　コウカンジ゛キ オート　テサシ	「オンライン」ランプ点灯 [注 4]	－	[印刷可能（リボン寿命）] 注）インクリボンが寿命に達しています。印字品質を保つために、インクリボンの交換をお勧めします。
印刷中（リボン寿命）	[注 1]		－	[印刷中（リボン寿命）] 注）インクリボンが寿命に達しています。印字品質を保つために、インクリボンの交換をお勧めします。
印刷可能（ヘッド交換時期）	オンライン　ミンチョウ　ＥＰ オート　テサシ ↕ [注 3] ヘッド゛　コウカンジ゛キ オート　テサシ		－	[印刷可能（ヘッド寿命）] 注）印字ヘッドが寿命に達しています。安定してお使いいただくために、印字ヘッドの交換が必要です。交換のときは「ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
印刷中（ヘッド交換時期）	［注 1］	「オンライン」ランプ点灯［注 4］	3200-0212	［印刷中（ヘッド寿命）］ 注）印字ヘッドが寿命に達しています。安定してお使いいただくために、印字ヘッドの交換が必要です。交換のときは「ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
印刷可能（CSF ローラキット寿命）	・前 CSF 寿命到着時 オンライン　ミンチョウ　ＥＰ オート　フロントＣＳＦ ↕［注 3］ ＦＣＳＦ ローラ　コウカンジ゛キ オート　テサシ ・後 CSF 寿命到着時 オンライン　ミンチョウ　ＥＰ オート　リアＣＳＦ ↕［注 3］ ＲＣＳＦ ローラ　コウカンジ゛キ オート　テサシ		―	［印刷可能（CSF ローラキット寿命）］ 注）CSF ローラキットが寿命に達しています。安定してお使いいただくために、CSF ローラキットの交換が必要です。交換のときは「ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
印刷中（CSF ローラキット寿命）	［注 1］		3200-0222	［印刷中（CSF ローラキット寿命）］ 注）CSF ローラキットが寿命に達しています。安定してお使いいただくために、CSF ローラキットの交換が必要です。交換のときは「ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
印刷可能（装置寿命）	オンライン　ミンチョウ　ＥＰ オート　テサシ ↕［注 3］ ソウチジ゛ュミョウ オート　テサシ		―	［印刷可能（装置寿命）］ 注）装置が寿命に達しています。安定してお使いいただくために、装置の交換が必要です。交換のときは「装置購入元」にご連絡ください。
印刷中（装置寿命）	［注 1］		3200-0232	［印刷中（装置寿命）］ 注）装置が寿命に達しています。安定してお使いいただくために、装置の交換が必要です。交換のときは「装置購入元」にご連絡ください。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
オフライン	オフライン　XXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXX	「オンライン」ランプ消灯［注 4］	0450-0300	［オフライン］ プリンタがオフラインです。 1. プリンタをオンラインにします。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックしてください。
用紙なし（前カットシートフィーダ）	ヨウシ　ナシ　ＦＣＳＦ ヨウシヲ　ホキュウシテクﾀﾞ　サイ	「メッセージ」ランプ点灯［注 4］	0301-0313	［用紙なし（前カットシートフィーダ）］ 前カットシートフィーダに用紙がありません。 1. 前カットシートフィーダに用紙を補給してプリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押します。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックしてください。
用紙なし（後カットシートフィーダ）	ヨウシ　ナシ　ＲＣＳＦ ヨウシヲ　ホキュウシテクﾀﾞ　サイ		0301-0212	［用紙なし（後カットシートフィーダ）］ 後カットシートフィーダに用紙がありません。 1. 後カットシートフィーダに用紙を補給してプリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押します。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックしてください。
用紙なし（手差し）	ヨウシ　ナシ　テサシ ヨウシヲ　セットシテクﾀﾞ　サイ		0301-0315	［用紙なし（手差し）］ 用紙がありません。 1. 用紙を手差し口にセットしプリンタをオンラインにします。 注）・アプリケーションでの下端余白の設定が、プリンタの下端余白より狭いときは、次ページの印刷開始位置がずれることがあります。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックしてください。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
用紙なし（前トラクタ）	ヨウシ　ナシ　フロントトラクタ ヨウシヲ　セットシテクダ゛サイ	「メッセージ」ランプ点灯［注 4］	0301-0316	［用紙なし（前トラクタ）］ 用紙がありません。 1. 前トラクタに用紙を掛けてプリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押します。 2. 用紙の吸入が終わったらプリンタをオンラインにします。 注）・アプリケーションでの下端余白の設定が、プリンタの下端余白より狭いときは、次ページの印刷開始位置がずれることがあります。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックしてください。
用紙なし（後トラクタ）	ヨウシ　ナシ　リアトラクタ ヨウシヲ　セットシテクダ゛サイ		0301-0317	［用紙なし（後トラクタ）］ 用紙がありません。 1. 後トラクタに用紙を掛けてプリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押します。 2. 用紙の吸入が終わったらプリンタをオンラインにします。 注）・アプリケーションでの下端余白の設定が、プリンタの下端余白より狭いときは、次ページの印刷開始位置がずれることがあります。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックしてください。
単票抜き取り待ち	タンヒ゜ョウヌキトリマチ ヨウシヲ　ヌキトッテクダ゛サイ		0335-0303	［単票抜き取り待ち］ 排出した用紙が単票テーブルに残っています。 1. 単票テーブル上の用紙を取り除きます。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックしてください。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
用紙切り替えエラー	［注 1］	「メッセージ」ランプ点灯［注 4］	0335-0304	［用紙切り替えエラー］ 用紙切り替え時に後退させる用紙が長すぎます。 1. 用紙を排出口で切ってから、プリンタの「用紙吸入 / 排出」スイッチを押して用紙を後退させます。 2.「用紙選択」スイッチで用紙を切り替えて、プリンタをオンラインにしてください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックしてください。
連帳後退エラー（前トラクタ）	ヨウシタイヒエラー　F トラクタ ヨウシヲ　カクニンシテクﾀﾞ サイ		0335-0305	［連帳後退エラー（前トラクタ）］ 後退させる用紙が長すぎます。 1. 用紙を排出口で切ってから、プリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押して用紙を後退させます。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックしてください。
連帳後退エラー（後トラクタ）	ヨウシタイヒエラー　R トラクタ ヨウシヲ　カクニンシテクﾀﾞ サイ		0301-0322	［連帳後退エラー（後トラクタ）］ 後退させる用紙が長すぎます。 1. 用紙を排出口で切ってから、プリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押して用紙を後退させます。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックしてください。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
用紙吸入エラー	ヨウシキュウニュウエラー ヨウシヲサイセットシテクﾀﾞｻｲ	「メッセージ」ランプ点灯［注 4］	0301-0306	［用紙吸入エラー］ 用紙が正しく吸入できませんでした、用紙を確認してください。 ・用紙が斜めに入った。 ・用紙セット範囲外に用紙がセットされた。 ・用紙が引き込めなかった。 ・使用できない幅の用紙がセットされた。 1. 単票テーブル上の用紙を取り除きます。 2. 用紙をセットしプリンタをオンラインにします。 注）・単票セットフリーモード時は、単票セット位置を用紙セット範囲にセットしてください。 ・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
吸入ジャム（手差し）	キュウシシﾞャム　テサシ ヨウシヲトリノゾﾞイテクﾀﾞｻｲ		0314-0307	［吸入ジャム（手差し）］ 用紙の吸入中に紙づまりが発生しました。 1. プリンタ（給紙口、内部）の用紙を取り除きます。 2. 用紙をセットしプリンタをオンラインにします。 注）・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。

プリンタの状態	プリンタのLCD表示	プリンタのLED表示	エラー番号	内容と処置
吸入ジャム(前カットシートフィーダ)	キュウシシﾞャム　ＦＣＳＦ ヨウシヲトリノゾﾞイテクダﾞサイ	「メッセージ」ランプ点灯 [注4]	00314-0318	[吸入ジャム(前カットシートフィーダ)] 用紙の吸入中に紙づまりが発生しました。 1. プリンタ(給紙口、内部)の用紙を取り除きます。 2. 用紙をセットしプリンタをオンラインにします。 注)・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
吸入ジャム(後カットシートフィーダ)	キュウシシﾞャム　ＲＣＳＦ ヨウシヲトリノゾﾞイテクダﾞサイ		0314-0319	[吸入ジャム(後カットシートフィーダ)] 用紙の吸入中に紙づまりが発生しました。 1. プリンタ(給紙口、内部)の用紙を取り除きます。 2. 用紙をセットしプリンタをオンラインにします。 注)・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
吸入ジャム（前トラクタ）	キュウシシﾞャム　F トラクタ ヨウシヲトリノｿﾞイテクﾀﾞサイ	「メッセージ」ランプ点灯［注 4］	0314-0320	［吸入ジャム（前トラクタ）］ 用紙の吸入中に紙づまりが発生しました。 1. プリンタ（給紙口、内部）の用紙を取り除きます。 2. 前トラクタに用紙を掛けてプリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押します。 3. 用紙の吸入が終わったらプリンタをオンラインにします。 注）・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
吸入ジャム（後トラクタ）	キュウシシﾞャム　R トラクタ ヨウシヲトリノｿﾞイテクﾀﾞサイ		00314-0321	［吸入ジャム（後トラクタ）］ 用紙の吸入中に紙づまりが発生しました。 1. プリンタ（給紙口、内部）の用紙を取り除きます。 2. 後トラクタに用紙を掛けてプリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押します。 3. 用紙の吸入が終わったらプリンタをオンラインにします。 注）・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
カバーオープン	カﾊﾞｰオープﾞン カﾊﾞｰヲトジﾞテクﾀﾞサイ		00305-0310	［カバーオープン］ トップカバーが開いています。 1. トップカバーを閉じてプリンタをオンラインにします。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックしてください。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
用紙サイズエラー	キテイガ゛ イヨウシエラー ヨウシヲ　カクニンシテクダ゛サイ	「メッセージ」ランプ点灯［注 4］	0304-0311	［用紙サイズエラー］ 規定外のサイズの用紙に印刷されました。 1. 規定外の用紙に印刷していないか用紙長を確認してください。 2. 正しいサイズの用紙をセットしプリンタをオンラインにします。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックしてください。
用紙カット待ち	ヨウシカットマチ ヨウシヲ　カットシテクダ゛サイ		00380-0312	［用紙カット待ち］ 用紙カット待ちです。 1. 用紙を切り取ってプリンタの［オンライン］スイッチを押します。 用紙が印字開始位置に戻り、印刷待ち状態になります。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックしてください。
プリンタリセット	ショキカ　シマスカ Y：リセット　　N：オンライン	［注 2］	0300-0390	［プリンタリセット］ プリンタがリセットされました。
排出ジャムエラー（手差し）	ハイシジ゛ャム　テサシ ヨウシ　カクニン　→キュウニュウ	「メッセージ」ランプ点灯［注 4］	0314-0402	［排出ジャムエラー（手差し）］ 用紙の排出中に紙づまりが発生しました。 1. プリンタ（給紙口、内部、排出部）の用紙を取り除きます。 2. その他の異物がないか確認します。異物があった場合は取り除きます。 3. ［用紙吸入 / 排出］スイッチを押します。 4. “用紙なし”となったら、用紙をセットします。 5. プリンタをオンラインにします。 注）・“用紙なし”のメッセージが表示されたときは、用紙をセットしてください。 ・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
排出ジャムエラー（前カットシートフィーダ）	ハイシジ゛ャム　ＦＣＳＦ ヨウシ　カクニン　→キュウニュウ	「メッセージ」ランプ点灯［注 4］	0314-0410	［排出ジャムエラー（前カットシートフィーダ）］ 用紙の排出中に紙づまりが発生しました。 1. プリンタ（給紙口、内部、排出部）の用紙を取り除きます。 2. その他の異物がないか確認します。異物があった場合は取り除きます。 3. ［用紙吸入 / 排出］スイッチを押します。 4. プリンタをオンラインにします。 注）・“用紙なし”のメッセージが表示されたときは、用紙をセットしてプリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押してください。 ・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
排出ジャム エラー (後カット シート フィーダ)	ハイシジ゛ャム　ＲＣＳＦ ヨウシ　カクニン　→キュウニュウ	「メッセージ」ランプ点灯 [注 4]	0314-0411	[排出ジャムエラー（後カットシートフィーダ)] 用紙の排出中に紙づまりが発生しました。 1. プリンタ（給紙口、内部、排出部）の用紙を取り除きます。 2. その他の異物がないか確認します。異物があった場合は取り除きます。 3. [用紙吸入 / 排出] スイッチを押します。 4. プリンタをオンラインにします。 注）・“用紙なし”のメッセージが表示されたときは、用紙をセットしてプリンタの [用紙吸入 / 排出] スイッチを押してください。 ・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
排出ジャム エラー（前トラクタ）	ハイシジ゛ャム　F　トラクタ ヨウシ　カクニン　→キュウニュウ	「メッセージ」ランプ点灯［注 4］	0314-0412	［排出ジャムエラー（前トラクタ）］ 用紙の排出中に紙づまりが発生しました。 1. プリンタ（給紙口、内部、排出部）の用紙を取り除きます。 2. その他の異物がないか確認します。異物があった場合は取り除きます。 3. ［用紙吸入 / 排出］スイッチを押します。 4. プリンタをオンラインにします。 注）・“用紙なし”のメッセージが表示されたときは、用紙をセットしてプリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押してください。 ・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
排出ジャム エラー（後トラクタ）	ハイシジ゛ャム　R　トラクタ ヨウシ　カクニン　→キュウニュウ	「メッセージ」ランプ点灯［注 4］	0314-0413	［排出ジャムエラー（後トラクタ）］ 用紙の排出中に紙づまりが発生しました。 1. プリンタ（給紙口、内部、排出部）の用紙を取り除きます。 2. その他の異物がないか確認します。異物があった場合は取り除きます。 3. ［用紙吸入 / 排出］スイッチを押します。 4. プリンタをオンラインにします。 注）・“用紙なし”のメッセージが表示されたときは、用紙をセットしてプリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押してください。 ・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
桁ずれ 印字桁ずれ	インジ゛ケタズ゛レ ヨウシ　カクニン　→リセット	「メッセージ」ランプ点灯 [注 4]	0381-0406	[印字桁ずれ] 印字の桁ずれを検出しました。 1. プリンタ（給紙口、内部、排出部）の用紙を取り除きます。 2. その他の異物がないか確認します。異物があった場合は取り除きます。 3. 手で印字ヘッドが両端まで動くことを確認します。 4. プリンタの［リセット］スイッチを押してください。 注）・“用紙なし”のメッセージが表示されたときは、用紙をセットしてプリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押してください。 ・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
用紙厚異常	ヨウシアツイジ゛ョウ ヨウシ　カクニン　→リセット	「メッセージ」ランプ点灯 [注 4]	0382-0407	[0382-0407 用紙厚異常] 使用できない厚さの用紙に印刷しようとしています。 1. このプリンタで使える用紙か、用紙の仕様を確認してください。 2. プリンタ（給紙口、内部、排出部）の用紙を取り除きます。 3. プリンタの［リセット］スイッチを押してください。 注）・“用紙なし”のメッセージが表示されたときは、用紙をセットしてプリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押してください。 ・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
改行ジャム	カイギ゛ョウジ゛ャムケンチ ヨウシ　カクニン　→リセット	「メッセージ」ランプ点灯 [注 4]	0314-0408	[0314-0408 改行ジャム] 紙送り中に紙づまりが発生しました。 1. プリンタ（給紙口、内部、排出部）の用紙を取り除きます。 2. プリンタの［リセット］スイッチを押してください。 注）・“用紙なし”のメッセージが表示されたときは、用紙をセットしてプリンタの［用紙吸入 / 排出］スイッチを押してください。 ・別のページから印刷する場合は、画面の「操作」ボタンをクリックし、開始ページ番号を指定して画面の「続行」をクリックしてください。 ・印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。 ・段差のある用紙を使用すると、改行ジャムエラーが発生することがあります。その場合はプリンタの機能設定で「改行ジャム検知（カイギョウジャムケンチ）」を「無効（ムコウ）」にしてください。
リボン異常	リボ゛ンイジ゛ョウ リボ゛ンカクニン　→リセット	「メッセージ」ランプ点灯 [注 4]	0400-0409	[リボン異常] リボンの異常を検出しました。 1. プリンタの電源を切り、このプリンタで使えるリボンか確認します。 2. プリンタの電源を再投入してください。
通信エラー	[注 1]	[注 2]	1500-0500	[通信エラー] プリンタとの通信が異常となりました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
ROM/RAM アラーム	ＲＯＭ／ＲＡＭ　アラーム ﾊﾟ ワー　ＯＦＦ　シテクﾀﾞ サイ	「メッセージ」ランプ点滅 [注 4]	0700-0700	[ROM/RAM エラー] ROM/RAM の異常を検出しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
フレームファンアラーム（FMPR5630のみ）	フレームファンアラーム ﾊﾟ ワー　ＯＦＦ　シテクﾀﾞ サイ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0701	［フレームファンアラーム］ フレームファンの異常を検出しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
セットフリーアラーム	セットフリーアラーム ﾊﾟ ワー　ＯＦＦ　シテクﾀﾞ サイ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0702	［セットフリーアラーム］ セットフリーホームポジション検出に失敗しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
HCPP アラーム	ＨＣＰＰ　アラーム ﾊﾟ ワー　ＯＦＦ　シテクﾀﾞ サイ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0703	［HCPP アラーム］ HCPP ホームポジション検出に失敗しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
APTC アラーム	ＡＰＴＣ　アラーム ﾊﾟ ワー　ＯＦＦ　シテクﾀﾞ サイ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0704	［APTC アラーム］ APTC ホームポジション検出に失敗しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
LRES アラーム	ＬＲＥＳ　アラーム ﾊﾟ ワー　ＯＦＦ　シテクﾀﾞ サイ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0705	［LRES アラーム］ 印字キャリアホームポジション検出に失敗しました。 1. プリンタ（給紙口、内部、排出部）の用紙を取り除きます。 2. その他の異物がないか確認します。異物があった場合は取り除きます。 3. 手で印字ヘッドが両端まで動くことを確認します。 4. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
SP ファンアラーム	ＳＰ　アラーム ﾊﾟ ワー　ＯＦＦ　シテクﾀﾞ サイ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0706	［SP モータファンアラーム］ SP モータファンの異常を検出しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
電源ファンアラーム	ﾊﾟ ワーファンアラーム ﾊﾟ ワー　ＯＦＦ　シテクﾀﾞ サイ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0707	［電源ファンアラーム］ 電源ファンの異常を検出しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
CSF モータアラーム	ＣＳＦ　アラーム ﾊﾟ ワー　ＯＦＦ　シテクﾀﾞ サイ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0708	［CSF モータアラーム］ CSF モータドライバの異常を検出しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
リボンモータアラーム	ﾘﾎﾞﾝモータアラーム ﾊﾟ ワー　ＯＦＦ　シテクﾀﾞ サイ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0709	［リボンモータアラーム］ リボンモータドライバの異常を検出しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
OVERLOAD アラーム	ＯＶＥＲＬＯＡＤ　アラーム ﾊﾟ ワー　ＯＦＦ　シテクﾀﾞ サイ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0710	［OVERLOAD アラーム］ 電源電圧の異常を検出しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
LOW VOL アラーム	ＬＯＷ　ＶＯＬ　アラーム ﾊﾟ ワー　ＯＦＦ　シテクﾀﾞ サイ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0711	［LOW VOL アラーム］ 電源電圧の異常を検出しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
HIGH VOL アラーム	ＨＩＧＨ　ＶＯＬ　アラーム ﾊﾟ ﾜｰ　ＯＦＦ　ｼﾃｸﾀﾞ ｻｲ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0712	［HIGH VOL アラーム］ 電源電圧の異常を検出しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
ヘッド アラーム	ﾍｯﾄﾞ ｱﾗｰﾑ ﾊﾟ ﾜｰ　ＯＦＦ　ｼﾃｸﾀﾞ ｻｲ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0713	［ヘッドアラーム］ 印字ヘッドドライバの異常を検出しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
LF アラーム	ＬＦ　アラーム ﾊﾟ ﾜｰ　ＯＦＦ　ｼﾃｸﾀﾞ ｻｲ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0714	［LF アラーム］ LF モータおよびトラクタモータドライバの異常を検出しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
SP アラーム	ＳＰ　アラーム ﾊﾟ ﾜｰ　ＯＦＦ　ｼﾃｸﾀﾞ ｻｲ	「メッセージ」ランプ点滅［注 4］	0700-0715	［SP アラーム］ スペースモータドライバの異常を検出しました。 1. プリンタの電源を再投入してください。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
用紙交換	［注 1］	「オンライン」ランプ点灯［注 4］	3001-1110	［用紙交換］ 以下の用紙名が指定されました。 プリンタ装置に指定の用紙をセットした後、画面の「続行」ボタンを押すと、印刷を再開します。 用紙名：XX（XX は現在使用している用紙サイズとなります） 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。
テスト印刷完了	オフライン　ＸＸＸＸＸＸＸＸＸ ＸＸＸＸＸＸＸＸＸＸＸＸＸＸＸＸ		3001-1120	［テストプリント完了］ テストプリントが完了しました。 画面の「続行」ボタンを押すと、印刷を再開します。 注）印刷を中止するときは画面の「削除」ボタンをクリックします。

プリンタの状態	プリンタの LCD 表示	プリンタの LED 表示	エラー番号	内容と処置
応答なし	［注 1］	［注 2］	1500-1500	［応答なし］ プリンタからの応答がありません。 1. プリンタの電源を確認します。 2. プリンタケーブルの接続を確認します。 確実に接続されていますか？ 断線していませんか？ 3. パソコンのプリンタポート設定が双方向通信可能な設定になっているか確認します。 4. プリンタがオンラインになっているか確認します。 5. プリンタエラーが発生していないか確認します。プリンタエラーが発生している場合は、画面の「印刷中止」ボタンをクリックした後、プリンタエラーを解除してからプリンタの［リセット］スイッチを押してください。
通信エラー			1500-1501	［通信エラー］ プリンタとの通信が異常となりました。 1. プリンタの電源を切って画面の「印刷中止」ボタンをクリックします。 2. プリンタの電源を入れて、再度印刷を行ってください。 注）印刷を中止しない場合、次の印刷で正しく印刷されないことがあります。
メモリ不足			1900-1900	［メモリ不足］ メモリ不足が発生しました。 すべてのアプリケーションを終了し Windows を再起動してください。
システムエラー			1900-1901	［システムエラー］ システムエラーが発生しました。 すべてのアプリケーションを終了し Windows を再起動してください。
システムエラー			1900-1904 ［注 4］	［システムエラー］ システムエラーが発生しました。 いったん印刷を終了し、再度印刷を行ってください。

注 1　設定状態により LCD の表示が変わるため、記載していません。

注 2　設定状態により各ランプの点灯、消灯、点滅状態が変わるため、記載していません。

注 3　通常表示と交換表示の交互表示（1 秒間隔）となります。

注 4「電源」ランプ点灯

7

第 7 章　付録

この章では、本製品を使用するときに補助的に必要となることがらについて説明します。

1　仕様 246
2　テスト印字サンプル 251
3　インターフェース仕様 253
4　ESC/P モードの制限事項 257
5　初期状態 258
6　有寿命部品／消耗品／定期交換部品／ 24 時間運用について 260
7　推奨用紙 262
8　消耗品の廃却について 263
9　アフターサービスについて 264
10　安全データシート 266

1 仕様

本体仕様

型名					FMPR5630	FMPR5430	FMPR5130
印字方式					ワイヤドットマトリックス		
印刷速度（単位：文字／秒）［注 1］	印字モード／印字速度	漢字（27/180 インチ）	標準	レンジ1～3	180	140	—
				レンジ4～8	159	130	—
			高複写モード1	レンジ1～3	159	130	—
				レンジ4～9	149	120	—
			高複写モード2		74	50	—
			標準		—	—	80
			高複写モード		—	—	56
		漢字高速（27/180 インチ）	標準	レンジ1～3	360	280	—
				レンジ4～8	318	260	—
			高複写モード1	レンジ1～3	318	260	—
				レンジ4～9	298	240	—
			高複写モード2		148	100	—
			標準		—	—	160
			高複写モード		—	—	112
		ANK 標準（パイカ）	標準	レンジ1～3	270	210	—
				レンジ4～8	238	195	—
			高複写モード1	レンジ1～3	239	195	—
				レンジ4～9	224	180	—
			高複写モード2		112	75	—
			標準		—	—	120
			高複写モード		—	—	84
		ANK 標準（エリート）	標準	レンジ1～3	324	252	—
				レンジ4～8	286	234	—
			高複写モード1	レンジ1～3	286	234	—
				レンジ4～9	268	216	—
			高複写モード2		134	90	—
			標準		—	—	144
			高複写モード		—	—	101
		ANK 標準高速（パイカ）	標準	レンジ1～3	540	420	—
				レンジ4～8	478	390	—
			高複写モード1	レンジ1～3	478	390	—
				レンジ4～9	448	360	—
			高複写モード2		224	150	—
			標準		—	—	240
			高複写モード		—	—	168

型名					FMPR5630	FMPR5430	FMPR5130
		ANK 標準 高速 (エリート)	標準	レンジ1～3	648	504	—
				レンジ4～8	572	468	—
			高　複　写 モード1	レンジ1～3	572	468	—
				レンジ4～9	536	432	—
			高複写モード2		268	180	—
			標準		—	—	288
			高複写モード		—	—	202
		ANK ドラフト (パイカ)	標準	レンジ1～3	540	540	—
				レンジ4～8	540	540	—
			高　複　写 モード1	レンジ1～3	540	540	—
				レンジ4～9	540	540	—
			高複写モード2		330	225	—
			標準		—	—	360
			高複写モード		—	—	254
		ANK ドラフト (エリート)	標準	レンジ1～3	648	648	—
				レンジ4～8	648	648	—
			高　複　写 モード1	レンジ1～3	648	648	—
				レンジ4～9	648	648	—
			高複写モード2		396	270	—
			標準		—	—	432
			高複写モード		—	—	305
ドット径					0.21mm		0.20mm
ドットピッチ					1/180 インチ（縦、横とも）		
印字桁数	漢字全角				90（文字／行）		
	半角文字				180（文字／行）		
	ANK（パイカ）				136（文字／行）		
	ANK（エリート）				163（文字／行）		
印字動作					両方向最短距離印字		
複写能力 (コピー能力)	標準モード				オリジナル＋ 7P		オリジナル＋ 4P
	高複写モード（ただし、高複写モード1 の場合）				オリジナル＋ 8P		オリジナル＋ 7P
イメージ印字	行ドット数	FM モード選択時			2448		
		ESC/P モード選択時			4896		
用紙送り	用紙送り方式	連続帳票用紙			押込みトラクタ方式		
		単票用紙			フリクション方式		
	改行間隔				1/360 インチ ×n（n はプログラム設定による）		
	改行速度				約 50ms（1/6 インチ改行時）		約 60ms （1/6インチ改行時）
スタッカ容量（単票）［注 2］					120 枚以下（A4 サイズ、1P 用紙、連量 55kg）		
使用環境	温度	稼働時			5 ～ 35 ℃（ただし、温度勾配 15 ℃／ H 以下）		
		非稼働時			-15 ～ 60 ℃（ただし、温度勾配 15 ℃／ H 以下）		
	湿度	稼働時			20 ～ 80%RH（ただし、結露しないこと。 湿度勾配 30%RH ／日以下、最高湿球温度 29 ℃以下）		
		非稼働時			5 ～ 95%RH（ただし、結露しないこと。 湿度勾配 30%RH ／日以下、最高湿球温度 29 ℃以下）		
インターフェース					IEEE 1284 双方向パラレルインターフェース USB2.0 インターフェース		

型名			FMPR5630	FMPR5430	FMPR5130
電源仕様［注 3］	入力電源種別		商用単相		
	電源電圧		AC100V ±10%		
	電源周波数		50/60 +2%、-4%		
消費電力	平均		270W	190W	70W
	最大		685W	465W	165W
	スタンバイ時		1W 以下［注 8］		
	電源オフ時		0W		
外形寸法			600mm（幅）×350mm（奥行）×290mm（高）		
質量			約 22.5kg	約 22kg	約 17kg
稼働音			60dBA	60dBA	60dBA
リボン［注 4］	リボン寿命	据置き型リボンカセット（FMPR5630/FMPR5430 の場合）	ANK ドラフト 1,500 万字		―
		エンドレスリボンカセット（FMPR5130 の場合）	―		ANK ドラフト 500 万字
耐用期間	プリンタ［注 5］［注 6］		5 年（電源の通電条件：8 時間／日以内）または 750 万行（いずれか早いほう）		5 年（電源の通電条件：8 時間／日以内）または 500 万行（いずれか早いほう）
	印字ヘッド［注 7］［注 9］	通常モード	6 億打／ピン（ANK、漢字印字時）		―
		高複写モード 1	3 億打／ピン（ANK、漢字印字時）		―
		高複写モード 2	1.5 億打／ピン（ANK、漢字印字時）		―
		通常モード	―		4 億打／ピン
		高複写モード	―		2 億打／ピン
	CSF ローラキット		10 万枚		

注 1　ANK ドラフトは ESC/P モードでフォントを指定することで選択可能

注 2　用紙の種類、サイズ、カールの度合いや、印字デューティ、使用環境などにより減少しますので、ご注意ください。

注 3　短形波が出力される機器（交流無停電電源装置、UPS など）には接続しないでください。故障するおそれがあります。

注 4　上記の寿命は、製造後 2 年以内のものを次の環境で保存した場合に保証する値です。
温度：-10 ～ 50 ℃、湿度：20 ～ 90%RH、色：黒単色

注 5　耐用期間はプリンタの設置環境、使用頻度により大幅に変動します。

注 6　24 時間通電による運用の耐用期間は 1/3 に減少します。

注 7　通常モードの印字でも、FMPR5630 では 18%の黒率を超えると自動的に高複写モード 1 になります。

注 8　LAN カード未搭載時。LAN カード搭載時は、2.5W 以下となります。

注 9　ヘッド寿命の印字条件は、JEITA プリンタ用標準パターン「J1」によります。また、印字条件が 18% 黒率を超えるとヘッド寿命は低下します。

■制限事項

・連続改行
LF モータ劣化防止のため、連続改行、連続改ページ動作は 3 分間以上行わないでください。

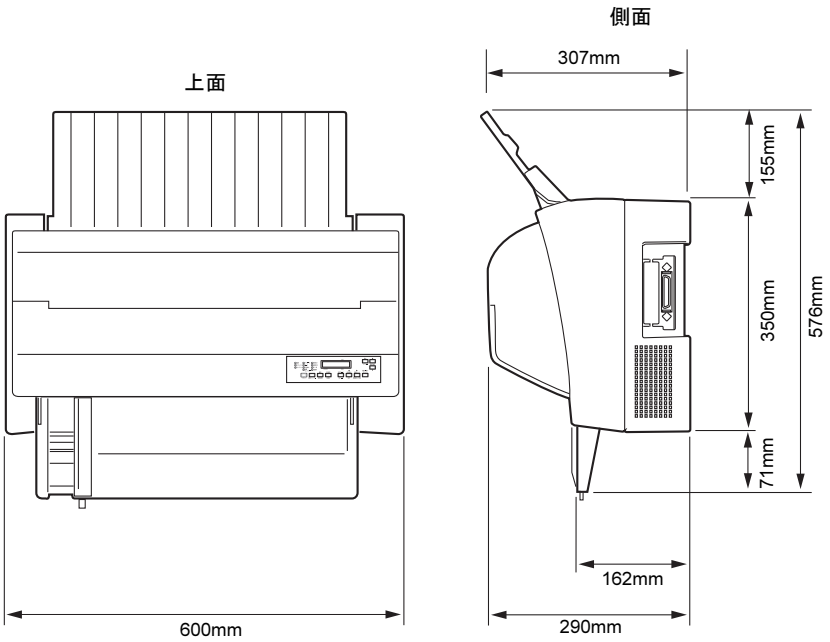
・高密度印字
印字ヘッド劣化防止のため、50%デューティ以上のパターンを印刷すると、2 分割印字（FMPR5630/FMPR5430 の場合）または 3 分割印字（FMPR5130 の場合）になることがあります。

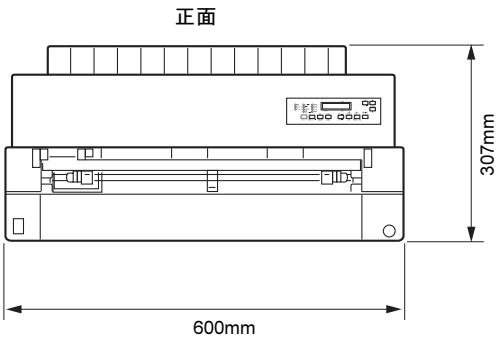
・逆改行動作
- 逆改行動作は改行乱れの原因となる場合がありますので、充分確認のうえご使用ください。
- カットシートフィーダ使用の場合は、1/3 インチ以上の逆改行はできません。
- 連続帳票用紙使用時に 22 インチを超える逆改行動作は、用紙づまりや用紙ずれの原因となるため行わないでください。

・連続印字
印字ヘッドの温度上昇による劣化を防止のため、連続印刷を行うと 2 分割印字（FMPR5630/FMPR5430 の場合）または 3 分割印字（FMPR5130 の場合）になることがあります。

外形寸法

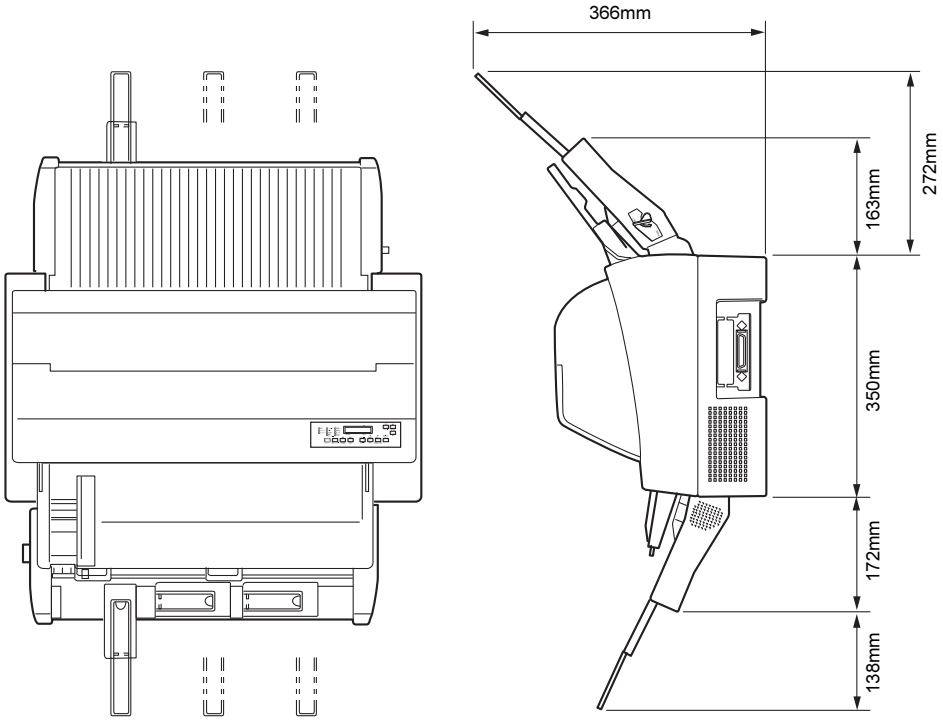
標準時





カットシートフィーダ （オプション） 取り付け時

■カットシートフィーダを前面と後面に取り付けたとき



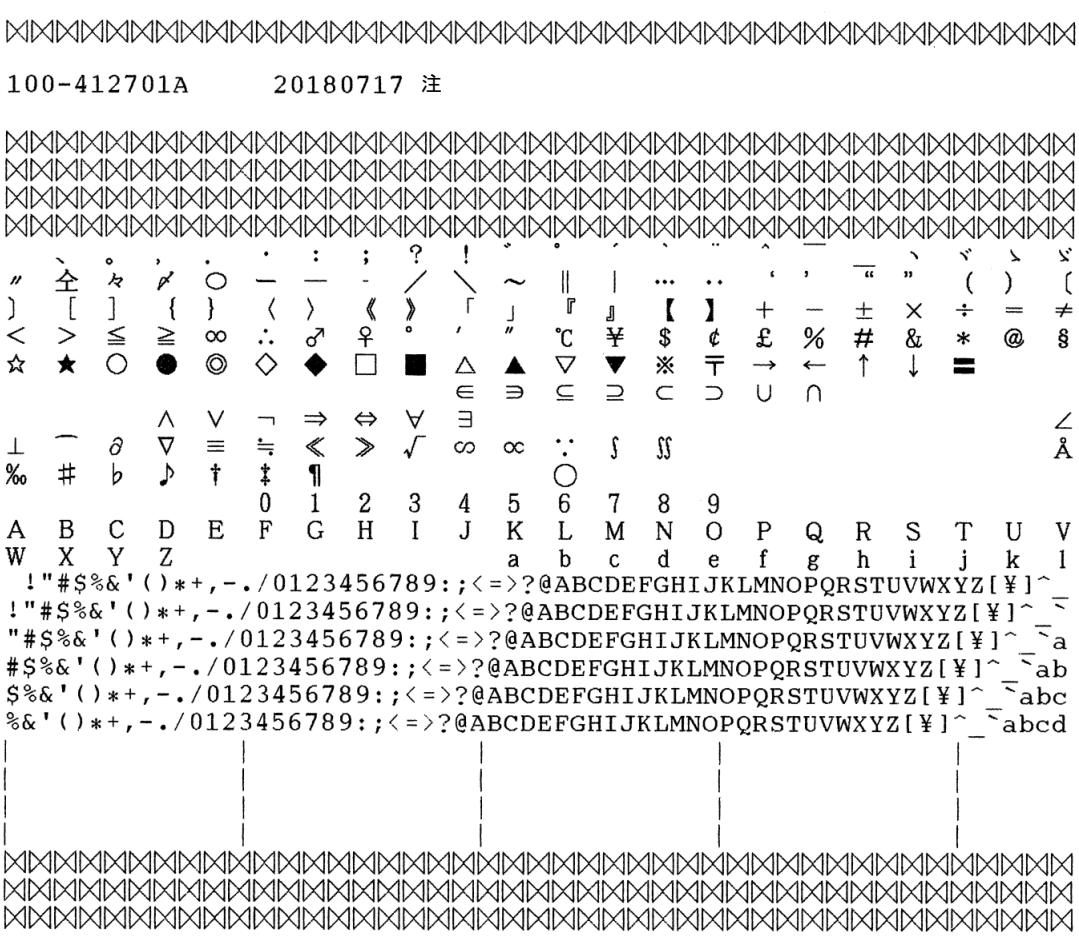
2 テスト印字サンプル

FM モード



注　この行は FMPR5130 のみ印字されます。

ESC/P モード



注　この行は FMPR5130 のみ印字されます。

3 インターフェース仕様

パラレルインターフェース

基本仕様

IEEE 1284 に準拠した双方向パラレルインターフェース

インターフェースコネクタ

プリンタ側	レセプタクル	アンフェノール (DDK)57-40360 相当
ケーブル側	プラグ	アンフェノール (DDK)57-30360 相当

インターフェースケーブル

素　材	7/φ0.12（AWG28 相当）以上
タイプ	シールド
長　さ	接続するパソコンの仕様による（富士通製パソコンの場合、1.5m）

信号レベル

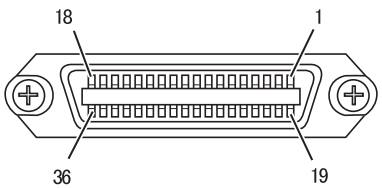
LOW	0.0V ～ +0.4
HIGH	+2.4V ～ +5.0V

データ転送方式

8 ビットパラレル

コネクタピン配列

インターフェース



重要

パソコンの BIOS 設定

本プリンタを接続するパソコンのパラレルポート設定は、必ず「Bidirectional（双方向）」にしてご使用ください。

確認および設定の方法については、パソコンのマニュアルをご覧ください。

ピン No.	信　号［注］	ピン No.	信　号［注］
1	*STROBE	19	*STROBE-RET
2	DATA 1	20	DATA 1-RET
3	DATA 2	21	DATA 2-RET
4	DATA 3	22	DATA 3-RET
5	DATA 4	23	DATA 4-RET
6	DATA 5	24	DATA 5-RET
7	DATA 6	25	DATA 6-RET
8	DATA 7	26	DATA 7-RET
9	DATA 8	27	DATA 8-RET
10	*ACKNLG	28	*ACKNLG-RET
11	BUSY	29	BUSY-RET
12	PE	30	*INIT-RET
13	SLCT	31	*INIT
14	*AUTO FEED XT	32	*ERROR
15	NC	33	SG
16	SG	34	NC
17	FG	35	NC
18	NC	36	*SLCT IN

注　信号名の先頭の * 印は負論理信号です。
　　信号名の後に「-RET」が付いている信号はすべて SG に接続されています。

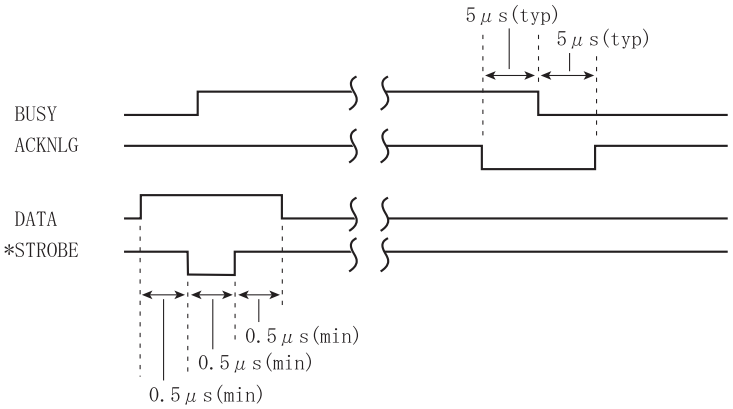
・入力信号の説明

DATA1 ～ 8	プリンタの受信データです。 「H」で信号あり、「L」で信号なしです。
*STROBE	DATA1 ～ 8 を読み込むためのパルス信号です。 定常状態では「H」です。「H」から「L」になるとき、データを読み込みます。
*INIT	プリンタを初期状態にする信号です。 初期状態については、「初期状態」（→ P.258）をご覧ください。 「L」になるとプリンタは初期状態になります。
*SLCT IN	DC1/DC3 を無効にする信号です。 電源を入れたときに「L」になっていると、DC1/DC3 コードが無効になります。
*AUTO FEED XT	復帰改行する信号です。 「L」になっていると、CR コードを受信して復帰改行します。

・出力信号の説明

*ACKNLG	*STROBE に対する応答信号です。 データ入力完了時に出力される負のパルス信号です。
PE	用紙切れを通知する信号です。 用紙が残り少なくなると、この信号は「H」になり、「用紙切れ」ランプが点灯します。
BUSY	プリンタのビジー状態を通知する信号です。 この信号が「H」のとき、プリンタはビジー状態で、データは受信できません。 次の状態のとき、この信号は「H」です。 受信データ処理中、アラーム状態、オフライン状態、電源を入れたときまたは *INIT 信号を受信しての初期化動作中
SLCT	常に「H」です。
*ERROR	アラーム状態、オフライン状態を通知する信号です。 この信号が「L」のときは、アラーム状態、オフライン状態です。

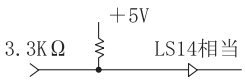
・タイミングチャート



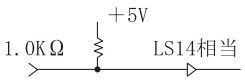
インターフェース回路

・入力回路

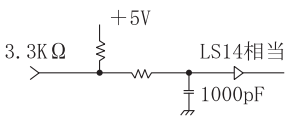
ピン No.	ESC/P モード
2 ～ 9	DATA1 ～ 8



ピン No.	ESC/P モード
14	*AUTOFEED XT

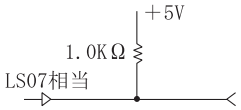


ピン No.	ESC/P モード
1	*STROBE
31	*INIT
34	NC



・出力回路

ピン No.	ESC/P モード
10	*ACKNLG
11	BUSY
12	PE
13	SLCT
15	NC
32	*ERROR
33	SG
18	NC

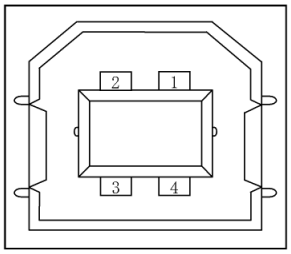


USB インターフェース仕様

ケーブル

仕様	USB2.0
タイプ	シールドタイプ
長さ	5m 以下

コネクタピン配列



No.	信号線名称	機　　能
1	vbus	電源
2	D-	データ転送用
3	D+	データ転送用
4	GND	信号グランド
Shell	Shield	

コネクタ仕様

プリンタ側	typeB レセプタクル（メス） アップストリームポート
ケーブル側	typeB プラグ（オス）

仕様

基本仕様	USB 仕様の Revision2.0 準拠 すべての USB デバイスとの接続を保証するものではありません。
電力制御	セルフパワーデバイス
伝送モード	フルスピード（最大 12Mbps+0.25%）

4 ESC/P モードの制限事項

このプリンタは、FM モードと ESC/P モードの 2 種類のプリンタの動作モードに対応しています。
ここでは、このプリンタを ESC/P モードで運用するときの制限事項について説明します。

サポートコマンド

このプリンタは、ESC/P 24-J84 に準拠していますが、印字方式、解像度の違いによりサポートしていないコマンドがあるので注意してください。

プリンタの動作モードの切り替え

機能設定で、プリンタの動作モードを FM モードまたは ESC/P モードに設定することができます。

5 初期状態

FM モード

電源を入れたとき、*INIT/*INPRM 受信時、およびリセットコマンド（RIS/RBS）受信時の初期状態を下表に示します。

設定値	電源を入れたとき、*INIT	リセットコマンド
解像度	180dpi	←
行受信バッファ	クリア	←
左端、右端の設定	左端 ＝左端 1 ＝左端 2 ＝1 ドット（始端） 右端 ＝2448 ドット（終端）	←
タブ設定（水平、垂直）	すべて解除	←
ページ長	11 インチ	←
スキップパーフォレーション行	0 行	←
改行ピッチ	1/6 インチ	←
書　体（ANK）	ドラフト	←
ANK 文字ピッチ	1/10 インチ	←
ANK 文字サイズ	標準	←
ANK アンダーライン	なし	←
スーパ／サブスクリプト指定	解除	←
プロポーショナル指定	解除	←
プロポーショナル空白幅	1/10 インチ	←
書　体［注］	明朝／ゴシック［注］	←
漢字指定	ANK モード	←
漢字文字ピッチ	3/20 インチ	←
漢字縦書き	横書き	←
漢字縦書き時の文字回転	物理的に左 90° 回転	←
半角縦書きの制御	2 文字ペア	←
漢字アンダーライン	なし	←
漢字文字サイズ	標準	←
漢字縦拡大の基準	上端合わせ	←
罫線接続	接続しない	←
漢字未定義コード	■印字	←
外字登録	すべてクリア	保持
フロント／リアシートフィーダ搭載時	用紙排出	←
フロント／リアシートフィーダのホッパから吸入する用紙の指定	一般紙	←

注　機能設定の「書体」の設定によります。

ESC/P モード

電源を入れたとき、*INIT 受信時、およびリセットコマンド（ESC @）受信時の初期状態を下表に示します。

設定値	電源を入れたとき、*INIT	ESC @
ページ先頭位置	初期化時に印字ヘッドのある位置	←
印刷バッファ	クリア	←
メカニズム	印字ヘッドをホームポジションに移動	しない
ダウンロード文字 外字定義文字	クリア	クリアしない
ページ長	11 インチ［注 1］	
ミシン目スキップ	解除［注 1］	
右マージン	136 桁（文字ピッチの設定による）	
左マージン	0	
改行量	1/6 インチ / 行［注 1］	
水平タブ位置	8 文字ごとの水平タブ	
垂直タブ位置	無指定	
文字ピッチ	10 文字／インチ［注 1］	
プロポーショナル	解除	
英数カナ文字書体	クーリエ［注 1］	
文字品位	高品位［注 1］	
国際文字選択	日本［注 1］	
文字コード表	カタカナコード表［注 1］	
文字間スペース量	0	
文字装飾	解除	
縮小	解除［注 1］	
漢字モード	解除	
漢字書体	明朝体［注 1］	
縦書き／横書き	横書き	
全角文字／半角文字／ 1/4 角文字	全角文字	
全角漢字の左右スペース量	左スペース量：0　右スペース量：3	
半角漢字の左右スペース量	左スペース量：0　右スペース量：2	
1/4 角文字の左右スペース量	左スペース量：0　右スペース量：2	
漢字装飾	解除	
単方向印字	解除［注 1］	
漢字高速印字	解除［注 2］	
カットシートフィーダモード	第 1 ビン選択	

注 1　機能設定の内容により、初期状態が異なります。上記は、機能設定がご購入時の状態の場合です。

注 2　ただし、印字モード スイッチにより高速印字モードにしていた場合、ESC @受信では高速印字を解除しません。

6 有寿命部品／消耗品／定期交換部品／24 時間運用について

有寿命部品について

- 本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品は、使用時間の経過に伴って摩耗、劣化などが進行し、動作が不安定になる場合があります。
- 有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境などにより異なりますが、適切な使用環境（22 ℃／ 55%RH）において 1 日約 8 時間のご使用で FMPR5630/FMPR5430 の場合、約 5 年または 750 万改行、FMPR5130 の場合、約 5 年または 500 万改行のいずれか早いほうです。これが、「本体仕様」（→ P.246）に記載している装置の耐用期間（装置寿命）です。750 万改行（FMPR5630/FMRP5430 の場合）または 500 万改行（FMPR5130 の場合）に達すると、「装置寿命」（→ P.228）が表示されます（約 5 年という期間での寿命表示はありません）。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。また、長時間連続使用など、ご使用状態によっては、この目安の期間よりも早期に部品寿命に達します。
- 本製品に使用しているアルミ電解コンデンサは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。
- 摩耗や劣化などにより有寿命部品を交換する場合は、保証期間内であっても有料となります。なお、有寿命部品の交換は、当社の定める補修用性能部品単位での修理による交換となります。
  交換のときは「富士通ハードウェア修理相談センター」（→ P.264）にご連絡ください。
- 補修用性能部品の保有期間は、プリンタ本体の製造終了後 5 年間です。
- 本製品をより長く安定してご利用いただくために、一定時間お使いにならない場合は電源をお切りください。

＜主な有寿命部品一覧＞

制御基板、電源基板、印字ヘッド、プラテンロール、カットシートフィーダのローラキット

消耗品について

- リボンカセットなどの消耗品は、その性能／機能を維持するために適時交換が必要となります。なお、交換する場合は、保証期間の内外を問わずお客様ご自身での新品購入ならびに交換となります。
  詳しくは、「リボンカセットを交換する」（→ P.138）をご覧ください。

定期交換部品について

本製品には、下表の定期交換部品が設定されています。安定してご使用いただくためには、定期的な交換が必要です。交換するときは、保守運用支援サービス「SupportDesk」をご契約のお客様は、専用の窓口にご連絡ください。未契約のお客様は、「お問い合わせ窓口」（→P.264）にご連絡ください。

なお、定期交換部品料金および交換作業費は契約保守サービスの料金に含まれています（ご契約によっては有償となりますので、詳しくは富士通担当営業または販売パートナーまでお問い合わせください）。なお、保守サービス未契約のお客様は保証期間の内外を問わず有償となります。保守運用支援サービス「SupportDesk」については、富士通ホームページ「製品サポート（法人のお客様向け）」（https://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/service-desk/）をご覧ください。補修用性能部品（保守部品）、定期交換部品の保有期間は、プリンタ本体の製造終了後 5 年間です。

定期交換部品	交換目安		表示メッセージ
	FMPR5630 FMPR5430	FMPR5130	
印字ヘッド	6 億打	4 億打	「ヘッドコウカン」 （FMPR5630/FMPR5430 の場合） 単票手差しランプ点滅 （FMPR5130 の場合）
CSF ローラキット	10 万枚		「FCSF ローラ コウカンジキ オート テサシ」 「RCSF ローラ コウカンジキ オート テサシ」 「オンライン」ランプ点灯 （FMPR5630/FMPR5430 の場合） カットシートフィーダ点滅（FMPR5130 の場合）

24 時間運用について

- 本製品は、24 時間以上の連続使用を前提とした設計にはなっておりません。
- 24 時間以上の連続運用を行うと、有寿命部品の交換時期の目安となる期間よりも、早期に部品交換が必要となる場合があります。

7 推奨用紙

本製品で印刷確認を行った用紙は、次の表のとおりです。なお、印刷確認は、包装した状態の用紙を、温度 22 ℃、湿度 55 ～ 60%RH 環境下に 12 時間放置した後、印刷直前に包装紙から取り出して実施しています。

POINT

・安定した搬送性・印字品質を確保するために、推奨紙の使用をお勧めします。
・湿度が高い環境では用紙が吸湿するため、印刷時に紙づまりやしわ、折れ、印字乱れなどが発生する場合があります。高湿度環境下では、包装紙から必要な分だけ用紙を取り出して使用してください。また、夜間／休日などのプリンタ停止時は、カットシートフィーダに用紙を放置しないでください。プリンタから用紙を取り出して包装紙に戻し、密閉して保管してください。

メーカー名	用紙種類	品名	サイズ	商品番号［注］	備考
富士通コワーコ（株）	普通紙	オフィス用紙 W	A3	0411650	
		オフィス用紙 W	B4	0411620	
		オフィス用紙 W	A4	0411610	
		オフィス用紙 W	A4Y	0411612	
		オフィス用紙 W	B5	0411640	
		オフィス用紙 W	B5Y	0411645	
		オフィス用紙 W	A5	0411630	
		オフィス用紙 W	A5Y	0411635	
富士通コワーコ（株）	連続用紙	ストックフォーム	15×11 インチ	0410117	1P- スリーライン
			10×11 インチ	0410280	1P- スリーライン
			9×11 インチ	0410310	1P- スリーライン
			15×11 インチ	0410810	1P- 白紙
			10×11 インチ	0410282	1P- 白紙
郵便事業（株）郵便局などで発売	はがき	郵便はがき	はがき	―	多色刷りはがきは除く
		郵便はがき	往復はがき	―	多色刷りはがきは除く

注　各商品で梱包単位（枚数）が異なりますので、購入時は事前に確認をお願いします。

POINT

・古紙 100% 再生紙に印刷した場合、しわやカールが発生する場合があります。

8 消耗品の廃却について

使用済みの消耗品は、法令・条例に従って産業廃棄物としてお客様にて処分をお願いします。お客様が処理業者に処理を委託する場合で、（財）日本産業廃棄物処理振興センターが発行する伝票（産業廃棄物マニフェスト）への記載が必要となった場合に、下記に本消耗品の種類、特性などを示しますので、伝票記載時の参考にしてください。

・産業廃棄物処理マニフェスト情報

消耗品内訳	マニフェスト情報			
名　称	種　類	形　状	重金属など有無	特　性
リボンカセット	廃プラスチック	固　形	な　し	―

9 アフターサービスについて

本製品のアフターサービスについて説明します。

- ご購入時に販売店でお渡しする保証書は、大切に保管してください。
- 保証書は日本国内のみで有効です。
- 無償保証期間は、お買い上げ日より 6ヶ月です。詳しくは保証書をご覧ください。
- 本製品の保守部品の最低保有期間は製造終了後 5 年です。ご了承ください。
- 分解、改造などを行わないでください。無償保証の期間内でも無償修理が受けられないことがあります。
- 本製品のご使用にあたっては、純正のサプライ用品をお使いください。純正のサプライ用品以外の用品をお使いになったことによる製品の誤動作および故障に関しては、当社は一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 故障時は下記にご連絡ください。
  - お問い合わせ窓口
    保守運用支援サービス「SupportDesk」をご契約のお客様は専用の窓口にご連絡ください。
    未契約のお客様は「富士通ハードウェア修理相談センター」の「修理ご相談フォーム」からご相談ください。
    「富士通ハードウェア修理相談センター」
    https://eservice.fujitsu.com/webrepair/
- 本製品の使用に関する技術的なご相談などにつきましては、製品のご購入元、または富士通の担当営業／SEにお問い合わせください。なお、保守運用支援サービス「SupportDesk」をご契約のお客様は、ご契約のお客様専用の電話やホームページなどで製品に関するご質問を受け付けております。

修理装置の返却準備 ～お客様へ～

「富士通ハードウェア修理相談センター」に連絡した結果、修理装置の返却が必要と判断された場合は、輸送時のトラブル防止のため、次の手順で準備をお願いいたします。

1 オペレータパネルから設定の一覧を印刷し、設定を復元するときに必要となる情報を控えます。

詳しくは、「オフラインセットアップモードでの設定変更例（設定一覧を印字する場合）」（→ P.164）をご覧ください。

2 「プリンタを輸送するとき」（→ P.226）の手順に従って、本製品の梱包を行います。

本製品の廃棄について

本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。
本製品の廃棄については、富士通のホームページ「ICT 製品の処分・リサイクル」（https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/recycleinfo/）をご覧ください。

本マニュアルで紹介している URL について

本マニュアルで紹介している URL は、次のとおりです。

- 富士通製品情報
  https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/peripheral/printer/
- 富士通コワーコお客様総合センター
  https://www.fujitsu.com/jp/group/coworco/
- 製品サポート（法人のお客様向け）
  https://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/service-desk/
- 本製品の廃棄について
  https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/recycleinfo/

10安全データシート

リボンカセット SDM-14

安全データシート

1. 製品および会社情報

製品名　：リボンカセット SDM-14
会社名　：富士通株式会社
問合せ先
会社名　：富士通コワーコ株式会社
住所　　：〒 211-0041　神奈川県川崎市中原区下小田中 2-12-5
担当部門：営業推進統括部　技術部
電話番号：0120-505-279
整理番号：TR18-M005（全 5 頁）　　作成・改訂：2018.10.26
推奨用途と使用上の制限：印字用

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ 分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分外
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類対象外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	区分外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
人健康有害性	急性毒性（経口）	分類できない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：気体）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼	分類できない
	刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない

	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（反復暴露	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境有害性	水性環境急性有害性	分類できない
	水性環境慢性有害性	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

ＧＨＳ ラベル要素

絵表示又はシンボル　：該当なし
注意喚起語　：該当なし
危険有害性情報　：該当なし
注意書き　：全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　混合物

化学名　又は一般名	ＣＡＳ　Ｎｏ．
インク	
高級脂肪酸	１１２－８０－１
界面活性剤	２６２６６－５８－０
ピグメントイエロー 74	６３５８－３１－２
ピグメントブルー 15	１４７－１４－８
ピグメントレッド 48:2	７０２３－６１－２
ピグメントホワイト 21	７７２７－４３－７
ソルベントブラック 7	８００５－０２－５
ピグメントブラック 1	１３００７－８６－８
その他、化審法規制対象外物質	
基布	
ポリアミド－６，６	３２１３１－１７－２
成形部品	
ＡＢＳ	９００３－５６－９
ＰＯＭ	９００２－８１－７

国連分類及び国連番号：国連の定義による危険物に該当しない。
ＰＲＴＲ 法の特定対象物は含まない

4. 応急措置

必要な応急措置の説明

吸入した場合　：鼻をかみ、うがいをする。
皮膚に付着した場合　：石鹸などを用いて良く洗い流す。
眼に入った場合　：直ちに流水で洗眼後、医師の処置を受ける。
飲み込んだ場合　：口の中をよく洗浄した後、医師の手当を受ける。

最も重要な急性症状および遅発性症状

情報なし

必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

情報なし

5. 火災時の措置

消火剤　：泡消火剤、粉末、炭酸ガス、大量の水、乾燥砂。
使ってはならない消火剤　：特になし。
消火方法　：大量の水、消火剤を使用して消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置：
　漏出した場所の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
　多量の場合、作業の際には必要により適切な保護具を着用する
環境に対する注意事項：
　多量の場合には流路を土嚢などで囲って流出を防止する。
封じ込め及び浄化の方法 及び 機材：
　少量の場合、紙や布でふき取り焼却する。
　多量の場合、火花の出ないシャベル等で密閉できる容器にすくい取り、焼却する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
　技術的対策（局所排気、全体換気等）：特に必要なし。
　安全取扱注意事項　：常温、常湿、結露なき状態で使用する。
　接触回避　　：知見なし
　衛生対策　　：取扱い後はよく手を洗うこと。
保管
　安全な保管条件　：高温、火気、多湿、水漏れ、直射日光、結露を避け、常温常湿の屋内倉庫にて保管する。また、食品及び飼料から離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター
　管理濃度　　：データ無し
　許容濃度　　：データ無し
設備対策　　：設定されていない。
保護具
　呼吸用保護具　　：特に必要なし。
　手の保護具　　：特に必要なし。必要に応じて保護手袋を着用。
　眼の保護具　　：特に必要なし。必要に応じて保護眼鏡を着用。
　皮膚及び身体の保護具　：特に必要なし。必要に応じて長袖作業衣を着用。

9. 物理的及び化学的性質

外観（物理的状態、形状、色等）：黒色インク含浸物の帯状リボンをカセット筐体に収納したもの
臭い　　：わずかな臭気
臭いの閾値　　：データなし
ｐＨ　　：データなし
融点・凝固点　　：データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲　：１８０℃以上
引火点　　：１９０℃以上
燃焼又は爆発範囲の上限下限　：データなし
蒸気圧　　：混合物として知見なし
蒸気密度　　：混合物として知見なし
比重（相対密度）　　：０．９８
溶解度 水　　：不溶
n- オクタノール／水分配係数　：知見なし
自然発火温度　　：データなし
分解温度　　：データなし
粘度　　：データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	：知見なし。常温で安定。
化学的安定性	：通常の取り扱いにおいて安定
危険有害反応可能性	：火気により引火の危険有り
避けるべき条件	：知見なし
混触危険物質	：知見なし
危険有害な分解生成物	：知見なし
粉塵爆発	：なし

11. 有害性情報

急性毒性（５０％致死量等を含む）　：データなし
皮膚腐食性 及び 皮膚刺激性　：なし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：データなし
皮膚感作性　：データなし
呼吸器感作性　：データなし
生殖細胞変異原性：データなし
ガン原性　：本品の構成成分は ＩＡＲＣ モノグラムにリストアップされていない。
生殖毒性　：データなし
特定標的臓器毒性（単回暴露）　：データなし
特定標的臓器毒性（反復暴露）　：データなし
呼吸性呼吸器有害性　：データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	：混合物としてのデータなし
残留性・分解性	：データなし
生体蓄積性	：データなし
土壌中の移動性	：データなし
オゾン層への有害性	：データなし
魚毒性	：データなし
水生環境急性有害性	：データなし
水生環境慢性有害性	：データなし

13. 廃棄上の注意

適切な設備で廃棄または、焼却する。むやみに環境に放出してはならない。

14. 輸送上の注意

国連番号	：該当しない
国連輸送名	：該当しない
輸送時の危険クラス	：該当しない
容器等級	：該当しない

国内規制　該当法令なし
・運搬に際しては、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
・輸送時は高温、多湿及び低温、結露を避けるようにする。また、食品及び飼料と一緒の輸送を避けるようにする。

15. 適用法令

労働安全衛生法　第５７条の２　第１項：
銅及びその化合物（政令番号３７９）が該当。
化審法　：不純物としてのジフェニルアミンが既存化学物質（官報整理番号 3-133）に該当。

輸出貿易管理令 別表第 1 の 1 ～ 15 の項：
非該当
不純物としてのジフェニルアミンが物質的に該当（区分内番号；1(4)- カ）しますが、該当原料が経済産業省よりジフェニルアミンの分離が容易でないことより非該当の通知を受領済み。

その他の法令には規制されない。

16. その他の情報

※ 記載内容は情報提供であって保証するものではありません。
※ 記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データ、知見に基づいて作成しておりますが、法令の改正や新しい知見により改訂されることがあります。
※ 全ての化学製品は未知の有害性があり得る上に、記載の注意事項も通常の取り扱いを前提にしたもので、ご使用に当たっては、用途・用法等実情に即した細心の安全対策を使用者自らの責任講じた上でご利用下さい。

参考文献等
「JIS Z 7251:2014」
「JIS Z 7253:2012」
各原料の「SDS」

サブカセット SDM-14

安全データシート

1. 製品および会社情報

製品名　：サブカセット SDM-14
会社名　：富士通株式会社
問合せ先
会社名　：富士通コワーコ株式会社
住所　　：〒 211-0041　神奈川県川崎市中原区下小田中 2-12-5
担当部門：営業推進統括部　技術部
電話番号：0120-505-279
整理番号：TR18-M006（全 5 頁）　　作成・改訂：2018.10.26
推奨用途と使用上の制限：印字用

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ 分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分外
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類対象外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	区分外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
人健康有害性	急性毒性（経口）	分類できない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：気体）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼	分類できない
	刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（反復暴露	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境有害性	水性環境急性有害性	分類できない
	水性環境慢性有害性	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

ＧＨＳ ラベル要素

絵表示又はシンボル　：該当なし
注意喚起語　：該当なし
危険有害性情報　：該当なし
注意書き　：全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　混合物

化学名　又は一般名	ＣＡＳ　Ｎｏ.
インク	
高級脂肪酸	１１２－８０－１
界面活性剤	２６２６６－５８－０
ピグメントイエロー 74	６３５８－３１－２
ピグメントブルー 15	１４７－１４－８
ピグメントレッド 48:2	７０２３－６１－２
ピグメントホワイト 21	７７２７－４３－７
ソルベントブラック 7	８００５－０２－５
ピグメントブラック 1	１３００７－８６－８
その他、化審法規制対象外物質	
基布	
ポリアミドー６，６	３２１３１－１７－２
成形部品	
ＡＢＳ	９００３－５６－９
紙	９００４－３４－６

国連分類及び国連番号：国連の定義による危険物に該当しない。
ＰＲＴＲ 法の特定対象物は含まない

4. 応急措置

必要な応急措置の説明

吸入した場合　：鼻をかみ、うがいをする。
皮膚に付着した場合　：石鹸などを用いて良く洗い流す。
眼に入った場合　：直ちに流水で洗眼後、医師の処置を受ける。
飲み込んだ場合　：口の中をよく洗浄した後、医師の手当を受ける。

最も重要な急性症状および遅発性症状

情報なし

必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

情報なし

5. 火災時の措置

消火剤　：泡消火剤、粉末、炭酸ガス、大量の水、乾燥砂。
使ってはならない消火剤　：特になし。
消火方法　：大量の水、消火剤を使用して消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置：

漏出した場所の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
多量の場合、作業の際には必要により適切な保護具を着用する

環境に対する注意事項：
　　多量の場合には流路を土嚢などで囲って流出を防止する。
封じ込め及び浄化の方法 及び 機材：
　　少量の場合、紙や布でふき取り焼却する。
　　多量の場合、火花の出ないシャベル等で密閉できる容器にすくい取り、焼却する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
　技術的対策（局所排気、全体換気等）：特に必要なし。
　安全取扱注意事項　：常温、常湿、結露なき状態で使用する。
　接触回避　　：知見なし
　衛生対策　　：取扱い後はよく手を洗うこと。
保管
　安全な保管条件　　：高温、火気、多湿、水漏れ、直射日光、結露を避け、常温常湿の屋内倉庫にて保管する。また、食品及び飼料から離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター
　管理濃度　　：データ無し
　許容濃度　　：データ無し
設備対策　　：設定されていない。
保護具
　呼吸用保護具　　：特に必要なし。
　手の保護具　　：特に必要なし。必要に応じて保護手袋を着用。
　眼の保護具　　：特に必要なし。必要に応じて保護眼鏡を着用。
　皮膚及び身体の保護具　　：特に必要なし。必要に応じて長袖作業衣を着用。

9. 物理的及び化学的性質

外観（物理的状態、形状、色等）：黒色インク含浸物の帯状リボンをカセット筐体に収納したもの
臭い　　：わずかな臭気
臭いの閾値　　：データなし
ｐＨ　　：データなし
融点・凝固点　　：データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲　　：１８０℃以上
引火点　　：１９０℃以上
燃焼又は爆発範囲の上限下限　：データなし
蒸気圧　　：混合物として知見なし
蒸気密度　　：混合物として知見なし
比重（相対密度）　　：０．９８
溶解度　水　　：不溶
n- オクタノール／水分配係数　：知見なし
自然発火温度　　：データなし
分解温度　　：データなし
粘度　　：データなし

10. 安定性及び反応性

反応性　　：知見なし。常温で安定。
化学的安定性　　：通常の取り扱いにおいて安定
危険有害反応可能性　　：火気により引火の危険有り

避けるべき条件　　：知見なし
混触危険物質　　：知見なし
危険有害な分解生成物　　：知見なし
粉塵爆発　　：なし

11. 有害性情報

急性毒性（５０％致死量等を含む）　：データなし
皮膚腐食性 及び 皮膚刺激性　　：なし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：データなし
皮膚感作性　　：データなし
呼吸器感作性　　：データなし
生殖細胞変異原性：データなし
ガン原性　　：本品の構成成分は ＩＡＲＣ モノグラムにリストアップされていない。
生殖毒性　　：データなし
特定標的臓器毒性（単回暴露）　　：データなし
特定標的臓器毒性（反復暴露）　　：データなし
呼吸性呼吸器有害性　　：データなし

12. 環境影響情報

生態毒性　　：混合物としてのデータなし
残留性・分解性　　：データなし
生体蓄積性　　：データなし
土壌中の移動性　　：データなし
オゾン層への有害性　　：データなし
魚毒性　　：データなし
水生環境急性有害性　　：データなし
水生環境慢性有害性　　：データなし

13. 廃棄上の注意

適切な設備で廃棄または、焼却する。むやみに環境に放出してはならない。

14. 輸送上の注意

国連番号　　：該当しない
国連輸送名　　：該当しない
輸送時の危険クラス　　：該当しない
容器等級　　：該当しない
国内規制　該当法令なし
・運搬に際しては、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
・輸送時は高温、多湿及び低温、結露を避けるようにする。また、食品及び飼料と一緒の輸送を避けるようにする。

15. 適用法令

労働安全衛生法　第５７条の２　第１項：
銅及びその化合物（政令番号３７９）が該当。
化審法　　：不純物としてのジフェニルアミンが既存化学物質（官報整理番号 3-133）に該当。
輸出貿易管理令 別表第 1 の 1 ～ 15 の項：
非該当

不純物としてのジフェニルアミンが物質的に該当（区分内番号；1(4)- カ）しますが、該当原料が経済産業省よりジフェニルアミンの分離が容易でないことより非該当の通知を受領済み。

その他の法令には規制されない。

16. その他の情報

※　記載内容は情報提供であって保証するものではありません。
※　記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データ、知見に基づいて作成しておりますが、法令の改正や新しい知見により改訂されることがあります。
※　全ての化学製品は未知の有害性があり得る上に、記載の注意事項も通常の取り扱いを前提にしたもので、ご使用に当たっては、用途・用法等実情に即した細心の安全対策を使用者自らの責任講じた上でご利用下さい。

参考文献等

「JIS Z 7251:2014」
「JIS Z 7253:2012」
各原料の「SDS」

リボンカセット SDM-15

安全データシート

1. 製品および会社情報

製品名　：リボンカセット SDM-15
会社名　：富士通株式会社
問合せ先
会社名　：富士通コワーコ株式会社
住所　　：〒 211-0041　神奈川県川崎市中原区下小田中 2-12-5
担当部門：営業推進統括部　技術部
電話番号：0120-505-279
整理番号：TR18-M007（全 5 頁）　　作成・改訂：2018.10.26
推奨用途と使用上の制限：印字用

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ 分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分外
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類対象外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	区分外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
人健康有害性	急性毒性（経口）	分類できない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：気体）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼	分類できない
	刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（反復暴露	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境有害性	水性環境急性有害性	分類できない
	水性環境慢性有害性	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル　：該当なし
注意喚起語　：該当なし
危険有害性情報　：該当なし
注意書き　：全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　混合物
化学名　又は一般名

	CAS No.
インク	
高級脂肪酸	112-80-1
界面活性剤	26266-58-0
ピグメントイエロー 74	6358-31-2
ピグメントブルー 15	147-14-8
ピグメントレッド 48:2	7023-61-2
ピグメントホワイト 21	7727-43-7
ソルベントブラック 7	8005-02-5
ピグメントブラック 1	13007-86-8
その他、化審法規制対象外物質	
基布	
ポリアミド－6，6	32131-17-2
成形部品	
ABS	9003-56-9
POM	9002-81-7
発泡ポリウレタン	9009-54-5

国連分類及び国連番号：国連の定義による危険物に該当しない。
PRTR 法の特定対象物は含まない

4. 応急措置

必要な応急措置の説明

吸入した場合　：鼻をかみ、うがいをする。
皮膚に付着した場合　：石鹸などを用いて良く洗い流す。
眼に入った場合　：直ちに流水で洗眼後、医師の処置を受ける。
飲み込んだ場合　：口の中をよく洗浄した後、医師の手当を受ける。

最も重要な急性症状および遅発性症状

情報なし

必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

情報なし

5. 火災時の措置

消火剤　：泡消火剤、粉末、炭酸ガス、大量の水、乾燥砂。
使ってはならない消火剤　：特になし。
消火方法　：大量の水、消火剤を使用して消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置：

漏出した場所の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。

多量の場合、作業の際には必要により適切な保護具を着用する

環境に対する注意事項：

多量の場合には流路を土嚢などで囲って流出を防止する。

封じ込め及び浄化の方法 及び 機材：

少量の場合、紙や布でふき取り焼却する。

多量の場合、火花の出ないシャベル等で密閉できる容器にすくい取り、焼却する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策（局所排気、全体換気等）：特に必要なし。

安全取扱注意事項　：常温、常湿、結露なき状態で使用する。

接触回避　：知見なし

衛生対策　：取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件　：高温、火気、多湿、水漏れ、直射日光、結露を避け、常温常湿の屋内倉庫にて保管する。また、食品及び飼料から離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター

管理濃度　：データ無し

許容濃度　：データ無し

設備対策　：設定されていない。

保護具

呼吸用保護具　：特に必要なし。

手の保護具　：特に必要なし。必要に応じて保護手袋を着用。

眼の保護具　：特に必要なし。必要に応じて保護眼鏡を着用。

皮膚及び身体の保護具　：特に必要なし。必要に応じて長袖作業衣を着用。

9. 物理的及び化学的性質

外観（物理的状態、形状、色等）：黒色インク含浸物の帯状リボンをカセット筐体に収納したもの

臭い　：わずかな臭気

臭いの閾値　：データなし

ｐＨ　：データなし

融点・凝固点　：データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲　：１８０℃以上

引火点　：１９０℃以上

燃焼又は爆発範囲の上限下限　：データなし

蒸気圧　：混合物として知見なし

蒸気密度　：混合物として知見なし

比重（相対密度）　：０．９８

溶解度　水　：不溶

n- オクタノール／水分配係数　：知見なし

自然発火温度　：データなし

分解温度　：データなし

粘度　：データなし

10. 安定性及び反応性

反応性　：知見なし。常温で安定。

化学的安定性　：通常の取り扱いにおいて安定

危険有害反応可能性　　：火気により引火の危険有り
避けるべき条件　　：知見なし
混触危険物質　　：知見なし
危険有害な分解生成物　　：知見なし
粉塵爆発　　：なし

11. 有害性情報

急性毒性（５０％致死量等を含む）　：データなし
皮膚腐食性 及び 皮膚刺激性　　：なし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：データなし
皮膚感作性　　：データなし
呼吸器感作性　　：データなし
生殖細胞変異原性：データなし
ガン原性　　：本品の構成成分は ＩＡＲＣ モノグラムにリストアップされていない。
生殖毒性　　：データなし
特定標的臓器毒性（単回暴露）　　：データなし
特定標的臓器毒性（反復暴露）　　：データなし
呼吸性呼吸器有害性　　：データなし

12. 環境影響情報

生態毒性　　：混合物としてのデータなし
残留性・分解性　　：データなし
生体蓄積性　　：データなし
土壌中の移動性　　：データなし
オゾン層への有害性　　：データなし
魚毒性　　：データなし
水生環境急性有害性　　：データなし
水生環境慢性有害性　　：データなし

13. 廃棄上の注意

適切な設備で廃棄または、焼却する。むやみに環境に放出してはならない。

14. 輸送上の注意

国連番号　　：該当しない
国連輸送名　　：該当しない
輸送時の危険クラス　　：該当しない
容器等級　　：該当しない
国内規制　該当法令なし
・運搬に際しては、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
・輸送時は高温、多湿及び低温、結露を避けるようにする。また、食品及び飼料と一緒の輸送を避けるようにする。

15. 適用法令

労働安全衛生法　第５７条の２　第１項：
銅及びその化合物（政令番号３７９）が該当。
化審法　　：不純物としてのジフェニルアミンが既存化学物質（官報整理番号 3-133）に該当。
輸出貿易管理令 別表第 1 の 1 ～ 15 の項：
非該当

不純物としてのジフェニルアミンが物質的に該当（区分内番号；1(4)- カ）しますが、該当原料が経済産業省よりジフェニルアミンの分離が容易でないことより非該当の通知を受領済み。

その他の法令には規制されない。

16. その他の情報

※　記載内容は情報提供であって保証するものではありません。
※　記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データ、知見に基づいて作成しておりますが、法令の改正や新しい知見により改訂されることがあります。
※　全ての化学製品は未知の有害性があり得る上に、記載の注意事項も通常の取り扱いを前提にしたもので、ご使用に当たっては、用途・用法等実情に即した細心の安全対策を使用者自らの責任講じた上でご利用下さい。

参考文献等

「JIS Z 7251:2014」
「JIS Z 7253:2012」
各原料の「SDS」

サブカセット SDM-15

安全データシート

1. 製品および会社情報

製品名　：サブカセット SDM-15
会社名　：富士通株式会社
問合せ先
会社名　：富士通コワーコ株式会社
住所　　：〒 211-0041　神奈川県川崎市中原区下小田中 2-12-5
担当部門：営業推進統括部　技術部
電話番号：0120-505-279
整理番号：TR18-M008（全 5 頁）　　作成・改訂：2018.10.26
推奨用途と使用上の制限：印字用

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ 分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分外
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類対象外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	区分外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
人健康有害性	急性毒性（経口）	分類できない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：気体）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼	分類できない
	刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（反復暴露	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境有害性	水性環境急性有害性	分類できない
	水性環境慢性有害性	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

ＧＨＳ ラベル要素

絵表示又はシンボル　：該当なし
注意喚起語　：該当なし
危険有害性情報　：該当なし
注意書き　：全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　混合物
化学名　又は一般名

	ＣＡＳ　Ｎｏ.
インク	
高級脂肪酸	１１２－８０－１
界面活性剤	２６２６６－５８－０
ピグメントイエロー 74	６３５８－３１－２
ピグメントブルー 15	１４７－１４－８
ピグメントレッド 48:2	７０２３－６１－２
ピグメントホワイト 21	７７２７－４３－７
ソルベントブラック 7	８００５－０２－５
ピグメントブラック 1	１３００７－８６－８
その他、化審法規制対象外物質	
基布	
ポリアミドー６，６	３２１３１－１７－２
成形部品	
ＡＢＳ	９００３－５６－９
ＨＩＰＳ	９００３－５５－８
ＰＥ フィルム	９００２－８８－４
発泡ポリウレタン	９００９－５４－５

国連分類及び国連番号：国連の定義による危険物に該当しない。
ＰＲＴＲ 法の特定対象物は含まない

4. 応急措置

必要な応急措置の説明

吸入した場合　：鼻をかみ、うがいをする。
皮膚に付着した場合　：石鹸などを用いて良く洗い流す。
眼に入った場合　：直ちに流水で洗眼後、医師の処置を受ける。
飲み込んだ場合　：口の中をよく洗浄した後、医師の手当を受ける。

最も重要な急性症状および遅発性症状

情報なし

必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

情報なし

5. 火災時の措置

消火剤　：泡消火剤、粉末、炭酸ガス、大量の水、乾燥砂。
使ってはならない消火剤　：特になし。
消火方法　：大量の水、消火剤を使用して消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置：

漏出した場所の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
多量の場合、作業の際には必要により適切な保護具を着用する

環境に対する注意事項：
多量の場合には流路を土嚢などで囲って流出を防止する。

封じ込め及び浄化の方法 及び 機材：
少量の場合、紙や布でふき取り焼却する。
多量の場合、火花の出ないシャベル等で密閉できる容器にすくい取り、焼却する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策（局所排気、全体換気等）：特に必要なし。
安全取扱注意事項　：常温、常湿、結露なき状態で使用する。
接触回避　：知見なし
衛生対策　：取扱い後はよく手を洗うこと。

保管
安全な保管条件　：高温、火気、多湿、水漏れ、直射日光、結露を避け、常温常湿の屋内倉庫にて保管する。また、食品及び飼料から離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター
管理濃度　：データ無し
許容濃度　：データ無し
設備対策　：設定されていない。
保護具
呼吸用保護具　：特に必要なし。
手の保護具　：特に必要なし。必要に応じて保護手袋を着用。
眼の保護具　：特に必要なし。必要に応じて保護眼鏡を着用。
皮膚及び身体の保護具　：特に必要なし。必要に応じて長袖作業衣を着用。

9. 物理的及び化学的性質

外観（物理的状態、形状、色等）：黒色インク含浸物の帯状リボンをカセット筐体に収納したもの
臭い　：わずかな臭気
臭いの閾値　：データなし
ｐＨ　：データなし
融点・凝固点　：データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲　：１８０℃以上
引火点　：１９０℃以上
燃焼又は爆発範囲の上限下限　：データなし
蒸気圧　：混合物として知見なし
蒸気密度　：混合物として知見なし
比重（相対密度）　：０．９８
溶解度　水　：不溶
n- オクタノール／水分配係数　：知見なし
自然発火温度　：データなし
分解温度　：データなし
粘度　：データなし

10. 安定性及び反応性

反応性　：知見なし。常温で安定。

化学的安定性　　：通常の取り扱いにおいて安定
危険有害反応可能性　　：火気により引火の危険有り
避けるべき条件　　：知見なし
混触危険物質　　：知見なし
危険有害な分解生成物　　：知見なし
粉塵爆発　　：なし

11. 有害性情報

急性毒性（５０％致死量等を含む）　：データなし
皮膚腐食性 及び 皮膚刺激性　　：なし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：データなし
皮膚感作性　　：データなし
呼吸器感作性　　：データなし
生殖細胞変異原性：データなし
ガン原性　　：本品の構成成分は ＩＡＲＣ モノグラムにリストアップされていない。
生殖毒性　　：データなし
特定標的臓器毒性（単回暴露）　　：データなし
特定標的臓器毒性（反復暴露）　　：データなし
呼吸性呼吸器有害性　　：データなし

12. 環境影響情報

生態毒性　　：混合物としてのデータなし
残留性・分解性　　：データなし
生体蓄積性　　：データなし
土壌中の移動性　　：データなし
オゾン層への有害性　　：データなし
魚毒性　　：データなし
水生環境急性有害性　　：データなし
水生環境慢性有害性　　：データなし

13. 廃棄上の注意

適切な設備で廃棄または、焼却する。むやみに環境に放出してはならない。

14. 輸送上の注意

国連番号　　：該当しない
国連輸送名　　：該当しない
輸送時の危険クラス　　：該当しない
容器等級　　：該当しない
国内規制　該当法令なし
・運搬に際しては、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
・輸送時は高温、多湿及び低温、結露を避けるようにする。また、食品及び飼料と一緒の輸送を避けるようにする。

15. 適用法令

労働安全衛生法　第５７条の２　第１項：
銅及びその化合物（政令番号３７９）が該当。
化審法　　：不純物としてのジフェニルアミンが既存化学物質（官報整理番号 3-133）に該当。
輸出貿易管理令 別表第 1 の 1 ～ 15 の項：
非該当

不純物としてのジフェニルアミンが物質的に該当（区分内番号；1(4)- カ）しますが、該当原料が経済産業省よりジフェニルアミンの分離が容易でないことより非該当の通知を受領済み。

その他の法令には規制されない。

16. その他の情報

※　記載内容は情報提供であって保証するものではありません。
※　記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データ、知見に基づいて作成しておりますが、法令の改正や新しい知見により改訂されることがあります。
※　全ての化学製品は未知の有害性があり得る上に、記載の注意事項も通常の取り扱いを前提にしたもので、ご使用に当たっては、用途・用法等実情に即した細心の安全対策を使用者自らの責任講じた上でご利用下さい。

参考文献等

「JIS Z 7251:2014」
「JIS Z 7253:2012」
各原料の「SDS」

ドットインパクトプリンタ
FMPR5630/FMPR5430/FMPR5130
ハードウェアガイド

B5WY-1721-04-00

発 行 日　2025 年 1 月
発行責任　富士通株式会社
〒 211-8588　神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1

●このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。
●落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

FUJITSU

このマニュアルはリサイクルに配慮して印刷されています。
不要になった際は、回収・リサイクルにお出しください。

B5WY-1721-04